

研究指導演習A

Master's Thesis Seminar A

浜崎 桂子 (HAMAZAKI KEIKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV002
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につける。

In preparation for writing a master's thesis, along with clarifying their research theme and methodology, students will acquire basic knowledge and skills needed for writing and structuring an academic paper. They will also learn the methods to read and analyze research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

文化接触、混雑の具体的な現象を研究対象に、理論的枠組、分析、考察する方法、研究対象についての専門知識を踏まえながら、先行研究および研究方法の動向を理解したうえで、研究テーマ、方法を具体化する。受講者は研究テーマに関連する先行研究のレビュー、研究対象についての調査成果を発表し、議論をしながら論文執筆に関する具体的な指導を行う。

The aim of the course is to precisely determine a research topic and method. To achieve this goal, we read texts on theoretical foundations, research methods, and scientific discussions relating to cultural contacts and cultural hybridity. Students will review relevant research and present their own research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 研究テーマの設定1
- 【3】: 研究テーマの設定2
- 【4】: 先行研究について1
- 【5】: 先行研究について2
- 【6】: 先行研究について3
- 【7】: 研究方法1
- 【8】: 研究方法2
- 【9】: 研究方法3
- 【10】: 論文の構成1
- 【11】: 論文の構成2
- 【12】: 論文の構成3
- 【13】: 学術的記述の方法について
- 【14】: 振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業に向けての準備(2時間程度)、授業後、自分の研究をすすめるための発展的な調査など(2時間程度)を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論, 質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で、担当教員が適宜指示する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

自ら文献調査などを通して考察を深めたうえで、批判的に議論をする力

研究指導演習A

Master's Thesis Seminar A

星野 宏美 (HOSHINO HIROMI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV003
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につける。

To help students prepare for the writing of their master's thesis, this course aims to provide them with the requisite foundational knowledge and the skills needed to write and structure an academic paper. In addition, this course will aid the clarification of their research themes and methodologies. Further, students will also learn the methods of reading and analyzing research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

論文の初稿となり得る文章を用意し、それを叩き台としつつ、議論を行う。

Students will prepare a first draft of the paper and use it as a starting point for discussions.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: スケジュールの吟味
- 【2】: 研究の対象の吟味
- 【3】: 研究の方法の吟味
- 【4】: 研究の目的の吟味
- 【5】: 文献の吟味
- 【6】: 資料の吟味
- 【7】: 先行研究批判
- 【8】: 章立ての吟味
- 【9】: 独自性の吟味
- 【10】: 論理性の吟味
- 【11】: 実証性の吟味
- 【12】: 有効性の吟味
- 【13】: テーゼの吟味
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="checkbox"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="checkbox"/>	グループ発表	<input type="checkbox"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="checkbox"/>
実技・実習・実験	<input type="checkbox"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="checkbox"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="checkbox"/>
上記いずれも用いない予定	<input type="checkbox"/>				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指導の中で適宜指示する。加えて、図書館所蔵の音楽雑誌・音楽事典類, AV コーナーの資料等を活用されたい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と参加:50% 課題と成果物:50%

テキスト / Textbooks

とくに指定しない。

参考文献 / Readings

指導の中で指示する。

研究指導演習A

Master's Thesis Seminar A

石井 正子 (ISHII MASAKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV005
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

国際協力に関する修士論文を執筆するための専門知識、アカデミックスキルを身につける。

The course offers academic skills needed for writing M.A. thesis.

授業の内容 / Course Contents

国際協力に関する修士論文のテーマに関連する先行研究を講読する。

The course introduces approaches and methods of writing M.A. thesis with introduction of related literatures.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入
- 【2】: 基礎文献講読
- 【3】: 基礎文献講読
- 【4】: 基礎文献講読
- 【5】: 基礎文献講読
- 【6】: 基礎文献講読
- 【7】: 基礎文献講読
- 【8】: 基礎文献講読
- 【9】: 基礎文献講読
- 【10】: 基礎文献講読
- 【11】: 基礎文献講読
- 【12】: 基礎文献講読
- 【13】: 基礎文献講読
- 【14】: 振り返りとまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド*(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="radio"/>
上記いずれも用いない予定	<input type="radio"/>				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定された文献を読む。

指定された課題を行う。
自分の研究テーマに関連する先行研究を読む。
ディスカッションに積極的に参加する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% レポート:40% 出席、課題発表:60%

テキスト / Textbooks

授業時において適宜指示する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

授業時において適宜指示する。

研究指導演習A

Master's Thesis Seminar A

石川 文也 (ISHIKAWA FUMIYA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV006
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、論文執筆の方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

This course aims to clarify research themes and research methods and help students acquire the basic knowledge and skills necessary for writing a master's thesis, such as thesis writing methods, and practice thesis writing.

授業の内容 / Course Contents

談話分析関連科目ならびにその研究領域に関連する科目の履修によって得られる専門知識を踏まえながら、関心を有するテーマについて先行研究の現状、課題および研究方法を把握し、各自の研究テーマへと集約させていく。さらに、受講者に研究テーマに即した研究発表をしてもらいながら、論文執筆に関する具体的な指導をしていく。

In consideration of the specialized knowledge gained from courses and subjects related to discourse analysis or the research area, this seminar will make students understand the current issues and research methods utilized by previous studies that dealt with the themes of their interest. Further, the module will help students to develop their selected themes. Students will be advised on the methods of writing academic papers and will be invited to deliver presentations on their research themes.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 修士論文の制度上の位置づけ
- 【3】: 修士論文の学術上の位置づけ
- 【4】: 修士執筆準備: テーマの決定
- 【5】: 修士執筆準備: 論文のタイトルとサブ・タイトルの決定
- 【6】: 修士論文の執筆準備: 「もくじ」(概要)の作成
- 【7】: 修士論文の執筆準備: 「はじめに」(概要)の作成
- 【8】: 修士論文の執筆準備: 文献表の作成
- 【9】: 修士論文の執筆準備: 付録の作成
- 【10】: 修士論文の執筆: 個別指導
- 【11】: 修士論文の執筆: 添削
- 【12】: 修士論文の執筆: 添削内容の反映
- 【13】: 修士論文の執筆: 推敲
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論・質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物・各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で、担当教員が適宜指示する。

その他 / Others

- *上記の「授業計画」は、履修者数や指導の進捗状況にあわせて調整する可能性がある。
- *学生の報告あるいは提出物について、口頭あるいは筆記によってコメントする。
- *やむを得ず休講となった場合、内容を繰り下げて補講日に補講をおこなうか、それに代わる課題を出す。

研究指導演習A

Master's Thesis Seminar A

山田 優 (YAMADA MASARU)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV007
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

このセミナーの目的は、学生が翻訳学における修士論文の執筆および研究プロジェクトの実施に必要な基本的な知識とスキルを習得することです。学生は、選定したテーマについて適切な方法論を用いて予備的な調査を行い、学期末に主要な調査結果を発表します。

The aim of this seminar is for students to acquire the basic knowledge and skills required to write a master's thesis and conduct a research project in Translation Studies. Students will carry out a preliminary investigation on a chosen topic using appropriate methodology and present the key findings at the end of the semester.

授業の内容 / Course Contents

翻訳学における修士論文執筆や研究プロジェクト実施の基礎を築くため、学期前半はこれまでの研究プロジェクトを学びつつ、研究の進め方について指導を受ける時間とします。この期間で得た知識を活用し、研究計画と今後の方向性を概説する中間報告を行います。学期後半では、予備的な調査を実施し、その過程で生じる課題について議論を重ねながら研究課題を形成します。学期末には、研究成果や学びの結果を口頭発表という形で共有し、それを最終報告書の基礎とします。

As a groundwork for writing a master's thesis or carrying out a research project in Translation Studies, the first half of the semester will be spent on learning from previous projects while receiving guidance from the instructor on how to conduct research. Students will utilize knowledge gained during this period to present an interim report outlining their research plan and the possible way forward. In the second half, students will carry out preliminary investigations and formulate research questions by discussing issues that arise during the process. At the end of the semester, students will share their findings and learning outcomes in the form of an oral presentation, which will become the basis of their final report.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Introduction
- 【2】: Literature review
- 【3】: Research questions and methodology
- 【4】: Quantitative analysis and data-driven approaches
- 【5】: Data collection and statistics
- 【6】: Experiment design
- 【7】: Pilot study 1
- 【8】: Pilot study 2
- 【9】: Pilot study 3
- 【10】: Discussion 1
- 【11】: Discussion 2

【12】:Presentation and feedback 1

【13】:Presentation and feedback 2

【14】:Summary

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド*(パワーポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読、予備的調査などを自らのペースで進めること。また、進捗状況について、面談時またはメール等で適宜報告すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Pilot study:40% Presentation:20% Literature review:20% Class participation:20%

テキスト / Textbooks

Handouts will be provided as needed.

参考文献 / Readings

山田優 『ChatGPT 翻訳術』 アルク 2023

その他 / Others

https://researchmap.jp/yamada_trans

研究指導演習A

Master's Thesis Seminar A

河合 優子 (KAWAI YUKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV008
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

研究を行う方法と修士論文を執筆するプロセス、そして論文のルールや形式を学ぶことを目標とする。

Students will learn a process and basic rules of conducting a research project and writing a master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、まず研究とは何かについて考え、研究課題の設定、適切な理論・概念的枠組みの設定、先行研究文献調査の方法、文献の読み方、研究方法の設定、データ収集・分析の方法、研究発表の仕方など修士論文執筆の具体的なプロセスと方法およびルールや形式について学び、それを各自の研究で活用できるようにしていく。

In this course, students will learn what it means to do a research and an overview of the master's thesis writing process. The following issues will be addressed: making research questions, doing a literature review, choosing an appropriate theoretical framework and research method, collecting and analyzing data, writing up a thesis, and presenting a research paper.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 研究とは
- 【2】: 論文とは
- 【3】: 研究課題の設定
- 【4】: 理論・概念的枠組みの設定
- 【5】: 先行研究文献調査
- 【6】: 文献収集
- 【7】: 文献の読み方
- 【8】: 引用スタイルと文献リスト
- 【9】: 研究方法の設定
- 【10】: データ収集
- 【11】: 分析
- 【12】: 論文を書くこと
- 【13】: 研究発表とは
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

課題文献を必ず読んで授業に参加すること。毎週 4 時間程度の学修が必要。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・授業参加貢献度:50% 報告・提出物:50%

テキスト / Textbooks

初回の授業で指示する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

提出物にはフィードバックを行う。

研究指導演習A

Master's Thesis Seminar A

小山 亘 (KOYAMA WATARU)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV009
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、修士論文・課題研究作成に向けて、研究と論述の基本的な手法を習得することを目的とする。

This course aims to help students to clarify their research themes and methodologies, learn methods of writing academic papers, acquire other basic expertise and skills required to write master's theses, and practice academic writing.

授業の内容 / Course Contents

コミュニケーション関連科目、その他、各自の研究領域に関連する科目の履修によって得られる専門知識の習得・蓄積を前提としつつ、自らが特に関心を抱く具体的な研究テーマを設定し、それについての先行研究、課題、理論、研究方法などを十分に把握することなどを通して、研究テーマを継続的に再検討、練磨する。随時、自らの研究テーマについての報告・発表を行い、論文執筆に向けて具体的な知識を習得していく。

In this course, students will acquire further knowledge and enhance their understanding of the current state of their research on their chosen topics. They will closely examine their research themes and methodologies and justify their relevance to their research interests. Additionally, students will be required to deliver a presentation on their selected research topics and develop the skills of writing an academic paper.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: 講義の概要
- [2]: 学術論文の構成・リサーチについて(1)
- [3]: 学術論文の構成・リサーチについて(2)
- [4]: 学術論文の構成・リサーチについて(3)
- [5]: 研究テーマについて(1)
- [6]: 研究テーマについて(2)
- [7]: 研究テーマについて(3)
- [8]: 調査法について(1)
- [9]: 調査法について(2)
- [10]: 調査法について(3)
- [11]: 理論的枠組・分析方法について(1)
- [12]: 理論的枠組・分析方法について(2)
- [13]: 理論的枠組・分析方法について(3)
- [14]: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
----	--	---------------	---	---------------	--

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は、毎回の授業時に行う。各回の予習・復習にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:50% 報告・提出物など:50%

テキスト / Textbooks

教室にて配付

参考文献 / Readings

教室にて指示

その他 / Others

なし

研究指導演習A

Master's Thesis Seminar A

黒岩 三恵 (KUROIWA MIE)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV010
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

美術、アートを中心とする視覚的な表現(物)および視覚文化に関する研究動向を理解し、種々の資料を批判的に読み、研究方法を自らの研究に応用することができる。

In this seminar, students will learn how to read critically literature on art history and visual culture studies. They will learn different methodologies in the field and will be able to apply them in their study.

授業の内容 / Course Contents

受講生の研究トピックをを踏まえ、一次資料や二次資料にかかわる研究書等を使用し、研究動向、研究方法、資料の取り扱いなどについて実践的に学び、演習時の討論や研究発表を通じて応用していく。

We will read different types of primary and secondary literature on art history and visual culture to grasp states of research, methods and approaches, and rules on how to use primary documents. Students will actively apply the knowledge they acquired to their argument during each seminar and their presentation.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 講読ほか: 研究方法について①
- 【3】: 講読ほか: 研究方法について②
- 【4】: 講読ほか: 研究動向①
- 【5】: 講読ほか: 研究動向②
- 【6】: 発表: 履修生の関心あるトピックにおける研究方法・動向
- 【7】: 講読ほか: 研究の題材①
- 【8】: 講読ほか: 研究の題材②
- 【9】: 講読ほか: 一次資料と二次資料①
- 【10】: 講読ほか: 一次資料と二次資料②
- 【11】: 発表: 履修生の研究題材・一次資料と二次資料
- 【12】: 講読ほか: 新しい方法の模索①
- 【13】: 講読ほか: 新しい方法の模索②
- 【14】: 期末報告(最終レポート含む)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自判断して、必要な準備、復習など遂行すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間報告:30% 各回での参加度:40% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

随時参考文献等は紹介する。

研究指導演習A

Master's Thesis Seminar A

イ, ヒャンジン(LEE HYANGJIN)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV011
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

映像文化研究における主なトピック、理論的枠組みと分析の方法、最近の研究動向を考察し、自らの研究に結びつけることができる。

Students should be able to consider major topics in research of film and screen culture, theoretical frameworks, methods of analysis, and recent research trends, and link these areas to their own research.

授業の内容 / Course Contents

多文化社会の批評としての映像文化を理解し、戦争や植民地支配の文化的記憶、移住とグローバリゼーション、ナショナリズムとエスニシティなどの社会的テーマを扱っている作品を代表的先行研究に基づいてジェンダースタディの観点から概観する。

We will work to understand film and screen culture as a review of multicultural society, and based on key examples of existing research, provide an overview from a gender studies perspective, of works that deal with social themes, such as the cultural memory of war and colonial occupation, immigration and globalization, nationalism and ethnicity, etc.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 映像文化論、グローバルとローカル
- 【2】: 映像文化研究におけるトピック1: ジェンダーとセクシュアリティ
- 【3】: 映像文化研究における理論的枠組み1: ジェンダーとセクシュアリティ
- 【4】: 映像文化研究における研究方法論1: ジェンダーとセクシュアリティ
- 【5】: 映像文化研究におけるトピック2: ナショナリズムと文化的記憶、移動の政治学
- 【6】: 映像文化研究における理論的枠組み2: ナショナリズムと文化的記憶、移動の政治学
- 【7】: 映像文化研究における研究方法論2: ナショナリズムと文化的記憶、移動の政治学
- 【8】: 映像文化研究におけるトピック3: エスニシティと多文化主義、トランスナショナルリティ
- 【9】: 映像文化研究における理論的枠組み3: エスニシティと多文化主義、トランスナショナルリティ
- 【10】: 映像文化研究における研究方法論3: エスニシティと多文化主義、トランスナショナルリティ
- 【11】: 学生による研究発表1
- 【12】: 学生による研究発表2
- 【13】: 学生による研究発表3
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用	○
-------------	---

校外実習・フィールドワーク	
---------------	--

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業で扱う個々のテーマと自分の研究テーマを関連付け、自ら関係する文献を探し、報告書を作成すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業への参加度(報告書、討論、質疑応答など):50% 学期内に3回のミニレポート提出:30% 最終テスト割合:20%

テキスト / Textbooks

イ・ヒャンジン 『コリアン・シネマ:北朝鮮・韓国・トランスナショナル』 みすず書房 2018 4622086646

参考文献 / Readings

受講生の研究テーマに応じて適宜紹介する。

研究指導演習A

Master's Thesis Seminar A

マーティン, R (MARTIN, RON R.)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV012
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Face-to-face
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This course gives students the necessary knowledge and tools in order to complete a graduate thesis. Students will develop a research topic, learn research methods, acquire the writing skills required for a thesis, become critical readers of academic literature, and put all such skills into practice.

授業の内容 / Course Contents

The course will cover the broad field of language education with specific reference to the teaching of language, the learning of language, and the role of motivation in teaching and learning. Students will find their own areas of interests to explore, while gaining knowledge and experience in research methods. Students will be encouraged to attend lectures outside of class as well as present their understanding of material in class. By the end of the course, students will submit a thesis proposal.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Thesis writing: Setting goals
- 【2】: Academic literature: How to find it
- 【3】: Academic literature: How to read it
- 【4】: Developing a research question 1
- 【5】: Developing a research question 2
- 【6】: Developing a research topic 1
- 【7】: Developing a research topic 2
- 【8】: Developing a research topic 3
- 【9】: Research methods 1
- 【10】: Research methods 2
- 【11】: Research proposal 1
- 【12】: Research proposal 2
- 【13】: Research proposal 3
- 【14】: Research proposal 4

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

The course will be carried out via peer and instructor discussions. Generally speaking, students need to develop the ability to find readings of interest and share parts of the readings that are of importance to their thesis.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Study required outside of class will be determined in consultation with the instructor throughout the semester.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and participation:50% Homework, reports, tests:50%

テキスト / Textbooks

None.

参考文献 / Readings

Readings will be given in class.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful to have a device in class (e.g., a tablet or laptop) to view materials distributed via Canvas and/or Google drive.

研究指導演習A

Master's Thesis Seminar A

丸山 千歌 (MARUYAMA CHIKA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV013
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、論文執筆の具体的な方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

Strive to clarify research themes and methodologies, learn how to search for data, specific methods for writing academic papers and other basic knowledge and skills required to write master's theses, and perform academic writing.

授業の内容 / Course Contents

日本語教育関連科目および関連研究領域に関連する科目の履修によって得られる専門知識を踏まえながら、研究課題として関心のあるテーマについて国内外の先行研究の現状、課題および研究方法を把握し、各自の研究課題の絞り込みを行う。さらに、研究課題に即した論文に基づく研究発表を行うとともに、論文執筆に関する具体的な指導を受ける。参加者各自が、自らの研究課題に関連する文献を積極的に探し、修士論文での位置づけを考える。

Building on specialist knowledge students can gain by taking subjects related to Japanese Language Education and its area of research, we will develop understanding of the current state of existing domestic and international research on a topic of interest that could become a research project. We will look specifically at issues covered and methodology used and apply knowledge acquired to refining each student's research project. Also, students will give a research presentation based on a thesis in line with their chosen research topic and receive advice tailored to writing an academic paper. Each student should proactively look for literature related to their own research project and consider its place in their master's thesis.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 研究テーマの設定1
- 【3】: 研究テーマの設定2
- 【4】: 先行研究について1
- 【5】: 先行研究について2
- 【6】: 先行研究について3
- 【7】: 研究方法1
- 【8】: 研究方法2
- 【9】: 研究方法3
- 【10】: 論文の構成1
- 【11】: 論文の構成2
- 【12】: 論文の構成3
- 【13】: 学術的記述の方法について
- 【14】: 振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

・本学では、1 単位あたりの学修時間を 45 時間としている(授業時間を含む)。履修者は、この点をふまえた上で、研究を進めること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業への参加度(討論, 質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で、担当教員が適宜指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

計画的かつ能動的に研究を進める能力。研究の進捗や課題を整理して報告し、他者の意見も参考にしながら、次のステップを計画する能力。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC またはタブレット端末を使用する。

その他 / Others

スケジュールや内容は調整する場合がある。

研究指導演習A

Master's Thesis Seminar A

松下 佳世 (MATSUSHITA KAYO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV014
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

通訳翻訳分野で修士論文や課題研究に取り組むにあたって必要となる基礎的知識を身につけ、自ら関心を持ったテーマについて適切な方法論に基づいた予備的調査を行い、成果を発表する。

This course aims to acquire the basic knowledge needed to write a master's thesis or conduct a research project in the field of Translation and Interpreting Studies (TIS). Students will conduct a preliminary investigation on a chosen topic using appropriate methodology and present the key findings at the end of the semester.

授業の内容 / Course Contents

通訳翻訳分野で修士論文を執筆または課題研究を実施するための土台作りとして、前半は、過去のプロジェクトを参考にしながら、研究への取り組み方を段階を追って学ぶ。これらの理解に基づき、中間発表では、自らの研究の構想を発表し、今後の研究の方向性を示す。後半は、実際に予備的調査を実施し、その中で出てきた課題についてディスカッションを交えながら考えを深める。学期末には、学びの成果を研究発表の形で共有するとともに、研究報告書にまとめて、修士論文・課題研究の本格実施に向けた道筋をつける。

As a groundwork for writing a master's thesis or carrying out a research project in TIS, the first half of the semester will be spent on learning from previous projects while receiving guidance from the instructor on how to conduct research. Students will utilize knowledge gained during this period to give an interim presentation outlining their research plan and the possible way forward. In the second half, students will carry out preliminary investigations and formulate research questions by discussing issues that arise during the process. At the end of the semester, students will share their findings and learning outcomes by giving the final presentation and submitting their final report.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 修士論文・課題研究とは
- 【2】: 通訳翻訳分野におけるこれまでの修士論文・課題研究
- 【3】: テーマ設定の方法およびリサーチ・クエスチョンの立て方
- 【4】: 資料の検索方法と先行研究の調べ方
- 【5】: 研究方法と理論的枠組みの検討
- 【6】: データの集め方と分析の手法
- 【7】: 中間発表
- 【8】: 予備的調査の実施1
- 【9】: 予備的調査の実施2
- 【10】: 調査結果の報告とディスカッション1
- 【11】: 調査結果の報告とディスカッション2
- 【12】: 研究発表の方法
- 【13】: 最終発表とフィードバック

【14】:まとめと研究報告書の提出**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポイント等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="radio"/>
上記いずれも用いない予定	<input type="radio"/>				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読、予備的調査などを自らのペースで進めること。また、進捗状況について、面談時またはメール等で適宜報告すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席とディスカッションへの貢献:30% 授業内発表:30% 研究報告書:40%

テキスト / Textbooks

Claudia V. Angelelli & Brian James Baer Researching Translation and Interpreting Routledge 2016 9780415732543
必要に応じて、適宜資料を配付する。

参考文献 / Readings

受講者の研究テーマに応じて適宜指示する。

研究指導演習A

Master's Thesis Seminar A

森 聡美 (MORI SATOMI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV015
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、論文執筆の方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

Strive to clarify research themes and methodologies, learn methods for writing academic papers and other basic knowledge and skills required to write master's theses, and practice academic writing.

授業の内容 / Course Contents

バイリンガリズム関連科目ならびにその研究領域に関連する科目の履修によって得られる専門知識を踏まえながら、関心を有するテーマについて内外の先行研究の現状、課題および研究方法を把握し、各自の研究テーマへと集約させていく。さらに、受講者に研究テーマに即した研究発表をしてもらいながら、論文執筆に関する具体的な指導をしていく。

Based on the expert knowledge gained from taking courses about language policy and bilingualism and the fields of research related to them, students will gain a full understanding of the present state, issues and methodologies of previous research conducted inside and outside Japan on themes of their interest, and work toward narrowing down their research themes. In addition, the instructor will give detailed instruction on thesis writing as students present their research in line with their research themes.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: ガイダンス
- [2]: 研究テーマ設定・研究計画立案・論文執筆の指導1
- [3]: 研究テーマ設定・研究計画立案・論文執筆の指導2
- [4]: 研究テーマ設定・研究計画立案・論文執筆の指導3
- [5]: 研究テーマ設定・研究計画立案・論文執筆の指導4
- [6]: 研究テーマ設定・研究計画立案・論文執筆の指導5
- [7]: 研究テーマ設定・研究計画立案・論文執筆の指導6
- [8]: 研究テーマ設定・研究計画立案・論文執筆の指導7
- [9]: 研究テーマ設定・研究計画立案・論文執筆の指導8
- [10]: 研究テーマ設定・研究計画立案・論文執筆の指導9
- [11]: 研究テーマ設定・研究計画立案・論文執筆の指導10
- [12]: 研究テーマ設定・研究計画立案・論文執筆の指導11
- [13]: 研究テーマ設定・研究計画立案・論文執筆の指導12
- [14]: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は、Canvas LMS/シラバスで指示をする。各回の予習・復習についてはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論・質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物・各種テスト:50%
課題に対するフィードバックは CanvasLMS ないしはクラス内で行う。

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

指導の中で、担当教員が適宜指示する。

研究指導演習A

Master's Thesis Seminar A

師岡 淳也 (MOROOKA JUNYA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV016
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、論文執筆の方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

Strive to clarify research themes and methodologies, learn methods for writing academic papers and other basic knowledge and skills required to write master's theses, and practice academic writing.

授業の内容 / Course Contents

コミュニケーション論関連科目ならびにその研究領域に関連する科目の履修によって得られる専門知識を踏まえながら、関心を有するテーマについて内外の先行研究の現状、課題および研究方法を把握し、各自の研究テーマへと集約させていく。さらに、受講者に研究テーマに即した研究発表をしてもらいながら、論文執筆に関する具体的な指導をしていく。Based on the expert knowledge gained from taking courses about communication theory and the fields of research related to it, students will gain a full understanding of the present state, issues and methodologies of previous research conducted inside and outside Japan on themes of their interest, and work toward narrowing down their research themes. In addition, the instructor will give detailed instruction on thesis writing as students present their research in line with their research themes.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:はじめに
- 【2】:研究の進め方(1)
- 【3】:研究の進め方(2)
- 【4】:研究テーマについて(1)
- 【5】:研究テーマについて(2)
- 【6】:文献の収集方法(1)
- 【7】:文献の収集方法(2)
- 【8】:文献の引用の仕方、参考文献の様式
- 【9】:研究方法の検討(1)
- 【10】:研究方法の検討(2)
- 【11】:研究趣意書(リサーチプロポーザル)の作成(1)
- 【12】:研究趣意書(リサーチプロポーザル)の作成(2)
- 【13】:研究趣意書(リサーチプロポーザル)の作成(3)
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	○
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加・貢献度:50% 報告およびレポートなどの各種提出物:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で、担当教員が適宜指示する。

研究指導演習A

Master's Thesis Seminar A

石黒 武人 (ISHIGURO TAKETO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV017
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、異文化コミュニケーション研究の理論的・方法論的枠組みを概観しつつ、研究テーマを明確化し、研究を遂行し、論文を執筆するうえで必要な知識を身につけることを目的とする。

The aim of this seminar is to learn basic knowledge and skills to conduct research and write a master's thesis, as the seminar students go over theoretical and methodological frameworks on intercultural communication studies and clarify their research themes and methods.

授業の内容 / Course Contents

異文化コミュニケーション関連科目ならびにその研究領域に関連する科目の履修によって得られる専門知識を踏まえ、個々の研究関心に応じて国内外の先行研究の動向を把握し、各自の研究テーマと方法を明確化していく。さらに、受講生に個々の研究テーマと関連する研究や自身の研究の進捗について発表をしてもらいながら、研究指導を行う。

As students review previous studies related to their research themes on the basis of their expertise on intercultural communication studies and other related fields, they will clarify their themes and research methods. In class, the students will give presentations not only on previous studies related to their research themes but also their research progress. They will be provided specific guidance for analyzing data and writing an academic paper.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション:授業の目標、内容、進め方等

【2】:パラダイム(存在論、認識論、方法論)と研究の位置づけ

(1) パラダイムと研究の関係

(2) 各パラダイムについてディスカッション

(3) パラダイムと各メンバーの研究の位置づけ

【予習】リーディング課題資料を読破:Hua, Z. (2015). Linking themes, paradigms, and methods. In Z. Hua (Ed.), Research methods in intercultural communication: A practical guide (pp.1-22). Wiley.

サイト:<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/book/10.1002/9781119166283>

【復習】パラダイム(存在論、認識論、方法論)を意識した研究の在り方について考える。リサーチクエスション、先行研究、研究方法(データ分析法)などにパラダイムと一致し、一貫性があるかに注意を払う。

【3】:研究テーマの設定について

【4】:先行研究の収集・検討について

【5】:先行研究の整理の仕方について

【6】:文献の引用の仕方、参考文献の書き方について

【7】:先行研究の発表(1)

【8】:先行研究の発表(2)

【9】:先行研究の発表(3)

- 【10】: 先行研究の発表(4)
- 【11】: 先行研究の発表(5)
- 【12】: 先行研究のマッピングとリサーチギャップ
- 【13】: 研究計画書の発表
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

学会や研究会にも参加します。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業外では、対象となったテキストを読み、授業でディスカッションできるように備えてください。また、発表を担当する場合は、発表資料を作成し、事前に教員にメール添付で送付してください。自身の研究テーマに関連する論文、書籍を読んで、その内容を要約し、批判的に検討してください。また各自の研究テーマの文献や自身で行った調査の内容について発表する場合も、資料を作成し、事前に教員に送付してください。レポートは、修士論文の引用方法や参考文献の記載方法に沿って、すべて「The Rikkyo Style」に従ってください。そのため、The Rikkyo Style を早めに確認し、表記方法に慣れてください。学会や研究会の情報も教員から案内しますので、積極的に参加してください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加・貢献度:30% 発表:30% 最終レポート:40%

テキスト / Textbooks

履修者の研究関心・研究計画を踏まえ、必要に応じて初回の授業で相談し、指定します。加えて、プリント資料も配布します。

参考文献 / Readings

- 桜井厚 『インタビューの社会学 ライフストーリーの聞き方』 せりか書房 2002 9784796702379
- 桜井厚 小林多寿子 『ライフストーリー・インタビュー—質的研究入門』 せりか書房 2005 9784796702683
- 木下康仁 『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践—質的研究への誘い』 弘文堂 2003 9784335550898
- 木下康仁 『ライブ講義 M-GTA 実践的質的研究法 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチのすべて』 弘文堂 2007 9784335551109
- 清宮徹 『組織のディスコースとコミュニケーション—組織と経営の新しいアジェンダを求めて』 同文館出版 2019 9784495390242
- 桜井厚 石川良子 『ライフストーリー研究に何ができるか』 新曜社 2015 9784788513983
- 桜井厚 『ライフストーリーとジェンダー』 せりか書房 2003 9784796702508

その他、適宜指示する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

インタビューを含めたディスコース(テキスト+コンテキスト)を分析したり、フィールドワークを行ったりする「質的研究」というジャンルの研究方法を用いて調査を進めるため、高度な統計的処理を伴うアンケート調査を行う研究を志向する院生には適していないことに留意してください。Please note that since the research will be conducted using research methods of the "qualitative research" genre, which involves analyzing discourses (text + context) including interviews and conducting fieldwork, it is not suitable for graduate students who are interested in conducting research that involves questionnaire surveys with advanced statistical processing.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業資料をオンライン・プラットフォーム(CanvasLMS)で公開するので、授業資料を閲覧するためのデジタル・デバイス(パソコン等)をご用意ください。Class materials will be made available on an online platform (CanvasLMS), so please prepare a digital device (e.g., computer) to view the class materials.

その他 / Others

ゼミホームページ ¥ This seminar's homepage:

<https://sites.google.com/rikkyo.ac.jp/icss/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>

研究指導演習A

Master's Thesis Seminar A

チョウ Y. (ZHAO YUANHAO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV018
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This course aims to equip students with the knowledge and tools necessary to complete a graduate thesis. Students will critically engage with academic literature, develop a research topic based on their interests, explore research methods and theoretical frameworks, and acquire practical skills for effective thesis writing.

授業の内容 / Course Contents

This course begins by guiding students through previous studies related to their possible research topics, particularly in the fields of tradition, identity, folklore, narrative culture, material culture and related areas. Students will then share their research interests with classmates and the instructor to receive constructive feedback. Based on their interests and progress, tailored guidance will be provided on defining topics for their theses.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Orientation: Course Objectives, Content, and Structure
- 【2】:Theoretical and Methodological Frameworks
- 【3】:Theoretical and Methodological Frameworks II
- 【4】:Literature Review
- 【5】:Literature Review II
- 【6】:Annotated Bibliography
- 【7】:Data Collection
- 【8】:Data Collection and Sorting
- 【9】:How to Decide Research Topics
- 【10】:How to Decide Research Topics
- 【11】:Discussion of Research Topics
- 【12】:Discussion of Research Topics
- 【13】:Drafting Prospectus of Research
- 【14】:Synthesis and Final Presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

Teaching methods may be adjusted based on class size and student progress.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to complete any assigned readings before class. Additional requirements and readings may be provided during class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation/discussion:30% Presentation:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

Will be provided in class or communicated via university online teaching system.

参考文献 / Readings

その他 / Others

Weekly topics may overlap and are subject to adjustment based on assessments of students' performance and class progress.

研究指導演習A

Master's Thesis Seminar A

奥野 克巳 (OKUNO KATSUMI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV019
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、論文執筆の方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を進める。

Strive to clarify research themes and methodologies, learn methods for writing academic papers and other basic knowledge and skills required to write master's theses, and make progress on writing theses.

授業の内容 / Course Contents

文化人類学関連科目の履修によって得られる専門知識を踏まえて、関心を有するテーマについて国内外の先行研究の現状、課題および研究方法を把握し、各自の研究テーマへと高めていく。また、研究テーマに即した研究発表をしてもらいながら、論文執筆に関する具体的な指導をしていく。

Based on the expert knowledge gained from taking courses about cultural anthropology, students will gain a full understanding of the present state, issues and methodologies of previous research conducted inside and outside Japan on themes of their interest, and work toward enhancing their research themes. In addition, the instructor will give detailed instruction on thesis writing as students present their research in line with their research themes.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入、授業の概要
- 【2】: 論文執筆指導(1)
- 【3】: 論文執筆指導(2)
- 【4】: 論文執筆指導(3)
- 【5】: 論文執筆指導(4)
- 【6】: 論文執筆指導(5)
- 【7】: 論文執筆指導(6)
- 【8】: 論文執筆指導(7)
- 【9】: 論文執筆指導(8)
- 【10】: 論文執筆指導(9)
- 【11】: 論文執筆指導(10)
- 【12】: 論文執筆指導(11)
- 【13】: 論文執筆指導(12)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用
----	--	---------------	--	---------------

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加態度:60%

最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

指導の中で適宜指示します。

研究指導演習A

Master's Thesis Seminar A

佐藤 邦彦(SATO KUNIHICO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV021
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学生各自が修士論文に向けて研究テーマを明確にし、必要な知識・情報を収集したり、調査研究や論考をどのように進めていくか考えることができるように、基礎的な知識と能力を身につけ、論文執筆に取り組む。

In preparation for their master's thesis, each student will clearly set out their research theme, gather necessary information and material, and acquire the basic knowledge and skills required to cultivate the ability to consider how best to proceed with investigative research and academic discussion. Students will then commence writing.

授業の内容 / Course Contents

言語学、特に言語の構造面や意味に関連した分野の基礎知識を踏まえて、取り組むべき課題と必要な研究方法の理解を深めながら、各自の研究テーマに取り込んでいく。また、学生各自の研究テーマに即した報告・発表や学生間の討論も行ってもらいながら、それぞれの論文執筆に必要な具体的な指導をしていく。

Building on basic knowledge of the field of linguistics (specifically language structure and meaning), students will work on their own research topic while developing deeper understanding of issues to address and necessary research methodology. Also, each student will deliver reports and presentations on their research theme, student debates will be carried out, and necessary specific instruction geared toward each individual's thesis writing will be provided.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 関心領域の確認と具体的テーマの検討・1
- 【3】: 関心領域の確認と具体的テーマの検討・2
- 【4】: 先行研究の探索・1
- 【5】: 先行研究の探索・2
- 【6】: 先行研究の探索・3
- 【7】: 資料の収集と研究方法について・1
- 【8】: 資料の収集と研究方法について・2
- 【9】: 中間発表に基づく指導
- 【10】: 理論的枠組みについて
- 【11】: 他の関連分野について
- 【12】: 論文の構成について・1
- 【13】: 論文の構成について・2
- 【14】: 最終報告とまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業への参加度(討論, 質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

必要に応じて授業時に指示する。

研究指導演習A

Master's Thesis Seminar A

武田 珂代子 (TAKEDA KAYOKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV024
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

翻訳通訳研究の基本的な理論や研究方法について幅広い知識を得ることによって修士論文・課題研究に取り組む準備を行う。

Students will be prepared to work on their MA thesis projects by acquiring a broad knowledge of basic theories and research methodologies in Translation and Interpreting Studies.

授業の内容 / Course Contents

翻訳通訳研究における基本的な理論と研究方法論について学び、履修生の論文・課題研究に関連するトピックの主な先行研究のレビューを行う。翻訳プロジェクトに取り組む履修生がいる場合は、素材の選択、翻訳戦略、理論的振り返りの方法について初期的な議論を行う。また、翻訳・通訳の実践と理論との関係について議論する。

Students will learn basic theories and research methods in Translation and Interpreting Studies and review major prior works on topics relevant to student thesis projects. For translation theses, students will engage in preliminary discussions on the selection of materials, translation strategies, and methods of theoretical reflections. Also discussed are the relations between the theory and practice of translation and interpreting.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション(レポート・論文の構成、スタイルガイド)
- 【2】: 翻訳通訳関連の修士論文・課題研究の事例
- 【3】: 翻訳通訳理論の概要 1
- 【4】: 翻訳通訳理論の概要 2
- 【5】: 翻訳通訳研究の方法論 1
- 【6】: 翻訳通訳研究の方法論 2
- 【7】: 翻訳実践と研究 1
- 【8】: 翻訳実践と研究 2
- 【9】: 通訳実践と研究 1
- 【10】: 通訳実践と研究 2
- 【11】: 文献の検索方法
- 【12】: 学生による研究・課題計画発表 1
- 【13】: 学生による研究・課題計画発表 2
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
----	--	---------------	---	---------------	--

個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 論文・課題研究の計画書または先行文献レビュー:40% ディスカッション参加度:30% 授業内発表:30%

テキスト / Textbooks

武田珂代子編著『翻訳通訳研究の新地平』晃洋書房 2017 9784771028135

テキストを含む授業資料は適宜提供する。

参考文献 / Readings

Booth, W. C. et al. The Craft of Research The University of Chicago Press 2008 0226065669

Williams, J. and Chesterman, A. The Map: A beginner's guide to doing research in translation studies St. Jerome 2002 1900650541

ピム・A『翻訳理論の探求』みすず書房 2010 4622075180

Saldanha, G. & O'Brien, S. Research Methodologies in Translation Studies St. Jerome 2013 9781909485006

その他, 受講者の研究テーマに応じて助言する。

その他 / Others

TI@Rikkyo <http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/>

Kayoko Takeda's publications https://researchmap.jp/kayoko_takeda

研究指導演習A

Master's Thesis Seminar A

山口 まり子 (YAMAGUCHI MARIKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV025
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

To help students prepare for their master's thesis, this course aims to provide them with the requisite foundational knowledge and the skills needed to write and structure an academic paper. In addition, this course will aid the clarification of their research themes and methodologies. Further, students will also learn the methods of reading and analyzing research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

受講者は研究対象についての専門知識を踏まえながら、先行研究を理解したうえで、研究テーマを具体化する。研究テーマに関連する先行研究のレビューなどを発表し、議論をしながら論文執筆に関する具体的な指導を行う。

Students will read and review relevant texts to prepare for their thesis and will present their own research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(1)
- 【3】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(2)
- 【4】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(3)
- 【5】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(4)
- 【6】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(5)
- 【7】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(6)
- 【8】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(7)
- 【9】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(8)
- 【10】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(9)
- 【11】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(10)
- 【12】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(11)
- 【13】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(12)
- 【14】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(13)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポ等)の使用	<input type="checkbox"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="checkbox"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="checkbox"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="checkbox"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="checkbox"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="checkbox"/>

上記いずれも用いない予定

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

論理学を学んだことがない場合、例えば野矢茂樹著(2006)『新装 論理トレーニング』(産業図書)や同著者(2020)『まったくゼロからの論理学』(岩波書店)などを用いた独習を勧める(質問も歓迎する)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論, 質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で担当教員が適宜指示する。また、上記「授業時間外の学習」欄参照のこと。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

上記「授業時間外の学習」欄参照のこと。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業内で情報機器は不要。

その他 / Others

フィードバックは随時授業内で行う。

研究指導演習A

Master's Thesis Seminar A

中田 達也 (NAKATA TATSUYA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV026
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

To help students prepare for the writing of their master's thesis, this course aims to provide them with the requisite foundational knowledge and the skills needed to write and structure an academic paper. In addition, this course will aid the clarification of their research themes and methodologies. Further, students will also learn the methods of reading and analyzing research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

講義・演習および個別指導を通して、先行研究を批判的に考察した上で研究テーマを設定し、データを収集、研究成果を論文として発表する能力を養う。また、受講生各自の研究の進捗状況に関する発表や討議も行う。

Through lectures and tutorials, students will learn to (a) critically evaluate previous literature, (b) formulate research questions, (c) collect data, and (d) publish findings in the form of academic papers. Students will also be required to present and discuss their ongoing research projects.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入
- 【2】: 研究テーマの設定
- 【3】: 先行研究の探し方
- 【4】: 文献管理
- 【5】: 先行研究のレビュー
- 【6】: 研究成果の公表方法
- 【7】: 研究課題の設定
- 【8】: プロポーザルの作成 1
- 【9】: プロポーザルの作成 2
- 【10】: プロポーザルの作成 3
- 【11】: プロポーザルの作成 4
- 【12】: プロポーザルの作成 5
- 【13】: プロポーザルの作成 6
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
----	-----------------------	---------------	-----------------------	---------------	-----------------------

個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論, 質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

適宜指示する。

その他 / Others

<https://www.howtoeigo.net/>

研究指導演習A

Master's Thesis Seminar A

日下部 尚徳(KUSAKABE NAONORI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV027
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、修士論文・課題研究作成に向けて、研究と論述の基本的な手法を習得することを目的とする。

This course aims to help students to clarify their research themes and methodologies, learn methods of writing academic papers, acquire other basic expertise and skills required to write master's theses, and practice academic writing.

授業の内容 / Course Contents

国際協力、途上国の開発に関する具体的現象を研究対象に、理論的枠組、分析、考察する方法、研究対象についての専門知識を踏まえながら、先行研究および研究方法の動向を理解したうえで、研究テーマ、方法を具体化する。受講者は研究テーマに関連する先行研究のレビュー、研究対象についての調査成果を発表し、議論をしながら論文執筆に関する具体的な指導を行う。

This course aims to help students precisely determine a research topic and method for their thesis. To achieve this goal, students will have to engage with texts on theoretical foundations, research methods, and scientific discussions relating to international cooperation and development. Students will review relevant research and will present their own ideas for research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 研究テーマの設定1
- 【3】: 研究テーマの設定2
- 【4】: 先行研究について1
- 【5】: 先行研究について2
- 【6】: 先行研究について3
- 【7】: 研究方法1
- 【8】: 研究方法2
- 【9】: 研究方法3
- 【10】: 論文の構成1
- 【11】: 論文の構成2
- 【12】: 論文の構成3
- 【13】: 学術的記述の方法について
- 【14】: 振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論, 質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で, 担当教員が適宜指示する。

その他 / Others

フィードバックは随時授業内で行う。

研究指導演習B

Master's Thesis Seminar B

浜崎 桂子 (HAMAZAKI KEIKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV032
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につける。

In preparation for writing a master's thesis, along with clarifying their research theme and methodology, students will acquire basic knowledge and skills needed for writing and structuring an academic paper. They will also learn the methods to read and analyze research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

文化接触、混雑の具体的な現象を研究対象に、理論的枠組、分析、考察する方法、研究対象についての専門知識を踏まえながら、先行研究および研究方法の動向を理解したうえで、研究テーマ、方法を具体化する。受講者は研究テーマに関連する先行研究のレビュー、研究対象についての調査成果を発表し、議論をしながら論文執筆に関する具体的な指導を行う。

The aim of the course is to precisely determine a research topic and method. To achieve this goal, we read texts on theoretical foundations, research methods, and scientific discussions relating to cultural contacts and cultural hybridity. Students will review relevant research and present their own research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 研究テーマの設定1
- 【3】: 研究テーマの設定2
- 【4】: 先行研究について1
- 【5】: 先行研究について2
- 【6】: 先行研究について3
- 【7】: 研究方法1
- 【8】: 研究方法2
- 【9】: 研究方法3
- 【10】: 論文の構成1
- 【11】: 論文の構成2
- 【12】: 論文の構成3
- 【13】: 学術的記述の方法について
- 【14】: 振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業の準備(約2時間)および、授業後、自分の研究のための発展的な調査など(約2時間)を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論, 質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で、担当教員が適宜指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

自ら文献調査などを通して考察を深めたうえで、批判的に議論をする力。

研究指導演習B

Master's Thesis Seminar B

星野 宏美 (HOSHINO HIROMI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV033
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につける。

To help students prepare for the writing of their master's thesis, this course aims to provide them with the requisite foundational knowledge and the skills needed to write and structure an academic paper. In addition, this course will aid the clarification of their research themes and methodologies. Further, students will also learn the methods of reading and analyzing research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

論文の初稿となり得る文章を用意し、それを叩き台としつつ、議論を行う。

Students will prepare a first draft of the paper and use it as a starting point for discussions.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: スケジュールの吟味
- 【2】: 研究の対象の吟味
- 【3】: 研究の方法の吟味
- 【4】: 研究の目的の吟味
- 【5】: 文献の吟味
- 【6】: 資料の吟味
- 【7】: 先行研究批判
- 【8】: 章立ての吟味
- 【9】: 独自性の吟味
- 【10】: 論理性の吟味
- 【11】: 実証性の吟味
- 【12】: 有効性の吟味
- 【13】: テーゼの吟味
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="checkbox"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="checkbox"/>	グループ発表	<input type="checkbox"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="checkbox"/>
実技・実習・実験	<input type="checkbox"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="checkbox"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="checkbox"/>
上記いずれも用いない予定	<input type="checkbox"/>				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指導の中で適宜指示する。加えて、図書館所蔵の音楽雑誌・音楽事典類、AVコーナーの資料等を活用されたい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と参加:50% 課題と成果物:50%

テキスト / Textbooks

とくに指定しない。

参考文献 / Readings

指導の中で指示する。

研究指導演習B

Master's Thesis Seminar B

石川 文也 (ISHIKAWA FUMIYA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV036
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、論文執筆の方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

This course aims to clarify research themes and research methods and help students acquire the basic knowledge and skills necessary for writing a master's thesis, such as thesis writing methods, and practice thesis writing.

授業の内容 / Course Contents

談話分析関連科目ならびにその研究領域に関連する科目の履修によって得られる専門知識を踏まえながら、関心を有するテーマについて先行研究の現状、課題および研究方法を把握し、各自の研究テーマへと集約させていく。さらに、受講者に研究テーマに即した研究発表をしてもらいながら、論文執筆に関する具体的な指導をしていく。

In consideration of the specialized knowledge gained from courses and subjects related to discourse analysis or the research area, this seminar will make students understand the current issues and research methods utilized by previous studies that dealt with the themes of their interest. Further, the module will help students to develop their selected themes. Students will be advised on the methods of writing academic papers and will be invited to deliver presentations on their research themes.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 修士論文の制度上の位置づけ
- 【3】: 修士論文の学術上の位置づけ
- 【4】: 修士執筆準備: テーマの決定
- 【5】: 修士執筆準備: 論文のタイトルとサブ・タイトルの決定
- 【6】: 修士論文の執筆準備: 「もくじ」(概要)の作成
- 【7】: 修士論文の執筆準備: 「はじめに」(概要)の作成
- 【8】: 修士論文の執筆準備: 文献表の作成
- 【9】: 修士論文の執筆準備: 付録の作成
- 【10】: 修士論文の執筆: 個別指導
- 【11】: 修士論文の執筆: 添削
- 【12】: 修士論文の執筆: 添削内容の反映
- 【13】: 修士論文の執筆: 推敲
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論・質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物・各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で、担当教員が適宜指示する。

その他 / Others

*上記の「授業計画」は、履修者数や指導の進捗状況にあわせて調整する可能性がある。

*学生の報告あるいは提出物について、口頭あるいは筆記によってコメントする。

*やむを得ず休講となった場合、内容を繰り下げて補講日に補講をおこなうか、それに代わる課題を出す。

研究指導演習B

Master's Thesis Seminar B

山田 優 (YAMADA MASARU)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV037
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

Building on the knowledge and experience acquired in the previous semester, students are expected to decide a possible research topic and create a detailed research plan in order to successfully complete the master's thesis or research project in the second year.

授業の内容 / Course Contents

Students will continue to work on a master's thesis or research project in the field of translation and interpreting. In addition to discussing common issues, students will receive personalized guidance tailored to their research plan and rate of progress. At the end of the semester, students will present the outcomes and summarize them in a report.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction
- 【2】:Literature review 1
- 【3】:Literature review 2
- 【4】:Literature review 3
- 【5】:Analyzing data
- 【6】:Refining the research design
- 【7】:Mid-term presentation
- 【8】:Results and discussion 1
- 【9】:Results and discussion 2
- 【10】:Results and discussion 3
- 【11】:Student presentation 1
- 【12】:Student presentation 2
- 【13】:Feedback and evaluation
- 【14】:Report submission

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読、調査、実験、フィールドスタディ、結果の分析・考察などを自らのペースで進めること。また、進捗状況について、面談時またはメール等で適宜報告すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Report:40% Presentation:20% Class participation:20% Research evaluation:20%

テキスト / Textbooks

Handouts will be provided as needed.

参考文献 / Readings

その他 / Others

https://researchmap.jp/yamada_trans

研究指導演習B

Master's Thesis Seminar B

小山 亘(KOYAMA WATARU)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV039
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、修士論文・課題研究作成に向けて、研究と論述の基本的な手法を習得することを目的とする。

This course aims to help students to clarify their research themes and methodologies, learn methods of writing academic papers, acquire other basic expertise and skills required to write master's theses, and practice academic writing.

授業の内容 / Course Contents

コミュニケーション関連科目、その他、各自の研究領域に関連する科目の履修によって得られる専門知識の習得・蓄積を前提としつつ、自らが特に関心を抱く具体的な研究テーマを設定し、それについての先行研究、課題、理論、研究方法などを十分に把握することなどを通して、研究テーマを継続的に再検討、練磨する。随時、自らの研究テーマについての報告・発表を行い、論文執筆に向けて具体的な知識を習得していく。

In this course, students will acquire further knowledge and enhance their understanding of the current state of their research on their chosen topics. They will closely examine their research themes and methodologies and justify their relevance to their research interests. Additionally, students will be required to deliver a presentation on their selected research topics and develop the skills of writing an academic paper.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: 講義の概要
- [2]: 学術論文の構成・リサーチについて(1)
- [3]: 学術論文の構成・リサーチについて(2)
- [4]: 学術論文の構成・リサーチについて(3)
- [5]: 研究テーマについて(1)
- [6]: 研究テーマについて(2)
- [7]: 研究テーマについて(3)
- [8]: 調査法について(1)
- [9]: 調査法について(2)
- [10]: 調査法について(3)
- [11]: 理論的枠組・分析方法について(1)
- [12]: 理論的枠組・分析方法について(2)
- [13]: 理論的枠組・分析方法について(3)
- [14]: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
----	--	---------------	---	---------------	--

個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は、毎回の授業時に行う。各回の予習・復習にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:50% 報告・提出物など:50%

テキスト / Textbooks

教室にて配付

参考文献 / Readings

教室にて指示

その他 / Others

なし

研究指導演習B

Master's Thesis Seminar B

黒岩 三恵 (KUROIWA MIE)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV040
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

美術、アートを中心とする視覚的な表現(物)および視覚文化に関する研究動向を理解し、種々の資料を批判的に読み、研究方法を自らの研究に応用することができる。研究対象たる美術・アート作品、多様な視覚表現について、応用的な分析と考察ができ、自ら新たな研究方法を提示できる。

In this seminar, students will learn how to read critically literature on art history and visual culture studies. They will learn different methodologies in the field and will be able to apply them in their study. They will be able to analyze visual artifacts and ultimately propose a new study approach.

授業の内容 / Course Contents

受講生の研究トピックを踏まえ、一次資料や二次資料にかかわる研究書等を使用し、研究動向、研究方法、資料の取り扱いなどについて実践的に学び、演習時の討論や研究発表を通じて応用していく。

We will read different types of primary and secondary literature on art history and visual culture to grasp states of research, methods and approaches, and rules on how to use primary documents. Students will actively apply the knowledge they acquired to their argument during each seminar and their presentation.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 作品の分析と検討: 視覚表現としての特質
- 【3】: 作品の分析と検討: 視覚表現としての特質
- 【4】: 作品の分析と検討: 視覚表現としての特質
- 【5】: 作品の分析と検討: 視覚表現としての特質
- 【6】: 発表: 履修生選択の作品の分析と検討
- 【7】: 作品の分析と検討: 方法論とのかかわり
- 【8】: 作品の分析と検討: 方法論とのかかわり
- 【9】: 作品の分析と検討: 方法論とのかかわり
- 【10】: 作品の分析と検討: 方法論とのかかわり
- 【11】: 発表: 履修生選択の作品と研究方法
- 【12】: 作品の分析と検討: 多視点の統合
- 【13】: 作品の分析と検討: 多視点の統合
- 【14】: 期末報告(最終レポート含む)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
----	-----------------------	---------------	-----------------------	---------------	-----------------------

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自判断して、必要な準備、復習など遂行するだけでなく、応用的に広げていくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間報告:30% 各回での参加度:40% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

随時参考文献等は紹介する。

研究指導演習B

Master's Thesis Seminar B

イ, ヒャンジン(LEE HYANGJIN)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV041
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

映像文化研究における主なトピック、理論的枠組みと分析の方法、最近の研究動向を考察し、自らの研究に結びつけることができる。

Students should be able to consider major topics in research of film and screen culture, theoretical frameworks, methods of analysis, and recent research trends, and link these areas to their own research.

授業の内容 / Course Contents

多文化社会の批評としての映像文化を理解し、戦争や植民地支配の文化的記憶、移住とグローバリゼーション、ナショナリズムとエスニシティなどの社会的テーマを扱っている作品を代表的先行研究に基づいてジェンダースタディの観点から概観する。

We will work to understand film and screen culture as a review of multicultural society, and based on key examples of existing research, provide an overview from a gender studies perspective, of works that deal with social themes, such as the cultural memory of war and colonial occupation, immigration and globalization, nationalism and ethnicity, etc.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: 映像文化論、グローバルとローカル
- 【2】: 映像文化研究におけるトピック1: ジェンダーとセクシュアリティ
- 【3】: 映像文化研究における理論的枠組み1: ジェンダーとセクシュアリティ
- 【4】: 映像文化研究における研究方法論1: ジェンダーとセクシュアリティ
- 【5】: 映像文化研究におけるトピック2: ナショナリズムと文化的記憶、移動の政治学
- 【6】: 映像文化研究における理論的枠組み2: ナショナリズムと文化的記憶、移動の政治学
- 【7】: 映像文化研究における研究方法論2: ナショナリズムと文化的記憶、移動の政治学
- 【8】: 映像文化研究におけるトピック3: エスニシティと多文化主義、トランスナショナルリティ
- 【9】: 映像文化研究における理論的枠組み3: エスニシティと多文化主義、トランスナショナルリティ
- 【10】: 映像文化研究における研究方法論3: エスニシティと多文化主義、トランスナショナルリティ
- 【11】: 学生による研究発表1
- 【12】: 学生による研究発表2
- 【13】: 学生による研究発表3
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用	○
-------------	---

校外実習・フィールドワーク	
---------------	--

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業で扱う個々のテーマと自分の研究テーマを関連付け、自ら関係する文献を探し、報告書を作成すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業への参加度(報告書、討論、質疑応答など):50% 学期内に3回のミニレポート提出:30% 最終テスト割合:20%

テキスト / Textbooks

イ・ヒャンジン 『コリアン・シネマ:北朝鮮・韓国・トランスナショナル』 みすず書房 2018 4622086646

参考文献 / Readings

受講生の研究テーマに応じて適宜紹介する。

研究指導演習B

Master's Thesis Seminar B

マーティン, R (MARTIN, RON R.)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV042
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Face-to-face
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This course gives students the necessary knowledge and tools in order to complete a graduate thesis. Students will develop a research topic, learn research methods, acquire the writing skills required for a thesis, become critical readers of academic literature, and put all such skills into practice.

授業の内容 / Course Contents

The course will cover the broad field of language education with specific reference to the teaching of language, the learning of language, and the role of motivation in teaching and learning. Students will develop their own areas of interests to explore, while gaining knowledge and experience in research methods. Students will be encouraged to attend lectures outside of class as well as present their understanding of material in class as they work on writing their thesis.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Thesis writing: Setting goals
- 【2】: Thesis guidance 1
- 【3】: Thesis guidance 2
- 【4】: Thesis guidance 3
- 【5】: Thesis guidance 4
- 【6】: Thesis guidance 5
- 【7】: Thesis guidance 6
- 【8】: Thesis guidance 7
- 【9】: Thesis guidance 8
- 【10】: Thesis guidance 9
- 【11】: Thesis guidance 10
- 【12】: Thesis guidance 11
- 【13】: Thesis guidance 12
- 【14】: Thesis writing: In review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

The course will be carried out via peer and instructor discussions. Generally speaking, students need to develop the ability to plan data collection and develop the understanding of how to analyze data.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Study required outside of class will be determined in consultation with the instructor throughout the semester.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and participation:50% Homework, reports, APA assignments:50%

テキスト / Textbooks

None.

参考文献 / Readings

Readings will be given in class.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful to have a device in class (e.g., a tablet or laptop) to view materials distributed via Canvas.

研究指導演習B

Master's Thesis Seminar B

丸山 千歌 (MARUYAMA CHIKA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV043
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、論文執筆の具体的方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、自分の論文の構成を固めることを目的とする。各自が自分の論文の基礎となる理論やモデルを適切に論文の中に位置づけることを目的とする。

The goal of this seminar is for students to solidify the structures of their theses by striving to clarify research themes and methodologies, and learning specific methods for writing academic papers and other basic knowledge and skills required to write master's theses. Each student will learn how to properly position in their thesis the theories and models that form the basis of their thesis.

授業の内容 / Course Contents

各自が集めた自分の研究テーマに関連する先行研究をどのように自分の研究に位置づけるのか、また、どの理論やモデルを自分の研究の基礎とするのかを発表していくことで授業を進める。毎回、参加者が自分の研究についてレジュメをもとに報告し、それについて他の参加者がコメントを出すという形で授業を進めるため、各自が自分の研究をしっかりと進め、毎回、進捗状況が報告できるようにしていく必要がある。

Classes revolve around students' presentations of how the previous research they have gathered on their research themes relates to their research, and which theories and models form the basis of their research. In each class, students will create summaries to report on their research, and their classmates will offer comments on the reports. Thus, students are required to work diligently on their research and make enough progress to be able to give reports at each class meeting.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 研究テーマの設定1
- 【3】: 研究テーマの設定2
- 【4】: 先行研究について1
- 【5】: 先行研究について2
- 【6】: 先行研究について3
- 【7】: 研究方法1
- 【8】: 研究方法2
- 【9】: 研究方法3
- 【10】: 論文の構成1
- 【11】: 論文の構成2
- 【12】: 論文の構成3
- 【13】: 学術的記述の方法について

【14】: 振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

・本学では、1 単位あたりの学修時間を 45 時間としている(授業時間を含む)。履修者は、この点をふまえた上で、研究を進めること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業への参加度(討論, 質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で、担当教員が適宜指示する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

計画的かつ能動的に研究を進める能力。研究の進捗や課題を整理して報告し、他者の意見も参考にしながら、次のステップを計画する能力。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC またはタブレット端末を使用する。

その他 / Others

スケジュールや内容は調整する場合がある。

研究指導演習B

Master's Thesis Seminar B

松下 佳世 (MATSUSHITA KAYO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV044
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

これまでに学んだことを土台に、2年次以降の修士論文の執筆あるいは課題研究の実施に向け、研究テーマを絞り込み、完成に向けた研究計画を作成する。

Building on the knowledge and experience acquired, students are expected to come up with a possible research topic and create a detailed research plan in order to successfully complete the master's thesis or research project in the second year.

授業の内容 / Course Contents

通訳翻訳分野に関連する修士論文あるいは課題研究に取り組む。共通の課題に基づいたディカッションのほか、各自の研究・課題計画ならびに進捗状況に応じて、個別に指導を受ける。成果を発表し、報告書にまとめる。

Students will continue to work on a master's thesis or research project in the field of Translation and Interpreting Studies (TIS). In addition to discussing common issues, students will receive personalized guidance tailored to their research plan and rate of progress. At the end of the semester, students will present the outcomes and summarize them in a report.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:進捗状況の確認
- 【2】:先行研究の分析1
- 【3】:先行研究の分析2
- 【4】:先行研究の分析3
- 【5】:テーマとリサーチクエスションの設定
- 【6】:集めたデータの分析1
- 【7】:集めたデータの分析2
- 【8】:集めたデータの分析3
- 【9】:分析結果の考察とディスカッション1
- 【10】:分析結果の考察とディスカッション2
- 【11】:分析結果の考察とディスカッション3
- 【12】:学生による研究発表とフィードバック1
- 【13】:学生による研究発表とフィードバック2
- 【14】:まとめと研究報告書の提出

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
----	-----------------------	---------------	-----------------------	---------------	-----------------------

個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読、調査、実験、フィールドスタディ、結果の分析・考察などを自らのペースで進めること。また、進捗状況について、面談時またはメール等で適宜報告すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席とディスカッションへの貢献:30% 授業内発表:30% 研究報告書:40%

テキスト / Textbooks

Claudia V. Angelelli & Brian James Baer *Researching Translation and Interpreting* Routledge 2016 9780415732543

参考文献 / Readings

受講者の研究テーマに応じて適宜指示する。

その他 / Others

各週ごとの学習内容や課題は、受講者の特性や人数、研究テーマによって適宜変更される。不明点は直接教員まで連絡のこと。

研究指導演習B

Master's Thesis Seminar B

森 聡美 (MORI SATOMI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV045
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、論文執筆の方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

Strive to clarify research themes and methodologies, learn methods for writing academic papers and other basic knowledge and skills required to write master's theses, and practice academic writing.

授業の内容 / Course Contents

バイリンガリズム関連科目ならびにその研究領域に関連する科目の履修によって得られる専門知識を踏まえながら、関心を有するテーマについて内外の先行研究の現状、課題および研究方法を把握し、各自の研究テーマへと集約させていく。さらに、受講者に研究テーマに即した研究発表をしてもらいながら、論文執筆に関する具体的な指導をしていく。

Based on the expert knowledge gained from taking courses about language policy and bilingualism and the fields of research related to them, students will gain a full understanding of the present state, issues and methodologies of previous research conducted inside and outside Japan on themes of their interest, and work toward narrowing down their research themes. In addition, the instructor will give detailed instruction on thesis writing as students present their research in line with their research themes.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: ガイダンス
- [2]: 研究テーマ設定・研究計画立案・論文執筆の指導1
- [3]: 研究テーマ設定・研究計画立案・論文執筆の指導2
- [4]: 研究テーマ設定・研究計画立案・論文執筆の指導3
- [5]: 研究テーマ設定・研究計画立案・論文執筆の指導4
- [6]: 研究テーマ設定・研究計画立案・論文執筆の指導5
- [7]: 研究テーマ設定・研究計画立案・論文執筆の指導6
- [8]: 研究テーマ設定・研究計画立案・論文執筆の指導7
- [9]: 研究テーマ設定・研究計画立案・論文執筆の指導8
- [10]: 研究テーマ設定・研究計画立案・論文執筆の指導9
- [11]: 研究テーマ設定・研究計画立案・論文執筆の指導10
- [12]: 研究テーマ設定・研究計画立案・論文執筆の指導11
- [13]: 研究テーマ設定・研究計画立案・論文執筆の指導12
- [14]: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は、Canvas LMS/シラバスで指示をする。各回の予習・復習についてはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論・質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物・各種テスト:50%
課題に対するフィードバックは CanvasLMS ないしはクラス内で行う。

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

指導の中で、担当教員が適宜指示する。

研究指導演習B

Master's Thesis Seminar B

師岡 淳也 (MOROOKA JUNYA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV046
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、論文執筆の方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

Strive to clarify research themes and methodologies, learn methods for writing academic papers and other basic knowledge and skills required to write master's theses, and practice academic writing.

授業の内容 / Course Contents

コミュニケーション論関連科目ならびにその研究領域に関連する科目の履修によって得られる専門知識を踏まえながら、関心を有するテーマについて内外の先行研究の現状、課題および研究方法を把握し、各自の研究テーマへと集約させていく。さらに、受講者に研究テーマに即した研究発表をしてもらいながら論文執筆に関する具体的な指導をしていく。

Based on the expert knowledge gained from taking courses about communication theory and the fields of research related to it, students will gain a full understanding of the present state, issues and methodologies of previous research conducted inside and outside Japan on themes of their interest, and work toward narrowing down their research themes. In addition, the instructor will give detailed instruction on thesis writing as students present their research in line with their research themes.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:はじめに
- 【2】:論文執筆指導(1)
- 【3】:論文執筆指導(2)
- 【4】:論文執筆指導(3)
- 【5】:論文執筆指導(4)
- 【6】:論文執筆指導(5)
- 【7】:論文執筆指導(6)
- 【8】:論文執筆指導(7)
- 【9】:論文執筆指導(8)
- 【10】:論文執筆指導(9)
- 【11】:論文執筆指導(10)
- 【12】:論文執筆指導(11)
- 【13】:論文執筆指導(12)
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○
個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

スライド(パワーポイント等)の使用	○
グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

左記以外の視聴覚教材の使用	
ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加・貢献度:50% 報告およびレポートなどの各種提出物:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で、担当教員が適宜指示する。

研究指導演習B

Master's Thesis Seminar B

石黒 武人 (ISHIGURO TAKETO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV047
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向け、異文化コミュニケーションや組織ディスコースに関する諸研究の中から、履修生たちが関心を持つ研究トピックに焦点を当て、それらの研究トピックに関する論文、書籍を読み、その内容を整理し、発表し、議論をしながら批判的に考察する。その際、個別研究で用いられている概念、理論的・方法論的枠組み、データ分析の仕方、調査結果の書き方、考察の枠組み、研究の限界の示し方等を理解し、履修生自身が研究を遂行するうえで必要な知識・スキルを身につけ、2年次に調査を実施できるよう、準備を整えることを目標とする。

In preparation for their master's theses, students will focus on research topics they are interested in among various studies on intercultural communication and organizational discourse, read articles and books on those research topics, organize their contents, present them in front of classmates, and critically examine them through discussions. In doing so, the goal is to understand the concepts, theoretical and methodological frameworks, how to analyze data, how to write research results, how to write the discussion section, and how to write the limitations of research, so that they can acquire the knowledge and skills necessary for conducting their research in the second year.

授業の内容 / Course Contents

異文化コミュニケーション関連科目ならびに研究方法に関連する科目の履修によって得られる専門知識を踏まえ、個々の研究関心に応じて国内外の先行研究の動向を把握し、各自の研究テーマについて知見を蓄積すると同時に、必要な研究方法の理論的・方法論的枠組みならびに具体的な研究事例を理解する。さらに、受講生に個々の研究テーマと関連する研究や自身の研究の進捗について発表をしてもらいながら、研究指導を行う。

Based on the specialized knowledge acquired through intercultural communication-related courses and courses related to research methods, students will grasp the trends of previous domestic and international research according to their individual research interests, accumulate knowledge on their own research topics, and understand the theoretical and methodological frameworks of necessary research methods and specific research cases. Students will also gain an understanding of the theoretical and methodological framework of necessary research methods as well as specific research cases. In addition, research guidance will be provided by having students present a summary of research related to their themes and the progress of their literature reviews.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: イントロダクション: 研究の内容と枠組みを理解するために、個別研究を詳しく検討するアプローチ
- [2]: 研究計画の発表
- [3]: 先行文献調査の発表・討議1
- [4]: 先行文献調査の発表・討議2
- [5]: 先行文献調査の発表・討議3
- [6]: 先行文献調査の発表・討議4
- [7]: 先行文献調査の発表・討議5

- 【8】: 先行文献調査の発表・討議6
- 【9】: 先行文献調査の発表・討議7&修士論文の例1
- 【10】: 先行文献調査の発表・討議8&修士論文の例2
- 【11】: 先行文献調査の発表・討議9&修士論文の例3
- 【12】: 先行文献調査の発表・討議10&修士論文の例4
- 【13】: 先行文献調査の発表・討議11
- 【14】: 総括&最終レポート(先行研究の批判的検討をまとめたもの)の提出

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

学会や研究会へも参加します。学部生のゼミ合宿(1泊2日)に参加する可能性があります。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

自身の研究テーマに関連する論文、書籍を読んで、その内容を要約し、批判的に検討してください。また各自の研究テーマの文献や自身で行った調査の内容について発表する場合も、資料を作成し、事前に教員に送付してください。論文を読む際は、先行研究のまとめ方に注意を払い、とくに、さまざまなパターンを知り、ご自分が先行研究をまとめるときに、適切と思われるパターンを探してみましょう。最終レポートは、先行研究を整理した文章を作成します。その際、修士論文の引用方法や参考文献の記載方法に沿って、すべて「The Rikkyo Style」に従ってください。そのため、The Rikkyo Styleを早めに確認し、表記方法に慣れてください。学会や研究会の情報も教員から案内しますので、積極的に参加してください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度・貢献度:30% 発表:30% 最終レポート:40%

テキスト / Textbooks

なし。履修生の研究テーマに沿った論文、書籍を読む形をとります。

参考文献 / Readings

新堀聡 『評価される博士・修士・卒業論文の書き方・考え方』 同文館出版 2002 9784495865115

澤田昭夫 『論文の書き方(講談社学術文庫)』 講談社 1977

木下是雄 『レポートの組み立て方』 筑摩書房 1994

河野哲也 『レポート・論文の書き方入門 第4版』 慶應義塾大学出版会 2018

ゼミホームページの「基本文献集」を参照のこと。その他適宜指示する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

パラグラフ・ライティングの能力や論文全体の構造を把握する能力が必要となるため、その能力を伸ばすために、【参考文献】にあるような論文の書き方に関する書籍を読むことを強く推奨する。図書館のホームページのREADという検索システムを使えるように準備しておく。また、ネット上の Google Scholar、J-Stage、CiNii などの検索サイトも活用できるようにしておいてください。

その他 / Others

ゼミホームページ: <https://sites.google.com/rikkyo.ac.jp/icss/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>

研究指導演習B

Master's Thesis Seminar B

チョウ Y. (ZHAO YUANHAO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV048
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

Starting with the Research Prospectus, this course aims to assist students in two key areas: first, gaining a foundational understanding of how to conduct research on cultural phenomena; and second, selecting appropriate methodologies and theoretical frameworks, as well as completing their data analysis. Students will critically engage with previous research to contextualize theories within their own projects and use their findings to contribute in meaningful academic conversations.

授業の内容 / Course Contents

Students will engage in critical and active reading of academic works in cultural studies and intercultural communication to build a personal repertoire of theories and methodologies for their research projects. They will also discuss their projects with peers and the instructor to receive constructive feedback.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Discussion of Prospectus
- 【2】: Literature Review Based on Personal Projects
- 【3】: Literature Review Based on Personal Projects
- 【4】: Literature Review Based on Personal Projects
- 【5】: Literature Review Based on Personal Projects
- 【6】: Literature Review Based on Personal Projects
- 【7】: Midterm Research Reflection
- 【8】: Thesis Development Support
- 【9】: Thesis Development Support
- 【10】: Thesis Development Support
- 【11】: Thesis Development Support
- 【12】: Thesis Development Support
- 【13】: Thesis Development Support
- 【14】: Final Presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="checkbox"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="checkbox"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="checkbox"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="checkbox"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="checkbox"/>
上記いずれも用いない予定	<input type="checkbox"/>				

Specific methods may be adjusted based on students' progress and tailored to meet their needs.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to complete any assigned reading before joining the discussion. Other requirements are to be decided in consultation with the instructor.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation/discussion:30% Presentation:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

Will be provided in class.

参考文献 / Readings

その他 / Others

Weekly topics may overlap and are subject to adjustment based on assessments of students' performance and class progress.

研究指導演習B

Master's Thesis Seminar B

奥野 克巳 (OKUNO KATSUMI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV049
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、論文執筆の方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を進める。

Strive to clarify research themes and methodologies, learn methods for writing academic papers and other basic knowledge and skills required to write master's theses, and make progress on writing theses.

授業の内容 / Course Contents

文化人類学関連科目の履修によって得られる専門知識を踏まえて、関心を有するテーマについて国内外の先行研究の現状、課題および研究方法を把握し、各自の研究テーマへと高めていく。また、研究テーマに即した研究発表をしてもらいながら、論文執筆に関する具体的な指導をしていく。

Based on the expert knowledge gained from taking courses about cultural anthropology, students will gain a full understanding of the present state, issues and methodologies of previous research conducted inside and outside Japan on themes of their interest, and work toward enhancing their research themes. In addition, the instructor will give detailed instruction on thesis writing as students present their research in line with their research themes.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入、授業の概要
- 【2】: 論文執筆指導(1)
- 【3】: 論文執筆指導(2)
- 【4】: 論文執筆指導(3)
- 【5】: 論文執筆指導(4)
- 【6】: 論文執筆指導(5)
- 【7】: 論文執筆指導(6)
- 【8】: 論文執筆指導(7)
- 【9】: 論文執筆指導(8)
- 【10】: 論文執筆指導(9)
- 【11】: 論文執筆指導(10)
- 【12】: 論文執筆指導(11)
- 【13】: 論文執筆指導(12)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用
----	--	---------------	--	---------------

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加態度:60%

最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

指導の中で適宜指示します。

研究指導演習B

Master's Thesis Seminar B

佐藤 邦彦(SATO KUNIHICO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV051
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

学生各自が研究に必要な知識・理論等の理解をさらに深め、具体的な分析・考察等をさらに進めていき、修士論文執筆に向けて具体化していけるよう、指導を行う。

Teaching will further consolidate each student's understanding of the knowledge and theories needed to conduct research and cover more thoroughly specific analysis and study toward the realization of writing a master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

先行研究の成果や意義、問題点をどのように捉え、学生自身のテーマとどう関連づけていくべきかについて理解と考察を深め、論文執筆に向けてさらに何が必要かを考えるために、学生の報告・討論を中心に進めながら指導を行う。

We will cultivate deeper understanding and consideration of how to view the findings, meanings and issues in existing research and how to link these areas to the individual student's topic. Also, to allow us to think about what else is necessary in preparation for writing a thesis, teaching will be centered around student reports and debates.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: テーマの再検討・1
- 【3】: テーマの再検討・2
- 【4】: 先行研究に関する考察・1
- 【5】: 先行研究に関する考察・2
- 【6】: 先行研究に関する考察・3
- 【7】: 資料の収集と研究方法について・1
- 【8】: 資料の収集と研究方法について・2
- 【9】: 中間発表に基づく指導
- 【10】: 理論的枠組みについて
- 【11】: 研究テーマの理論上の意義づけについて
- 【12】: 論文の構成について・1
- 【13】: 論文の構成について・2
- 【14】: 最終報告とまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業への参加度(討論, 質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

必要に応じて授業時に指示する。

研究指導演習B

Master's Thesis Seminar B

武田 珂代子 (TAKEDA KAYOKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV054
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

翻訳・通訳に関連する修士論文・課題研究に取り組む上での初期作業を行う。特に、先行研究の選定、リサーチクエスションの設定、研究方法や理論的枠組みの見極めに焦点を当てる。

To work on initial tasks for working on master's thesis and graduate research projects related to translation and interpreting. Focus is placed in selecting relevant prior research, setting up research questions, identifying research methods and theoretical frameworks.

授業の内容 / Course Contents

翻訳・通訳に関連する修士論文・課題研究における必須項目について学ぶ。修士論文に取り組む学生は、関連する先行研究の見つけ方、リサーチクエスションとリサーチデザインの立て方、理論的枠組みやデータ収集・分析方法の見極めについて助言を受ける。課題研究に取り組む学生は、翻訳実作に取り組み、理論的分析の準備を行う。いずれも、パイロットプロジェクトに取り組み、成果に関するレポートを提出する。

Students learn essential elements in their master's thesis and graduate research projects related to translation and interpreting. For master's theses, students receive advice on how to find relevant literature, establish research questions and research approach, and identify theoretical frameworks and methods of gathering and analyzing data. For graduate research projects, students work on actual translations and prepare for theoretical analysis. All students are required to conduct a pilot project and submit a report on the findings.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 翻訳通訳関連の修士論文・課題研究のテーマ
- 【2】: 先行研究の調査
- 【3】: リサーチクエスションの設定方法
- 【4】: 研究方法の選び方
- 【5】: データ収集・分析方法
- 【6】: パイロット研究のデザイン
- 【7】: パイロット研究の実施法
- 【8】: 論文の構成とスタイルガイド
- 【9】: 課題研究のパイロット実施 1
- 【10】: 課題研究のパイロット実施 2
- 【11】: 課題研究のパイロット評価
- 【12】: 学生によるパイロット研究・課題発表 1
- 【13】: 学生によるパイロット研究・課題発表 2
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% パイロット研究・課題の報告:40% ディスカッション参加度:30% 授業内発表:30%

テキスト / Textbooks

武田珂代子編著 『翻訳通訳研究の新地平』 晃洋書房 2017 9784771028135

その他、適宜資料を配付する。

参考文献 / Readings

Booth, W. C. et al. The Craft of Research The University of Chicago Press 2008 0226065669

Williams, J. and Chesterman, A. The Map: A beginner's guide to doing research in translation studies St. Jerome 2002 1900650541

ピム・A 『翻訳理論の探求』 みすず書房 2010 4622075180

Saldanha, G. & O'Brien, S. Research Methodologies in Translation Studies St. Jerome 2013 9781909485006

その他、受講者の研究テーマに応じて助言する。

その他 / Others

TI@Rikkyo <http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/>

Kayoko Takeda's works https://researchmap.jp/kayoko_takeda

研究指導演習B

Master's Thesis Seminar B

山口 まり子 (YAMAGUCHI MARIKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV055
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

To help students prepare for their master's thesis, this course aims to provide them with the requisite foundational knowledge and the skills needed to write and structure an academic paper. In addition, this course will aid the clarification of their research themes and methodologies. Further, students will also learn the methods of reading and analyzing research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

受講者は研究対象についての専門知識を踏まえながら、先行研究を理解したうえで、研究テーマを具体化する。研究テーマに関連する先行研究のレビューなどを発表し、議論をしながら論文執筆に関する具体的な指導を行う。

Students will read and review relevant works to prepare for their thesis and will present their own research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(1)
- 【3】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(2)
- 【4】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(3)
- 【5】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(4)
- 【6】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(5)
- 【7】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(6)
- 【8】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(7)
- 【9】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(8)
- 【10】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(9)
- 【11】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(10)
- 【12】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(11)
- 【13】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(12)
- 【14】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(13)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポ等)の使用	<input type="checkbox"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="checkbox"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="checkbox"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="checkbox"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="checkbox"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="checkbox"/>

上記いずれも用いない予定

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

論理学を学んだことがない場合、例えば野矢茂樹著(2006)『新装 論理トレーニング』(産業図書)や同著者(2020)『まったくゼロからの論理学』(岩波書店)などを用いた独習を勧める。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論, 質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

指導の中で担当教員が適宜指示する。

また、上記「授業時間外の学習」欄参照のこと。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

上記「授業時間外の学習」欄参照のこと。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業内で情報機器は不要。

その他 / Others

フィードバックは随時授業内で行う。

研究指導演習B

Master's Thesis Seminar B

中田 達也 (NAKATA TATSUYA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV056
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

To help students prepare for the writing of their master's thesis, this course aims to provide them with the requisite foundational knowledge and the skills needed to write and structure an academic paper. In addition, this course will aid the clarification of their research themes and methodologies. Further, students will also learn the methods of reading and analyzing research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

講義・演習および個別指導を通して、先行研究を批判的に考察した上で研究テーマを設定し、データを収集、研究成果を論文として発表する能力を養う。また、受講生各自の研究の進捗状況に関する発表や討議も行う。

Through lectures and tutorials, students will learn to (a) critically evaluate previous literature, (b) formulate research questions, (c) collect data, and (d) publish findings in the form of academic papers. Students will also be required to present and to discuss their ongoing research projects.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入
- 【2】: 研究計画の決定 1
- 【3】: 研究計画の決定 2
- 【4】: 研究計画の決定 3
- 【5】: 研究計画の決定 4
- 【6】: 研究計画の決定 5
- 【7】: 研究計画の決定 6
- 【8】: プロポーザルの作成 1
- 【9】: プロポーザルの作成 2
- 【10】: プロポーザルの作成 3
- 【11】: プロポーザルの作成 4
- 【12】: プロポーザルの作成 5
- 【13】: プロポーザルの作成 6
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
----	-----------------------	---------------	-----------------------	---------------	-----------------------

個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論, 質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

適宜指示する。

その他 / Others

<https://www.howtoeigo.net/>

研究指導演習B

Master's Thesis Seminar B

日下部 尚徳(KUSAKABE NAONORI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV057
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、修士論文・課題研究作成に向けて、研究と論述の基本的な手法を習得することを目的とする。

This course aims to help students to clarify their research themes and methodologies, learn methods of writing academic papers, acquire other basic expertise and skills required to write master's theses, and practice academic writing.

授業の内容 / Course Contents

国際協力、途上国の開発に関する具体的現象を研究対象に、理論的枠組、分析、考察する方法、研究対象についての専門知識を踏まえながら、先行研究および研究方法の動向を理解したうえで、研究テーマ、方法を具体化する。受講者は、自らの研究テーマについての報告・発表を随時おこない、論文執筆に向けて具体的な知識を習得していく。

This course aims to help students precisely determine a research topic and method for their thesis. To achieve this goal, students will have to engage with texts on theoretical foundations, research methods, and scientific discussions relating to international cooperation and development. Additionally, students will be required to deliver a presentation on their selected research topics and develop the skills of writing an academic paper.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 講義の概要
- 【2】: 学術論文の構成・リサーチについて(1)
- 【3】: 学術論文の構成・リサーチについて(2)
- 【4】: 学術論文の構成・リサーチについて(3)
- 【5】: 研究テーマについて(1)
- 【6】: 研究テーマについて(2)
- 【7】: 研究テーマについて(3)
- 【8】: 調査法について(1)
- 【9】: 調査法について(2)
- 【10】: 調査法について(3)
- 【11】: 理論的枠組・分析方法について(1)
- 【12】: 理論的枠組・分析方法について(2)
- 【13】: 理論的枠組・分析方法について(3)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用	
-------------	--

校外実習・フィールドワーク	
---------------	--

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論, 質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

指導の中で, 担当教員が適宜指示する。

参考文献 / Readings

指導の中で, 担当教員が適宜指示する。

その他 / Others

フィードバックは随時授業内で行う。

修士論文指導演習A

Master's Thesis Supervision A

浜崎 桂子 (HAMAZAKI KEIKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV062
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法に関する文献精読、調査を行い、批判的に考察、分析する手法を身につける。

In preparation for their Master's thesis, students will develop their scholarly and analytical skills through a critical and reflective reading of the relevant research.

授業の内容 / Course Contents

受講者の前学期までの研究を、さらなる関連文献などの調査、議論を通して、より具体的にすすめ、修士論文の草稿執筆を開始する。

The research project for the Master's thesis will be re-examined through further research into the student's own topic and into relevant research. Students will begin work on the draft of their Master's thesis.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 研究テーマ報告1
- 【3】: 研究テーマ報告2
- 【4】: 先行研究について1
- 【5】: 先行研究について2
- 【6】: 先行研究について3
- 【7】: 研究方法1
- 【8】: 研究方法2
- 【9】: 研究方法3
- 【10】: 論文の構成1
- 【11】: 論文の構成2
- 【12】: 論文の構成3
- 【13】: 学術的記述の方法について
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

修士論文完成に向けて、各回の授業での発表準備(約2時間)、授業後の発展的な調査など(約2時間)を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での議論参加度(討論, 質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で, 担当教員が適宜指示する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

自ら文献調査などを通して考察を深めたうえで, 批判的に議論をする力。

修士論文指導演習A

Master's Thesis Supervision A

星野 宏美 (HOSHINO HIROMI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV063
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

音楽学の歴史的資料を解釈し、研究対象に関する考察を深め、修士論文をまとめていく。

To prepare for the writing of a master's thesis of musicology, students will learn how to interpret and evaluate historical sources and deepen their reflections on the subject.

授業の内容 / Course Contents

論文の初稿となり得る文章を用意し、それを叩き台としつつ、議論を行う。

Students will prepare a first draft of the paper and use it as a starting point for discussions.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: スケジュールの吟味
- 【2】: 研究の対象の吟味
- 【3】: 研究の方法の吟味
- 【4】: 研究の目的の吟味
- 【5】: 文献の吟味
- 【6】: 資料の吟味
- 【7】: 先行研究批判
- 【8】: 章立ての吟味
- 【9】: 独自性の吟味
- 【10】: 論理性の吟味
- 【11】: 実証性の吟味
- 【12】: 有効性の吟味
- 【13】: テーゼの吟味
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド*(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指導の中で適宜指示する。加えて、図書館所蔵の音楽雑誌・音楽事典類、AV コーナーの資料等を活用されたい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と参加:50% 課題と成果物:50%

テキスト / Textbooks

とくに指定しない。

参考文献 / Readings

指導の中で指示する。

修士論文指導演習A

Master's Thesis Supervision A

石井 正子 (ISHII MASAKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV065
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

国際協力に関するテーマの修士論文執筆の指導を行う。

The course serves to help students write a M.A. thesis on the themes of International Cooperation.

授業の内容 / Course Contents

修士論文の研究テーマと目的、問い、方法論の設定、内容の分析、考察の導き方などを指導する。

The course offers guidance on M.A. thesis research topics, objectives, and questions, along with methodology and analysis.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 修士論文執筆指導 1
- 【2】: 修士論文執筆指導 2
- 【3】: 修士論文執筆指導 3
- 【4】: 修士論文執筆指導 4
- 【5】: 修士論文執筆指導 5
- 【6】: 修士論文執筆指導 6
- 【7】: 修士論文執筆指導 7
- 【8】: 修士論文執筆指導 8
- 【9】: 修士論文執筆指導 9
- 【10】: 修士論文執筆指導 10
- 【11】: 修士論文執筆指導 11
- 【12】: 修士論文執筆指導 12
- 【13】: 修士論文執筆指導 13
- 【14】: 修士論文執筆指導 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド*(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="radio"/>
上記いずれも用いない予定	<input type="radio"/>				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に適宜示す。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レポート:40% 出席、課題発表:60%

テキスト / Textbooks

授業時に適宜紹介する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

修士論文指導演習A

Master's Thesis Supervision A

石川 文也 (ISHIKAWA FUMIYA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV066
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法論等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

To help students prepare for the writing of their master's thesis, this course aims to provide them with the requisite foundational knowledge and the skills needed to write and structure an academic paper. In addition, this course will aid the clarification of their research themes and methodologies. Further, students will also learn the methods of reading and analyzing research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

教員の指導を受けながら、修士論文の作成作業を進めていく。

Students will continue to work on their master's theses with guidance from their respective supervising professors.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 修士論文の執筆と指導(1)
- 【3】: 修士論文の執筆と指導(2)
- 【4】: 修士論文の執筆と指導(3)
- 【5】: 修士論文の執筆と指導(4)
- 【6】: 修士論文の執筆と指導(5)
- 【7】: 修士論文の執筆と指導(6)
- 【8】: 演習内における中間報告(1)
- 【9】: 演習内における中間報告(2)
- 【10】: 修士論文の執筆と指導(7)
- 【11】: 修士論文の執筆と指導(8)
- 【12】: 修士論文の執筆と指導(9)
- 【13】: 修士論文の執筆と指導(10)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論・質疑応答など):50% 修士論文の進捗状況:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で、担当教員が適宜指示する。

修士論文指導演習A

Master's Thesis Supervision A

山田 優 (YAMADA MASARU)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV067
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This course aims to acquire the basic knowledge needed to write a master's thesis or conduct a research project in translation and interpreting. Students will carry out a preliminary investigation on a chosen topic using appropriate methodology and present the key findings at the end of the semester.

授業の内容 / Course Contents

As a groundwork for writing a master's thesis or carrying out a research project in translation and interpreting, the first half of the semester will be spent on learning from previous projects while receiving guidance from the instructor on how to conduct research. Students will utilize knowledge gained during this period to present an interim report outlining their research plan and the possible way forward. In the second half, students will carry out preliminary investigations and formulate research questions by discussing issues that arise during the process. At the end of the semester, students will share their findings and learning outcomes in the form of an oral presentation, which will become the basis of their final report.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: On Master's thesis
- 【2】: Previous research
- 【3】: Theme and RQ
- 【4】: Literature review
- 【5】: Method and framework
- 【6】: Data collection and analysis
- 【7】: Midterm presentation
- 【8】: Pilot study
- 【9】: Pilot study 2
- 【10】: Results and discussion
- 【11】: Results and discussion 2
- 【12】: Conference presentation
- 【13】: Feedback
- 【14】: Summary and report

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用	
-------------	--

校外実習・フィールドワーク	
---------------	--

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Research on your own pace. Communicate and report your progress on a regular basis.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席とディスカッションへの貢献:30% 授業内発表:30% 研究報告書:40%

テキスト / Textbooks

Handouts to be distributed in class.

参考文献 / Readings

修士論文指導演習A

Master's Thesis Supervision A

河合 優子 (KAWAI YUKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV068
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文の先行研究文献調査を完成させ、データ収集・分析の方法など論文執筆に必要な知識と能力を身につける。
Students will complete a literature review and learn data collection and analysis skills.

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマの先行研究文献調査を完成させ、データ収集・分析を進めてもらい、それを報告してもらいながら修士論文完成のための具体的な指導をしていく。

Students will complete a literature review and start collecting data for a master's thesis. Students will present the progress and receive feedback from the instructor.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 論文指導(1)
- 【2】: 論文指導(2)
- 【3】: 論文指導(3)
- 【4】: 論文指導(4)
- 【5】: 論文指導(5)
- 【6】: 論文指導(6)
- 【7】: 論文指導(7)
- 【8】: 論文指導(8)
- 【9】: 論文指導(9)
- 【10】: 論文指導(10)
- 【11】: 論文指導(11)
- 【12】: 論文指導(12)
- 【13】: 論文指導(13)
- 【14】: 論文指導(14)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自の修士論文研究テーマの先行研究文献調査を進めて執筆を行い、データ収集・分析の準備をする(毎週 4 時間以上)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・授業参加貢献度:50% 報告・提出物:50%

テキスト / Textbooks

初回の授業で指示する。

参考文献 / Readings

授業内で紹介する。

その他 / Others

提出物にはフィードバックを行う。

修士論文指導演習A

Master's Thesis Supervision A

小山 亘 (KOYAMA WATARU)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV069
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、修士論文・課題研究に関する調査・作成を行い、その手法を習得することを目的とする。

To prepare for the writing of a master's thesis related to language, culture, and communication, students will learn how to interpret and evaluate research methods and findings through an advanced reading of literature. Students will then begin writing their thesis.

授業の内容 / Course Contents

修士課程一年次に行った研究の成果(テーマ・方法論・研究デザインの設定、文献調査、データ収集とその分析など)を報告・検討した上で、主に個別指導を通して、データ収集や文献調査を継続しつつ、修士論文・課題研究の草稿の執筆を開始する。

While re-examining their research themes, methodologies, research designs, data, and analyses, students will proceed with their own research by delivering several progress reports on data collection, description, and analysis in accordance with their research designs. Guidance will also be provided through discussions on ways of analyzing the data as well as on the possible implications of the study.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 概要
- 【2】: 学術論文の構成・リサーチについて(1)
- 【3】: 学術論文の構成・リサーチについて(2)
- 【4】: 学術論文の構成・リサーチについて(3)
- 【5】: 研究テーマについて(1)
- 【6】: 研究テーマについて(2)
- 【7】: 研究テーマについて(3)
- 【8】: 調査法について(1)
- 【9】: 調査法について(2)
- 【10】: 調査法について(3)
- 【11】: 理論的枠組・分析方法について(1)
- 【12】: 理論的枠組・分析方法について(2)
- 【13】: 理論的枠組・分析方法について(3)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
----	--	---------------	---	---------------	--

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は、毎回の授業時に行う。各回の予習・復習にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:50% 報告・提出物など:50%

テキスト / Textbooks

教室にて配付

参考文献 / Readings

教室にて指示

修士論文指導演習A

Master's Thesis Supervision A

黒岩 三恵 (KUROIWA MIE)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV070
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

美術、アートを中心とする視覚的な表現(物)に関する研究動向を理解し、種々の資料を批判的に読み、適切に修士論文に使用する方法を学び、論文の完成をめざす。

In this seminar students will come to grasp current state of research on the fields of art and visual studies, learn how to read critically and use effectively findings and data when writing their master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

受講生の研究計画に沿って、研究動向の把握、資料の収集と批判、適切な研究手法の援用、論文の執筆法などを指導する。

Guidance and advices will be given on the following: the assessment of the state of research, ways in which necessary sources and documents should be collected and evaluated, methods to be employed or writing skills of theses, based on the research plan of each student.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス: 履修生の研究計画の確認
- 【2】: 修士論文指導①
- 【3】: 修士論文指導②
- 【4】: 修士論文指導③
- 【5】: 修士論文指導④
- 【6】: 修士論文指導⑤
- 【7】: 修士論文指導⑥
- 【8】: 中間報告
- 【9】: 修士論文指導⑦
- 【10】: 修士論文指導⑧
- 【11】: 修士論文指導⑨
- 【12】: 修士論文指導⑩
- 【13】: 修士論文指導⑪
- 【14】: 最終発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自判断して、必要な準備、復習など遂行すること。

初回に研究計画を発表すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間報告:30% 各回での参加度:40% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

随時参考文献等は紹介する。

修士論文指導演習A

Master's Thesis Supervision A

イ, ヒャンジン(LEE HYANGJIN)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV071
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

映画研究分野に関連する修士論文あるいは課題研究の研究計画に基づき、調査、データ収集と分析、論文執筆を進める。

Based on the research plan for cinema studies related master's thesis or research project, students will proceed with the survey, data collection/analysis and writing stages.

授業の内容 / Course Contents

映画研究分野に関連する修士論文あるいは課題研究に取り組むための指導を行う。特に、文献検索、リサーチクエスション設定、研究方法、理論的枠組み、データ収集・分析方法などについて、各受講者の研究テーマに応じて議論し、助言する。全受講者対象の指導と個別指導を併用する。

Provide instruction on how to undertake a master's thesis or research project related to the field of cinema studies. Specifically, in relation to the individual student's research theme we will discuss, and advice will be provided on, searching for literature, setting a research question, research methodology, theoretical frameworks, methods of data collection and analysis, etc. A mixture of whole-class and personalized instruction will be provided.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:研究の背景、目的、意義の確認
- 【3】:リサーチクエスション(仮説)と研究方法の確認
- 【4】:文献検索と先行研究レビューの確認
- 【5】:データ収集と分析法の確認
- 【6】:論文構成とスタイルガイドの確認
- 【7】:中間報告の準備
- 【8】:中間報告の準備
- 【9】:中間報告の振り返り
- 【10】:個別指導
- 【11】:個別指導
- 【12】:個別指導
- 【13】:個別指導
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
----	--	---------------	---	---------------	---

個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ディスカッション参加度:25% 授業内発表:25% 論文・課題研究の中間報告:50%

テキスト / Textbooks

イ・ヒャンジン著 『コリアン・シネマ:北朝鮮・韓国・トランスナショナル』 みすず書房 2018 4622086646

その他、適宜資料を配付する。

参考文献 / Readings

その他、受講者の研究テーマに応じて助言する。

修士論文指導演習A

Master's Thesis Supervision A

マーティン, R (MARTIN, RON R.)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV072
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Face-to-face
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

Each student selects and develops a research theme related to English language education and carries out individual research under the guidance of the instructor in order to fulfill the research requirements of a Master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

Guidance is given throughout the research process. As students develop and produce work toward their final goal, the instructor provides advice and comments to support the further development of the research. This guidance focuses on the research process, research paper writing, research methods, research design and instrumentation, and where appropriate, research analysis through the use of published research materials and academic texts.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Course Introduction
- 【2】:Discussion & Thesis Writing Guidance 1
- 【3】:Discussion & Thesis Writing Guidance 2
- 【4】:Discussion & Thesis Writing Guidance 3
- 【5】:Discussion & Thesis Writing Guidance 4
- 【6】:Discussion & Thesis Writing Guidance 5
- 【7】:Discussion & Thesis Writing Guidance 6
- 【8】:Discussion & Thesis Writing Guidance 7
- 【9】:Discussion & Thesis Writing Guidance 8
- 【10】:Discussion & Thesis Writing Guidance 9
- 【11】:Discussion & Thesis Writing Guidance 10
- 【12】:Discussion & Thesis Writing Guidance 11
- 【13】:Presentation Preparation
- 【14】:Presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are to find and review published academic material that is related to their research topic, to discuss their work with peers, and to consult with the instructor about presenting their work at an academic conference or symposium.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Reports (written):35% Reports (oral):35% Presentation:30%

テキスト / Textbooks

None.

参考文献 / Readings

To be given by the instructor.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful to have a device in class (e.g., a tablet or laptop) to view materials distributed via Canvas.

修士論文指導演習A

Master's Thesis Supervision A

丸山 千歌 (MARUYAMA CHIKA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV073
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

各自が設定した研究テーマについて、教員の指導の下に個別研究を実施し、修士論文につながる成果をまとめられるようにすること。

The aim of this course is to conduct individual research on students' research topic under the guidance of teaching staff and ensure they can summarize findings in a way that is conducive to writing a master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

これまでの進捗状況を踏まえ、理論および研究方法の妥当性を検討しつつ、データの収集、分析について個別に指導する。計画的かつ発展的に研究を遂行できるよう、適宜助言を与える。

Depending on the students' progress, guidance on data collection and analysis will be provided on a personal basis so that they can conduct research in a well-planned and constructive manner. Special attention will be paid to the appropriateness of theories and research methods.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:これまでの成果の報告
- 【2】:研究テーマの設定
- 【3】:理論的枠組みの検討と設定
- 【4】:研究方法の検討と設定
- 【5】:先行研究のまとめ(1)
- 【6】:先行研究のまとめ(2)
- 【7】:先行研究のまとめ(3)
- 【8】:データ収集と検討(1)
- 【9】:データ収集と検討(2)
- 【10】:データ収集と検討(3)
- 【11】:問題点の検討(1)
- 【12】:問題点の検討(2)
- 【13】:中間報告
- 【14】:振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

・テーマに関連する文献の収集,論文の執筆

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:50% 報告・提出物など:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

適宜関連する文献を紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

計画的かつ能動的に研究を進める能力。研究の進捗や課題を整理して報告し,他者の意見も参考にしながら,次のステップを計画する能力。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC またはタブレット端末を使用する。

その他 / Others

スケジュールや内容は調整する場合がある。

修士論文指導演習A

Master's Thesis Supervision A

松下 佳世 (MATSUSHITA KAYO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV074
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

1年次に行った調査・研究や学んだ理論・方法論を用いて、通訳翻訳分野に関連する修士論文ないし課題研究を完成させる。

Building on theories and methods learned and research carried out in the first year, students will complete a master's thesis or a research project in the field of Translation and Interpreting Studies (TIS).

授業の内容 / Course Contents

1年次の成果を踏まえ、通訳翻訳分野に関連する修士論文あるいは課題研究を完成させるために必要な指導を受ける。週ごとの指導は、人数に応じて、ディスカッションと個別指導を組み合わせた形で実施される。中間報告会の前には、集中的な指導が行われる。

Based on the research outcomes of the previous year, students will be provided with the necessary instructions on how to complete a master's thesis or a research project in TIS. Weekly sessions will be carried out either in the form of group discussions or individual consultations, depending on the number of students. Specific guidance and intensive support will be given during the preparation for the interim presentation.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 研究の進捗報告(1年次の成果の振り返り)
- 【2】: 今後の研究計画の確認
- 【3】: 論文の構成とスタイルについて
- 【4】: 研究の実施と報告1
- 【5】: 研究の実施と報告2
- 【6】: 研究の実施と報告3
- 【7】: 中間報告会に向けた準備
- 【8】: 中間報告会に向けた準備
- 【9】: 中間報告会の振り返り
- 【10】: 研究の実施と報告4
- 【11】: 研究の実施と報告5
- 【12】: 研究の実施と報告6
- 【13】: 研究の実施と報告7
- 【14】: まとめと最終報告(1学期の成果の振り返り)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
----	-----------------------	---------------	-----------------------	---------------	-----------------------

個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

修士論文または研究課題の提出に向け、文献講読、予備的調査、本調査、実験、フィールドスタディ、結果の分析・考察、執筆などを自らのペースで進めること。また、進捗状況について、面談時またはメール等で適宜報告すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究の進捗と成果:30% 中間報告:30% 最終報告:40%

テキスト / Textbooks

テキストは指定せず、学生の理解度や言語の習熟度にあわせて、授業内で適宜指示または配布する。

参考文献 / Readings

Claudia V. Angelelli & Brian James Baer Researching Translation and Interpreting Routledge 2016 9780415732543
その他、研究内容に応じて別途指示する。

その他 / Others

各週ごとの学習内容や課題は、受講者の特性や人数、研究テーマによって臨機応変に変更される。不明点は直接教員まで連絡のこと。

修士論文指導演習A

Master's Thesis Supervision A

森 聡美 (MORI SATOMI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV075
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

バイリンガリズム・言語習得に関する修士論文の作成に向けて、文献をさらに読み進めながら、研究方法や結果の解釈、考察の導き方等を身につけ、論文執筆を实践する。

In preparation for writing a master's thesis related to bilingualism and language acquisition, students will learn how to interpret and consider research methods and findings through reading more literature. Students will then commence writing their thesis.

授業の内容 / Course Contents

受講者の研究計画に基づき、研究テーマに関する最新の文献を読み進めるのと同時に、研究方法の確認、データ収集ならびにデータ分析についての進捗報告を繰り返すことで研究を進めていく。結果の解釈や考察の方法についても討論をしながら指導をしていく。

While reading the most recent literature from their research area, students will proceed with their own research by making a number of progress reports on data collection and analysis, thereby confirming the research design. Guidance will also be provided through discussing ways of interpreting the data as well as the possible implications of the study.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 研究調査・論文執筆の指導1
- 【3】: 研究調査・論文執筆の指導2
- 【4】: 研究調査・論文執筆の指導3
- 【5】: 研究調査・論文執筆の指導4
- 【6】: 研究調査・論文執筆の指導5
- 【7】: 研究調査・論文執筆の指導6
- 【8】: 研究調査・論文執筆の指導7
- 【9】: 研究調査・論文執筆の指導8
- 【10】: 研究調査・論文執筆の指導9
- 【11】: 研究調査・論文執筆の指導10
- 【12】: 研究調査・論文執筆の指導11
- 【13】: 研究調査・論文執筆の指導12
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
----	--	---------------	---	---------------	--

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は、Canvas LMS/シラバスで指示をする。各回の予習・復習についてはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論、質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物:50%

課題に対するフィードバックは CanvasLMS ないしはクラス内で行う。

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で、担当教員が適宜指示する。

修士論文指導演習A

Master's Thesis Supervision A

師岡 淳也 (MOROOKA JUNYA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV076
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、論文執筆の方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を实践する。

Strive to clarify research themes and methodologies, learn methods for writing academic papers and other basic knowledge and skills required to write master's theses, and practice academic writing.

授業の内容 / Course Contents

コミュニケーション論関連科目ならびにその研究領域に関連する科目の履修によって得られる専門知識を踏まえながら、関心を有するテーマについて内外の先行研究の現状、課題および研究方法を把握し、各自の研究テーマへと集約させていく。さらに、受講者に研究テーマに即した研究発表をしてもらいながら論文執筆に関する具体的な指導をしていく。

Based on the expert knowledge gained from taking courses about communication theory and the fields of research related to it, students will gain a full understanding of the present state, issues and methodologies of previous research conducted inside and outside Japan on themes of their interest, and work toward narrowing down their research themes. In addition, the instructor will give detailed instruction on thesis writing as students present their research in line with their research themes.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:はじめに
- 【2】:論文執筆指導(1)
- 【3】:論文執筆指導(2)
- 【4】:論文執筆指導(3)
- 【5】:論文執筆指導(4)
- 【6】:論文執筆指導(5)
- 【7】:論文執筆指導(6)
- 【8】:論文執筆指導(7)
- 【9】:論文執筆指導(8)
- 【10】:論文執筆指導(9)
- 【11】:論文執筆指導(10)
- 【12】:論文執筆指導(11)
- 【13】:論文執筆指導(12)
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加・貢献度:50% 報告およびレポートなどの各種提出物:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で、担当教員が適宜指示する。

その他 / Others

対面授業の回数については履修者と相談の上、決定する。

修士論文指導演習A

Master's Thesis Supervision A

石黒 武人 (ISHIGURO TAKETO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV077
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

受講生は、各自が設定した研究テーマについて、教員の指導の下に、個別に研究を実施し、修士論文につながる成果をまとめ、発表し、その内容についてゼミナールにて議論し、さらに研究を発展させる。

Students conduct individual research under the guidance of a supervisor on a research theme set by each student, compile and present the progressive reports leading to a master's thesis, and discuss them at the seminar with other classmates and the supervisor, and further develop their research.

授業の内容 / Course Contents

これまでの進捗状況を踏まえ、理論および研究方法の妥当性を検討しつつ、データの収集、分析について個別に指導する。計画的かつ発展的に研究を遂行できるよう、適宜助言を与える。

Depending on the students' progress, guidance on data collection and analysis will be provided on a personal basis so that they can conduct research in a well-planned and constructive manner. Special attention will be paid to the appropriateness of theories and research methods.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:これまでの研究成果の報告
- 【2】:研究テーマ、理論的枠組み、研究方法の妥当性に関する検討
- 【3】:研究倫理ガイドラインおよび調査協力者の検討(研究倫理申請書の書き方を含む)
- 【4】:調査の準備:質問項目、機材の準備、データ収集のポイント(インタビューの練習等)
- 【5】:データ分析例の検討(1):データ分析の妥当性について具体的な論文を基に検討する
- 【6】:データ分析例の検討(2)
- 【7】:データ分析例の検討(3)
- 【8】:データ分析例の検討(4)
- 【9】:データ分析例の検討(5)
- 【10】:収集したデータの分析と分析の検討(1)
- 【11】:収集したデータの分析と分析の検討(2)
- 【12】:収集したデータの分析と分析の検討(3)
- 【13】:調査結果の書き方について:具体例を参照しながら、各履修生の調査結果のまとめ方について検討する
- 【14】:まとめ:研究方法セクションとデータ分析結果のセクションをレポートにまとめて提出する

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

学会、研究会にも参加します。学部生のゼミ合宿(1泊2日)に参加する可能性があります。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

調査協力者を探してください(スノーボール・サンプリングなど)。また、授業でカバーする研究倫理申請書を作成し、教員と確認したうえで、研究科の提出先(サイト)へ提出してください。自分の研究に似通った研究をよく読んで、データ収集、データ分析の枠組み、調査結果の示し方などについて検討してください。データ収集ができれば、データの書き起こしを進めてください。書き起こしたデータを自身が設定した分析枠組みで分析をしてみてください。分析結果はゼミで検討します。さらに、先行研究では、どのような論点で分析結果が考察されているのかも確認してください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:30% 発表:30% 最終レポート:40%

テキスト / Textbooks

なし。オンライン授業運営プラットフォームでファイルを共有する。場合によっては、プリントを配布する。

参考文献 / Readings

適宜関連する文献を紹介する。1年次の研究指導演習Aで紹介した質的研究法の書籍を参照してください。ゼミのホームページにも、質的研究関連書籍が紹介されています。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

自身の研究に協力して下さる調査協力者を探すため、調査協力者となる可能性がある人びととコミュニケーションをとる能力が必要とされます。調査協力者を探すことを常に考えておいてください。データ分析を多角的、多層的に行うために、ゼミにおいて他のメンバーと一緒に自身のデータ分析結果を共有し、その内容を検討するオープンさが必要です。データ分析セッションでは、自身とは異なる視点から発せられる考えを理解し、冷静に思考できる能力が必要です。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

データ収集のために必要な録音機材(ICレコーダー)やデータの書き起こしに必要なソフト(たとえば、Rimo)などがあると良いです。

その他 / Others

ゼミのホームページ:<https://sites.google.com/rikkyo.ac.jp/icss/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>

修士論文指導演習A

Master's Thesis Supervision A

チョウ Y. (ZHAO YUANHAO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV078
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed to support each student in developing their research topic, collecting and organizing data, and beginning the thesis-writing process. Students will conduct independent research under the supervision of the instructor. This process is designed to meet the academic requirements necessary for completing a Master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

This course provides students with opportunities to consult with the instructor regarding their individual research projects, allowing them to receive tailored advice for improving their theses and exploring relevant readings on specific topics. Additionally, group discussions are incorporated to foster critical thinking and encourage students to engage in meaningful academic conversations with their peers.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Discussion of Current Progress
- 【2】: Reflection on Theoretical Frameworks
- 【3】: Reflection on References
- 【4】: Reflection on Data Collection
- 【5】: Thesis Development Support
- 【6】: Thesis Development Support
- 【7】: Thesis Development Support
- 【8】: Thesis Development Support
- 【9】: Thesis Development Support
- 【10】: Thesis Development Support
- 【11】: Thesis Development Support
- 【12】: Thesis Development Support
- 【13】: Thesis Development Support
- 【14】: Synthesis and Final Representation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

Specific methods may be adjusted based on students' progress and tailored to meet their needs.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to revise their manuscripts independently outside of class and bring discussion questions to class. Additionally, readings may be recommended for students to complete as part of their outside-of-class preparation.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation/discussion:30% Presentation:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

Will be provided in class.

参考文献 / Readings

Will be provided by the instructor in class.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

To be determined based on the nature of students' projects and in consultation with the instructor.

その他 / Others

Weekly topics may overlap and may be adjusted according to the development of specific projects.

修士論文指導演習A

Master's Thesis Supervision A

奥野 克巳 (OKUNO KATSUMI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV079
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、論文執筆の方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を進める。

Strive to clarify research themes and methodologies, learn methods for writing academic papers and other basic knowledge and skills required to write master's theses, and make progress on writing theses.

授業の内容 / Course Contents

関心を有するテーマについて国内外の先行研究の現状、課題および研究方法を把握し、各自の研究テーマへと高めていく。また、研究テーマに即した研究発表をしてもらいながら、論文執筆に関する具体的な指導をしていく。

We will develop understanding of the current state of existing domestic and international research on one's topic of interest. We will look specifically at issues covered and methodology used and apply knowledge acquired to developing each student's research area. Also, students will give a research presentation on their chosen research topic and specific guidance for writing an academic paper will be provided.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入、授業の概要
- 【2】: 論文執筆指導(1)
- 【3】: 論文執筆指導(2)
- 【4】: 論文執筆指導(3)
- 【5】: 論文執筆指導(4)
- 【6】: 論文執筆指導(5)
- 【7】: 論文執筆指導(6)
- 【8】: 論文執筆指導(7)
- 【9】: 論文執筆指導(8)
- 【10】: 論文執筆指導(9)
- 【11】: 論文執筆指導(10)
- 【12】: 論文執筆指導(11)
- 【13】: 論文執筆指導(12)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用

校外実習・フィールドワーク

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加態度:60%

最終レポート割合:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

指導の中で適宜指示します。

修士論文指導演習A

Master's Thesis Supervision A

佐藤 邦彦(SATO KUNIHICO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV081
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文の執筆に必要な調査・分析・考察を行い、修士論文を執筆する。

In this course students carry out the investigation, analysis and study stages needed in order to write a master's thesis, and then begin writing.

授業の内容 / Course Contents

言語学(特に意味論やその関連領域、またはスペイン語学)の研究テーマでの修士論文の作成に向けて、研究方法の検討、先行研究のレビュー、調査・考察等を行うための指導を行う。個別指導を中心としつつ、適宜学生間の討論なども行う。

Instruction on how to consider research methodology, review existing research, and carry out an investigation or study will be provided in preparation for writing a master's thesis on a research topic within Linguistics (specifically, semantics and related areas, or Spanish linguistics). While concentrating on personalized instruction, we will also carry out activities such as student debates where appropriate.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 学生によるテーマと研究計画の発表
- 【2】: テーマの絞込み
- 【3】: 先行研究のレビュー(1)
- 【4】: 先行研究のレビュー(2)
- 【5】: 調査方法の検討
- 【6】: 調査実施の指導(1)
- 【7】: 調査実施の指導(2)
- 【8】: 中間報告に基づく指導
- 【9】: 調査結果の分析・考察(1)
- 【10】: 調査結果の分析・考察(2)
- 【11】: 調査結果の分析・考察(3)
- 【12】: 追加調査と理論的肉付けに関する指導(1)
- 【13】: 追加調査と理論的肉付けに関する指導(2)
- 【14】: これまでの研究成果の発表、最終レポートの指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用	
-------------	--

校外実習・フィールドワーク	
---------------	--

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論, 質疑応答など):40% 中間報告:30% 最終レポート割合:30%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

修士論文指導演習A

Master's Thesis Supervision A

高橋 里美 (TAKAHASHI SATOMI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV083
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文の研究テーマおよび研究方法に基づいて本調査を実施し、データ分析を行い、修士論文を執筆する。
In this seminar, students will conduct their thesis research and write parts of their theses. They will address their research questions by following pertinent research designs.

授業の内容 / Course Contents

第二言語習得およびその関連領域の研究テーマに関する修士論文の作成に向けて、具体的な指導をしていく。研究テーマおよび研究方法に基づいて本調査を実施し、データを分析する。今学期末までに、修士論文の先行研究レビューのアップデートとともに、調査結果の一部について執筆を終了させることを目指す。当演習は、基本的に各自の研究テーマに沿った個別指導とするが、随時、受講者間の討議も入れていく。

Students will receive constructive guidance from the instructor in the course of their thesis research in second language acquisition (SLA) or related academic areas. Students should address their research questions by adopting research designs that have pertinent data analysis techniques. By the end of the semester, students should aim to complete writing a part of the results section of the thesis as well as updating the literature review. This seminar is primarily a tutorial for individual students, providing them with opportunities for occasional discussions with each other.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入
- 【2】: 研究調査等の個別指導(1)
- 【3】: 研究調査等の個別指導(2)
- 【4】: 研究調査等の個別指導(3)
- 【5】: 研究調査等の個別指導(4)
- 【6】: 研究調査等の個別指導(5)
- 【7】: 研究調査等の個別指導(6)
- 【8】: 論文執筆の個別指導(1)
- 【9】: 論文執筆の個別指導(2)
- 【10】: 論文執筆の個別指導(3)
- 【11】: 論文執筆の個別指導(4)
- 【12】: 論文執筆の個別指導(5)
- 【13】: 論文執筆の個別指導(6)
- 【14】: 論文執筆の個別指導(7)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は、履修登録完了後に「Canvas LMS」上で履修者に対して行う。各回の予習・復習にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論, 質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業支援システムとして「Canvas LMS」を使用する。

修士論文指導演習A

Master's Thesis Supervision A

武田 珂代子 (TAKEDA KAYOKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV084
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

個々の学生が翻訳・通訳に関連する修士論文や課題研究に取り組む上で関連する理論や研究方法についての幅広い知識を身につける。関連する先行研究の批判的レビューを行い、自らの研究の独自性を見極める。修士論文や課題研究の書式面での要件を確認する。

Students will acquire a broad knowledge of the theories and research methods pertaining to their master's thesis and graduate research projects. Students will critically review relevant prior studies and identify the originality of their own projects. Students will fully understand the style guides designated for their master's theses and graduate research.

授業の内容 / Course Contents

個々の学生の修士論文や課題研究のプロジェクトに関連する翻訳通訳理論や研究方法について学び、関連する先行研究のレビューを行い、議論する。課題研究に取り組む学生は、翻訳の素材選択、翻訳方略、理論的振り返りの方法について初期的な議論を展開する。また、翻訳・通訳の実践と理論との関係について議論する。立教スタイルまたは APA スタイルの要件の確認も行う。

Students will learn the translation and interpreting theories and research methods relevant to their master's thesis and graduate research projects. Students will engage in critical reviews of major prior works relevant to their projects.

Students working on graduate research projects will engage in preliminary discussions on their projects, including the selection of materials, translation strategies, and methods of theoretical reflections. Further, students will discuss the relations between the theory and practice of translation and interpreting. Students are reminded of the importance of fully understanding and following the Rikkyo Style and the APA Style.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション
- 【2】:通訳翻訳関連の修士論文・課題研究の事例
- 【3】:翻訳通訳理論 1
- 【4】:翻訳通訳理論 2
- 【5】:翻訳通訳研究の方法論 1
- 【6】:翻訳通訳研究の方法論 2
- 【7】:先行研究のレビュー1
- 【8】:先行研究のレビュー2
- 【9】:通訳実践と研究 1
- 【10】:通訳実践と研究 2
- 【11】:立教スタイル・APA スタイルの確認
- 【12】:学生による研究・課題計画発表 1
- 【13】:学生による研究・課題計画発表 2

【14】:まとめ**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 論文・課題研究の計画書または先行文献レビュー:40% ディスカッション参加度:30% 授業内発表:30%

テキスト / Textbooks

武田珂代子編著『翻訳通訳研究の新地平』晃洋書房 2017 9784771028135

テキストを含む授業資料は適宜提供する。

参考文献 / Readings

Booth, W. C. et al. The Craft of Research The University of Chicago Press 2008 0226065669

Williams, J. and Chesterman, A. The Map: A beginner's guide to doing research in translation studies St. Jerome 2002 1900650541

ピム・A『翻訳理論の探求』みすず書房 2010 4622075180

Saldanha, G. & O'Brien, S. Research Methodologies in Translation Studies St. Jerome 2013 9784623067275

その他, 受講者の研究テーマに応じて助言する。

その他 / Others

TI@Rikkyo <http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/>

Kayoko Takeda's works http://works.bepress.com/kayoko_takeda/

修士論文指導演習A

Master's Thesis Supervision A

山口 まり子 (YAMAGUCHI MARIKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV085
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

To help students prepare for the writing of their master's thesis, this course aims to provide them with the requisite foundational knowledge and the skills needed to write and structure an academic paper. In addition, this course will aid the clarification of their research themes and methodologies. Further, students will also learn the methods of reading and analyzing research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

受講者は研究対象についての専門知識を踏まえながら、先行研究を理解したうえで、研究テーマを具体化する。研究テーマに関連する先行研究のレビューなどを発表し、議論をしながら論文執筆に関する具体的な指導を行う。

Students will read and review relevant works to prepare for their thesis and will present their own research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(1)
- 【3】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(2)
- 【4】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(3)
- 【5】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(4)
- 【6】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(5)
- 【7】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(6)
- 【8】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(7)
- 【9】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(8)
- 【10】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(9)
- 【11】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(10)
- 【12】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(11)
- 【13】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(12)
- 【14】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(13)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポ等)の使用	<input type="checkbox"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="checkbox"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="checkbox"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="checkbox"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="checkbox"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="checkbox"/>

上記いずれも用いない予定

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

論理学を学んだことがない場合、例えば野矢茂樹著(2006)『新装 論理トレーニング』(産業図書)や同著者(2020)『まったくゼロからの論理学』(岩波書店)などを用いた独習を勧める。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論, 質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

指導の中で担当教員が適宜指示する。

また、上記「授業時間外の学習」欄参照のこと。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

上記「授業時間外の学習」欄参照のこと。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業内で情報機器は不要。

その他 / Others

フィードバックは随時授業内で行う。

修士論文指導演習A

Master's Thesis Supervision A

中田 達也 (NAKATA TATSUYA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV086
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

To help students prepare for the writing of their master's thesis, this course aims to provide them with the requisite foundational knowledge and the skills needed to write and structure an academic paper. In addition, this course will aid the clarification of their research themes and methodologies. Further, students will also learn the methods of reading and analyzing research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

講義・演習および個別指導を通して、先行研究を批判的に考察した上で研究テーマを設定し、データを収集、研究成果を論文として発表する能力を養う。また、受講生各自の研究の進捗状況に関する発表や討議も行う。

Through lectures and tutorials, students will learn to (a) critically evaluate previous literature, (b) formulate research questions, (c) collect data, and (d) publish findings in the form of academic papers. Students will also be required to present and discuss their ongoing research projects.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入
- 【2】: データ収集の計画 1
- 【3】: データ収集の計画 2
- 【4】: データ収集の計画 3
- 【5】: データ収集の計画 4
- 【6】: データ収集の計画 5
- 【7】: データ収集の計画 6
- 【8】: データ収集および分析 1
- 【9】: データ収集および分析 2
- 【10】: データ収集および分析 3
- 【11】: データ収集および分析 4
- 【12】: データ収集および分析 5
- 【13】: データ収集および分析 6
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
----	-----------------------	---------------	-----------------------	---------------	-----------------------

個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論, 質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

適宜指示する。

その他 / Others

<https://www.howtoeigo.net/>

修士論文指導演習A

Master's Thesis Supervision A

日下部 尚徳(KUSAKABE NAONORI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV087
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地	池袋	学期	春学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、修士論文・課題研究に関する調査・作成を行い、その手法を習得することを目的とする。

To help students prepare for the writing of their master's thesis, this course aims to provide them with the requisite foundational knowledge and the skills needed to write and structure an academic paper. In addition, this course will aid the clarification of their research themes and methodologies. Further, students will also learn the methods of reading and analyzing research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

国際協力、途上国の開発に関する具体的現象を研究対象に、理論的枠組、分析、考察する方法、研究対象についての専門知識を踏まえながら、先行研究および研究方法の動向を理解したうえで、研究テーマ、方法を具体化する。受講者は修士課程一年次に行った研究の成果(テーマ・方法論・研究デザインの設定、文献調査、データ収集とその分析など)を報告・検討した上で、主に個別指導を通して、データ収集や文献調査を継続しつつ、修士論文・課題研究の草稿の執筆を開始する。

This course aims to help students precisely determine a research topic and method for their thesis. To achieve this goal, students will have to engage with texts on theoretical foundations, research methods, and scientific discussions relating to international cooperation and development. Students will proceed with their own research by delivering several progress reports on data collection, description, and analysis in accordance with their research designs. Guidance will also be provided through discussions on ways of analyzing the data as well as on the possible implications of the study.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 学術論文の構成・リサーチについて(1)
- 【3】: 学術論文の構成・リサーチについて(2)
- 【4】: 学術論文の構成・リサーチについて(3)
- 【5】: 研究テーマについて(1)
- 【6】: 研究テーマについて(2)
- 【7】: 研究テーマについて(3)
- 【8】: 調査法について(1)
- 【9】: 調査法について(2)
- 【10】: 調査法について(3)
- 【11】: 理論的枠組・分析方法について(1)

【12】:理論的枠組・分析方法について(2)

【13】:理論的枠組・分析方法について(3)

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論, 質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で, 担当教員が適宜指示する。

その他 / Others

フィードバックは随時授業内で行う。

修士論文指導演習B

Master's Thesis Supervision B

浜崎 桂子 (HAMAZAKI KEIKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV092
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマに関する調査をさらにすすめ、論文を論理的に構成・執筆する手法を身につける。 In preparation for a Master's thesis, students will carry out further research on the topic of their thesis. Students will acquire the competence to write a academic paper with a logical structure.

授業の内容 / Course Contents

これまでの研究成果、また、関連する先行研究を参照しながら修士論文を書きすすめ、各章ごとに議論と助言を通して推敲を重ねて完成させる。

Students will write their Master's thesis based on their previous research and relevant literature. Appropriate guidance will be provided for each chapter so students can acquire the competence to write a academic paper with a logical structure.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 修士論文の作成指導
- 【3】: 修士論文の作成指導
- 【4】: 修士論文の作成指導
- 【5】: 修士論文の作成指導
- 【6】: 修士論文の作成指導
- 【7】: 修士論文の作成指導
- 【8】: 修士論文の作成指導
- 【9】: 修士論文の作成指導
- 【10】: 修士論文の作成指導
- 【11】: 修士論文の作成指導
- 【12】: 修士論文の作成指導
- 【13】: 修士論文の作成指導
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

修士論文の執筆に向け、毎回の授業での提出、発表準備(2時間程度)、授業後、自分の研究をすすめるための発展的な調査など(2時間程度)を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での議論参加度(討論, 質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で, 担当教員が適宜指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

自ら文献調査などを通して考察を深めたうえで、批判的に議論をする力。

修士論文指導演習B

Master's Thesis Supervision B

星野 宏美 (HOSHINO HIROMI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV093
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

履修者の進捗状況に応じて、研究テーマに関する最新成果を読み進め、独自性を吟味し、修士論文を完成させていく。
Students will write sections and chapters of their master's thesis while continuing to scrutinize the recent relevant literature and examine their originality closely.

授業の内容 / Course Contents

論文の一部となり得る文章を用意し、それを叩き台としつつ、議論を行う。
Students will be required to produce a draft of a thesis.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 研究成果の検討
- 【2】: 研究成果の検討
- 【3】: 研究成果の検討
- 【4】: 研究成果の検討
- 【5】: 研究成果の検討
- 【6】: 研究成果の検討
- 【7】: 研究成果の検討
- 【8】: 研究成果の検討
- 【9】: 研究成果の検討
- 【10】: 研究成果の検討
- 【11】: 研究成果の検討
- 【12】: 研究成果の検討
- 【13】: 研究成果の検討
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指導の中で適宜指示する。加えて、図書館所蔵の音楽雑誌・音楽事典類、AV コーナーの資料等を活用されたい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と参加:50% 課題と成果物:50%

テキスト / Textbooks

とくに指定しない。

参考文献 / Readings

指導の中で指示する。

修士論文指導演習B

Master's Thesis Supervision B

石川 文也 (ISHIKAWA FUMIYA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV096
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法論等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

To help students prepare for the writing of their master's thesis, this course aims to provide them with the requisite foundational knowledge and the skills needed to write and structure an academic paper. In addition, this course will aid the clarification of their research themes and methodologies. Further, students will also learn the methods of reading and analyzing research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

教員の指導を受けながら、修士論文の作成作業を進めていく。

Students will continue to work on their master's theses with guidance from their respective supervising professors.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 修士論文の執筆と指導(1)
- 【3】: 修士論文の執筆と指導(2)
- 【4】: 修士論文の執筆と指導(3)
- 【5】: 修士論文の執筆と指導(4)
- 【6】: 修士論文の執筆と指導(5)
- 【7】: 修士論文の執筆と指導(6)
- 【8】: 演習内における中間報告(1)
- 【9】: 演習内における中間報告(2)
- 【10】: 修士論文の執筆と指導(7)
- 【11】: 修士論文の執筆と指導(8)
- 【12】: 修士論文の執筆と指導(9)
- 【13】: 修士論文の執筆と指導(10)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポイント等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論・質疑応答など):50% 修士論文の進捗状況:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で、担当教員が適宜指示する。

修士論文指導演習B

Master's Thesis Supervision B

山田 優 (YAMADA MASARU)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV097
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

春学期に学んだ理論や方法、および実施した研究を基盤として、学生は翻訳および通訳分野における修士論文または研究プロジェクトを完成させます。

Building on theories and methods learned and research carried out in the spring semester, students will complete a master's thesis, or a research project, in the field of translation and interpreting.

授業の内容 / Course Contents

第1学期の成果を基に、学生は翻訳および通訳分野における修士論文または研究プロジェクトを完成させるための必要な指導を受けます。週ごとの授業は、学生数に応じてグループディスカッションまたは個別相談の形式で行われます。修士論文や研究プロジェクトの提出および口頭試問に向けて、具体的な指導と集中的なサポートが提供されます。

Based on the outcomes of the first semester, students will receive necessary instruction on how to complete a master's thesis or a research project in the field of translation and interpreting. Weekly sessions will be carried out either in the form of group discussions or individual consultations, depending on the number of students. Specific guidance and intensive support will be provided before submitting the master's thesis/research project and the oral exam (viva).

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Progress report
- 【2】:Progress report
- 【3】:Style check
- 【4】:Reference check
- 【5】:Preliminary thesis
- 【6】:Preliminary thesis
- 【7】:Midterm presentation
- 【8】:Reflection on the midterm
- 【9】:Issues identifications and editing
- 【10】:Issues identifications and editing 2
- 【11】:Completing the final draft
- 【12】:Completing the final draft 2
- 【13】:Preparation for the defense
- 【14】:Final

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
----	-----------------------	---------------	-----------------------	---------------	-----------------------

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Consult your advisor on your research progress as often as possible.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究の進捗と成果:30% 中間発表:30% 最終報告:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

修士論文指導演習B

Master's Thesis Supervision B

小山 亘 (KOYAMA WATARU)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV099
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、修士論文・課題研究に関する調査・作成を行い、その手法を習得することを目的とする。

While writing a master's thesis related to language, culture, and communication, students will continue to read additional literature and to develop their analytical and writing skills.

授業の内容 / Course Contents

受講者の進捗状況に合わせて、研究テーマに関する最新の文献を読み進めると同時に、論文の各章を書き進め、適宜助言、指導をしながら論文を完成させていく。

Students will write sections and chapters of their MA thesis while continuing to read the most recent literature pertaining to their research areas. Appropriate guidance and instruction tailored to each student's rate of progress will be provided so students can write academic papers with requisite scholarly sophistication.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 研究成果報告・検討
- 【2】: 個別指導(修士論文・課題研究作成指導)
- 【3】: 個別指導(修士論文・課題研究作成指導)
- 【4】: 個別指導(修士論文・課題研究作成指導)
- 【5】: 個別指導(修士論文・課題研究作成指導)
- 【6】: 個別指導(修士論文・課題研究作成指導)
- 【7】: 個別指導(修士論文・課題研究作成指導)
- 【8】: 個別指導(修士論文・課題研究作成指導)
- 【9】: 個別指導(修士論文・課題研究作成指導)
- 【10】: 個別指導(修士論文・課題研究作成指導)
- 【11】: 個別指導(修士論文・課題研究作成指導)
- 【12】: 個別指導(修士論文・課題研究作成指導)
- 【13】: 個別指導(修士論文・課題研究作成指導)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は、毎回の授業時に行う。各回の予習・復習にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:50% 報告・提出物など:50%

テキスト / Textbooks

教室にて配付

参考文献 / Readings

教室にて指示

修士論文指導演習B

Master's Thesis Supervision B

黒岩 三恵 (KUROIWA MIE)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV100
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

美術、アートを中心とする視覚的な表現(物)に関する研究動向を理解し、種々の資料を批判的に読み、適切に修士論文に使用する方法を学び、論文の完成をめざす。

In this seminar students will come to grasp current state of research on the fields of art and visual studies, learn how to read critically and use effectively findings and data when writing their master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

受講生の研究計画に沿って、研究動向の把握、資料の収集と批判、適切な研究手法の援用、論文の執筆法などを指導する。

Guidance and advices will be given on the following: the assessment of the state of research, ways in which necessary sources and documents should be collected and evaluated, methods to be employed or writing skills of theses, based on the research plan of each student.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス: 履修生の研究計画の確認・論文執筆経過報告の小プレゼンテーション
- 【2】: 修士論文指導①
- 【3】: 修士論文指導②
- 【4】: 修士論文指導③
- 【5】: 修士論文指導④
- 【6】: 修士論文指導⑤
- 【7】: 修士論文指導⑥
- 【8】: 中間報告
- 【9】: 修士論文指導⑦
- 【10】: 修士論文指導⑧
- 【11】: 修士論文指導⑨
- 【12】: 修士論文指導⑩
- 【13】: 修士論文指導⑪
- 【14】: 論文発表会と総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自判断して、必要な準備、復習など遂行すること。

初回に研究計画を発表すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間報告:30% 各回での参加度:40% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

随時参考文献等は紹介する。

修士論文指導演習B

Master's Thesis Supervision B

イ, ヒャンジン(LEE HYANGJIN)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV101
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

映画研究分野に関連する修士論文あるいは課題研究を完了させる。

To complete a master's thesis or research project related to the field of cinema studies.

授業の内容 / Course Contents

春学期における成果をもとに、映画研究分野に関連する修士論文あるいは課題研究の完成に向けた指導を演習および個別形式で行う。

Building on the outcomes of the spring semester, provide seminars and personalized instruction on how to complete a master's thesis or research project related to the field of cinema studies.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 研究の進捗状況報告
- 【2】: 研究の進捗状況報告
- 【3】: 文献リストの確認
- 【4】: 論文の構成および形式の確認
- 【5】: 予備審査論文の確認
- 【6】: 予備審査論文の確認
- 【7】: 個別指導
- 【8】: 個別指導
- 【9】: 個別指導
- 【10】: 個別指導
- 【11】: 個別指導
- 【12】: 個別指導
- 【13】: 口頭試問準備
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ディスカッション参加度:30% 授業内発表:30% 報告およびレポートなどの提出物:40%

テキスト / Textbooks

イ・ヒャンジン著 『コリアン・シネマ:北朝鮮・韓国・トランスナショナル』 みすず書房 2018 4622086646

その他、適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

その他, 受講者の研究テーマに応じて助言する。

修士論文指導演習B

Master's Thesis Supervision B

マーティン, R (MARTIN, RON R.)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV102
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Face-to-face
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

Collect and analyze data by, for example, using surveys or doing interviews, or create, present, and explain education material in order to complete the Master's thesis under the guidance of the instructor in order to fulfill the research requirements of a Master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

Guidance is given throughout the research process. As students develop and produce work toward their final goal, the instructor provides advice and comments to support the further development of the research. This guidance focuses on the research process, research paper writing, research methods, research design and instrumentation, and where appropriate, research analysis through the use of published research materials and academic texts.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: Course Introduction
- [2]: Discussion & Thesis Writing Guidance 1
- [3]: Discussion & Thesis Writing Guidance 2
- [4]: Discussion & Thesis Writing Guidance 3
- [5]: Discussion & Thesis Writing Guidance 4
- [6]: Discussion & Thesis Writing Guidance 5
- [7]: Discussion & Thesis Writing Guidance 6
- [8]: Discussion & Thesis Writing Guidance 7
- [9]: Discussion & Thesis Writing Guidance 8
- [10]: Discussion & Thesis Writing Guidance 9
- [11]: Discussion & Thesis Writing Guidance 10
- [12]: Discussion & Thesis Writing Guidance 11
- [13]: Presentation Preparation
- [14]: Presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are to find and review published academic material that is related to their research topic, to discuss their work with peers, and to consult with the instructor about presenting their work at an academic conference or symposium.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Reports (written):35% Reports (oral):35% Presentation:30%

テキスト / Textbooks

None.

参考文献 / Readings

To be given by the instructor.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful to have a device in class (e.g., a tablet or laptop) to view materials distributed via Canvas.

修士論文指導演習B

Master's Thesis Supervision B

丸山 千歌 (MARUYAMA CHIKA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV103
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

各自が設定した研究テーマについて、教員の指導の下に個別研究を実施し、修士論文につながる成果をまとめられるようにすること。

The aim of this course is to conduct individual research on students' research topic under the guidance of teaching staff and ensure they can summarize findings in a way that is conducive to writing a master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

受講学生は自身の進捗状況に合わせて、研究テーマに関する文献を読み進めると同時に、論文の各章を書き進め、適宜、助言、指導を得ながら論文を完成させていく。

Students will read literature related to their research topic, write chapters of their MA thesis on their progress, and complete their thesis with advice and guidance as appropriate.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:これまでの成果の報告
- 【2】:修士論文・課題研究作成指導
- 【3】:修士論文・課題研究作成指導
- 【4】:修士論文・課題研究作成指導
- 【5】:修士論文・課題研究作成指導
- 【6】:修士論文・課題研究作成指導
- 【7】:修士論文・課題研究作成指導
- 【8】:修士論文・課題研究作成指導
- 【9】:修士論文・課題研究作成指導
- 【10】:修士論文・課題研究作成指導
- 【11】:修士論文・課題研究作成指導
- 【12】:修士論文・課題研究作成指導
- 【13】:修士論文・課題研究作成指導
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

テーマに関連する文献の収集,論文の執筆

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:50% 報告・提出物など:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

適宜関連する文献を紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

計画的かつ能動的に研究を進める能力。研究の進捗や課題を整理して報告し、他者の意見も参考にしながら、次のステップを計画する能力。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC またはタブレット端末を使用する。

その他 / Others

スケジュールや内容は調整する場合がある。

修士論文指導演習B

Master's Thesis Supervision B

松下 佳世 (MATSUSHITA KAYO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV104
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

これまでに行った調査・研究や学んだ理論・方法論を用いて、通訳翻訳分野に関連する修士論文ないし課題研究を完成させる。

Building on theories and methods learned and research carried out in the previous semester, students will complete a master's thesis or a research project in the field of Translation and Interpreting Studies (TIS).

授業の内容 / Course Contents

これまでの成果を踏まえ、通訳翻訳分野に関連する修士論文あるいは課題研究を完成させるために必要な指導を受ける。週ごとの指導は、人数に応じて、ディスカッションと個別指導を組み合わせた形で実施される。修士論文・課題研究の提出ならびに口頭試問の前には、集中的な指導が行われる。

Based on the outcomes of the previous semesters, students will receive the necessary instruction on how to complete a master's thesis or a research project in TIS. Weekly sessions will be carried out either in the form of group discussions or individual consultations, depending on the number of students. Specific guidance and intensive support will be provided before submitting the master's thesis/research project and taking the oral exam.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 研究の進捗報告
- 【2】: 研究の進捗報告
- 【3】: 構成と形式の確認
- 【4】: 文献リストの確認
- 【5】: 予備審査論文の確認
- 【6】: 予備審査論文の確認
- 【7】: 中間発表(通訳翻訳領域内で実施)
- 【8】: 中間発表の振り返り
- 【9】: 課題点の整理と修正1
- 【10】: 課題点の整理と修正2
- 【11】: 修士論文・研究課題の提出に向けた最終作業1
- 【12】: 修士論文・研究課題の提出に向けた最終作業2
- 【13】: 口頭試問準備
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
----	-----------------------	---------------	-----------------------	---------------	-----------------------

個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

修士論文または研究課題の提出に向け、文献講読、予備的調査、本調査、実験、フィールドスタディ、結果の分析・考察、執筆などを自らのペースで進めること。また、進捗状況について、面談時またはメール等で適宜報告すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究の進捗と成果:30% 中間発表:30% 最終報告:40%

テキスト / Textbooks

テキストは指定せず、受講生の理解度や言語の習熟度にあわせて、授業内で適宜指示または配布する。

参考文献 / Readings

Claudia V. Angelelli & Brian James Baer Researching Translation and Interpreting Routledge 2016 9780415732543
その他、研究内容に応じて別途指示する。

その他 / Others

各週ごとの学習内容や課題は、受講者の特性や人数、研究テーマによって臨機応変に変更される。不明点は直接教員まで連絡のこと。

修士論文指導演習B

Master's Thesis Supervision B

森 聡美 (MORI SATOMI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV105
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

バイリンガリズム・言語習得に関する修士論文の完成に向けて、文献をさらに読み進めながら、研究方法や結果の解釈、考察の導き方等を身につけ、論文執筆を实践する。

In preparation for completing a master's thesis related to bilingualism and language acquisition, students will learn how to interpret and consider research methods and findings through reading more literature. Students will then commence writing their thesis.

授業の内容 / Course Contents

受講者の進捗状況に合わせて、研究テーマに関する最新の文献を読み進めるのと同時に、論文の各章を書き進め、適宜助言、指導をしながら論文を完成させていく。

While continuing to read the most recent literature from their research area, students will proceed with writing the chapters of their thesis. Appropriate guidance and instruction, tailored to each student's rate of progress, will be provided in order to bring their academic papers to completion.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 研究調査・論文執筆の指導1
- 【3】: 研究調査・論文執筆の指導2
- 【4】: 研究調査・論文執筆の指導3
- 【5】: 研究調査・論文執筆の指導4
- 【6】: 研究調査・論文執筆の指導5
- 【7】: 研究調査・論文執筆の指導6
- 【8】: 研究調査・論文執筆の指導7
- 【9】: 研究調査・論文執筆の指導8
- 【10】: 研究調査・論文執筆の指導9
- 【11】: 研究調査・論文執筆の指導10
- 【12】: 研究調査・論文執筆の指導11
- 【13】: 研究調査・論文執筆の指導12
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は、Canvas LMS/シラバスで指示をする。各回の予習・復習についてはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論、質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物:50%

課題に対するフィードバックは CanvasLMS ないしはクラス内で行う。

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で、担当教員が適宜指示する。

修士論文指導演習B

Master's Thesis Supervision B

師岡 淳也 (MOROOKA JUNYA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV106
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

これまでの成果を踏まえながら、引き続き文献調査、データ収集・分析、執筆作業を進め、期限内に修士論文・課題研究を完成させる。

Building on past work, students will continue to proceed with the literature review, data collection and analysis, and written work stages, in order to complete their master's thesis/research project within the time limit.

授業の内容 / Course Contents

各受講者の研究プロジェクトの進捗状況を踏まえながら、修士論文・課題研究の完成に向け、適宜、個別に助言、指導をしていく。

Giving thought to how the individual student's research project is progressing, appropriate personalized guidance and instruction geared toward the completion of their master's thesis or research project will be provided.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 論文指導(1)
- 【2】: 論文指導(2)
- 【3】: 論文指導(3)
- 【4】: 論文指導(4)
- 【5】: 論文指導(5)
- 【6】: 論文指導(6)
- 【7】: 論文指導(7)
- 【8】: 論文指導(8)
- 【9】: 論文指導(9)
- 【10】: 論文指導(10)
- 【11】: 論文指導(11)
- 【12】: 論文指導(12)
- 【13】: 論文指導(13)
- 【14】: 論文指導(14)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="checkbox"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="checkbox"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="checkbox"/>	校内の教室外施設の利用	<input type="checkbox"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="checkbox"/>
上記いずれも用いない予定	<input type="checkbox"/>				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

科目の性質上、授業外での受講者の積極的かつ自発的な取り組みが求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加・貢献度:50% 各種提出物:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

その他 / Others

対面授業の回数については履修者と相談の上、決定する。

修士論文指導演習B

Master's Thesis Supervision B

石黒 武人 (ISHIGURO TAKETO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV107
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

各自が設定したテーマについて、教員の指導の下に個別研究を実施し、修士論文を完成させること。
 To conduct individual research on a topic of your choice with guidance and complete writing a mater's thesis.

授業の内容 / Course Contents

これまでの成果を踏まえながら、課題となる点について検討し、改善を重ねる。修士論文の各セクションを改善しつつ、データ分析と考察を通して得られた知見を論文としてまとめることができるように指導する。
 Based on the students' progress, we will consider what can be improved in each individual's research project, and make improvements as needed in their research and master's theses. Appropriate guidance will be provided to enable the students to improve each section (e.g., literature review) of their theses and to organize data and develop insights for their theses.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 進捗状況の報告
- 【2】: 序章の提出・検討
- 【3】: 先行研究に関する章の提出・検討(1)
- 【4】: 先行研究に関する章の提出・検討(2)
- 【5】: 研究方法に関する章の提出・検討(1)
- 【6】: 研究方法に関する章の提出・検討(2)
- 【7】: データ分析に関する章の提出・検討(1)
- 【8】: データ分析に関する章の提出・検討(2)
- 【9】: 考察・結論に関する章の提出・検討(1)
- 【10】: 考察・結論に関する章の提出・検討(2)
- 【11】: 改善にむけて(1)
- 【12】: 改善に向けて(2)
- 【13】: 口頭試問に向けて
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

学会発表・研究会に参加します。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業でカバーされる修士論文の各セクションに関する学びを活かしつつ、目次の執筆可能などところから、修士論文を執筆してください。The Rikkyo Style を手元に置いて、引用の仕方、参考文献の表記法が適切か常に確認してください。R Guide に掲載されている、修士論文の提出法に関する文章は必ずよく読んで、提出期間と提出方法を確認してください。慌てずに、提出期間の早い段階で提出できるよう、しっかりと準備を進めてください。公開されている修士論文も参考にし、執筆と改善を進めてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:30% 発表:30% 課題レポート:40%

テキスト / Textbooks

なし。履修生のニーズに応じて、資料を準備します。

参考文献 / Readings

適宜関連する文献を紹介します。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

修士論文を完成させ、口頭試問で合格するために、論理的思考力、批判的思考力、情報収集力、情報(データ)分析力、情報構成力、文章校正力、口頭での発信力、質疑応答での対応力などが求められます。

その他 / Others

ゼミホームページ:<https://sites.google.com/rikkyo.ac.jp/icss/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>

修士論文指導演習B

Master's Thesis Supervision B

チョウ Y. (ZHAO YUANHAO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV108
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed to assist students in completing their Master's theses with guidance from the instructor.

授業の内容 / Course Contents

The instructor discusses overall progress, theory application, methodology, data collection, categorization and analysis of students' theses, and give advice on how each chapter of a specific thesis is to be improved, ensuring steady development toward completion.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Report on Current Progress
- 【2】:Discussion on General Framework
- 【3】:Discussion on References
- 【4】:Discussion on Literature Review
- 【5】:Discussion on Research Methodology
- 【6】:Discussion on Theoretical Approaches
- 【7】:Discussion on Data Collection Strategies
- 【8】:Discussion on Data Analysis I
- 【9】:Discussion on Data Analysis II
- 【10】:Discussion on Conclusion
- 【11】:Enhancement of Thesis I
- 【12】:Enhancement of Thesis II
- 【13】:Oral Defense Practice
- 【14】:Final Presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

Methods of teaching may be adjusted according to students' progress and tailored to meet their needs.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to revise their manuscripts independently outside of class and bring discussion questions to

class. Additionally, readings may be recommended for students to complete as part of their outside-of-class preparation.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation/discussion:30% Presentation:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

Will be provided in class.

参考文献 / Readings

Will be provided in class.

その他 / Others

Weekly topics may overlap and are subject to adjustment based on assessments of students' performance and class progress.

修士論文指導演習B

Master's Thesis Supervision B

奥野 克巳 (OKUNO KATSUMI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV109
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、論文執筆の方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を進める。

Strive to clarify research themes and methodologies, learn methods for writing academic papers and other basic knowledge and skills required to write master's theses, and make progress on writing theses.

授業の内容 / Course Contents

文化人類学関連科目の履修によって得られる専門知識を踏まえて、関心を有するテーマについて国内外の先行研究の現状、課題および研究方法を把握し、各自の研究テーマへと高めていく。また、研究テーマに即した研究発表をしてもらいながら、論文執筆に関する具体的な指導をしていく。

Based on the expert knowledge gained from taking courses about cultural anthropology, students will gain a full understanding of the present state, issues and methodologies of previous research conducted inside and outside Japan on themes of their interest, and work toward enhancing their research themes. In addition, the instructor will give detailed instruction on thesis writing as students present their research in line with their research themes.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入、授業の概要
- 【2】: 論文執筆指導(1)
- 【3】: 論文執筆指導(2)
- 【4】: 論文執筆指導(3)
- 【5】: 論文執筆指導(4)
- 【6】: 論文執筆指導(5)
- 【7】: 論文執筆指導(6)
- 【8】: 論文執筆指導(7)
- 【9】: 論文執筆指導(8)
- 【10】: 論文執筆指導(9)
- 【11】: 論文執筆指導(10)
- 【12】: 論文執筆指導(11)
- 【13】: 論文執筆指導(12)
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用
----	--	---------------	--	---------------

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加態度:60%

最終レポート割合:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

指導の中で適宜指示します。

修士論文指導演習B

Master's Thesis Supervision B

佐藤 邦彦 (SATO KUNIHICO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV111
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

これまでの調査や考察の結果をまとめ、修士論文を完成する。

In this course students will summarize the results of surveys and studies conducted, and complete writing a master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

言語学(特に意味論やその関連領域, またはスペイン語学)の研究テーマでの修士論文の作成に向けて, これまでの調査や考察の結果をまとめるための指導を行う。論文の構成や, 必要に応じて更なる考察についての指導を行う。基本的に個別指導とするが, 適宜学生間の討論なども行う。

Instruction on how to summarize the results of surveys and studies will be provided in preparation for writing a master's thesis on a research topic within Linguistics (specifically, semantics and related areas, or Spanish linguistics). Provide guidance on thesis structure and any other areas requiring further consideration. Generally personalized instruction will be used, but activities such as student debates will also be carried out where appropriate.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: これまでの進捗状況の発表
- 【2】: 考察内容の検討(1)
- 【3】: 考察内容の検討(2)
- 【4】: 修士論文作成の指導(1)
- 【5】: 修士論文作成の指導(2)
- 【6】: 修士論文作成の指導(3)
- 【7】: 修士論文作成の指導(4)
- 【8】: 修士論文仕上げに向けての中間報告
- 【9】: 修士論文作成の指導(5)
- 【10】: 修士論文作成の指導(6)
- 【11】: 修士論文作成の指導(7)
- 【12】: 修士論文作成の指導(8)
- 【13】: 修士論文作成の指導(9)
- 【14】: 最終報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論, 質疑応答など):40% 中間報告:30% 最終報告:30%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

修士論文指導演習B

Master's Thesis Supervision B

武田 珂代子 (TAKEDA KAYOKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV114
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

翻訳・通訳に関連する修士論文・課題研究を完成させる。

To complete a master's thesis or a graduate research project related to translation and interpreting.

授業の内容 / Course Contents

翻訳・通訳に関連する修士論文・課題研究についてクラスまたは個人面談で助言を受けながら執筆を進め、完成させる。
Seminars and individual advising for students to continue research from the previous semester and complete a master's thesis or a graduate research project related to translation and interpreting.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 研究の進捗状況報告
- 【2】: 研究の進捗状況報告
- 【3】: 文献リストの確認
- 【4】: 論文の構成および形式の確認
- 【5】: 予備審査論文の確認
- 【6】: 予備審査論文の確認
- 【7】: 個別指導
- 【8】: 個別指導
- 【9】: 個別指導
- 【10】: 個別指導
- 【11】: 個別指導
- 【12】: 個別指導
- 【13】: 口頭試問準備
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告・提出物など:50% ディスカッション参加度:25% 授業内発表:25%

テキスト / Textbooks

武田珂代子編著 『翻訳通訳研究の新地平』 晃洋書房 2017 9784771028135

その他、適宜資料を配付する。

参考文献 / Readings

Saldanha, G. & O'Brien, S. Research Methodologies in Translation Studies St. Jerome 2013 9781909485006

Williams, J. and Chesterman, A. The Map: A beginner's guide to doing research in translation studies St. Jerome

2002 1900650541

ピム・A 『翻訳理論の探求』 みすず書房 2010 4622075180

その他、受講者の研究テーマに応じて助言する。

その他 / Others

TI@Rikkyo <http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/>

Kayoko Takeda's works http://works.bepress.com/kayoko_takeda/

修士論文指導演習B

Master's Thesis Supervision B

山口 まり子 (YAMAGUCHI MARIKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV115
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

To help students prepare for the writing of their master's thesis, this course aims to provide them with the requisite foundational knowledge and the skills needed to write and structure an academic paper. In addition, this course will aid the clarification of their research themes and methodologies. Further, students will also learn the methods of reading and analyzing research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

受講者は研究対象についての専門知識を踏まえながら、先行研究を理解したうえで、研究テーマを具体化する。研究テーマに関連する先行研究のレビューなどを発表し、議論をしながら論文執筆に関する具体的な指導を行う。

Students will read and review scholarly studies relevant to their thesis and will present their own research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(1)
- 【3】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(2)
- 【4】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(3)
- 【5】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(4)
- 【6】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(5)
- 【7】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(6)
- 【8】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(7)
- 【9】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(8)
- 【10】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(9)
- 【11】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(10)
- 【12】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(11)
- 【13】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(12)
- 【14】: 研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について(13)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

論理学を学んだことがない場合、例えば野矢茂樹著(2006)『新装 論理トレーニング』(産業図書)や同著者(2020)『まったくゼロからの論理学』(岩波書店)などを用いた独習を勧める。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論, 質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で担当教員が適宜指示する。

また、上記「授業時間外の学習」欄参照のこと。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

上記「授業時間外の学習」欄参照のこと。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業内では情報機器は不要。

その他 / Others

フィードバックは随時授業内で行う。

修士論文指導演習B

Master's Thesis Supervision B

中田 達也 (NAKATA TATSUYA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV116
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

To help students prepare for the writing of their master's thesis, this course aims to provide them with the requisite foundational knowledge and the skills needed to write and structure an academic paper. In addition, this course will aid the clarification of their research themes and methodologies. Further, students will also learn the methods of reading and analyzing research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

講義・演習および個別指導を通して、先行研究を批判的に考察した上で研究テーマを設定し、データを収集、研究成果を論文として発表する能力を養う。また、受講生各自の研究の進捗状況に関する発表や討議も行う。

Through lectures and tutorials, students will learn to (a) critically evaluate previous literature, (b) formulate research questions, (c) collect data, and (d) publish findings in the form of academic papers. Students will also be required to present and to discuss their ongoing research projects.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入
- 【2】: 論文執筆指導 1
- 【3】: 論文執筆指導 2
- 【4】: 論文執筆指導 3
- 【5】: 論文執筆指導 4
- 【6】: 論文執筆指導 5
- 【7】: 論文執筆指導 6
- 【8】: 論文執筆指導 7
- 【9】: 論文執筆指導 8
- 【10】: 論文執筆指導 9
- 【11】: 論文執筆指導 10
- 【12】: 論文執筆指導 11
- 【13】: 論文執筆指導 12
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
----	-----------------------	---------------	-----------------------	---------------	-----------------------

個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論, 質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

適宜指示する。

その他 / Others

<https://www.howtoeigo.net/>

修士論文指導演習B

Master's Thesis Supervision B

日下部 尚徳(KUSAKABE NAONORI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV117
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期他
単位	2	科目ナンバリング	ICC6513
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	自動登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- 1.国際協力分野の先行研究に、自身の調査・分析結果を位置づけられるようにする。
 - 2.各自が設定した研究テーマについて教員の指導の下に個別研究を実施し、修士論文につながる成果をまとめられるようにする。
1. To position individual research/analysis in the previous researches on international cooperation.
 2. To conduct individual research on a topic of your choice and consolidate findings in a way that is conducive to writing a master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

国際協力、途上国の開発に関する具体的現象を研究対象に、理論的枠組、分析、考察する方法、研究対象についての専門知識を踏まえながら、先行研究および研究方法の動向を理解したうえで、研究テーマ、方法を具体化する。受講者は研究テーマに関連する先行研究のレビュー、研究対象についての調査成果を発表し、議論をしながら論文執筆に関する具体的な指導を行う。

This course aims to help students precisely determine a research topic and method for their thesis. To achieve this goal, students will have to engage with texts on theoretical foundations, research methods, and scientific discussions relating to international cooperation and development. Students will review relevant research and will present their own ideas for research.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Orientation
- 【2】:Education and Academic Writing
- 【3】:Education and Academic Writing
- 【4】:Education and Academic Writing
- 【5】:Preparation for Presentation
- 【6】:Preparation for Presentation
- 【7】:Presentation
- 【8】:Reflection and Wrap-up
- 【9】:Presentation
- 【10】:Reflection and Wrap-up
- 【11】:Presentation
- 【12】:Reflection and Wrap-up
- 【13】:Academic Writing (final check)
- 【14】:Final Presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論, 質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で, 担当教員が適宜指示する。

その他 / Others

フィードバックは随時授業内で行う。

言語教育研究基礎論

Introduction to Language Education Research

細田 雅也 (HOSODA MASAYA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV151
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	全授業のうち 5 回はオンラインで実施する(第 2, 5, 8, 11, 13 回目の授業)。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。 The following 5 classes will be conducted online: The 2nd, 5th, 8th, 11th, and 13th. Details and changes will be announced in class or posted on Canvas LMS.
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC5130
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

1. テキスト理解の理論と実証的証拠を理解している。
2. テキスト理解の理論と実証的証拠に基づき効果的な読解指導や学習を考察できる。
1. Students understand theories and empirical findings of text comprehension.
2. Students can devise effective second-language learning and instruction based on theoretical and empirical findings of text comprehension.

授業の内容 / Course Contents

本科目では、外国語による文章理解に関する理論と実証的知見を学び、効果的な英文読解指導について考える。具体的には、受講生はテキスト理解や第二言語読解の研究論文を読み込み、その内容を授業でプレゼンテーションする。そして研究の手法、結果、考察、理論的、教育的意義についてディスカッションを行う。これらの活動を通して、外国語における読解を効果的に指導したり、学習したりできる方法について考察する。

In this course, students will learn theories and empirical findings of text comprehension and consider effective reading instruction in a foreign language. Students will read research papers on text comprehension and second language reading, and make presentation in class. They will then discuss the methods, results, and its theoretical and educational implications. Through these activities, students will explore methods for effectively instructing and learning reading in a foreign language.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: テキスト理解とは
- 【3】: テキスト理解の理論モデル 1
- 【4】: テキスト理解の理論モデル 2

- 【5】: テキスト理解の理論モデル 3
- 【6】: テキスト理解に伴う認知プロセス 1
- 【7】: テキスト理解に伴う認知プロセス 2
- 【8】: 語彙力と読解力 1
- 【9】: 語彙力と読解力 2
- 【10】: 外国語と母語でのテキスト理解の違い 1
- 【11】: 外国語と母語でのテキスト理解の違い 2
- 【12】: 外国語と母語でのテキスト理解の違い 3
- 【13】: 理論と実証的知見に基づく読解指導のあり方の検討 1 & フィードバック
- 【14】: 理論と実証的知見に基づく読解指導のあり方の検討 2 & フィードバック

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

受講生はプレゼンテーションソフト (PowerPoint, Keynote 等) で作成した担当文献のプレゼンテーションを、PC とスクリーンを使用して行う。発表箇所の文献は電子ファイルで配布するため、毎回の授業で PC かタブレット端末を使用する。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では 1 単位あたりの学修時間を 45 時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

各自担当する文献をしっかりと読み込み、そのプレゼンテーションの準備を確実に行うことが求められる。

また、毎回の授業の後に授業で扱われた文献を自分で読み直し、自分のことばでまとめ直すことが求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション:30% ディスカッション:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

授業で関連論文、書籍を紹介する。

参考文献 / Readings

授業で関連論文、書籍を紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

英語リーディングや文章理解に興味があること。

20~40 ページの英語の関連文献を数日で読み込み、その内容を理解できること (英検準 1 級程度の英語力が望ましい)。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC を毎回持参すること。

通訳翻訳研究基礎論

Introduction to Translation and Interpreting Research
 通訳翻訳研究へのアプローチ
 (Approaches to translation and interpreting research)

武田 珂代子／山田 優 (TAKEDA KAYOKO/ YAMADA MASARU)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV152
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC5233
使用言語	その他	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

翻訳通訳研究の起源と展開について基本的な理解を得るとともに、翻訳通訳研究におけるさまざまなアプローチや研究方法を学ぶ。特に、履修生の修士論文研究に関連するものに焦点を当てる。

To gain basic understanding of the origins and evolution of Translation and Interpreting Studies and to learn about different approaches to and methods in translation and interpreting research, with focus on those relevant to students' MA research.

授業の内容 / Course Contents

翻訳とは何か、通訳とは何かについての議論から始まり、通訳翻訳研究の起源と展開、鍵となる概念や理論を含む通訳翻訳研究の概要について学ぶ。次に、通訳翻訳研究におけるさまざまなアプローチや研究方法に焦点を当てる。履修者は研究方法に関するプレゼンテーションを行い、最終レポートを提出する。

Starting with discussion on what translation is and what interpreting is, this course provides an overview of Translation and Interpreting Studies, including its origins and evolution, and key concepts and theories. Then it focuses on different approaches to and methods in translation and interpreting research. Students are required to give a presentation on research methods and submit a final report.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: Key concepts and theories in Translation and Interpreting Studies
- [2]: Product-oriented research
- [3]: Process-oriented research
- [4]: Sociocultural approaches
- [5]: Historical research
- [6]: Research questions and hypotheses
- [7]: New trends in Translation Studies
- [8]: Quantitative and qualitative analysis
- [9]: Data-driven research (1)
- [10]: Data-driven research (2)
- [11]: Fallibility and science
- [12]: Designing a research
- [13]: Student presentations
- [14]: Student presentations

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Students are expected to complete a reading assignment every week. At the end of the course, students are required to give a presentation on research methods and submit a final report.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Active participation in class:30% In-class presentation:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

Saldanha, G., & O'Brien, S. Research Methodologies in Translation Studies Routledge 2014 9781909485006

参考文献 / Readings

Williams, J., & Chesterman, A. The Map: A Beginner's Guide to Doing Research in Translation Studies St. Jerome 2002 9781900650540

鳥飼玖美子(編著)『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房 2013 9784623067275

武田珂代子(編著)『翻訳通訳研究の新地平』晃洋書房 2017 9784771028135

その他、随時必要に応じて、授業時に提示する。

その他 / Others

TI@Rikkyo <https://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/index.html>

コミュニケーション研究基礎論

Introduction to Communication Studies

石黒 武人 (ISHIGURO TAKETO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV153
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC5330
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目標は、コミュニケーション研究に関する様々な知見に触れながら、コミュニケーションを研究する上で必要となる基礎的な知識を身につけることを目的とする。

The aim is to acquire the basic knowledge and perspectives required for conducting communication research by reading a wide range of literature in Communication Studies and related fields.

授業の内容 / Course Contents

コミュニケーション学とその他の関連分野におけるコミュニケーション研究を取り上げながら、コミュニケーションを学術的に分析する際に求められる視点、概念ならびに理論・モデルを学んでいく。併せて、コミュニケーション研究の歴史や最近の研究動向についても取り上げる。

By focusing primarily on communication research in the areas of Communication Studies and some related fields, students will learn major perspectives, concepts, and theories/models needed to conduct communication research. We will also learn the historical development of Communication Studies as a field of research and familiarize ourselves with recent trends in the field.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 授業概要、コミュニケーション研究のテーマとアプローチ
- 【2】: コミュニケーション研究の歴史と系譜
- 【3】: コミュニケーションとは何か?
- 【4】: 記号としての言語: 意味生成のプロセス
- 【5】: コミュニケーションの非言語的要素
- 【6】: アイデンティティと対人コミュニケーション
- 【7】: 集団・組織とコミュニケーション
- 【8】: コミュニケーション教育 (communication education): コミュニケーション能力を再考する
- 【9】: パワーとコミュニケーション
- 【10】: メディアとコミュニケーション
- 【11】: 異文化コミュニケーション
- 【12】: 日本における異文化コミュニケーション教育の今日的課題
- 【13】: 環境とコミュニケーション
- 【14】: 期末レポート発表会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
----	-----------------------	---------------	-----------------------	---------------	-----------------------

個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

大学院科目ということもあり、授業外での受講者の積極的かつ自発的な取り組みが求められる。まず、発表を担当する論文を読み込み、その内容を整理するだけでなく、批判的に検討して自分の意見を述べられるようにしておいてください。発表資料(パワーポイント)は、事前に担当教員にメール添付で送付してください。自分の研究と授業で扱う論文で提示される視点、概念、理論的・方法論的枠組み、結果等がいかに関連しているかを考え、比較のうえで自分の研究を明確化し、発展させるように努めてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加・貢献度(レポートを除く各種提出物を含む):30% 口頭発表:20% 小レポート:20%
最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

なし。適宜資料を配布もしくは紹介する。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

コミュニケーション研究を学際的な観点から考察するため、授業で読むさまざまな研究領域の論文に積極的に取り組む姿勢が求められます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業の資料を事前に CanvasLMS で共有しますので、必要に応じて印刷するか、パソコン等で読めるようにしておいてください。

異文化コミュニケーション研究基礎論

Introduction to Intercultural Communication Research

灘光 洋子(NADAMITSU YOKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV154
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC5330
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

異文化コミュニケーション領域の研究における視座や理論への理解を深める。

To develop deeper understanding of perspectives and theories in the field of Intercultural Communication.

授業の内容 / Course Contents

異文化コミュニケーション領域の研究における理論入門コース。異文化コミュニケーション領域における概念や理論に関する主要文献を精読し、「彼ら」と「我々」の間に生じる相互作用について考察する。「異文化」を感じるコミュニケーションの場で、何が起きているのか、それがどのように現れているのか、背後にはどのような要素が絡んでいるのかについて考えていきたい。事前に配付資料(テーマに関連した文献)を読んでもらうこと。クラスは、講義、発表、質疑応答を中心に進める。

This is an introductory course to the theories of Intercultural Communication. We will read the key literature and articles associated with central concepts and issues in the field of Intercultural Communication. The main objective is to deepen our understanding of aspects and mechanisms of interactions between and among people from different cultures and explore the realities behind the scene.

授業計画 / Course Schedule

- [1]:オリエンテーション
- [2]:コミュニケーションについて
- [3]:異文化コミュニケーションについて
- [4]:言語メッセージの力(1)
- [5]:言語メッセージの力(2)
- [6]:非言語メッセージの力(1)
- [7]:非言語メッセージの力(2)
- [8]:コミュニケーション、シンボル、解釈について
- [9]:コミュニケーションとアイデンティティ(1)
- [10]:コミュニケーションとアイデンティティ(2)
- [11]:カルチャー・ショックと異文化適応
- [12]:多文化共生と多文化主義
- [13]:日常生活に見られる異文化コミュニケーション
- [14]:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="checkbox"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="checkbox"/>
----	-----------------------	---------------	--------------------------	---------------	--------------------------

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

各回の予習範囲や課題は、授業内で別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表および討議への貢献度:60%

最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

毎回、関連文献をCanvasに掲載する。

参考文献 / Readings

Chen, L. Intercultural communication Walter de Gruyter

Griffin, E., Ledbetter, A., & Sparks, G. A first look at communication theory McGraw Hill

Gudykunst, W. B. Theorizing about intercultural communication Sage

池田理知子 『よくわかる異文化コミュニケーション』 ミネルヴァ書房

八島智子・久保田真弓 『異文化コミュニケーション論』 松柏社

その他 / Others

履修者の積極的な討議参加を求める。各自、十分に文献を読み込んでくることを前提に授業を進める。

授業内容のテーマや順番は進捗状況に応じて変更する可能性がある。

グローバル文化研究基礎論

Introduction to Global Cultural Studies

Introduction to Film Theories

イ, ヒャンジン (LEE HYANGJIN)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV155
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC5430
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

グローバル化に伴う文化や言語の接触、混淆の現象、また異文化表象について、映像研究の立場から論じるために重要な理論の抜粋を読み考察する。各理論の背景などに留意しながら批判的に理論を考察する力をつけ、各自の研究テーマに応用する可能性を検討する。

In this course, students will read and reflect on excerpts from important theories and will subsequently utilize the viewpoint of film studies to discuss the interactions between cultures and languages, the phenomenon of intermixing, and intercultural expression brought about by globalization. Additionally, the module will help students develop the ability to critically consider film theories while accounting for their backgrounds and other factors, and to investigate the possibilities of applying this skill to individual research themes.

授業の内容 / Course Contents

人や資本の境界を越えた移動に伴う文化の変容や文化接触、異文化表象について、オリエンタリズム、ネイション、植民地主義、帝国主義、ジェンダー、エスニシティなどの問題点に着目した映像研究論文を読み、議論を行う。

This course aims to help students to read and discuss academic papers informed by film studies that focus on orientalism, nations, colonialism, imperialism, gender and sexuality, ethnicity, and other issues in the cultural transformation, interaction, and intercultural expression brought about by movements that exceed the limits of human beings and capital.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: グローバリゼーションと映像文化について
- 【2】: 理論とケーススタディ1: 作家主義とジャンル論
- 【3】: 理論とケーススタディ2: 形式主義、構造主義とポスト構造主義
- 【4】: 理論とケーススタディ3: マルクス主義とリアリズム
- 【5】: 理論とケーススタディ4: ポストモダニズムとサイコアナリシス
- 【6】: 理論とケーススタディ5: フェミニズムと男性らしさ
- 【7】: 理論とケーススタディ6: クィア理論
- 【8】: 映像文化分析の実践1: オリエンタリズム
- 【9】: 映像文化分析の実践2: ネイション
- 【10】: 映像文化分析の実践3: エスニシティ
- 【11】: 映像文化分析の実践4: ジェンダーとセクシュアリティ
- 【12】: 映像文化分析の実践5: 植民地主義・帝国主義
- 【13】: 映像文化分析の実践6: ポストコロニアルとトランスナショナル映画
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポイント等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="radio"/>
上記いずれも用いない予定	<input type="radio"/>				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

参加者の発表と議論を中心に授業をすすめる。フィードバックは随時授業内で行う。

基本的に対面授業だが必要に応じて、履修者と相談する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および議論への積極的な参加:30% 授業内での口頭発表:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

Ruth Doughty and Christine Etherington-Wright Understanding Film Theory Bloomsbury 2022 9781137587947

D・ボードウェル・K・トンプソン Film Art - Introduction to Movie Art 名古屋大学出版会 2007 9784622086642

参考文献 / Readings

本橋哲也 『カルチュラル・スタディーズへの招待』 大修館書店 2002 9784255556345

ピーター・バーク(河野真太郎訳) 『文化のハイブリディティ』 法政大学出版局 2012 9784588603266

国際協力・人類学基礎論

Foundations of International Cooperation and Anthropology

グローバル・ヒストリーという考え方:James C. Scott (著)・佐藤仁 (監訳)『ゾミア 脱国家の世界史』を読む

根本 敬 (NEMOTO KEI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV156
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC5330
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

東南アジアを中心とする山地少数民族の生存戦略を「支配されないための技術」としてとらえ、政治学・歴史学・人類学を包摂する方法論に基づいて独特の議論を展開した James C. Scott の大著『ゾミア』を精読することによって、グローバル・ヒストリーという考え方の理解を深める。

In order to deepen the way of understanding global history, this class will read in detail James C. Scott's <The Art of Not Being Governed: An Anarchist History of Upland Southeast Asia>, which deals with the historical and cultural features of the people residing in the Highland Southeast Asia, based on the methodology connoting political science, history and anthropology.

授業の内容 / Course Contents

学期を通じて James C. Scott の大著『ゾミア:脱国家の世界史』を精読し、相互に議論を深める。同著は東南アジアを中心とする山地少数民族の生存戦略を「支配されないための技術」としてとらえ、政治学・歴史学・人類学を包摂した方法論を用いて个性的に論じたことで知られる名著である。賞賛と同時に批判も少なくない著作ではあるが、この Scott の議論を通じて、グローバル・ヒストリーという考え方の一環を知るための道筋としたい。また、学期中に受講生が取り組んでいる修士論文の相互紹介の機会ももうける。

In this class, we will read and discuss James C. Scott's famous book <The Art of Not Being Governed: An Anarchist History of Upland Southeast Asia>, which deals with the historical and cultural features of the people residing in the Highland Southeast Asia (so called Zomia). The book which is based on the methodology connoting political science, history and anthropology, has received both praise and criticism up to nowadays, but it is still one of the most important literary works in the studies of global history.

授業計画 / Course Schedule

【1】: (1)オリエンテーション

- (2)簡潔な相互自己紹介(特に修士論文で取り組むテーマについて)
(3)Zomia 論とは何か(導入講義1)

【2】: (1)歴史学とは何か(導入講義2)

- (2)報告とコメントのやりかた
(3)報告者の分担割り当て

【3】:James. C. Scott (著)・佐藤仁(監訳)『ゾミア:脱国家の世界史』を読む①**【4】:**James. C. Scott (著)・佐藤仁(監訳)『ゾミア:脱国家の世界史』を読む②**【5】:**James. C. Scott (著)・佐藤仁(監訳)『ゾミア:脱国家の世界史』を読む③**【6】:**James. C. Scott (著)・佐藤仁(監訳)『ゾミア:脱国家の世界史』を読む④**【7】:**James. C. Scott (著)・佐藤仁(監訳)『ゾミア:脱国家の世界史』を読む⑤

【8】: 修士論文で取り組んでいるテーマの相互報告

【9】: James. C. Scott (著)・佐藤仁(監訳)『ゾミア: 脱国家の世界史』を読む⑥

【10】: James. C. Scott (著)・佐藤仁(監訳)『ゾミア: 脱国家の世界史』を読む⑦

【11】: James. C. Scott (著)・佐藤仁(監訳)『ゾミア: 脱国家の世界史』を読む⑧

【12】: James. C. Scott (著)・佐藤仁(監訳)『ゾミア: 脱国家の世界史』を読む⑨

【13】: James. C. Scott (著)・佐藤仁(監訳)『ゾミア: 脱国家の世界史』を読む⑩

【14】: 補論

書評レポート提出(書き方は事前に説明します)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

初回の授業までにテキストを入手しておいてください。

自分の報告準備に力を入れることはもちろんですが、ほかの院生が報告する場合も、事前に該当する章を熟読し、自分の質問とコメントを準備するようにしてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% クラス内での報告:30% 出席状況:30% 最終レポート割合::40%

出席状況にはクラス内での発言(コメント、質問)を含みます。

テキスト / Textbooks

ジェームズ・C・スコット ゾミア 脱国家の世界史 みすず書房 2013 9784622077831

参考文献 / Readings

調査研究方法論A

Research Methods A

質的研究法

Qualitative research method

時津 倫子(TOKITSU TOMOKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV157
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC5530
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

質的研究の研究計画から論文執筆に至るプロセスに必要な知識と技術を習得すること。

To acquire the knowledge and skills needed during the process of planning and writing an academic report for a qualitative research project.

授業の内容 / Course Contents

質的研究を適用するにふさわしいリサーチクエスチョン、研究対象の選定と倫理的問題、質的研究のためのデータの集め方、質的研究の種類、質的データの分析法、質的研究のための論文作法についての講義と演習。

Students will learn about how to conduct qualitative research. This course will consider topics such as types of qualitative research, suitable research questions, data collection and analysis, ethical issues, and report writing for qualitative research.

授業計画 / Course Schedule

【1】: 質的研究とは。質的研究と量的研究の比較。質的研究に合うテーマ、合わないテーマ(講義)

【2】: 質的研究を始める前に考えておくこと。

リサーチクエスチョンと方法

倫理的問題について

【3】: 質的研究の始め方

先行研究のレビュー。誰を対象に、どんな方法でデータを集めている？

あなたの研究は、誰を対象に、どんな方法でデータを集めますか？

【4】: フィールドに入る前に:コンタクトの取り方・「参加」しながら「研究」すること

あなたのフィールドとあなたの立ち位置

【5】: データの取り方

データとは？データをとる方法(インタビュー、観察、文書資料や動画、自己省察)

【6】: 記録のとり方1

何を記録するのか。フィールドメモ。メモからフィールドノート。

【7】: 記録のとり方2

インタビューでの質問のしかた、聞き方、記録のとり方

【8】: データの整理:分析のための準備

データ分析の進め方。集めて、整理して、バラバラにして、また集める。

データのコーディング。

【9】:データの分析:データを解釈する
記述, 説明, 解釈, 結論

【10】:データの見せ方 並べ方
ナラティブデータの配置
図表の示し方
写真, イラストなどの使い方
プレゼンテーションのためのスライドの作り方

【11】:質的研究論文を書く
誰に向けて書く? 何のために書く? 誰の声を書く?

【12】:質的研究論文の評価基準:APA スタンダードでの評価の観点

【13】:社会科学としての質的研究 アートとしての質的研究

【14】:あなたのリサーチクエスチョンとデータ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

予習:授業中に指示された教科書の箇所や、配付された資料を読む。(資料はCanvas からPDF 配布)

復習:授業中に指示された課題を遂行する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 複数回の課題提出:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

プリント配布

参考文献 / Readings

Yin,R Qualitative research from start to finish Guilford 2016 1462517978

佐藤郁哉 『フィールドワークの技法:問いを育てる仮説をきたえる』 新曜社 2002 4788507889

Corbin,J. Strauss,A/ 操華子・森岡崇訳 『質的研究の基礎:グラウンデッドセオリーの技法と手順(第3版)』 医学書院 2012 4260012010

箕浦康子 『フィールドワークの技法と実際Ⅱ』 ミネルヴァ書房 2009 9784623053551

プラサド/箕浦監訳 『質的研究のための理論入門』 ナカニシヤ出版 2018 9784779512230

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

あなたのリサーチクエスチョンは何ですか? 何を知りたいですか? 誰のことを知りたいですか?それにふさわしい方法は何ですか?

講義を受けながら、課題をこなしながら、上記のような質問についてくりかえし自問自答することになります。考え続けることは苦しいですが、それに耐えられるだけの研究関心を持ち続けていただきたいと思っています。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料配布, 課題提出にはCanvas を利用します。レポートは原則としてPDF ファイルで提出してください。

その他 / Others

研究は知への旅です。苦しいことも楽しいこともたくさんあります。一緒に旅を楽しみましょう。

講義した内容に関わる課題がほぼ毎回あります。

調査研究方法論B

Research Methods B
統計学・量的研究

萱 忠義(KAYA TADAYOSHI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV158
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	全授業回のうち7回はオンラインで実施する(2・4・6・8・10・12・14回目の授業)。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内またはCanvas LMS等で周知する。
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC5530
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

調査や実験で得られたデータの処理方法や分析方法について学び、統計学的な知識と実践的調査技能を身につける。
To learn how to process and analyze data obtained from surveys and experiments, and acquire statistical knowledge and practical research skills.

授業の内容 / Course Contents

リサーチデザインおよび量的データを扱う上で必要となる基本的な統計知識を学ぶ。また、統計分析結果を解釈し、結論を導く手法を学習する。毎回の授業では、前半を講義形式または発表形式で行い、後半を討論形式で行う。教室内活動や討論では、学生は積極的に自分の意見を述べるのが求められる。なお、授業や文献講読では英語および日本語を使用する。また、統計に関するビデオの閲覧も行う。

Students will learn research design and basic statistical knowledge necessary for quantitative data analyses, so that they can interpret the results of their projects and draw their conclusions. In each class, the first half will be conducted in a lecture or presentation format, and the second half in a discussion format. Students are required to be proactive in order to express their opinions, and the instructor will act as a facilitator for classroom activities and discussions. The lectures will be conducted both in English and in Japanese. Additionally, the course will include viewing videos related to statistics.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: ガイダンス
- [2]: 研究デザイン: どう研究計画を立てるのか?
- [3]: 妥当性と信頼性: テストはどう作るのか?
- [4]: 比率尺度, 間隔尺度, 順序尺度, 名義尺度: テストのデータには何種類あるのか?
- [5]: 平均値, 中央値, 最頻値: データはどう解釈するのか?
- [6]: 分散, 標準偏差, 標準得点, 偏差値: データはどう解釈するのか?
- [7]: t 検定: 2つのグループの差はどう示すのか?
- [8]: 有意差と効果量: 検定結果をどう解釈するのか?
- [9]: 分散分析: 多数のグループ間の差はどう示すのか?
- [10]: ノンパラメトリック検定: データ量が少ないときどうするのか?

- 【11】: 相関分析: データの関係性ってどう示すのか?
 【12】: 回帰分析: 欠損データはどう扱うのか?
 【13】: カイ二乗検定: アンケートはどう処理するのか?
 【14】: 総括および学習度合いの確認

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

ガイダンス時に配る詳細シラバスを参照のこと

Refer to the detailed syllabus provided in the guidance session.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:10% デジタルノート提出:20% 授業内小テスト:30% 最終テスト割合::40%

テキスト / Textbooks

竹内理・水本篤 『外国語教育研究ハンドブック【増補版】— 研究手法のより良い理解のために』 大修館書店 2023
 9784775402948

参考文献 / Readings

Paul Richardson・Allen Goodwin・Emma Vine Research Methods and Design in Psychology (Critical Thinking in Psychology Series) Learning Matters 2011 9780857254696

Mark Saunders Dealing With Statistics: What You Need To Know: What you need to know Open University Press
 2007 9780335227242

三浦省五・前田啓朗・山森光陽・磯田貴道・廣森友人 『英語教師のための教育データ分析入門—授業が変わるテスト・評価・研究』 大修館書店 2004 9784469244939

浦野研・亙理陽一・田中武夫・藤田卓郎・高木亜希子・酒井英樹 『はじめての英語教育研究 — 押さえておきたいコツとポイント』 研究社 2016 9784327421977

平井 明代【編著】『教育・心理系研究のためのデータ分析入門 — 理論と実践から学ぶSPSS活用法 (第2版)』 東京図書 2017 9784489022623

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

高等学校で学習する基本的な数学(数学I、数学A、数学B)の知識が必要。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

- Windows 10 または Windows 11 の PC であること。
- Windows 10 または Windows 11 の基本操作ができること。
- 個人でマイクロソフトアカウントとパスワードを所有していること(大学のアカウントは使用できません)。
- Microsoft 365 版 OneNote が使える環境であること。
- OneDrive との連携が可能であること。
- Canvas LMS を利用。

その他 / Others

この講義は、初回のガイダンスで配布される完全版のシラバスに基づいて行われます(ここに記載されているシラバスは簡略版です)。The course will be conducted based on the full syllabus distributed in the guidance on the first day (The syllabus that you see here is a simplified version).

言語コミュニケーション研究基礎論

Introduction to Language and Communication Research

濱田 彰 (HAMADA AKIRA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV159
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC5131
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

The purpose of this course is to prepare MA students to conduct independent research in language and communication studies. Specifically, students will learn to (a) critically evaluate extant literature, (b) formulate research questions, (c) collect data, and (d) publish their findings in the form of academic papers.

授業の内容 / Course Contents

Through lectures and hands-on sessions, students will learn basic knowledge and skills required for conducting MA research in the field of language and communication studies. Topics covered will include validity and reliability, different kinds of scales (ratio, interval, ordinal, and nominal), descriptive statistics (means, variances, standard deviations, kurtosis, and skewness), normal distribution, deviation values, inferential statistics, effect sizes, and reference management and citations.

授業計画 / Course Schedule

【1】:Introduction

-Coursework assignment

【2】:How to Build a Research Design

-Choosing a topic

【3】:Research Validity and Reliability

-Research design

-Data collection methods

【4】:Descriptive Statistics

【5】:Inferential Statistics

【6】:Reviewing the literature

【7】:Methodological approach

-Types of research design

-Sampling

-Ethics

【8】:The dissertation proposal

-Purpose of the study

-Research questions

【9】:Data collection

-Modes of data collection

【10】:General writing guidelines

-Organization of a dissertation

-General requirements of a dissertation

【11】:Writing the literature review

-The purpose of the literature review

-Organization of the literature review

【12】:Writing the literature review

-Sources to include in the review

-Critical reading and writing

-Referring to the gap in knowledge

【13】:Writing the methodology chapter

-The purpose of the methodology chapter

-Organization of the methodology chapter

【14】:Summary and conclusions

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

各授業回に対応する資料を通読しディスカッションに備えること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション(Presentation):40% ディスカッション(Discussion):20% 最終レポート

割合::40%

テキスト / Textbooks

Lindy Woodrow Doing a Master's Dissertation in TESOL and Applied Linguistics Routledge 2019 9781138587298

参考文献 / Readings

その他 / Others

毎週20ページ程度の英語で書かれた専門的な文献を読むことが求められるため、参加者には一定の英語力が必要となる。

Intercultural Communication in Language Teaching

Intercultural Communication in Language Teaching

町 沙恵子 (MACHI SAEKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV184
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Stud
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC5131
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

The main aim of this course is to provide students with opportunities to enhance their understanding of how culture and thought patterns influence the performance and behaviors of second language learners, with a specific focus on Japanese learners of English. Various concepts and issues unique to the Japanese language and communication are introduced through empirical studies, and the course facilitates the exchange and proposal of ideas for effectively instructing Japanese learners of English to improve their intercultural competence.

授業の内容 / Course Contents

In this course, various topics related to intercultural communication, such as Japanese politeness, Uchi and Soto, rhetorical structure, and interactional features, are covered. Students are required to read the provided materials and orally summarize them in class, followed by discussions. Additionally, students have opportunities to apply their acquired knowledge to the development and/or revision of English Language Teaching materials. They are also tasked with completing a mini-project based on their observations, experiences, and experiments.

授業計画 / Course Schedule

【1】:Course orientation & Introduction

Why are cultural differences important?

【2】:High-context cultures vs. low-context cultures

【3】:Relationality: Amae, uchi/soto and omote/ura

【4】:The concept of self

【5】:Politeness & wakimae

【6】:Topic prominence & rhetorical structure ki-shoo-ten-ketsu

【7】:Linguistic relativity: How the Japanese language influences the way people perceive reality

【8】:Backchanneling: Aizuchi and cross-cultural interactions

【9】:Discourse analysis of Japanese conversations Part 1 (Introduction)

【10】:Discourse analysis of Japanese conversations Part 2 (Analysis)

【11】:Discourse analysis of Japanese conversations Part 3 (Summary)

【12】:Emotions and multimodality in discourse

【13】:Final mini-project (student presentations)

【14】:Final mini-project (student presentations)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド*(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
----	-----------------------	----------------	-----------------------	---------------	-----------------------

個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

About 4 hours of preparation and review are required for each class (e.g., reading given materials and preparing for oral reports). Contribution to discussion in class is very much welcomed. Students are also required to be prepared for presentation on final mini-project based on their research at the end of the course.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Oral report of chapter summary:20% Participation: Contribution to discussion in class:50%
Final mini-project: Oral presentation:30%

テキスト / Textbooks

Senko K. Maynard Japanese Communication: Language and Thought in Context University of Hawai'i Press 1997
9780824818784

参考文献 / Readings

Supplementary readings will be provided in class.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Having a basic knowledge of Japanese is preferable.

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.5.

Seminar in Applied Linguistics A

Seminar in Applied Linguistics A

細田 雅也 (HOSODA MASAYA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV185
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	全授業のうち 5 回はオンラインで実施する(第 2, 5, 8, 11, 13 回目の授業)。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。 The following 5 classes will be conducted online: The 2nd, 5th, 8th, 11th, and 13th. Details and changes will be announced in class or posted on Canvas LMS.
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC5131
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

1. Students have a good understanding of theories of vocabulary learning.
2. Students have a comprehensive understanding of empirical findings in vocabulary learning research.
3. Students can devise effective vocabulary learning methods based on the theories and empirical findings of vocabulary learning.

授業の内容 / Course Contents

Students learn theories and empirical findings related to vocabulary learning through presentations and discussions. Specifically, students will make presentations on assigned chapters from "Learning vocabulary in another language (Nation, 2022)". Following these presentations, there will be discussions focusing on the theoretical and pedagogical significance of the presented research.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: Guidance & Assigning presentation chapters and dates
- [2]: Ch. 1 The goals of vocabulary learning
- [3]: Ch. 2 Knowing a word
- [4]: Ch. 3 Teaching vocabulary and the roles of the teacher
- [5]: Ch. 4 Vocabulary and listening and speaking
- [6]: Ch. 5 Vocabulary and reading and writing
- [7]: Ch. 6 Vocabulary learning out of class
- [8]: Ch. 7 Vocabulary in specialised areas
- [9]: Ch. 8 Vocabulary-learning strategies and autonomy
- [10]: Ch. 9 Learning words from context
- [11]: Ch. 10 Word parts

【12】:Ch. 11 Deliberate vocabulary learning from word cards

【13】:Ch. 12 Finding and learning multiword units

【14】:Consolidation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

Students will make presentations of the assigned chapter using presentation software (PowerPoint, Keynote, etc.), with the aid of a PC and screen. Since the chapters for the presentation will be distributed as digital files, students are required to use a laptop computer (or tablet computer) in each class.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

- The presenter is required to thoroughly understand the assigned chapter, create presentation slides, and prepare to present them in English.
- Before the class, students are required to read the chapter that will be covered in the class and prepare for an English discussion.
- After the class, students must review the chapter that was presented and consider its relevance for research and education.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentation:30% Discussion:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

Digital files will be given.

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.6.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC, Presentation software (PowerPoint, Keynote), Word.

Students must bring their laptop computer to the class.

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.6.

Research Methods

Research Methods

エルウッド (ELWOOD JAMES ANDREW)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV186
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面) Face to face (all classes are face-to-face)
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC5131
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This course will introduce research methods in second language acquisition (SLA) and applied linguistics for master's students. By the end of the course, the following objectives will be met:

- 1.Students will be able to understand and explain the importance of research in both academic and professional areas.
- 2.Students will understand the theoretical underpinnings of quantitative inquiry.
- 3.Students will be able to identify, explain, and evaluate key concepts of quantitative inquiry such as measurement theory, variable types, psychometrics, sampling, and inferential testing.
- 4.Students will be able to achieve (2) and (3) in relation to qualitative inquiry.
- 5.Students will be able to create and defend a mini-research proposal for a research project.
- 6.Students will be versed in ethical research behavior.

授業の内容 / Course Contents

Weekly class contents are outlined in the schedule section below. Students will first learn about the importance and nature of research in SLA and applied linguistics. Our initial focus will be on quantitative approaches, after which we will look at qualitative approaches. Thereafter we will examine the nature of mixed methods research. Throughout the course, students will be required to read and question as they collect research ideas and techniques. This course will culminate with research proposals that students will submit and present in class.

授業計画 / Course Schedule

【1】: Overview of second language acquisition research

Course introduction

Assign self-introduction and research reflection

【2】: Systematic literature review methods

Developing research questions

Critical reading and analysis

Assign annotated bibliography

【3】: Variables and measurement

Sampling techniques

Experimental designs

Quasi-experimental designs

Assign journal review

【4】: Survey research

Questionnaire design

Scale development (midpoint, length, revise or use in situ)

Online research methods

【5】:Descriptive statistics

Probability distributions

Presentation of data and results (tables and figures)

【6】:Correlation and regression

ANOVA and MANOVA

Factor analysis

【7】:Qualitative research paradigms

Types of qualitative research

Trustworthiness

【8】:Interview techniques

Focus group facilitation

Narrative analysis

Visual methods

Digital ethnography

【9】:Coding techniques

Thematic analysis

【10】:Mixed methods designs

Analysis techniques

Integration strategies

Quality criteria

【11】:Research proposal workshop

【12】:Research ethics and integrity

【13】:Research proposal consultation

【14】:Research proposal presentations

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to spend a minimum of two hours per week outside of class on preparation.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation:10% Weekly homework:20% Annotated bibliography:15% 最終レポート割合::40%最終テスト割合::15%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.7.

言語コミュニケーション研究特殊講義A

Seminar in Language Communication Research A

佐藤 邦彦 (SATO KUNIHICO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV201
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6140
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

言語の、特に「意味」に関連するテーマで考察を行う上で必要な基礎知識を身に付け、様々な立場の意味論的観点を批判的に検討していくための思考力を養う。

Develop the basic knowledge required for studying language, specifically themes associated with meaning, and cultivate critical thinking skills for considering semantic perspectives from many different standpoints.

授業の内容 / Course Contents

意味論の基礎知識を紹介するための講義を交えつつ、設定したテーマに即して資料を読んだり討論を行う中で、意味論の持つ問題点について皆で考えてゆく。なお、言語学プロパーの意味論の具体的テーマとしては、語彙の意味論が中心となる。

While including lectures to introduce basic knowledge of semantics, we will read documents and conduct debates related to the themes treated in the class, to think about problems that exist within semantics. As themes of semantics in linguistics proper, lexical semantics will be treated mainly in this class.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:意味とコミュニケーション
- 【2】:意味と認識の社会的形成
- 【3】:近代言語学以前における意味に関する論考
- 【4】:記号論と意味論
- 【5】:構造主義言語学における語の意味の扱い
- 【6】:語の意味の構造
- 【7】:語と語の意味関係
- 【8】:中間発表または提出物に基づく討論
- 【9】:語彙体系上の語の価値
- 【10】:多義性と基本的意味説
- 【11】:認知言語学の観点から見た多義性
- 【12】:メタファー・メトニミーと転義
- 【13】:認知意味論におけるその他いくつかの重要概念
- 【14】:最終提出物に向けての討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用	
-------------	--

校外実習・フィールドワーク	
---------------	--

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

準備学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間レポートまたは発表:30% 出席および授業参加度:30% 最終レポート割合:40%

テキスト / Textbooks

特に指定せず、その都度プリント資料を配布する。

参考文献 / Readings

必要に応じて授業中に指示する。

言語コミュニケーション研究特殊講義B

Seminar in Language Communication Research B

高橋 里美 (TAKAHASHI SATOMI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV202
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6140
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

教室での第二言語語用論的能力の習得に関する研究に焦点を当て、その理論的背景についての理解を深めるとともに、同分野での調査研究方法全般についての基礎的な知識を獲得する。

This course is designed to provide a clear understanding of the issue of instructed second language (L2) pragmatics. Students will gain fundamental and comprehensive knowledge of both related second language acquisition (SLA) theories and general research methods for instructional effects in L2 pragmatics.

授業の内容 / Course Contents

第二言語習得研究の一分野としての「第二言語語用論」では、教室での指導をとおして第二言語語用論的能力の習得の可能性を探る試みが行われてきた。この講義では、同テーマを扱った研究に焦点を当てるが、複数の理論的枠組みにおいて考察する。対象とする理論的枠組みとは、第二言語習得研究の認知心理学的アプローチの中心的な理論である「気づき仮説」・「技能習得理論」・「用法基盤モデル」である。それぞれの理論的枠組みにおいて実践された実証研究の成果を検証する。

In second language pragmatics, one of the research areas in SLA, an attempt has been made to explore possibilities of learners acquiring their L2 pragmatic competence in classroom settings. In this course, we will focus on teaching pragmatics, but from different theoretical perspectives. The target theories will include Noticing Hypothesis, Skill Acquisition Theory, and Usage-based Model, all of which are the major theories in the cognitive and psychological approaches to SLA. We will examine the findings of empirical studies undertaken within the framework of these theories.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: 導入
- [2]: 注意と気づき: 理論的背景
- [3]: 気づき仮説と語用論的能力の習得(1)
- [4]: 気づき仮説と語用論的能力の習得(2)
- [5]: 気づき仮説と語用論的能力の習得(3)
- [6]: 気づき仮説と語用論的能力の習得(4)
- [7]: 技能習得理論: 理論的背景
- [8]: 技能習得理論と語用論的能力の習得(1)
- [9]: 技能習得理論と語用論的能力の習得(2)
- [10]: 用法基盤モデル: 理論的背景
- [11]: 用法基盤モデルと語用論的能力の習得(1)
- [12]: 用法基盤モデルと語用論的能力の習得(2)
- [13]: 最終レポートについての発表
- [14]: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修については、毎回の授業で指示する。各回の予習・復習にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:30% 課題提出および口頭発表:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

プリント配布

参考文献 / Readings

Martínez-Flor, A., Sánchez-Hernández, A., & Barón, J. L2 Pragmatics in Action John Benjamins Publishing Company 2023 9789027213655

Taguchi, N., & Roever, C. Second Language Pragmatics Oxford University Press 2017 9780194200585

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

英語論文の読解が中心となるので、高度な英文読解能力を要する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配付、課題の提出などに「Canvas LMS」を使用する。

言語コミュニケーション研究特殊講義C

Seminar in Language Communication Research C

水倉 亮(MIZUKURA RYO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV203
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6141
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This course aims to give students an in-depth understanding of the global spread of English and its influence on Japanese society.

As an outcome of their study in this course, MA students can

- 1) understand critical issues around English as a global language in Japan.
- 2) critically analyze the issues to show their reaction and comment on them.

授業の内容 / Course Contents

To meet the aim of this course, we will primarily study how English has been diffused globally and how people have learnt and used English in their context so far through the perspective of World Englishes. Furthermore, we will also study theories related to critical applied linguistics in analyzing the relationship between the English language and globalization in a critical and in-depth manner. Finally, we will apply these to understand the impact of internationalization and the spread of English in Japanese society, in particular.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction
- 【2】:What is “Globalization”?
- 【3】:The Global Spread of English: World Englishes, English as an International Language, English as a Lingua Franca
- 【4】:Postcolonialism and English in the World (Including Unequal Englishes)
- 【5】:Nativespeakerism: Who Can Claim Ownership over English?
- 【6】:Native vs Non-native English teachers (Including Learners’ Preferences and Attitudes)
- 【7】:“English-only” Policy and Communicative Approaches in English Language Education in Japanese Schools
- 【8】:JET Program: Benefits and Issues
- 【9】:Desires in English Language Education (including Posthumanism)
- 【10】:Eikaiwa Industry and Cultural Capital
- 【11】:Globalization Policy in Higher Education and English as Medium of Instruction
- 【12】:Globalization Policy and Study Abroad in English-Speaking Countries
- 【13】:Presentation Session about the Final Assignment
- 【14】:Wrap-up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

The students are expected to study for about 2 hours before and after the lesson (in total 4 hours). Concretely, students need to spend time reading materials to prepare and reflect on each lesson.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Final Assignment:35% Presentation:20% Report 1 (Annotated Bibliography):35% Report 2 (Reflection):10%

テキスト / Textbooks

Reading materials for each lesson will be distributed through the LMS system.

参考文献 / Readings

Alastair Pennycook Critical applied linguistics: A critical re-introduction. Routledge 2021 0367547775

Edgar W. Schneider English around the World: An Introduction (Cambridge Introductions to the English Language. 2nd edition. Cambridge University Press 2020 1108425372

Adrian Holliday The Struggle to Teach English as an International Language. Oxford University Press 2013 9780194421843

Stephanie Ann Houghton, Damian J. Rivers Native-speakerism in Japan: Intergroup dynamics in foreign language education. Multilingual Matters 2013 1847698697

Philip Seargeant The idea of English in Japan: Ideology and the evolution of a global language. Multilingual Matters 2009 9781847692016

Alastair Pennycook Posthumanist applied linguistics. Routledge 2017 9781138209244

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

All contents in this course will be entirely conducted in English. Students will be expected to have enough Academic English knowledge and skills to understand the lecture, join discussions, make a presentation, and write academic papers. The approximate standard of English language proficiency can be Upper B2 - C1 level in CEFR.

Particularly for writing assignments, students need to know how to use APA 7th to cite and quote other people's ideas and make a bibliography.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC or Tablet

その他 / Others

The lecturer does not have his office on any campuses. If you want to have tutoring to ask questions and talk about research during office hours, you need to send an e-mail to make an appointment. Basically, tutoring will be held through Zoom.

言語コミュニケーション理論

Theories of Language Communication

石川 文也 (ISHIKAWA FUMIYA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV204
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6140
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

言語学の基礎的知識を(再)確認し、大学院博士前期課程の授業で扱う内容の理解を深めるための基盤を(再)構築することを目的とする。

The goal of this seminar is to review the fundamental knowledge of linguistics, and to create and reinforce the foundation for furthering understanding of content introduced in master's program classes at this university.

授業の内容 / Course Contents

20世紀初頭に萌芽的学問として記号論の枠組みの中に生まれ、それを包括するものとして定義された言語学はその後、どのように発達したのか。言語学の登場は、西洋世界が培ってきた伝統的な人間科学の知の体系にどのような修正を加え、あるいは加えなかったのか。さらには、今日の言語学は、現代の人間科学の知の体系の中にどのように位置づけるのか。このような問題を提起しながら、言語学と密接なかわりを持つ人文社会科学の諸分野との関係を考察し、言語学のエピステモロジーを明らかにしていく。授業では主に学生によるテキストの輪読と報告をおこなう。

How has linguistics evolved from its origination as a budding field of study within the framework of semiotics in the early 20th century into the comprehensive study that defines that framework? How has the advent of linguistics changed (or not changed) the system of knowledge of traditional human science cultivated in the Western world? In addition, how does linguistics currently fit into the system of knowledge of contemporary human science? Students will tackle problems of this nature as they consider the relationships between linguistics and various, closely related fields in the humanities and social sciences to gain a clearer view of the epistemology of linguistics. Classes are structured around students taking turns reading texts and giving reports.

授業計画 / Course Schedule

【1】: イントロダクション

【2】: ことばの科学の見取り図(1)

【3】: ことばの科学の見取り図(2)

【4】: 言語の研究

【5】: 語の構造

【6】: 文の構造

【7】: 語の意味(1)

【8】: 語の意味(2)

【9】: 文の意味

【10】: 言語の種類

【11】: 言語の変化

【12】: 音の構造(1)

【13】: 音の構造(2)

【14】:まとめ**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

初回の授業で各回のための準備学習を指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論, 質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

風間喜代三 ほか 『言語学』(第2版) 東京大学出版会 2004 9784130820097

参考文献 / Readings

授業中に配付するプリントあるいはメールの添付ファイルなどによって随時紹介する。

その他 / Others

* 上記の「授業計画」は、履修者数や指導の進捗状況にあわせて調整する可能性がある。

* 学生の報告あるいは提出物について、口頭あるいは筆記によってコメントする。

* やむを得ず休講となった場合、内容を繰り下げて補講日に補講をおこなうか、それに代わる課題を出す。

言語教育研究特殊講義A

Seminar in Language Education Research A

第二言語習得研究における再現研究

鈴木 駿吾 (SUZUKI SHUNGO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV205
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6140
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業の主な目標は以下の通りです:

1. 第二言語習得研究における再現研究の意義とあり方について理解する
2. 第二言語習得研究における再現研究の研究計画を立てることができる
3. 第二言語習得研究における再現研究を用いた論文について批判的に考察する

The primary objectives of the course are to:

1. familiarise students with the significance and methodology of replication studies in second language acquisition research;
2. enable students to design replication research in second language acquisition; and
3. enable students to critically analyze previous replication studies in second language acquisition research

授業の内容 / Course Contents

このコースでは、第二言語習得研究における再現研究(Replication study)について、分野における意義や再現研究の実施方法について議論する。また受講者が関心のある領域における既存の再現研究を扱いながら批判的に考察し、自身でも再現研究を用いた研究計画を立案する。そのために、学生は読み物、プレゼンテーション、グループディスカッションに参加することが求められる。

This course addresses the significance and implementation methods of replication studies in second language acquisition research, critically examining existing replication studies in students' areas of interest. Students will also develop their own research plans using replication studies. To this end, students are required to engage with assigned readings, student presentations, and group discussion.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: Ch.1 Introduction: Why Replication Research Matters
- 【3】: Ch.2 Finding a Study to Replicate
- 【4】: Ch.3 Planing Your Replication Research Project
- 【5】: Ch.4 What Kind of Replication Should You Do? (1)
- 【6】: Ch.5 What Kind of Replication Should You Do? (2)
- 【7】: Ch.6 Executing and Writing Up Your Replication Study (1)
- 【8】: Ch.7 Executing and Writing Up Your Replication Study (2)

- 【9】: Ch.8 Disseminating Your Research
- 【10】: Reading Week (independent research)
- 【11】: Replication studies selected by students (1)
- 【12】: Replication studies selected by students (2)
- 【13】: Replication studies selected by students (3)
- 【14】: Student research proposal presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド [*] (パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

学生は、各週に指定された教科書の章や論文を読む必要がある。詳細は授業内にて提示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 積極的な授業への貢献:25% 学生プレゼンテーション:25% 研究計画に関するプレゼンテーション:30% 研究計画書:20%

テキスト / Textbooks

Graeme Porte, Kevin McManus Doing Replication Research in Applied Linguistics Routledge 2019 1138657352

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

授業自体は日本語で実施しますが、毎週 20 ページ程度の英語で書かれた専門的な文献を読むことが求められるため、参加者には一定の英語力が必要となる。

その他 / Others

<https://shungosuzuki.wordpress.com/>

言語教育研究特殊講義B

Seminar in Language Education Research B
 語学教育のためのスタンダード(Standard for Language Education)

金庭 久美子(KANENIWA KUMIKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV206
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6140
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本科目では、自身の外国語学習を振り返ると共に、言語教育の基盤となる語学教育のためのスタンダードを理解し、語学教育の現場に生かす能力を身につけることを目標とする。

The purpose of this course is to reflect on one's own foreign language learning, to understand the standards for language education referenced in language education and to acquire the ability to apply them to the field of language education.

授業の内容 / Course Contents

語学教育で参照されている語学教育のためのスタンダードのうち、「ACTFL 言語運用能力基準」、「実践日本語教育スタンダード」、「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」、「JF スタンダード」などについて学び、語学教育においてそれらをどのように生かすことができるかディスカッションや教材の検討を行う。

Study about "ACTFL-OPI", "Jissen Japanese Standard", "Common European Framework of Reference for Languages", and "JF Standard for Japanese-Language Education". Discussions and study of teaching materials will be held on how they can be utilized in language education.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 語学教育のスタンダードとは/ What is the standard for language education?
- 【2】: ACTFL-OPI を知ろう/ Get to know ACTFL-OPI!
- 【3】: ACTFL-OPI の理論と実践を学ぶ/ Learn the theory and practice of ACTFL-OPI
- 【4】: ACTFL-OPI のインタビューを学ぶ/ Learn about ACTFL-OPI interviews
- 【5】: 実践日本語教育スタンダード 言語活動・言語素材と話題/ "Jissen Japanese Standard": Language activities, language materials and topics
- 【6】: 私的領域(場所)の言語活動と難易度/ Language activities and difficulty in the private sphere (location)
- 【7】: 大学という場所における言語活動/ Language Activities at the University
- 【8】: 中間課題/ Midterm Task
- 【9】: CEFR の基本的な考え方/ Basic Concept of CEFR
- 【10】: CEFR が生まれた背景・CEFR が目指す言語教育/ Background of the CEFR and the CEFR's Goals for Language Education
- 【11】: CEFR が考える言語能力・CEFR から教育実践/ CEFR's concept of linguistic competence and CEFR to educational practice
- 【12】: JF スタンダード知識編/ JF Standard Knowledge Section
- 【13】: JF スタンダード実践編/ JF Standard Practice Section
- 【14】: 期末課題/ Final Task

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(ハワホ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。/ Instructions on learning outside of class time will be given separately as necessary.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表・レポート(Presentation and Report)(中間30%、期末30%):60% 平常点(Usual performance score)(授業内に指示した提出物30%、ディスカッション10%):40%

2/3以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。/ No credits can be earned for students who do not attend at least 2/3 of the classes.

テキスト / Textbooks

鎌田修他『OPIによる会話能力の評価』凡人社 2020 9784893589705

奥村三菜子他『日本語教師のためのCEFR』くろしお出版 2016 9784874247013

山内博之他『実践日本語教育スタンダード』ひつじ書房 2013 9784894764637

参考文献 / Readings

Council of Europe『外国語教育Ⅱ 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』朝日出版社 2004 9784255002934

国際交流基金『JF日本語教育スタンダード【新版】利用者のためのガイドブック(web版)』国際交流基金 2017

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

自身の語学学習の経験や教授経験についてふり返り、発言できるようにしてください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ネット上のツールを利用するためPCを持参してください。

その他 / Others

- ・資料の配布、課題の提出などに「Canvas LMS」を使用する。
- ・毎週の発表者を決め、全員でディスカッションを行いながら、テキストを読み進めていくことを予定している。
- ・中間、期末発表の課題については「Canvas LMS」上で告知する。
- ・中間課題、期末課題の内容をレポートにして提出すること。後日「Canvas LMS」またはメールにてフィードバックを行う。

言語教育研究特殊講義C

Seminar in Language Education Research C
バイリンガリズムとバイリンガル教育
(Bilingualism and Bilingual Education)

佐々木 美帆 (SASAKI MIHO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV207
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6143
使用言語	その他	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業ではバイリンガリズムおよびマルチリンガリズムとその教育について国内外の学術研究をベースに学びます。どのように子どもと大人が二つ以上の言語を習得しバイリンガル・マルチリンガル環境がその言語発達に影響するかについて理解を深めます。

This course provides students with an opportunity to learn about bilingualism/multilingualism and its education based on academic research in the world. Through readings and discussion, students will develop understanding on how children and adults acquire more than one language and how bilingual and multilingual environments affect their language development.

授業の内容 / Course Contents

このセミナーではバイリンガルやマルチリンガルといわれる子どもおよび大人がどのような環境で成育しどのように言語を習得・使用しているのかを、言語学、心理学、教育の分野のクラシックおよび最近のバイリンガル研究について英語および日本語で読み、ディスカッションを行います。セミナーで扱う広範囲にわたるバイリンガリズムおよびバイリンガル教育研究をもとに、各自興味のある分野について文献研究のショートプレゼンテーションを行い最終レポートにまとめます。

Students will learn how bilingual/multilingual children and adults grow up and how they acquire and learn their languages by reading the classic and recent bilingual studies in linguistics, psychology and education. The reading materials will be given either in English or Japanese and they will discuss in either language. Based on the readings covering the extensive areas of bilingualism and bilingual education research, students are required to give a presentation on the related area and write a short review paper as a final report.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: Introduction: Who is Bilingual?
- [2]: Bilingualism and Multilingualism
- [3]: The Measurement of Bilingualism
- [4]: Bilingual Language Acquisition: The Early Development of Bilingualism
- [5]: Bilingual Language Acquisition: The Later Development of Bilingualism
- [6]: Reading Development and Writing Systems
- [7]: Bilingualism Research Topics / Essay Writing Skills
- [8]: Bilingual Cognition
- [9]: Bilingual Brain
- [10]: Types of Education for Bilingual Students / Translanguaging
- [11]: Bilingualism

【12】: Bilingual Identity

【13】: Presentations & Discussion

【14】: Bilingualism in Japan

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

毎回の授業で指示する教科書の章や配布資料を読み、積極的な授業準備を期待します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度および出席(Class Participation):50% プレゼンテーション(Presentation):20%

最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

Baker, C. & Wright, W.E. Foundations of Bilingual Education and Bilingualism (7th edition) Multilingual Matters 2021 9781788929882

Wright, W.E. & Baker, C. Foundations of Bilingual Education and Bilingualism (8th edition) Multilingual Matters 2025 9781836680536

参考文献 / Readings

中島和子 『完全改訂版バイリンガル教育の方法:12歳までに親と教師ができること』 アルク 2016

フランソワ・グロジャン 『バイリンガルの世界へようこそ:複数の言語を話すということ』 勁草書房 2018

Grosjean, F. The Mysteries of Bilingualism Wiley Blackwell 2022 9781119602378

ビオリカ・マリアン 『言語の力』 KADOKAWA 2023 9784046063779

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配付、授業中の課題の提出などに「Canvas LMS」を使用するので、授業にPC・タブレットを持参してください。

言語教育理論A

Theories of Language Education A
Early English Education

居村 啓子 (IMURA KEIKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV208
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6140
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

このコースでは、早期英語教育の最新の理論を学び、グローバルな視点からこどもの第二言語習得について考察し、「英語教育は早ければよいのか」という問いについて議論していきます。また理論に基づいた具体的な指導法を学び、第二言語の環境、外国語の環境それぞれのコンテキストに於ける教育の在り方について学ぶことを目標とします。

In this course, students will explore the latest theories on early English education and examine children's second language acquisition from a global perspective, engaging in discussions around the question, "Is earlier always better for English education?" Additionally, they will study specific instructional methods based on these theories, aiming to understand effective approaches to education in the contexts of both second language and foreign language environments.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、まず言語政策、年齢的要因、早期英語学習者の動機付けについて学び、早期英語教育の全体像を学びます。次に4技能の指導、文法指導、語彙指導、CLIL等の指導法や、シラバス、教材、アセスメントについてふれ、こどもの第二言語教授法の基本をつかみます。さらに最近の研究や、東アジア地域に於ける早期英語教育について、そして日本に於ける小学校英語教育の在り方について考察します。

Students will first learn about language policy, age-related factors, and the motivation of young English learners to gain a comprehensive understanding of early English education. Next, they will study instructional approaches for the four skills, grammar teaching, vocabulary teaching, and methods such as CLIL, as well as syllabus design, materials, and assessment, to acquire the fundamentals of teaching second languages to children. Furthermore, students will examine recent research, early English education in East Asia, and the role of English education in Japanese elementary schools.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: Language policy and English for young learners in early education
- [2]: The age debate: a critical overview
- [3]: Young learners' motivation for learning English
- [4]: Fostering young learners' listening and speaking skills
- [5]: Teaching reading and writing to young learners
- [6]: Teaching grammar to young learners
- [7]: Vocabulary teaching for young learners
- [8]: CLIL in the primary school context
- [9]: Gaming and young learners
- [10]: Syllabus development in early English language teaching
- [11]: Materials for early language learning

【12】: Assessment of young English language learners

【13】: Research issues with young learners

【14】: Early English language learning in East Asia

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Students are required to read the assigned section in the textbook, make a session note, preparing for discussions in class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% セッションノート (Session notes):30% プレゼンテーション (Presentations):30% リアクションペーパー(Reaction paper):20% 最終レポート割合:20%

テキスト / Textbooks

Sue Garton and Fiona Copland The Routledge Handbook of Teaching English to Young Learners Routledge 2022
9781032338972

参考文献 / Readings

Annamaria Pinter Teaching Young Language Learners Oxford 2017

David Nunan Teaching English to Young Learners Anaheim University Press 2010

Janice Bland Teaching English to Young Learners: Critical Issues in Language Teaching with 3-12 Year Olds
Bloomsbury 2015

Teaching and Learning Vocabulary

Teaching and Learning Vocabulary
 Second language vocabulary acquisition

中田 達也 (NAKATA TATSUYA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV254
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6141
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

By the end of this course, students will be able to understand key concepts and theories in second language vocabulary acquisition and apply research findings to their teaching and learning practices. Topics covered will include the goals of vocabulary learning, the concept of "knowing a word," the roles of teachers, vocabulary learning strategies, multiword units, and vocabulary testing.

授業の内容 / Course Contents

Through reading assignments, lectures, and group discussions, students will acquire basic principles of second language vocabulary acquisition. Students will also be asked to participate in a number of group activities to better understand the concepts and theories covered in class.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Introduction
- 【2】: The goals of vocabulary learning (1)
- 【3】: The goals of vocabulary learning (2)
- 【4】: Knowing a word (1)
- 【5】: Knowing a word (2)
- 【6】: Teaching vocabulary and the roles of the teacher (1)
- 【7】: Teaching vocabulary and the roles of the teacher (2)
- 【8】: Word parts
- 【9】: Deliberate vocabulary learning from word cards
- 【10】: Finding and learning multiword units
- 【11】: Testing vocabulary knowledge and use (1)
- 【12】: Testing vocabulary knowledge and use (2)
- 【13】: Designing the vocabulary component of a language course
- 【14】: Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Assignments:40% Participation:30% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

Nation, I. S. P. Learning vocabulary in another language (3rd ed.) Cambridge University Press 2022 1009096176

参考文献 / Readings

中田達也 『英単語学習の科学』 研究社 2019 4327452890

その他 / Others

<https://www.howtoeigo.net/>

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.5.

Seminar in Applied Linguistics B

Seminar in Applied Linguistics B

渡辺 英雄 (WATANABE HIDEO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV258
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6141
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

Upon successfully completing this course, students should be able to:

- (1) Understand the fundamental approaches to discourse analysis.
- (2) Demonstrate comprehension of terminology used in discourse analysis.
- (3) Apply concepts developed in discourse analysis to other fields of study.

授業の内容 / Course Contents

This course introduces students to the field of discourse analysis by exploring major areas such as society, pragmatics, genre, critical discourse analysis, and multimodality. It provides a framework for understanding both verbal and non-verbal communication.

The course also emphasizes the practical application of discourse analysis in fields such as language teaching and media studies.

Students will learn to analyze language and non-verbal features through the lens of discourse analysis, developing a deeper understanding of communication in various contexts.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:What is discourse analysis?
- 【2】:Discourse and society
- 【3】:Discourse and pragmatics
- 【4】:Intercultural pragmatics
- 【5】:Discourse and genre
- 【6】:Genre in educational settings
- 【7】:Discourse grammar
- 【8】:Appraisal (evaluative language)
- 【9】:Multimodal discourse analysis
- 【10】:Discourse and digital media
- 【11】:Critical discourse analysis
- 【12】:Doing critical discourse analysis
- 【13】:Student presentation
- 【14】:Student presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
----	--	---------------	---	---------------	--

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Students are required to read the textbook for each lecture.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Report 1:30% Report 2:35% Presentation:35%

テキスト / Textbooks

Paltridge, Brian Discourse Analysis An introduction Bloomsbury 2022 9781350093638

参考文献 / Readings

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.5.

Seminar in Applied Linguistics C

Seminar in Applied Linguistics C
 Language Teaching in Japan

キアナン, P. (KIERNAN PATRICK J.)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV259
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Face-to-face only
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6141
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

By the end of this course, students will:

1. To have an understanding of the main linguistic and cultural differences between Japanese and English that affect the teaching of speaking and listening to Japanese learners
2. To have an understanding of the principal methods and techniques for teaching speaking and listening and the philosophies behind the approaches that govern them
3. To develop an awareness of identity issues in the world today
4. To have an understanding of the range of issues impacting the teaching of English listening and speaking in Japanese classrooms today.

授業の内容 / Course Contents

This course is primarily aimed at those with potential plans to teach English speaking to Japanese learners but should also be relevant to those concerned with cultural and linguistic differences between Japanese and English, as well as those interested in current approaches to language teaching. The first half of the course focuses on cultural and linguistic differences between Japanese and English with a particular focus on areas of common difficulty. It also explores the reasons behind these difficulties. The second half of the course focuses on practical ways to address these issues through classroom activities designed to motivate, engage, and build listening and speaking skills. Course participants will also have opportunities to share their own areas of interest.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Introduction and overview
- 【2】: Katakana English
- 【3】: Discourse Intonation: Teaching pronunciation
- 【4】: Politeness in Japanese and English
- 【5】: “Authenticity” in teaching English in Japan
- 【6】: Vocabulary and spoken language
- 【7】: From native/non-native to trans-speakersism
- 【8】: The JET-Program
- 【9】: Encounters with students
- 【10】: Student presentations
- 【11】: Bilingual identities
- 【12】: Bilingualism in Japan
- 【13】: Historical perspectives on language teaching in Japan

【14】:Review and final quiz

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

Reading and written reflections will be assigned as homework and feedback provided on a weekly basis.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Reading (preview for the following class) and reflection (written review of comments on the previous class submitted to canvas).

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation and classwork:30% Mid-term review/presentation:20% Reflection papers:30%
Final review/presentation:20%

テキスト / Textbooks

All materials will be provided in class and posted on Canvas.

参考文献 / Readings

Any additional materials will be linked or posted on Canvas only but introduced orally in class.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Participants should be confident speakers of English, ideally with experience or interest in language teaching and/or learning. Being able to read academic papers in English would be useful, though the overall content of readings will be introduced orally using PPT during class.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Laptop/tablet and/or paper notebook would be useful (though not required).

その他 / Others

Hopefully you will be able to both learn from this class and share any experiences or ideas that you may have with teaching or learning language or the challenges this can involve.

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.5.

Psychology of the Language Learner

Psychology of the Language Learner

マーティン, R (MARTIN, RON R.)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV260
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6141
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

By the end of the course, students will understand and be able to explain the complexities of "who" a language learner is. To do so, students will explore the roles of socializers and the self on competency and value beliefs. Students will understand affect, motivation, and agency and be able to assess teaching practices in relation to each. It is expected that students will also be able to understand the complexities of "who" a teacher is, and thus, students should be able to assess a language learning classroom dynamic from multiple psychological perspectives.

授業の内容 / Course Contents

The course will cover the development of the self. In order to understand said development, the course will cover the influential roles of culture, socializers, education, and the self on beliefs, affect, motivation, and agency. The course will conclude with practical implications in the classroom.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Psychology in education
- 【2】: Theoretical approaches to understanding educational psychology
- 【3】: Group dynamics
- 【4】: The self: Definition
- 【5】: Beliefs
- 【6】: Comptency beliefs & value beliefs
- 【7】: Affect
- 【8】: Motivation: Theory
- 【9】: Motivation: In the classroom
- 【10】: Agency
- 【11】: Willingness to Communicate & teaching practice
- 【12】: Academic article review 1
- 【13】: Academic article review 2
- 【14】: Prooject Presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

The course will be carried out via discussions. Generally speaking, students read an assigned reading, discuss the reading based on discussion questions, and have the topic reinforced via a class-level discussion.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Study required outside of class will be determined in consultation with the instructor throughout the semester.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation:25% Reading summaries and homework:25% Reflection papers:20% Project and report:30%

テキスト / Textbooks

None.

参考文献 / Readings

Readings will be provided by the instructor.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful to have a device in class (e.g., a tablet or laptop) to view materials distributed via Canvas.

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.5.

Seminar in Language Curriculum A

Seminar in Language Curriculum A
 Content and Language Integrated Learning (CLIL)

居村 啓子 (IMURA KEIKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV261
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6141
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

The objective of this course is to deliver an overview of Content and Language Integrated Learning (CLIL) and facilitate students' understanding of CLIL-based approaches and pedagogies. Throughout the course, students will learn the principles and methodology of CLIL from a wide range of readings and extensive discussions.

授業の内容 / Course Contents

In this course, I will introduce Content and Language Integrated Learning (CLIL) as an educational approach in which a target language is used for the learning and teaching of both content and language. The course will cover the theoretical frameworks of CLIL and explicate the fundamental differences between the existing educational approaches as well as content-based language teaching and immersion programs. Students will not only learn the academic background of CLIL, but learn how it can be put into practice. They will be asked to conduct micro-teaching based on CLIL methodology.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction: what is CLIL?
- 【2】:A window on CLIL
- 【3】:Curricular variation in CLIL
- 【4】:CLIL as a theoretical concept
- 【5】:The CLIL Tool Kit: Transforming theory into practice
- 【6】:Evaluating and creating materials and tasks for CLIL classrooms
- 【7】:Assessment issues in CLIL
- 【8】:Evaluating the impact of CLIL programmes
- 【9】:Future directions
- 【10】:Micro teaching 1
- 【11】:Micro teaching 2
- 【12】:Micro teaching 3
- 【13】:Micro teaching 4
- 【14】:Wrap-up and feedback

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>

実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

This is a presentation and discussion-oriented course. Students will also conduct Micro-teaching in class.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Students will read the assigned reading materials beforehand and prepare for review and discussion sessions in class.

Three reaction papers will be required during the semester.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentations:20% Reaction papers:30% Micro teaching:30% 最終レポート割合::20%

テキスト / Textbooks

Do Coyle, Philip Hood, David Marsh Content and Language Integrated Learning Cambridge 2010 9780521130219

Additional materials will be provided as necessary.

参考文献 / Readings

Fred Genesee and Else Hamayan CLIL in Context: Practical Guidance for Educators Cambridge 2016

9781316609453

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.5.

Seminar in Language Curriculum B

Seminar in Language Curriculum B

山本 有香 (YAMAMOTO YUKA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV262
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面科目
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6141
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

By the end of the course, you will be able to:

- Define the concept of curriculum and apply the concept to design an English curriculum
- Explain the different approaches and types of syllabuses
- Describe the procedures for designing a syllabus
- Create a syllabus for your course

授業の内容 / Course Contents

In this course, you will gain a basic grounding in the principles and practice of curriculum development and syllabus design in the context of English language teaching.

We will begin by presenting a discussion about language curriculum development. We will then look at the different syllabus models to design a suitable syllabus for your student's needs. You will engage in demo lessons, create a syllabus for your class, and give a presentation about your syllabus at the end of the semester.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction to the course
- 【2】:What is a curriculum?
- 【3】:Introducing different types of syllabi (1): Functional syllabus and lesson plan
- 【4】:Demo lesson 1
- 【5】:Introducing different types of syllabi (2): Skills-based syllabus and lesson plan
- 【6】:Demo lesson 2
- 【7】:Introducing different types of syllabi (3): Task-based syllabus and lesson plan
- 【8】:Demo lesson 3
- 【9】:Introducing different types of syllabi (4): CLIL syllabus and lesson plan
- 【10】:Demo lesson 4
- 【11】:Procedures for syllabus design: Needs analysis; Course goals & objectives
- 【12】:Procedures for syllabus design: Assessment
- 【13】:Preparation for presentation
- 【14】:Individual Presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>

実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

You are required to submit your assignments on the scheduled dates. If you cannot, you must contact the instructor in advance for other possible arrangements.

Late assignments are to be submitted in digital form as soon as possible. You can bring the assignment in printed form to the following class if submitted electronically.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Demo Lessons (X 4):40% Class Participation:20% 最終レポート割合::20%最終テスト割合::20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.5.

Seminar in Language Curriculum C

Seminar in Language Curriculum C

マーティン, R (MARTIN, RON R.)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV263
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6141
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This course 1) offers an introduction to Japanese education system, and 2) helps students understand certain features of Japanese learners of English. By the end of the course, students will have basic understanding about the history and current situations of English language education in Japan, and specific features of Japanese learners of English and what it means to study English for the Japanese students. Furthermore, students will examine and consider teaching methodologies and culturally responsive teaching that are suitable to Japanese learners of English.

授業の内容 / Course Contents

The present course covers basic knowledge about Japanese education system and English language education, focusing specifically on Japanese contexts and learners. Students will examine and deepen their understanding through lectures and discussing issues related to English language education policies and Japanese learners of English. Opportunities to conduct lesson demonstrations will efficiently enhance students' practical and culturally responsive teaching skills.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Introduction
- 【2】: History of English language education in Japan
- 【3】: Course of study & Government policies
- 【4】: English language education in Japanese classrooms (practices): primary and junior high schools
- 【5】: English language education in Japanese classrooms (practices): senior high school and university
- 【6】: Internationalization of higher education (EMI)
- 【7】: Lesson plans, teaching methodologies, and team-teaching in Japanese schools
- 【8】: Lesson demonstration 1
- 【9】: Issues of English language education in Japan 1
- 【10】: Issues of English language education in Japan 2
- 【11】: Teacher education and teacher license,
Team-teaching
- 【12】: CLIL activities and planning CLIL
- 【13】: Lesson demonstration 2
- 【14】: Course review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>

実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

To be announced in class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance, class participation and homework:30% Lesson plans and demonstrations:35%
Reflection papers and a Report:35%

テキスト / Textbooks

Necessary materials will be announced in the first class.

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful to have a device in class (e.g., a tablet or laptop) to view materials distributed via Canvas.

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.5.

Bilingualism and Language Contact

Bilingualism and Language Contact

水倉 亮(MIZUKURA RYO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV265
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6141
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

Through this course, all students are primarily expected to have a deep understanding of key theories in the area of Bilingualism in Applied Linguistics.

As an outcome of their study in this course, MA students can

- 1) apply these theories to understand current issues related to bilingual education
- 2) critically analyze the issues to show their reaction and comment on them.

授業の内容 / Course Contents

In this course, students will first learn about essential theories in Bilingualism. Specifically, the course will focus on phenomena that occur both inside and outside the foreign language teaching classroom, including the differences between the processes of native language acquisition and foreign language acquisition, the nature of pedagogical intervention by foreign language teachers in facilitating language learning, and issues of identity for bilingual learners and teachers. Ultimately, students can critically analyze and explain various phenomena related to bilingualism using the theories they have learned.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Introduction
- 【2】: Bilingualism: Key Concepts, Definitions, and Distinctions
- 【3】: Language Development of Early Bilinguals
- 【4】: Language Development of Late Bilinguals
- 【5】: Code-switching vs Translanguaging
- 【6】: Translanguaging in Classrooms
- 【7】: Sociocultural Theory 1: Inter- and Intra-Mental Process of Bilingual Learners
- 【8】: Sociocultural Theory 2: Bilingual Learners in Immersion Program
- 【9】: Sociocultural Theory 3: Inter- and Intra-communication of Bilingual Learners
- 【10】: Current Issues 1: Bilingual Learners and Their Identity
- 【11】: Current Issues 2: Bilingual Learners and Their Emotional Aspects
- 【12】: Current Issues 3: Standard Language and Native-Speakerism Ideology
- 【13】: Current Issues 4: Non-Native English Teacher's (Bilingual Teacher's) Identity
- 【14】: Wrap-up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

The students are expected to study for about 2 hours before and after the lesson (in total 4 hours). Concretely, students need to spend time reading materials to prepare and reflect on each lesson.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Final Assignment:35% Presentation:20% Report 1 (Annotated Bibliography):35% Report 2 (Reflection):10%

テキスト / Textbooks

Reading materials for each lesson will be distributed through the LMS system.

参考文献 / Readings

Colin Baker, Wayne E. Wright Foundations of bilingual education and bilingualism 7th edition. Multilingual matters 2021 9781788929882

Merrill Swain, Penny Kinneer, Linda Steinman Sociocultural Theory in Second Language Education: An Introduction through Narratives. Multilingual matters 2015 9781783093168

Suresh Canagarajah Translingual Practice: Global Englishes and Cosmopolitan Relations. Routledge 2012 9780415684002

Li Wei, Ofelia García Translanguaging Language, Bilingualism and Education. Palgrave Pivot 2014 9781137385758

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

All contents in this course will be entirely conducted in English. Students will be expected to have enough Academic English knowledge and skills to understand the lecture, join discussions, make a presentation, and write academic papers.

Particularly for writing assignments, students need to know how to use APA 7th to cite and quote other people's ideas and make a bibliography.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC or Tablet

その他 / Others

The lecturer does not have his office on any campuses. If you want to have tutoring to ask questions and talk about research during office hours, you need to send an e-mail to make an appointment. Basically, tutoring will be held through Zoom.

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.5.

通訳翻訳テクノロジー論

Technologies for Translators and Interpreters

Theoretical and Practical Foundation for Advanced Technologies in Translation and Interpretation

山田 優(YAMADA MASARU)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV306
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンライン会議の機能を通してしか得られないサービス(リアルタイム翻訳、文字起こし等)の実践と理論を学ぶために全授業回のうち 2 回はオンラインで実施する(7・8 回目の授業)。なお、オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6243
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

このコースは、プロの翻訳者やプロジェクトマネージャーといった言語学専門家が利用する技術に関する基本的な知識と実践的な経験を学生に提供することを目的としています。コースで扱う技術には、ニューラル機械翻訳(そのカスタマイズを含む)、ポストエディットおよびリエディットツール、翻訳メモリや用語管理ツールといった従来型の CAT ツール、字幕作成ツールなどが含まれます。また、コースを通じて、研究目的で技術を活用する方法や、コーパス分析、テキストマイニング、翻訳プロセス研究のデータ収集手法といった技術も学ぶことが期待されています。

This course aims at equipping students with basic knowledge and experiences of technologies utilized by linguists such as professional translators and project managers. The technologies to be covered in the course are Neural Machine Translation, including customization of it, post-editing and pre-editing tourniquets, orthodox CAT tools such as translation memory, terminology management tools, subtitling tools. Through the course, students are also expected to learn how to use technologies for research purposes, techniques such as corpus analysis, text mining, translation process research data collection methods.

授業の内容 / Course Contents

このコースは以下の内容で構成されています:

- RNN、Transformer、単語埋め込みなど、生成 AI の基本的な仕組みの理解、
- 翻訳メモリや用語管理ツールを含む CAT ツールの習得(ポストエディットおよびリエディットの効果的な実践を含む)、
- 機械翻訳のカスタマイズに関する知識(ドメイン適応やコーパスデータのクレンジングを含む)、
- プロジェクト管理やローカリゼーションツールに関する知識の習得。

また、テーマにはポストエディット、コントロールドランゲージ、音声認識、データ分析、プライバシー保護も含まれます。コースを通じて、学生は関連する記事を読み、議論に参加し、指定された課題を遂行することが求められます。このコースはインタラクティブかつ参加型の形式で進行し、各トピックについて積極的に学ぶことが求められます。また、学んだ内容を授業内で課される翻訳プロジェクトに反映することが期待されています。

The course consists of a) understanding of the basic mechanism of Generative AI such as RNN, Transformer, word embedding, b) mastering CAT tools including translation memory, terminology management tools, including effective practice in post-editing and pre-editing, c) being familiar with customizing machine translation, including domain adaptation and corpus data cleansing, d) being knowledgeable of project management and localization tool. The theme also covers post-editing, controlled language, speech recognition, data analyses, and privacy protection.

Throughout the course, students will be asked to read relevant articles, join a discussion, and complete assignments as specified. This course will be interactive and participative, in which students will be requested to study actively each subject and reflect what they learn onto their translation projects to be assigned in classes.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction
- 【2】:CAT tools 1
- 【3】:CAT tools 2
- 【4】:Post-editing 1
- 【5】:Post-editing 2
- 【6】:Machine translation 1: History
- 【7】:Machine translation 2 Theory
- 【8】:Machine translation 3: Domain adaptation
- 【9】:Terminology management and Project management
- 【10】:Data cleansing, data mining, corpus analysis
- 【11】:Data-driven research and translation process research 1
- 【12】:Data-driven research and translation process research 2
- 【13】:Total workbench environment
- 【14】:Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Reading assignments will be given respectively. Students will be asked to join discussions on the assigned articles.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Reflection paper:20% Homework assignments:30% Project-based assignments:50%

テキスト / Textbooks

Articles and handouts will be provided in class.

参考文献 / Readings

Minako O'Hagan The Routledge Handbook of Translation and Technology Routledge 2019 9781138232846

坂西優・山田優 『自動翻訳大全』 三オブックス 2020 4866731931

ティエリー・ポイボー, 中澤 敏明 『機械翻訳:歴史・技術・産業』 森北出版 2020 4627851812

その他 / Others

https://researchmap.jp/yamada_trans

会議通訳入門

Introduction to Conference Interpreting
 Introductory course of the Conference Interpreting Program

バギューリー (BAGULEY BLAKE MURCIA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV307
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC5243
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This is an introductory course of the Conference Interpreting Program.

The objectives of this course are for students to:

- 1) understand the basic concepts and modes of interpreting;
- 2) develop basic skills that support all modes of interpreting, such as active listening and content analysis;
- 3) learn how to perform consecutive interpreting between Japanese and English in both directions on general (non-technical) topics;
- 4) acquire note-taking skills to support consecutive interpreting; and
- 5) build up vocabulary on a range of topics.

授業の内容 / Course Contents

The bulk of this course will be hands-on, practical exercises. Students will be asked to actively engage in exercises in each class, beginning with basic skills for interpreting such as active listening, then moving on to consecutive interpreting with and without notes. After each exercise, there will be time taken for constructive feedback and discussion, with everyone participating.

Students will need to prepare for the topics to be covered in each class (by researching and building glossaries), record and reflect on their in-class performance, and also practice individually or in a group outside of class. The speeches/dialogues used will begin at entry level and progress to intermediate level, covering general (non-technical) topics.

授業計画 / Course Schedule

- [1]**: Course overview and introduction to modes of interpreting
 - [2]**: Introduction to active listening and memory
 - [3]**: Active listening and summarising exercises
 - [4]**: Interpreting without notes 1 (typical speeches)
 - [5]**: Interpreting without notes 2 (general topic)
 - [6]**: Interpreting without notes 3 (news, current events)
 - [7]**: Mid-term test (interpreting without notes in both directions)
 - [8]**: Review of mid-term test
- Introduction to note-taking
- [9]**: Interpreting with notes 1 (general/personal topics)
 - [10]**: Interpreting with notes 2 (social issues)
 - [11]**: Interpreting with notes 3 (numbers)

【12】: Interpreting with notes 4 (international affairs)

【13】: Final test (interpreting with notes in both directions)

【14】: Review of final test

Wrap-up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Students are required to research the topic prior to each class and build up their own bilingual glossaries. Students will need to record their performance in class, then listen back to it afterwards and write a report/reflection. In addition, students will be expected to practice interpreting individually or in a group in their own time.

Topics may change and additional remedial exercises may be recommended depending on students' progress.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Mid-term test:30% In-class performance:20% Report submission and in-class participation:10% 最終テスト割合::40%

テキスト / Textbooks

Materials will be provided in class.

参考文献 / Readings

ベルジュロ・鶴田・内藤 『よくわかる逐次通訳』 東京外国語大学出版会 2009 4904575059

Robin Setton, Andrew Dawrant Conference Interpreting: A Complete Course (Benjamins Translation Library) John Benjamins Publishing Company 2016 9789027258618

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Non-native speakers of English are required to have attained at least one of the following test scores: TOEFL iBT 100, IELTS 7.0, TOEIC 880, or Eiken 1.

Non-native speakers of Japanese are required to hold N1.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Students should bring a recording device to class (smartphone or IC recorder).

Canvas LMS will be used to distribute some learning materials before/after class and for students to submit their reports and recordings.

その他 / Others

TI@Rikkyo <http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/>

会議通訳1

Conference Interpreting 1
 Intermediate course of the Conference Interpreter Training Program

松下 佳世 (MATSUSHITA KAYO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV308
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	全授業のうち3回はオンラインで実施する(第11・12・13回)。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内またはCanvas LMS等で周知する。 The following three classes will be conducted online: The 11th, 12th and 13th. Details and changes will be announced in class or posted on Canvas LMS.
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC5243
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定	先修科目:会議通訳入門		
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

このコースは会議通訳者養成プログラムの中級科目であり、主要な国際機関が定める通訳者の能力を育成することを目的とする。授業の目的は以下の通り:

- 1)さまざまなトピックについて、ノートテイキングを用いた体系的な逐次通訳スキルを確立すること。
- 2)同時通訳の一般的なスキルと方略を身につけること。
- 3)遠隔通訳の基礎スキルを習得すること。
- 4)特定分野のトピックについて調査する能力を磨くこと。
- 5)通訳者の行動規範や倫理規程についての理解を深めること。

このコースの修了時には、専門的なトピックについて最大3分間までのセグメントを正確に逐次通訳する能力と一般的なトピックについて最大8分間のスピーチを同時通訳する能力を対面および遠隔の両面で身につけることを目指す。

This is an intermediate course of the Conference Interpreting Program, which is designed to develop interpreter competencies identified by major international institutions. The objectives of the course are for students:

- 1) to solidify skills for consecutive interpreting with systematic note-taking for speeches on various topics
- 2) to become familiar with general principles and strategies for simultaneous interpreting
- 3) to acquire basic skills in remote interpreting
- 4) to hone skills for researching domain-specific topics
- 5) to become familiar with professional conduct and the code of ethics for interpreters.

By the end of the course, students should be able to accurately interpret up to 3 minutes of speech at a time on a technical topic in the consecutive mode and interpret up to 8 minutes of speech on a general topic in the simultaneous mode both in onsite and remote settings.

授業の内容 / Course Contents

このコースでは、通訳者の職業行動と倫理規範、専門的なトピックに関する逐次通訳、および同時通訳の一般的なスキ

ルと方略について学ぶ。

英語と日本語の間の通訳を対象とし、専門的なスピーチに対する体系的なノートテイキングを用いた逐次通訳の演習を行う。また、同時通訳と遠隔通訳についての入門的な演習も実施する。

学生は授業で扱うトピックについて事前に調査を行い、授業内でのパフォーマンスについて適切なメタ言語と理論的な枠組みを用いて振り返り、分析することが求められる。

Students will be introduced to: professional conduct and the code of ethics for interpreters; preparation for interpreting speeches on domain-specific topics; and general principles and strategies for simultaneous interpreting. Students engage in exercises for consecutive interpreting between English and Japanese with systematic note-taking for technical speeches; and introductory exercises for simultaneous interpreting. Students are expected to research the topics to be used in class, and to submit reports on their in-class performance using appropriate metalanguage and theoretical references.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Introduction (professional conduct and code of ethics for interpreters)
- 【2】: Consecutive interpreting (business)
- 【3】: Consecutive interpreting (technology)
- 【4】: Consecutive interpreting (media)
- 【5】: Consecutive interpreting (politics and international affairs)
- 【6】: Mid-term test (consecutive interpreting)
- 【7】: Review of the mid-term test; general principles and strategies for simultaneous interpreting
- 【8】: Simultaneous interpreting (general)
- 【9】: Simultaneous interpreting (general)
- 【10】: Simultaneous interpreting (general)
- 【11】: Introduction to remote interpreting; consecutive interpreting (remote)
- 【12】: Simultaneous interpreting (remote)
- 【13】: Simultaneous interpreting (remote)
- 【14】: Final test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Students are required to read extensively and create bilingual glossaries of current events, research the topic to be covered in the next class, and submit a report on in-class performance after class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Final test:40% Midterm test:30% In-class performance:30%

テキスト / Textbooks

Reading materials will be distributed in class when necessary.

参考文献 / Readings

Robin Setton & Andrew Daurant Conference Interpreting: A Complete Course John Benjamins 2016 9027258627

Jones, R. Conference Interpreting Explained St. Jerome 2002 1900650576

小松達也『通訳の技術』研究社 2005 4327451916

水野的『同時通訳の理論』朝日出版社 2015 425500871

松下佳世『通訳になりたい ゼロからめざせる10の道』岩波書店 2016 4005008305

その他 / Others

Prerequisite: Students must have successfully completed Introduction to Conference Interpreting.

会議通訳2

Conference Interpreting 2
 Advanced course of the Conference Interpreting Program

住本 時久 (SUMIMOTO TOKIHISA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV309
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	全授業のうち7回はオンラインで実施する(第2・4・6・8・10・12・14回)。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。 The following seven classes will be conducted online: The 2nd, 4th, 6th, 8th, 10th, 12th and 14th. Details and any changes will be announced in class or posted on Canvas LMS.
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6243
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定	先修科目:会議通訳入門・会議通訳1(会議通訳1の成績が B 以上であること)		
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

会議通訳者が日常的に扱うトピックについて、英語から日本語へ、または日本語から英語への連続通訳や同時通訳ができるようになるための言語的・内容的知識を身につける。

Students will gain linguistic and subject knowledge that will prepare them to interpret consecutively and simultaneously, from English to Japanese and vice versa, in the topics that conference interpreters regularly handle.

授業の内容 / Course Contents

各授業では、国際ビジネスに関連するトピックを1つ取り上げる。受講生は1週間を通して、授業中に行う通訳の準備をする。授業の前半では英語から日本語へ、後半では日本語から英語への通訳ができるように準備する。受講生は、自分自身やお互いのパフォーマンスを確認し、フィードバックを受け、次回に向けた改善策を学ぶ機会を持つ。

Each class will focus on one topic related to international business. Students will prepare for the in-class interpreting task throughout the week. When they come to class, they will be ready to interpret the topic from English to Japanese in the first half and from Japanese to English in the second half of the class. Students will have the opportunity to review their own and each other's performance, get feedback, and learn how to improve for next time.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Orientation
- 【2】: Consecutive Interpreting J<>E
- 【3】: Consecutive Interpreting J<>E
- 【4】: Consecutive Interpreting J<>E
- 【5】: Simultaneous Interpreting J<>E
- 【6】: Simultaneous Interpreting J<>E

- 【7】:Midterm Test
- 【8】:Simultaneous Interpreting J<>E
- 【9】:Simultaneous Interpreting J<>E
- 【10】:Simultaneous Interpreting J<>E
- 【11】:Simultaneous Interpreting J<>E
- 【12】:Simultaneous Interpreting J<>E
- 【13】:Simultaneous Interpreting J<>E
- 【14】:Final Test

Details are subject to change depending on class mix and other factors.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポイント等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="radio"/>
上記いずれも用いない予定	<input type="radio"/>				

ビデオ教材の活用、通訳機器の利用

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Students will be required to plan for in-class interpreting activities as if they were getting ready to interpret professionally. This means preparing a glossary, reading articles on the topic, practicing interpreting, and evaluating your performance in practice.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Midterm Test:20% In-class Participation:50% Out-of-class Preparation:10% 最終レポート割合::0%最終テスト割合::20%

テキスト / Textbooks

バルジユロ伊藤宏美・鶴田知桂子・内藤稔 『よくわかる逐次通訳』 東京外国語大学出版会 2009 9784904575055

参考文献 / Readings

To be provided

その他 / Others

Prerequisite: Students must have successfully completed Introduction to Conference Interpreting and Conference Interpreting I with Grade B or above.

TI@Rikkyo <http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/>

Students who wish to enroll in this course must obtain permission from their supervisor as well as the course instructor before registering.

The course format may be in-person (7 sessions or more) or online (7 sessions or less), incl. on-demand, as necessary. The course contents are subject to change depending on learning progress.

翻訳の原理と方法

Principles and Methods in Translation

Introductory course of the Professional Translation Program

山田 優(YAMADA MASARU)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV311
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンライン会議の機能を通してしか得られないサービス(リアルタイム翻訳、文字起こし等)の実践と理論を学ぶために全授業回のうち2回はオンラインで実施する(7・8回目の授業)。なお、オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内またはCanvas LMS等で周知する。
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC5243
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本コースは、翻訳専門訓練プログラムの導入モジュールです。学生は、多様なテキストタイプの翻訳に取り組む中で、基本的な翻訳能力と技術を養成することが求められます。また、特定の翻訳方法を選択する理由や、異なる文脈で効果的な翻訳戦略について考察します。

This is the introductory module for the Translation Professional Training Program. Students are expected to develop basic translation competence and techniques while attempting to translate many different text types, and thus considering why they translate in a certain way and what translation strategies are effective in different contexts.

授業の内容 / Course Contents

このコースは、英日翻訳の初心者を対象としています。実践的なセミナーを通じて、学生は英語の原文を丁寧に読み、完全に理解し、適切な日本語表現を慎重に選択することが求められます。基本的な翻訳スキルを習得するとともに、用語管理や背景調査の手法など、より専門的なスキルも学びます。

また、コンピュータ支援翻訳(CAT)ツールの活用、用語集の作成、自己レビューおよび相互レビューもコースに含まれています。

This course is aimed at novice learners of English to Japanese Translation. Through practical seminars students are expected to read and thoroughly understand the English source texts and carefully select appropriate Japanese expressions. Along with acquiring basic translation skills, they also learn more professional skills such as terminology management and background survey techniques.

The use of computer-assisted-translation (CAT) tools, glossary preparation, self and peer review will also be included in the course.

授業計画 / Course Schedule

【1】: Introduction

【2】: Translation theory and practice: EMT

【3】: CAT tools and translation workbench

- 【4】: Translation practice 1: Selected topics
- 【5】: Translation practice 2: Selected topics
- 【6】: Translation practice 3: Selected topics
- 【7】: Localization 1
- 【8】: Localization 2
- 【9】: Subtitling 1
- 【10】: Subtitling 2
- 【11】: Technical documents 1
- 【12】: Technical documents 2
- 【13】: Review
- 【14】: Final report

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Students are expected to work on assignments every week and submit them before the next class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation:30% Assignemnts:40% Final report:30%

テキスト / Textbooks

Handouts will be provided in class.

参考文献 / Readings

光藤 京子, 田辺 希久子 『英日日英 プロが教える基礎からの翻訳スキル』 三修社 2008 9784384055061

その他 / Others

英語の非母語話者は TOEFL iBT 100, TOEIC 880, IELTS 7.0, または英検1級を取得しておくこと。日本語の非母語話者は N1 を取得しておくこと。

初回の授業には必ず出席してください。授業内容は、クラスの構成等により変更する可能性があります。

全授業回のうち3回のみオンライン実施(実施回については「Canvas LMS」で指示する)。

翻訳演習1

Translation Seminar 1
 Intermediate course of the Professional Translation Program

香取 芳和 (KATORI YOSHIKAZU)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV312
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC5243
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定	先修科目:翻訳の原理と方法		
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

上級レベルの翻訳スキルの習得を目指す。翻訳はどのくらい原文に近づけるか(翻訳の限界)を理解する。

This course is designed to help you acquire advanced-level translation skills. It also aims to bring you to a realization that there are limits to how closely a translated text can be made to resemble the original.

授業の内容 / Course Contents

上記目標を達成するため、

1. 英語文と日本語文で結束性(テキストのまとまり感)の具現方法がどのように違うかを理解する。
2. 等価を実現するためのさまざまな手法を検討する。
3. モノ言語(コト言語)からコト言語(モノ言語)へ変換テクニックを学ぶ。
4. 英語から日本語、日本語から英語に訳された文章と、もともとそれぞれの言語で書かれた文章を分析し、翻訳で補足または省略されやすい情報のタイプを知る。
5. いわゆる「翻訳調」に気づく。
6. 翻訳者にできる介入の限界を考える。
7. 受講生によるプレゼンテーションを課す。

In order to achieve the goals above, the course covers the following contents.

1. Understanding the difference in the way cohesion is achieved between English texts and Japanese texts.
2. Discussing various strategies to achieve equivalence.
3. Learning translation techniques in converting "mono (things)" language into "koto (event)" language, and vice versa.
4. Analysis of Japanese texts translated from English, English texts translated from Japanese and comparable texts originally written in each language, for types of information that tend to be added or omitted through translation.
5. Gaining awareness for what's called "translatese" or "translationese."
6. Realizing limits to what translators can do to produce "natural" texts.
7. Presentation by students.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション

【2】:「翻訳であることがわからない翻訳」はどこまで可能か(1)

【3】:「翻訳であることがわからない翻訳」はどこまで可能か(2)

【4】:翻訳課題1 前半

原文の解説と訳文の講評

【5】:翻訳課題1 後半

原文の解説と訳文の講評

- 【6】:モノ言語(コト言語)からコト言語(モノ言語)への変換
- 【7】:英語テキストと日本語テキストの結束性の具現方法の違いについての考察(1)
- 【8】:翻訳課題2 前半
原文の解説と訳文の講評
- 【9】:翻訳課題2 後半
原文の解説と訳文の講評
- 【10】:英語テキストと日本語テキストの結束性の具現方法の違いについての考察(2)
- 【11】:「翻訳癖(翻訳調)」についての解説
プレゼンテーションの準備
- 【12】:翻訳課題3
- 【13】:受講生によるプレゼンテーション
- 【14】:今期の総まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

翻訳演習では、十分な下調べをしてから訳文作成に取り掛かり、文章をよく推敲してから提出すること。訳文講評の回は事前に学生訳を熟読して講評できるよう準備して授業に臨むこと。授業後には、指示する課題をこなすこと。(1回の授業につき、予習・復習に平均で約4時間を要する。)Canvas LMS を使用する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 翻訳課題:45% 翻訳練習問題:15% プレゼンテーション:15% プレゼンテーションのリアクションペーパー:5% 最終レポート割合::20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

平子義雄 『翻訳の原理 異文化をどう訳すか』 大修館書店 1999 9784469212358

伊原紀子 『翻訳と話法 語りの声を聞く』 松籟社 2011 9784879842947

共同通信社 『記者ハンドブック第13版 新聞用字用語集』 共同通信社 2016 9784764106871

その他 / Others

司会者を決めて訳文講評を行う。

個人またはグループによるプレゼンテーションを予定している。

翻訳演習2

Translation Seminar 2
字幕翻訳の理論と実践

大塚 美左恵(OTSUKA MISAE)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV313
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6243
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定	先修科目:翻訳の原理と方法・翻訳演習1(翻訳演習1の成績が B 以上であること)		
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

字幕翻訳の特性を理解し、適切な字幕を作成できるようになる。

字幕翻訳に関する理論的な知識に基づいて、翻訳プロセスを言語化できるようになる。

理論と実践の両方からアプローチし、字幕翻訳についての広い視野を養う。

We will develop understanding of the characteristics of subtitle translation and acquire the skills for producing subtitles that correspond to various situations. We will also acquire the theoretical tools to explain the translation process.

Approaching both theoretically and practically, we will develop a broader perspective on subtitle translation.

授業の内容 / Course Contents

字幕翻訳の理論を学び、映像作品の日本語字幕を作成する。はじめに視聴覚翻訳と字幕翻訳を概観する。続いて、字幕制作の過程と翻訳者に注目し、字幕翻訳の特性について考察する。同時に翻訳課題となる映像作品の素訳に着手し、字幕翻訳のルールと字幕制作ソフトの使い方を学んで、字幕作成を準備する。次に翻訳プロセスや方略について学び、素訳を改変して字幕を作成するとともに、自らの翻訳を理論的に説明する方法を習得する。一方で日英字幕や他ジャンルの映像作品の字幕翻訳にも挑戦しながら、字幕翻訳の評価について考える。翻訳課題の字幕が完成したらプレゼンテーションし、聴者は評価を試みる。

In this class, we will learn about the theories of subtitle translation and create Japanese subtitles for audiovisual programs.

First, we will provide an overview of audiovisual translation and subtitle translation. We will focus on the process of subtitle production and translators and display the characteristics of subtitle translation. Next, we will tackle a translation assignment. We will learn the rules of subtitle translation and how to use subtitling software to prepare for creating subtitles. We will learn about the translation process and strategies and then modify the original translation to create subtitles. At the same time, we will learn how to explain our translation theoretically. We will also try our hand at creating English subtitles and translating audiovisual programs of other genres. Evaluation of subtitle translation will also be discussed. Once the subtitles for the translation assignment are completed, a presentation and peer review will be held.

授業計画 / Course Schedule

【1】:はじめに(講読文献と翻訳課題、字幕制作ソフトの説明、資料や素材の配布など)

【2】:字幕翻訳の概要と沿革/翻訳課題の素訳(1)

【3】:字幕制作の過程と字幕翻訳者/翻訳課題の素訳(2)

- 【4】: 字幕翻訳の特性(マルチモード性、吹替翻訳との違いなど) / 翻訳課題の素訳(3)
- 【5】: 素訳の共有とフィードバック
- 【6】: 時間と空間の制約 / 字幕翻訳のルールと字幕制作ソフトの使い方
- 【7】: 字幕翻訳のプロセスと方略 / 素訳から字幕へ(1)
- 【8】: ユーモアと異文化の翻訳 / 素訳から字幕へ(2)
- 【9】: 日英字幕翻訳
- 【10】: テキストタイプとスコプス / 他ジャンルの字幕翻訳
- 【11】: 字幕翻訳の評価 / 素訳から字幕へ(3)
- 【12】: プレゼンテーション(1) 翻訳成果の発表とピアレビュー
- 【13】: プレゼンテーション(2) 翻訳成果の発表とピアレビュー
- 【14】: 完成字幕の共有とフィードバック / コース全体の総括
(授業の内容と順番は変更されることがあります)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の予習・復習には2時間程度を要する。さらに翻訳課題とプレゼンテーションの準備、レポートの作成に全体で30時間程度を要することが見込まれる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション:30% 課題:30% 授業への貢献:10% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

適宜、プリントを配布します。

参考文献 / Readings

Díaz-Cintas, J. & Remael, A. Subtitling: concepts and practices Routledge 2021 9781138940543

マンディ, J. 『翻訳学入門』 みすず書房 2009 9784622074557

Pérez-González, L. The Routledge handbook of audiovisual translation Routledge 2019 9781138859524

篠原有子 『映画字幕の翻訳学』 晃洋書房 2018 9784771031029

Pérez-González, L. Audiovisual translation: theories, methods and issues Routledge 2014 9780415530255

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Zoom によるオンライン授業です。資料配布や課題提出には CanvasLMS 等を活用します。使用する字幕制作ソフトについては初回の授業で説明します。受講や課題に取り組む際にはパソコンが必要です。

通訳翻訳研究特殊講義

Seminar in Translation and Interpreting Studies

翻訳通訳研究の新たな地平/New Trends in Translation and Interpreting Studies

坪井 睦子 (TSUBOI MUTSUKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV315
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6243
使用言語	その他	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、学際領域としての翻訳通訳研究の最新動向について考察し、本研究分野の現在の地平を明らかにするとともに、急速にグローバル化し変化する現代社会における今後の課題を探ることを目標とする。

This course aims to discuss the latest trends in Translation and Interpreting Studies as an interdisciplinary field, to identify the current horizon of the field, and to explore future challenges in today's rapidly globalizing and changing society.

授業の内容 / Course Contents

このコースでは、翻訳通訳研究の歴史を概観したうえで、メディア、テクノロジー、教育、紛争・戦争、多文化共生など、さまざまな切り口から翻訳通訳研究の最新動向について考察する。授業活動を通し、翻訳通訳研究の現状に対する理解を深めるとともに、将来の課題について議論し、その知見を受講生自らの研究に反映させることを目指す。クラスの活動では、学生主導による発表と討論が行われる。受講生は指示された文献を熟読して授業にのぞむことが求められる。また、発表担当者は発表の準備を十全に行うとともに、クラスでの討論を活性化させる役割を担う。尚、スケジュール、および扱うテーマはクラスの状況、要望に応じ変更される場合がある。

Beginning with an overview of the history of Translation and Interpreting Studies (TIS), this course examines recent trends in TIS through various thematic lenses: media, technology, education, conflict and war, and multiculturalism. The course will allow students to develop their understanding of the current state of TIS, discuss its future challenges, and finally apply the knowledge gained to their research. Class activities will include student-led presentations and discussions. Students are expected to read all assigned materials thoroughly before coming to class and to prepare well for presentations so that they can play a role in facilitating class discussion.

*The below schedule and topics are subject to change based on class conditions and requests.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 初回ガイダンス
- 【2】: 翻訳通訳研究の歴史と近年の動向
- 【3】: メディアと翻訳通訳(1)
- 【4】: メディアと翻訳通訳(2)
- 【5】: テクノロジーと翻訳通訳(1)
- 【6】: テクノロジーと翻訳通訳(2)
- 【7】: 翻訳通訳と教育(1)
- 【8】: 翻訳通訳と教育(2)
- 【9】: 紛争／戦争と翻訳通訳(1)

- 【10】:紛争／戦争と翻訳通訳(2)
 - 【11】:多文化共生と翻訳通訳(1)
 - 【12】:多文化共生と翻訳通訳(2)
 - 【13】:最終プレゼンテーション(1)
 - 【14】:最終プレゼンテーション(2)
- まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

各回の予習・復習の具体的内容については、授業時に指示する。

基本的に、授業前には指定された文献を熟読することと必要に応じて調査を行うこと、授業後は復習を兼ねリアクションペーパーを提出することが求められる。発表担当者は発表の準備を十全に行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業活動への積極的参加と貢献:20% リアクションペーパー:20% 発表:20% 最終レポート
割合::40%

テキスト / Textbooks

随時、資料を配布、または提示する。

参考文献 / Readings

武田珂代子(編著)『翻訳通訳研究の新地平』晃洋書房 2017 9784771028135

鳥飼玖美子(編著)『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房 2013 9784623067275

New Trends in Translation Studies シリーズ(Peter Lang)、New Perspectives in Translation Studies シリーズ(Routledge)等、授業時に適宜紹介する。

通訳翻訳専門実習A

Advanced Practicum in Translation and Interpreting A
 Advanced course of the Professional Interpreting/Translation Program

武田 珂代子/山田 優 (TAKEDA KAYOKO/ YAMADA MASARU)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV316
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンライン会議の機能を通してしか得られないサービス(リアルタイム翻訳、文字起こし等)の実践と理論を学ぶために全授業回のうち 2 回はオンラインで実施する(7・8 回目の授業)。なお、オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6243
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定	先修科目:会議通訳入門・会議通訳・会議通訳2または翻訳の原理と方法・翻訳演習1・翻訳演習2(会議通訳2・翻訳演習2については、通訳翻訳専門実習 A と同学期の履修を可とする。)		
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This course represents an advanced component of the Interpreting/Translation Professional Training Program, integrating key concepts from Interpreting/Translation Studies Theories. It is designed to enhance students' translation skills and methodologies as they work on various types of texts and settings. This process will encourage students to critically analyze their translation choices and the effectiveness of different strategies in diverse contexts. Students will become familiar with practical work, understand professional ethics, and acquire an awareness of being a professional interpreter/translator. They will also reflect the understanding gained through practice in their research. The ultimate aim of the course is to thoroughly prepare students for real-world interpreting and translation practice.

授業の内容 / Course Contents

Students will gain insight into the objectives of the practical training, acquiring both the skills and the professional mindset necessary for their development. They will also learn about the service learning project "RiCoLaS" at Rikkyo University, along with various internships and other practical training opportunities. With this knowledge, students will engage in discussions to set their own training goals.

Throughout the practical training period, students are required to document their (1) objectives, (2) tasks undertaken to achieve these goals, and (3) the actual outcomes of their training. In the concluding session, each student will present an oral summary of their entire training experience and submit a comprehensive report detailing their training experience.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Introduction
- 【2】: Interpreting/Translation theory and practice revisited
- 【3】: Practicum 1

- 【4】:Practicum 1 cont'
- 【5】:Practicum 1 cont'
- 【6】:Practicum 1 cont'
- 【7】:Mid-Term Review
- 【8】:Project 2
- 【9】:Project 2 cont'
- 【10】:Project 2 cont'
- 【11】:Project 2 cont'
- 【12】:Project 2 cont'
- 【13】:Review
- 【14】:Final report and presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Students are expected to work on assignments every week and submit them before the next class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation:30% Assignemnts:40% Final report:30%

テキスト / Textbooks

Handouts will be provided in class.

参考文献 / Readings

光藤 京子, 田辺 希久子 『英日日英 プロが教える基礎からの翻訳スキル』 三修社 2008 9784384055061

その他 / Others

履修条件

「会議通訳 2」または「翻訳演習 2」を履修中または修得済みであること

通訳翻訳専門実習B

Advanced Practicum in Translation and Interpreting B
 Advanced course of the Professional Interpreting/Translation Program

松下 佳世/山田 優(MATSUSHITA KAYO/ YAMADA MASARU)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV317
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	To study both the practice and theory of services that can only be provided through the use of online meeting platforms (e.g., remote interpreting, real-time translation, and transcription), four of the class sessions (sessions 5, 6, 8 and 9) will be conducted online. If there are any changes to the online sessions, students will be notified during class or via Canvas LMS or other means of communication.
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6243
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定	先修科目:会議通訳入門・会議通訳・会議通訳2または翻訳の原理と方法・翻訳演習1・翻訳演習2		
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This course represents an advanced component of the Translation Professional Training Program and the Conference Interpreter Training Program, integrating key concepts and theories from Translation and Interpreting Studies (TIS). It is designed to enhance students' translation and interpreting skills and methodologies as they work on various assignments. This process will encourage students to critically analyze their decision-making and the effectiveness of different strategies in diverse contexts. Students will become familiar with practical work, understand professional ethics, and acquire an awareness of being a professional translator and/or interpreter. They will also reflect the understanding gained through practice in their research. The ultimate aim of the course is to thoroughly prepare students for real-world translation and interpreting practice.

授業の内容 / Course Contents

Students will gain insight into the objectives of practical training, acquiring both the skills and the professional mindset necessary for their development. They will also learn about the service learning project "RiCoLaS," along with various internships and other practical training opportunities. With this knowledge, students will engage in discussions to set their own training goals.

Throughout the practical training period, students are required to document their (1) objectives, (2) tasks undertaken to achieve these goals, and (3) the actual outcomes of their training. In the concluding session, each student will present an oral summary of their entire training experience and submit a comprehensive report detailing their

achievements.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction
- 【2】:TIS theories and practice revisited
- 【3】:Practicum 1
- 【4】:Practicum 1 cont'
- 【5】:Practicum 1 cont'
- 【6】:Practicum 1 cont'
- 【7】:Mid-Term Review
- 【8】:Project 2
- 【9】:Project 2 cont'
- 【10】:Project 2 cont'
- 【11】:Project 2 cont'
- 【12】:Project 2 cont'
- 【13】:Review
- 【14】:Final report and presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Students are expected to work on assignments every week and submit them before the next class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation:30% Assignments:40% Final report:30%

テキスト / Textbooks

Handouts will be provided in class.

参考文献 / Readings

光藤 京子, 田辺 希久子 『英日日英 プロが教える基礎からの翻訳スキル』 三修社 2008 9784384055061

通訳翻訳ジャーナル編集部 『通訳の仕事 始め方・続け方』 イカロス出版 2021 9784802210782

その他 / Others

Prerequisites

Completion of "Conference Interpreting 2" or "Translation Practice 2."

異文化コミュニケーション理論

Intercultural Communication Theory

異文化コミュニケーション研究への質的アプローチ

灘光 洋子 (NADAMITSU YOKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV404
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6340
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

質的アプローチによる異文化コミュニケーション研究の理論的枠組みを体系的に学ぶことで、研究に対する理解を深める。

To develop better understanding of qualitative research conventions in the field of Intercultural Communication through learning about different schools of thoughts.

授業の内容 / Course Contents

コミュニケーション研究に深く関連する理論の系譜をたどることで、概念や理論的枠組み、視点の関連性に目を向けると同時に、それらに則った様々な実践を概観する。具体的には、様々な知の潮流(解釈的系譜、批判的系譜など)についての論考を読み、討議することで理解を深めたい。

Through a detailed overview of the major post-positivist traditions, we will deepen our understanding of qualitative orientations found in Intercultural Communication research and become familiar with working in them. Our reading will cover the interpretive, structuralist, critical, and "post" traditions.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション:ポスト実証主義の系譜と研究スタイル
- 【2】:批判理論と研究例の紹介
- 【3】:シンボリック相互作用論
- 【4】:シンボリック相互作用論の研究例/関連文献
- 【5】:ドラマツルギーとドラマティズム
- 【6】:ドラマツルギーとドラマティズムの研究例/関連文献
- 【7】:エスノメソドロジー
- 【8】:エスノメソドロジーの研究例/関連文献
- 【9】:エスノグラフィー
- 【10】:エスノグラフィーの研究例/関連文献
- 【11】:記号論と構造主義
- 【12】:記号論と構造主義の研究例/関連文献
- 【13】:ポスト構造主義 あるいは フェミニズム
- 【14】:ポスト構造主義 あるいは フェミニズムの研究例/関連文献

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="checkbox"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="checkbox"/>
----	-----------------------	---------------	--------------------------	---------------	--------------------------

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

各回の予習範囲や課題は、授業内で別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表および討議への貢献度:60%

最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

Prasad, P. 著(箕浦康子 監訳)『質的研究のための理論入門:ポスト実証主義の諸系譜』ナカニシヤ出版 2018 9784779512230

原則、履修者の関心のある章を優先的に選び考察を深めることとする。(上記シラバスに示した章は例であり、これらに限定されない。)また、関連する論考・研究論文(英語論文を含む)については適宜指示する。

参考文献 / Readings

Prasad, P. Crafting qualitative research: Beyond positivist traditions Routledge 2018 24408877

指導の中で適宜指示する。

その他 / Others

「異文化コミュニケーション研究基礎論」を既に履修していることが望ましい。

履修者の積極的な討議参加を求める。各自、十分に文献を読み込んでくることを前提に授業を進める。

授業内容のテーマや順番は進捗状況に応じて変更する可能性がある。

コミュニケーション研究特殊講義A

Seminar in Communication Studies A

組織コミュニケーション / ディスコース研究の視点から

石黒 武人 (ISHIGURO TAKETO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV405
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6340
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目標は、受講生が組織における異文化コミュニケーション(ディスコース)について多面的に分析・考察し、理解を深めることである。受講生は、組織で生起する異文化コミュニケーションを分析するための概念を学び、それらの概念を適切に用い、具体的コミュニケーション場面を分析、考察できるようになることを目指す。

This course is designed for graduate students to understand ways in which they can analyze and critically examine intercultural discourses in organizations from multiple perspectives. The students will be able to learn how to use analytic concepts to look into concrete intercultural discourses in organizations.

授業の内容 / Course Contents

本授業は、グローバル化を背景とし多様な文化が交錯する組織のコミュニケーションについて分析・考察するため、関連する諸研究を扱う。具体的には、組織ディスコース研究で扱われる諸知見(組織研究、コミュニケーション研究、記号論、談話分析、レトリック研究、語用論、ジェンダー研究、物語論等の概念)を学び、それらの知見を用いて組織コミュニケーション(ディスコース)を分析、考察する。本講義で扱う組織は企業が中心となるが、学校、病院、介護施設、非営利団体、自治会などの様々な組織もその範疇に入り、そうした組織で生起する異文化コミュニケーションの分析も射程とする。

This course introduces to graduate students a wide range of related research projects on organizational communication (discourse) in which multiple cultures interact with one another due to globalization. The students will learn how to analyze and consider organizational communication (discourse) in light of organizational discourse research that is based on a variety of fields such as organizational studies, communication studies, semiotics, discourse analysis, rhetorical analysis, pragmatics, gender studies, and narrative studies. This course mainly deals with business organizations, but it also includes other organizations such as schools, hospitals, nursing homes, non-profit organizations, and residents' organizations.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション:本講義の哲学的前提と焦点(組織ディスコース研究)
- 【2】:組織と語り:ディスコースとは何か
- 【3】:組織ディスコースの基本的考え方
- 【4】:組織ディスコース研究の源流
- 【5】:組織ディスコースの研究方法
- 【6】:ナラティブとストーリーテリング:組織の語りと対話 ☆リサーチノート1の提出日
- 【7】:組織レトリック
- 【8】:批判的ディスコース研究
- 【9】:ポスト構造主義アプローチ(1):フーコー派
- 【10】:ポスト構造主義アプローチ(2):ラクラウ派とラカン派 ☆リサーチノート2の提出日

- 【11】:組織のアイデンティティ
- 【12】:組織とジェンダー
- 【13】:組織とパワー 事例研究発表(1)
- 【14】:事例研究発表(2)と総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

授業前は、あらかじめ資料が配布される場合、その資料を読んでおくこと。授業後は、組織コミュニケーションの理解を助けるキーワード、分析概念、理論を復習し、それらが当てはまる実際の事例を自分なりに探し、リサーチ・ノートにまとめておくこと。リサーチノートの提出は、☆のマークがついた回にそれ以前の授業で学んだ内容(キーワードなど)を使って事例を分析したものをA4一枚程度で提出する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表(事例分析):30% リサーチノート:30% 最終レポート割合::40%
リサーチノートは1回の提出が15ポイントで、2回の提出で30ポイント、つまり、成績の30%となる。

テキスト / Textbooks

清宮徹『組織のディスコースとコミュニケーション』同文館出版 2019 9784495390242

テキストの購入は任意:パワーポイントで要点を示すが、購読を推奨します。

参考文献 / Readings

グラント, D ほか(編)、高橋正泰ほか(編訳)『ハンドブック 組織ディスコース研究』同文館出版 2012 9784495381011

Putnam, L., & Mumby, D. (Eds.) The SAGE handbook of organizational communication: Advances in theory, research, and methods (3rd. ed.) SAGE 2014 9781412987721

Jablin, F., & Putnam, L. (Eds.) The new handbook of organizational communication SAGE 2001 9781412915252

Aritz, J., & Walker, R. (Eds.) Discourse perspectives on organizational communication Fairleigh Dickinson University Press 2012 9781611474374

Adler, N. International dimensions of organizational behavior (4th ed.) South-Western 2002 9780324057865

石黒武人『多文化組織の日本人リーダー像:ライフストーリー・インタビューからのアプローチ』春風社 2012 9784861103223

プラサド, P. 『質的研究のための理論入門:ポスト実証主義の諸系譜』ナカニシヤ出版 2018 9784779512230

その他授業にて関連文献を適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

組織を対象とする質的データ分析を行うさまざまな学域の知見に教科書を通じて触れていきます。はじめて触れる考え方もあると思いますので、毎回扱う教科書の該当箇所をしっかりと読み、議論ができる準備をしておく勤勉さが求められます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

とくにありません。

コミュニケーション研究特殊講義B

Seminar in Communication Studies B

師岡 淳也 (MOROOKA JUNYA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV406
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6340
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本科目は、主に米国のコミュニケーション学におけるコミュニケーション教育に関する文献を読みながら、コミュニケーション教育の歴史や主な研究領域を学ぶとともに、コミュニケーション教育を巡る諸課題について理解を深めることを目的とする。

This course aims to deepen students' knowledge and understanding of the history of and major research areas in communication education scholarship by reading relevant literature in Communication Studies in the United States. It also aims to familiarize students with major issues surrounding communication education.

授業の内容 / Course Contents

まず、(主に)米国におけるコミュニケーション教育の歴史を概観した後、コミュニケーション教育の研究を、1) Communication Education、2) Instructional Communication、3) Critical Communication Pedagogy に大別し、各領域の特徴や主な研究テーマ/アプローチについて学んでいく。学期の終盤では、日本のコミュニケーション教育についても話し合う。

We will first take a brief look at the history of communication education primarily in the United States. Then, we will divide scholarship in communication education into three areas: 1) Communication Education, 2) Instructional Communication, and 3) Critical Communication Pedagogy and learn the characteristics of and major themes/approaches in each area. Towards the end of the semester, we will also discuss communication education in Japan.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入
- 【2】: コミュニケーション教育の歴史(その1)
- 【3】: コミュニケーション教育の歴史(その2)
- 【4】: Communication Education の文献講読(その1)
- 【5】: Communication Education の文献講読(その2)
- 【6】: Communication Education の文献講読(その3)
- 【7】: Instructional Communication の文献講読(その1)
- 【8】: Instructional Communication の文献講読(その2)
- 【9】: Instructional Communication の文献講読(その3)
- 【10】: Critical Communication Pedagogy の文献講読(その1)
- 【11】: Critical Communication Pedagogy の文献講読(その2)
- 【12】: Critical Communication Pedagogy の文献講読(その3)
- 【13】: 日本におけるコミュニケーション教育
- 【14】: 期末レポート発表会、授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

毎回課題文献を丁寧に読み込み、自分なりの考えや疑問点をもった上で、授業に臨むことが求められる。特殊研究「講義」という科目名ではあるが、大学院科目ということもあり、対話/ディスカッション形式で授業を進めていく。そのため、各履修者の積極的な参加が期待される。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加・貢献度:50% 中間レポート:20% 期末レポート:30%

テキスト / Textbooks

特定のテキストは使用しない。各回のテーマに合わせて、教員が文献を用意する。

参考文献 / Readings

Hannawa, A. F. & Spitzberg, B. H. (Eds.) Communication Competence De Gruyter Mouton 2015

Houser, M. L. & Hosek, A. Handbook of Intercultural Communication: Rhetorical and Relational Perspectives (2nd ed.) Routledge 2018

Fassett, D. L. & Warren, J. T. Critical Communication Pedagogy SAGE 2006

Atay, A. & Ashlock, M. Z. The Discourse of Disability in Communication Education: Narrative-Based Research for Social Change Peter Lang 2016

コミュニケーション教育関連ジャーナル

Communication Education (National Communication Association)

Communication Teacher (National Communication Association)

Journal of Communication Pedagogy (Central States Communication Association)

Basic Communication Course Annual (the University of Dayton Department of Communication)

コミュニケーション研究特殊講義C

Seminar in Communication Studies C

社会的行為としての記憶と異文化コミュニケーション

河合 優子 (KAWAI YUKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV407
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6340
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

異文化コミュニケーション研究と記憶研究の関連性を理解し、社会的行為としての記憶と文化、メディア、ナラティブ、歴史、ナショナリズム、人種主義との関連性について考察する

Students will (1) understand the connection between intercultural communication studies and memory studies, and (2) examine memory as a social practice and its relationship with culture, media, narrative, history, nationalism, and racism.

授業の内容 / Course Contents

社会的行為としての記憶は文化、歴史、メディア、ナラティブ、アイデンティティなど関わっており、異文化コミュニケーションと非常に関連性の高い概念である。この授業ではまず異文化コミュニケーション研究と記憶研究の関連性を考えた後、社会的行為としての記憶が多様な学術分野でどのように概念化されてきたのかについて概観する。そして、文化、メディア、ナラティブ、歴史、ナショナリズム、人種主義などがどのように社会的行為としての記憶と関係しているのかについて考察していく。

Memory as a social practice, intertwined with culture, history, media, narrative, and identity, is a concept very relevant to intercultural communication. This course will first examine the connection between intercultural communication studies and memory studies. After overviewing how memory has been conceptualized as a social practice in various academic fields, we will explore its relationship with culture, media, narrative, history, nationalism, and racism.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入
- 【2】: 異文化コミュニケーションと社会的行為としての記憶
- 【3】: 集合的記憶
- 【4】: 多様な学術分野における記憶
- 【5】: 文化と記憶
- 【6】: メディアと記憶
- 【7】: ナラティブと記憶
- 【8】: 歴史修正(否定)主義とは(1)
- 【9】: 歴史修正(否定)主義とは(2)
- 【10】: 歴史修正(否定)主義とは(3)
- 【11】: 人種主義、ナショナリズム、記憶—日本の歴史修正(否定)主義
- 【12】: ナショナリズム、アイデンティティ、記憶
- 【13】: 戦争と記憶
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

必ず課題文献を読んだ上で授業に参加すること。毎週、課題文献についての小レポートを提出してもらおう。授業時間外で週4時間程度の学修が必要。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加・貢献度:20% 課題文献発表:20% 小レポート:20% 最終レポート割合::40%

毎週小レポートを提出する。

テキスト / Textbooks

エアル、アストリッド 『集合的記憶と想起文化』 水声社 2022 4801006620

武井彩佳 『歴史修正主義』 中公新書 2021 4121026640

教科書以外に、英語および日本語論文を使用する

参考文献 / Readings

授業内で紹介する

その他 / Others

毎週の小レポートにはフィードバックを行う。

コミュニケーション理論

Communication Theory

小山 亘 (KOYAMA WATARU)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV408
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6340
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、言語研究と文化人類学の中間に位置し、人間の文化・社会やその環境という広範な問題に言語とコミュニケーションの視点から接近する分野である言語人類学について、その概要を学ぶことを通して、コミュニケーション理論についての理解を深めることを目的とする。

The purpose of this course is to introduce linguistic anthropology, a discipline located between language studies and cultural anthropology that approaches the broad question of socioculture and its environment from the perspective of language and communication, and to strengthen the students' understandings of the theoretical aspects of communication through the comprehension of the linguistic-anthropological view of language and communication.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、まず、人類学全体の中で言語人類学が占める位置を確認したうえで、過去 200 年間の言語研究と人間学の歴史を俯瞰し、言語人類学とその隣接分野(言語学、言語教育、認知科学、語用論、会話分析、談話分析、社会学、文化人類学、カルチュラル・スタディーズなど)との関係の全体像を把握する。つぎに、20 世紀言語人類学の変遷を概観したのち、ヤコブソン、ハイムズ、ガンパーズ、そしてシルヴァスティンへと続く現代言語人類学のコミュニケーション・モデルの概要を説明する。こうして現代言語人類学の基本的な位置づけ、歴史、理論的基礎を学んだうえで、つぎに具体的な事例へと移り、アメリカ中流社会の成員たちのインタラクションに見られる、文化的知識とコミュニケーションの相互作用、社会文化的アイデンティティの構築を扱ったシルヴァスティン論文(「知とコミュニケーション」)、および、日本のマス・メディアを通じたインタラクションに見られる、地理的アイデンティティ、ジェンダー、(近現代・伝統)文化表象を扱った小山論文を精読し、現代言語人類学の記号論的「言説分析」の理論と手法を学ぶ。

In this course, we begin with observing the status of linguistic anthropology in relation to anthropology as a whole as well as the neighboring disciplines such as linguistics, linguistic pedagogy, cognitive science, pragmatics, and so on. Then, we move to the history of linguistic anthropology in the 20th and 21st centuries, explicating the linguistic-anthropological theories of communication advanced by Jakobson, Hymes, Gumperz, and Silverstein. Afterwards, we proceed to discuss two linguistic-anthropological case studies, one dealing with face-to-face interactions among young members of the American middle class, involving the construction of sociocultural identities and the interactions between cultural knowledge and communication, and the other dealing with communicative practices mediated by print mass media in modern Japan, involving geographical identity, gender, and cultural representations.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 言語と文化: 言語人類学とは何か
- 【2】: 人類学の構成と言語人類学の布置(一)
- 【3】: 人類学の構成と言語人類学の布置(二)
- 【4】: 言語人類学と隣接分野(一): ドイツ・ロマン派以降の言語研究の系譜
- 【5】: 言語人類学と隣接分野(二): カント以降の人間学の系譜

- 【6】:20 世紀言語人類学の変遷:ボアスからシルヴァスティンまで
 【7】:20 世紀文化人類学の変遷:解釈、構造、象徴、儀礼、日常行為
 【8】:言語人類学のコミュニケーション・モデル(一):ヤコブソンの記号論(六機能モデル、詩的機能とテキスト生成、スピーチ・イベントと転換子)
 【9】:言語人類学のコミュニケーション・モデル(二):ハイムズのコミュニケーションの民族誌(スピーチ・イベント、SPEAKING モデル、コミュニケーションの適切さと効果)
 【10】:言語人類学のコミュニケーション・モデル(三):ガンパーズの談話分析(状況的・隠喩的コード・スイッチング、コンテキスト化の合図)
 【11】:言語人類学のコミュニケーション・モデル(四):シルヴァスティン(現代の社会文化記号論)
 【12】:事例研究(一):アメリカ中流社会の成員たちのインタラクションに見られる、知とコミュニケーションの相互作用、および社会文化的アイデンティティの構築
 【13】:現代言語人類学の記号論的「言説分析」:理論的枠組み
 【14】:事例研究(二):日本のマス・メディアを通じたインタラクションに見られる、地理的アイデンティティ、ジェンダー、(近現代・伝統)文化表象

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は、授業時に行う。各回の予習・復習(事前に教材を精読すること・課題を行うこと)にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加:10% 発表など:50% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

小山亘『コミュニケーション論のまなざし』三元社 2012 9784883033133

Canvas LMSなどでレジュメを配布し、それに沿って授業は進行する。

参考文献 / Readings

小山亘『近代言語イデオロギー論』三元社 2011 9784883032808

小山亘『記号の思想』三元社 2009 9784883032464

小山亘『記号の系譜』三元社 2008 9784883032198

小山亘『翻訳とはなにか』三元社 2022 9784883035533

コミュニケーション研究特殊講義D

Seminar in Communication Studies D

小山 亘 (KOYAMA WATARU)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV409
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6340
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、コミュニケーション研究の中心の一角を占める談話分析、特に言語人類学・記号論系の談話分析について、事例研究に基づいて理解を深めることを目的とする。

The purpose of this course is to strengthen the students' understandings of one of the central areas of communication studies, namely, discourse analysis, as theorized and practiced in linguistic anthropology and sociocultural semiotics. The course focuses on several case studies of discourse analysis, so as to explore theoretical foundations and empirical details of the method.

授業の内容 / Course Contents

授業では主に以下のテーマを扱う:

(1)コミュニケーションの二次元:言及指示機能と社会指標(相互行為)機能、(2)呼称、人名、親族関係、(3)方言と標準語、都市化、近代化、(4)社会階層と言語、(5)コミュニケーション過程:コンテクスト化とテキスト生成、(6)前提的指標と創出的指標、(7)対照ペアと詩的機能、(8)コミュニケーション出来事とマクロ/メゾ/マイクロ・コンテクスト、(9)近代人文主義・人文学のコスモロジー、(10)ローマン主義と方言学、オリエンタリズム、(11)近代国民国家と言語、(12)言語変化と文化変容、(13)地名:場所と言語、(14)相互行為に現れる文化的概念と文化的価値づけ、(15)社会集団/組織への帰属とレジスター、(16)相互行為の儀礼と詩的機能、(17)知識の構造とコミュニケーション行為、および社会文化的アイデンティティの相関、(18)地理とアイデンティティ:アメリカ中西部と東海岸、(19)アコモデーション行為とオリゴの転移、(20)コミュニケーション行為と学習、など。

This course mainly deals with the following themes: (1) two dimensions of communication: referential and social-indexical (interactional) functions, (2) terms of address, proper names, kin terms, (3) dialectal and standard varieties, urbanization, modernization, (4) social stratification and language, (5) communicative process: contextualization and textualization, (6) presupposing vs. entailing indexicality, (7) contrastive pairs and poetic function, (8) communicative event and micro-to-macro-levels of context, (9) cosmology of modern humanism and human sciences, (10) Romanticism, dialectology, and Orientalism, (11) modern nation-state and language, (12) language change and cultural transformation, (13) toponym: place and language, (14) cultural concepts and valuation as manifested in sociocultural interaction, (15) social membership and register, (16) interaction ritual and poetic function, (17) correlations among the structure of knowledge, communicative act, and sociocultural identity, (18) geography and identity: the Midwest and the East Coast in the US, (19) accommodation and the deictic center, (20) communicative act and learning, and so on.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:近代文学(日本語)の談話分析:近代日本・備後の言語接触と文化変容についての社会言語学的考察(1)
- 【2】:近代文学(日本語)の談話分析:近代日本・備後の言語接触と文化変容についての社会言語学的考察(2)
- 【3】:近代文学(日本語)の談話分析:近代日本・備後の言語接触と文化変容についての社会言語学的考察(3)
- 【4】:雑誌記事(日本語)の談話分析:近現代日本・京都の言語変化と文化イデオロギーについての社会言語学的考察

- (1)
【5】: 雑誌記事(日本語)の談話分析:近現代日本・京都の言語変化と文化イデオロギーについての社会言語学的考察
 (2)
【6】: 雑誌記事(日本語)の談話分析:近現代日本・京都の言語変化と文化イデオロギーについての社会言語学的考察
 (3)
【7】: 雑誌記事(日本語)の談話分析:近現代日本・京都の言語変化と文化イデオロギーについての社会言語学的考察
 (4)
【8】: アメリカ・シカゴ大学大学院生の日常会話(英語)の談話分析 I: 男性／男性、中西部／東部、社会福祉研究科／ロー・スクール、ロヨラ大学／ジョージタウン大学、などといった対照ペアが喚起される相互行為におけるアイデンティティと権力関係の指標についての社会言語学的考察(1)
【9】: アメリカ・シカゴ大学大学院生の日常会話(英語)の談話分析 I: (2)
【10】: アメリカ・シカゴ大学大学院生の日常会話(英語)の談話分析 I: (3)
【11】: アメリカ・シカゴ大学大学院生の日常会話(英語)の談話分析 II: 女性／男性、中西部(および東部)／東部、社会福祉研究科／ロー・スクール、ヴァルパライソ大学(およびコーネル大学)／ジョージタウン大学、などといった対照ペアが喚起される相互行為におけるアイデンティティと権力関係の指標についての社会言語学的考察(1)
【12】: アメリカ・シカゴ大学大学院生の日常会話(英語)の談話分析 II: (2)
【13】: アメリカ・シカゴ大学大学院生の日常会話(英語)の談話分析 II: (3)
【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は、授業時に行う。各回の予習・復習(事前に教材を精読すること・課題を行うこと)にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表など:50% 授業参加度:10% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

Canvas LMSなどでレジュメを配布し、それに沿って授業は進行する。

参考文献 / Readings

- 小山亘『コミュニケーション論のまなざし』三元社 2012 9784883033133
 小山亘『近代言語イデオロギー論』三元社 2011 9784883032808
 小山亘『記号の思想』三元社 2009 9784883032464
 小山亘『記号の系譜』三元社 2008 9784883032198
 小山亘『翻訳とはなにか』三元社 2022 9784883035533

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

すでに言語学、談話分析、記号論、言語人類学などの基本を習得していることが望ましい。

人類学特論

Topics in Anthropology

人間にとって経済とはなにか？

吉村 竜(YOSHIMURA RYU)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV502
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6440
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、(1)経済人類学の基本的概念を理解し、(2)私たちを取りまく経済的現象を分析する力を身につけることを目標とします。

The objectives of this course are: 1) to acquire basic knowledge of the main concepts of economic anthropology, and 2) to develop skills in examining the economic phenomena that surround us.

授業の内容 / Course Contents

文化人類学の下位分野である経済人類学は、経済システムの驚くべき多様性を、世界中の事例の分析を通して示してきました。この授業では、文献講読を通して、贈与や再分配など多元的な経済のあり方への理解を深め、あらゆる財やサービスが市場で売買される経済を相対化する視点を身につけていきます。

Economic anthropology, a sub-discipline of cultural anthropology, has shown the astonishing diversity of economic systems through the analysis of case studies from around the world. The purpose of this course is to help students understand various economic systems through reading literature, and to acquire a perspective that relativizes the market economy.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 経済とはなにか？
- 【3】: 贈与と社会①: 『贈与論』(前半)
- 【4】: 贈与と社会②: 『贈与論』(後半)
- 【5】: 貨幣を考える: 『カネと人生』
- 【6】: 「生」を「産」む(映像視聴を予定)
- 【7】: 生業: 『農民』
- 【8】: 暮らしと経済①: 『モーラル・エコノミー』(前半)
- 【9】: 暮らしと経済②: 『モーラル・エコノミー』(前半)
- 【10】: 商品: 『甘さと権力』(①)
- 【11】: 消費: 『甘さと権力』(②)
- 【12】: 権力: 『甘さと権力』(③)
- 【13】: 負債: 『負債と信用の人類学』
- 【14】: 労働: 『ブルシット・ジョブの謎』

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

授業では、毎回課題文献について議論を行うため、時間外学修として課題文献を読み進めておいてください(課題文献は授業第1回目にお知らせします)。また、毎回課題文献についての「課題レポート」の発表と議論を行うため、時間外学修としてレポート作成に取り組んでください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題レポート:40% 口頭発表:40% ディスカッションへの参加度:20%

テキスト / Textbooks

モース、マルセル『贈与論』筑摩書房 2024

ミンツ、シドニー『甘さと権力』筑摩書房 2021

酒井隆史『ブルシット・ジョブの謎』講談社 2021

初回の授業時に指示します。

参考文献 / Readings

クリス・ハン、キース・ハート『経済人類学』水声社 2017

カール・ポランニー『経済の文明史』筑摩書房 2003

エリック・ウルフ『農民』鹿島研究所出版会 1972

ジェームズ・スコット『モーラル・エコノミー』勁草書房 1999

佐久間寛(編著)『負債と信用の人類学』以文社 2023

デヴィッド・グレーバー『ブルシット・ジョブ』岩波書店 2020

小馬徹『カネと人生』雄山閣 2002

初回の授業時に紹介します。

人類学特殊講義A

Seminar in Anthropology A

ティム・インゴルドの『世代とは何か』を読む

奥野 克巳 (OKUNO KATSUMI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV504
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6440
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

私たちは、世代を、現在を掌握し、前任者に取って代わり、それに前後して、後進者に取って代わられるひとつの層として扱っています。現役世代は生きていく中で次第に表舞台に上がって活躍し、その後、後継者たちに道を譲る中で衰えていくというこの考えは、インゴルドによれば、啓蒙思想の中で培われた進歩史観に基づいているのです。そうした世代の捉え方こそが、私たちの目の前にある社会・環境危機をめぐる議論を進める上での大きな前提となってきたのです。しかし、その考え方を今後も用いるのであれば、私たちが直面している危機には処することはできないだろうというのが、インゴルドの見立てです。この授業では、人類学者インゴルドの世代論を取り上げて輪読し、人類学的思考を学びます。

We treat generations as a single layer that takes hold of the present, replaces its predecessors, and is in turn replaced by the younger generation. This idea that the working generation gradually comes to the fore as it lives its life, and then declines as it gives way to its successors, is based on the idea of progress in history that was cultivated in the Age of Enlightenment, according to Tim Ingold. This way of thinking about generations has become a major premise for the discussion of the social and environmental crises that we are facing. However, Ingold believes that if we continue to use this way of thinking, we will not be able to deal with the crises we are facing. In this class, we will read and discuss the anthropologist Ingold's theory of generations, and learn anthropological thought.

授業の内容 / Course Contents

ティム・インゴルド著『世代とは何か』(亜紀書房、2024年)を受講生で輪読する。

In this class, students will read the Japanese translation of Tim Ingold's The Rise and Fall of Generation Now.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 第1章 世代と生の再生
- 【3】: 第2章 人の生涯をモデル化する
- 【4】: 第3章 道を覚えていること
- 【5】: 第4章 不確実性と可能性(1)
- 【6】: 第4章 不確実性と可能性(2)
- 【7】: 第5章 喪失と絶滅
- 【8】: 第6章 人類を再中心化する(1)
- 【9】: 第6章 人類を再中心化する(2)
- 【10】: 第7章 教育のやり方(1)
- 【11】: 第7章 教育のやり方(2)
- 【12】: 第8章 科学技術の後に(1)
- 【13】: 第8章 科学技術の後に(2)

【14】:まとめ**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書		スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

毎回の授業に備えて予習をすること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 参加態度:60% 最終レポート割合:40%

テキスト / Textbooks

ティム・インゴルド『世代とは何か』 亜紀書房 2024 9784750518589

参考文献 / Readings**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

特になし。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

なし。

グローバル文化研究特論A

Topics in Global Cultural Studies A

浜崎 桂子 (HAMAZAKI KEIKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV506
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6440
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

グローバル化に伴う文化や言語の接触、混淆状況から生み出される、文学作品、映画作品などの文化表象を、世界史との関連において、文化研究の立場から理論的に論じ、考察することができるようになる。

The globalized world evidences many cultural products such as literature or film made through inter-cultural contact or cultural hybridity. This course aims to help students analyze these cultural products theoretically from the cultural studies perspective.

授業の内容 / Course Contents

人や資本の境界を越えた移動に伴う文化の変容や文化接触から生じる文化表象、たとえば異文化、他者表象について、オリエンタリズム、エスニシティ、ジェンダー、セクシュアリティなどの理論を踏まえて、解釈し、議論を行う。

Based on theories such as orientalism, ethnicity, gender, and sexuality, this course will interpret and discuss the transformation of culture, which is influenced by the transfer of people and capital across borders. It will also contemplate cultural representation generated by cultural contact, such as the representation of the "Other."

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション1: グローバリゼーションとその理論について
- 【2】: イントロダクション2: 「文化表象」と世界史の関連について
- 【3】: 作品1: 言語接触から生まれる文学作品
- 【4】: 作品1: 言語接触から生まれる文学作品
- 【5】: 作品1: 言語接触から生まれる文学作品
- 【6】: 作品2: 映像作品におけるマイノリティ表象
- 【7】: 作品2: 映像作品におけるマイノリティ表象
- 【8】: 作品2: 映像作品におけるマイノリティ表象
- 【9】: 中間まとめ
- 【10】: 作品3: 文学作品におけるマイノリティ表象
- 【11】: 作品3: 文学作品におけるマイノリティ表象
- 【12】: 作品3: 文学作品におけるマイノリティ表象
- 【13】: 文化分析の実践と理論
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用

校外実習・フィールドワーク

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業の予習および発表準備(約2時間)、授業後の発展的学習(約1時間)、課題、レポートのための調査など(合計15時間程度)を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 議論への積極的な参加:30% 授業内での口頭発表:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

初回授業で配付。

参考文献 / Readings

E.W.サイード 『文化と帝国主義1』 みすず書房 1998 4622031973

E.W.サイード 『文化と帝国主義2』 みすず書房 2001 462203204

中井亜佐子 『他者の自伝—ポストコロニアル文学を読む』 研究社 2007 9784327481513

岡真理 『彼女の「正しい」名前とは何か』 青土社 2000 4791758412

浜崎桂子 『ドイツの「移民文学」』 彩流社 2017 9784779123139

上記文献には目を通しておくこと。その他文献は授業内でテーマごとに指示。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

文献を批判的に読み、討論する力。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業資料配布、課題提出には、Canvas LMS を使用する。

人類学特殊講義B

Seminar in Anthropology B

はじめての人類学

奥野 克巳 (OKUNO KATSUMI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV507
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6440
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、『はじめての人類学』をテキストとして、20 世紀初頭に確立された人類学の百年を、マリノフスキ、レヴィ=ストロース、ボアズ、インゴルドという 4 人の人類学者の足跡を追います。この授業では、「人間の生」を探究する人類学の全貌が浮かび上がるでしょう。

Using 'First Steps in Anthropology' as a text, this class will follow in the tracks of four anthropologists – Malinowski, Levi-Strauss, Boas and Ingold – through a hundred years of anthropology as it was established at the beginning of the 20th century. The course will give a full view of anthropology's exploration of 'human life'.

授業の内容 / Course Contents

『はじめての人類学』の各章を読み、人類学に関する理解を深めていきます。

Reading chapters from 'First Steps in Anthropology' will deepen our understanding of anthropology.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:イントロダクション
- 【2】:はじめに 人類学とは何か、1 章 近代人類学が誕生するまで
- 【3】:2 章 マリノフスキ(1)
- 【4】:2 章 マリノフスキ(2)
- 【5】:3 章 レヴィ=ストロース(1)
- 【6】:3 章 レヴィ=ストロース(2)
- 【7】:3 章 レヴィ=ストロース(3)
- 【8】:4 章 ボアズ(1)
- 【9】:4 章 ボアズ(2)
- 【10】:5 章 インゴルド(1)
- 【11】:5 章 インゴルド(2)
- 【12】:5 章 インゴルド(3)
- 【13】:終章
- 【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

予習をして、毎回の授業に臨むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加態度:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

奥野克巳『はじめての人類学』講談社 2023 9784065328576

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

特になし。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

なし。

グローバル文化研究特論B

Topics in Global Cultural Studies B

トランスナショナル日本・韓国映画/Transnational Japanese and Korean Films

イ, ヒャンジン (LEE HYANGJIN)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV508
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6443
使用言語	その他	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、日本と韓国映画の地域的親和性およびトランスナショナルリティに関する議論を中心に、帝国主義、ポストコロニアリズム、エスニシティ、ナショナリズム、ジェンダー、セクシュアリティといったキーワードを通じて、両地域の映画が大衆芸術として持つアイデンティティと社会的重要性を深く探求する。さらに、人的・産業的交流を通じて進展する文化的連帯や多様性の形成に寄与するトランスナショナル映像文化をより深く理解することを目指す。

This course aims to explore the regional affinities and transnationality of Japanese and Korean cinema. Through key concepts such as imperialism, postcolonialism, ethnicity, nationalism, gender, and sexuality, we will examine the identity and social significance of cinema from both regions as forms of popular art. Furthermore, the course seeks to enhance our understanding of screen culture, which fosters cultural solidarity and diversity through both human and industrial exchanges.

授業の内容 / Course Contents

本セミナーでは、美学、構造、作家主義、ジャンル、ノンフィクション映画、受容、批評など、映画研究における理論的かつ分析的アプローチを活用し、グローバルな観客が共感できる、または移住や離散といった脱境界的な人生をテーマにしたトランスナショナルな日本映画および韓国映画の代表的な監督とその作品傾向を考察する。

In this seminar, we will apply theoretical and analytical approaches in film studies, such as aesthetics, structure, auteur theory, genre, nonfiction cinema, reception, and criticism, to examine the works of representative directors of transnational Japanese and Korean cinema. These films, which explore themes of boundary-crossing lives, such as migration and diaspora, resonate with global audiences. We will focus on the directors' distinctive styles and trends in their works.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス&イントロダクション(シラバスの紹介及び説明)

【2】: 論文構想発表(学生発表)

【3】: 帝国日本が創造した植民地表象、朝鮮映画

映画美学—フォーリズムとリアリズム

【4】: 北朝鮮・韓国映画における中国と日本、帝国主義の記憶

映画美学—フォーリズムとリアリズム

【5】: 日本映画のなかの在日コリアン・在日映画

映画の構造—物語と語り口

【6】: 現代韓国映画と日本

映画の作家性—作家としての映画監督

【7】: 現代日本映画と韓国

映画の作家性—作家としての映画監督

【8】: 日韓映画交流とシネフィル文化

映画ジャンル

【9】: グローバル日本と韓国映画

映画の受容と批評

【10】: 在日映画・女性映画

ノンフィクション映画

【11】: 学生発表及びまとめ I

【12】: 学生発表及びまとめ II

【13】: 学生発表及びまとめ III

【14】: 学生発表及びまとめ IV

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

講義、発表、討論

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

受講の際は積極的に討論に参加することが求められます。加えて、授業で提示される映画と参考文献には必ず目を通してください。

Students are required to attend all classes and drive class discussions with their peers. Students must actively participate in class activities that include the submission of notes on the assigned reading materials and films.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業態度:30% 発表:30% 最終レポート割合::40%最終テスト割合::0%

テキスト / Textbooks

イ・ヒャンジン 『コリアン・シネマ——北朝鮮・韓国・トランスナショナル』 みすず書房 2022 4622086646

ウォーレン バックランド 『フィルムスタディーズ入門: 映画を学ぶ楽しみ』 晃洋書房 2007 4771018588

参考文献 / Readings

梁 仁實 『朝鮮映画の時代』 法政大学出版局 2022 9784588603662

マイケル・ライアン, メリッサ・レノス 『Film Analysis 映画分析入門』 フィルムアート社 2014 4845914395

文化研究特論

Topics in Cultural Studies

浜崎 桂子 (HAMAZAKI KEIKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV509
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6440
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

グローバル化に伴う文化や言語の接触、混雑の現象、また異文化表象について、文化研究の立場から論じるために重要な理論の抜粋を読み考察する。各理論の背景などに留意しながら批判的に理論を考察する力をつける。

In this course, students will read and reflect on excerpts from important theories and will subsequently utilize the viewpoint of cultural studies to discuss the interactions between cultures and languages, the phenomenon of intermixing, and intercultural expression brought about by globalization. Additionally, the course will help students develop the ability to critically consider various theories while accounting for their backgrounds and other factors.

授業の内容 / Course Contents

人や資本の境界を越えた移動に伴う文化の変容や文化接触、異文化表象について、オリエンタリズム、ネーション、植民地主義、帝国主義、ジェンダー、エスニシティなどの問題点に着目した論文を読み、議論を行う。

This course aims to help students to read and discuss academic papers that focus on orientalism, nations, colonialism, imperialism, gender, ethnicity, and other issues in the cultural transformation, interaction, and intercultural expression brought about by movements that exceed the limits of human beings and capital.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション1: グローバリゼーションについて
- 【2】: イントロダクション2: 「文化」概念について
- 【3】: オリエンタリズム1
- 【4】: オリエンタリズム2
- 【5】: ネーション
- 【6】: 植民地主義・帝国主義
- 【7】: 議論、問題点の整理 1
- 【8】: 議論、問題点の整理 2
- 【9】: マイノリティー
- 【10】: ジェンダーおよびエスニシティ
- 【11】: 異文化表象
- 【12】: 文化分析の実践と理論について 1
- 【13】: 文化分析の実践と理論について 2
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用
----	--	---------------	--	---------------

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業の予習および発表準備(約2時間)、授業後の発展的学習(約1時間)、課題、レポートのための調査など(合計15時間程度)を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および議論への積極的な参加:30% 授業内での口頭発表:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

初回授業で配付。

参考文献 / Readings

本橋哲也 『カルチュラル・スタディーズへの招待』 大修館書店 2002 9784469212809

ピーター・バーク(河野真太郎訳) 『文化のハイブリディティ』 法政大学出版局 2012 9784588603266

吉見俊哉 『アフター・カルチュラル・スタディーズ』 青土社 2019 9784791771844

上記文献には目を通しておくこと。その他文献は授業内でテーマごとに指示。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

分析対象の文学や映画、および関連する文献について批判的に考察する力。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業資料配布、課題提出には、Canvas LMS を使用する。

国際協力特殊講義A

Seminar in International Cooperation A
戦争と平和

カプリオ, M. (CAPRIO MARK E.)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV510
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6440
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

戦争とは何か、そしてそれが社会において果たす役割を理解する。

紛争を平和的に解決する方法を探る。

国家間の戦争を終結させる手段を模索する。

学生の研究(修士レベル)と戦争に関するテーマを結びつける。

To understand what war is and its purpose in society. To search for ways to bring a conflict situation to a peaceful settlement.

To seek a means to end war between nations.

To match student's research (masters level) with war topics.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、戦争と平和に関する多角的な視点を学ぶ。戦争の原因や経済的影響、プロパガンダの役割、さらには戦争体験の記憶や反戦文化について議論する。朝鮮戦争や日本の「平和憲法」、現代の国際情勢も考察し、戦争防止の可能性を探る。講義を中心に進めるが、学生の意見交換を重視し、主体的な学びを促す。

This course explores various perspectives on war and peace. Topics include the causes of war, economic impacts, the role of propaganda, war memories, and anti-war culture. We will analyze cases such as the Korean War, Japan's "Peace Constitution," and contemporary global conflicts to examine the possibilities of preventing war. While lectures form the core of the course, student discussions will be encouraged to foster active learning.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 講義の紹介
- 【2】: 戦争論と平和論
- 【3】: 正しい戦争論
- 【4】: 戦争の記憶・記念
- 【5】: 戦争と経済
- 【6】: 核兵器と戦争抑止
- 【7】: 戦争とプロパガンダ
- 【8】: 戦争体験
- 【9】: 反戦争と平和主義の文化
- 【10】: 朝鮮戦争 I (起源)
- 【11】: ケース・スタディ: 朝鮮戦争 II (日本の関係)
- 【12】: 戦争の防止: 北朝鮮問題
- 【13】: 日本の「平和憲法」

【14】: 第二の冷戦？

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

毎週論文を授業の前に読むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 戦争博物館のレポート:25% 戦争の映画・小説のレポート:25% クラス中の討論:20% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

国際協力特殊講義B

Seminar in International Cooperation B

堀場 明子 (HORIBA AKIKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV511
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6440
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- ・開発・平和構築の歴史的背景を理解し、既存の考えを批判的に考察できる。
- ・テキストに書かれている内容を的確に理解し、関連する事例や概念を用いながら説明できる。
- ・開発・平和の概念を批判的に検討し、現地の人々のニーズや視点を尊重した開発の在り方について議論できる。
 - Understand the historical background of development and peacebuilding and critically examine existing ideas.
 - Accurately comprehend the content written in texts and explain it using relevant cases and concepts.
 - Critically examine the concepts of development and peace, and discuss approaches to development that respect the needs and perspectives of local people.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、開発・平和構築の諸問題を論じているテキストを講読し、開発・平和構築研究の意義と課題を検討する。また、紛争の構造的な要因を多角的に分析する視点を養い、さらに心理的な部分にも考えを巡らせ、幅広い視野で開発・平和構築について議論したい。

In this course, we will read texts discussing various issues of development and peacebuilding, and examine the significance and challenges of development and peacebuilding studies. Additionally, we aim to cultivate a multifaceted perspective for analyzing the structural factors of conflicts, while also considering psychological aspects. Through this approach, we seek to engage in discussions on development and peacebuilding with a broad and comprehensive outlook.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: テキスト(1) 講読
- 【3】: テキスト(1) 講読
- 【4】: テキスト(1) 講読
- 【5】: テキスト(1) 講読
- 【6】: テキスト(1) 講読
- 【7】: レポート課題内容の講評(1)
- 【8】: テキスト(2) 講読
- 【9】: テキスト(2) 講読
- 【10】: テキスト(2) 講読
- 【11】: テキスト(2) 講読
- 【12】: テキスト(2) 講読
- 【13】: テキスト(2) 講読
- 【14】: レポート課題内容の講評(2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション:30% 中間レポート:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

メアリー・B・アンダーソン 『諸刃の援助—紛争地での援助の二面性』 明石書店 2006 4750323055

参考文献 / Readings

ヴァミク・ヴォルカン 『誇りと憎悪—民族紛争の心理学』 共同通信社 1999 4764104296

文化研究特殊講義A

Seminar in Cultural Studies A

Monism, dualism and the problems of personal identity

山口 まり子 (YAMAGUCHI MARIKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV521
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6440
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

哲学における一元論と二元論がいかなる立場であるかを学び、我々が世界や自分自身というものを捉える際、一元論的な立場、二元論的な立場は、それぞれどのようなことを意味するか、また、人格の同一性における一元論的な議論は妥当か、などの問題を考察する。

Students will learn and discuss what philosophical monism and dualism mean and what they imply for our understanding of the world and ourselves, and consider the plausibility of some monist approaches to personal identity.

授業の内容 / Course Contents

このクラスでは、まず一元論・二元論それぞれの立場を取る哲学者のテキストを読みながら、一元論・二元論がそれぞれどのようなものか、どのようなことを含意するかを議論・考察する。

一元論・二元論の立場が如何なるものであるかを捉えた後、一元論的な立場(特に唯物論的な立場)から「人格の同一性」の問題を論じるテキストを読み、その妥当性について議論・考察する。

In this class, after reading articles by monist and dualist thinkers and discussing what monism and dualism mean and imply respectively, we will read some works on the monist approach to personal identity and discuss and consider its plausibility.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション(一元論・二元論・人格の同一性に関する議論について)
- 【2】: 一元論について(1)
- 【3】: 一元論について(2)
- 【4】: 一元論について(3)
- 【5】: 一元論について(4)
- 【6】: 二元論について(1)
- 【7】: 二元論について(2)
- 【8】: 二元論について(3)
- 【9】: 二元論について(4)
- 【10】: 人格の同一性に関する議論(1)
- 【11】: 人格の同一性に関する議論(2)
- 【12】: 人格の同一性に関する議論(3)
- 【13】: 人格の同一性に関する議論(4)
- 【14】: 人格の同一性に関する議論(5)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(ハワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

場合に応じてスライドを用いる可能性もある。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

授業で指示する。

論理学を学んだことがない場合、例えば野矢茂樹著(2006)『新装 論理トレーニング』(産業図書)や同著者(2020)『まったくゼロからの論理学』(岩波書店)などを用いた独習を勧める(質問も歓迎する)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:60% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

使用するテキスト(英語)は授業で配布する。

参考文献 / Readings

参考文献は授業で紹介する。

また、上記「授業時間外の学習」欄参照のこと。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

議論における論理性を重視する。また、授業内で扱う文献はすべて英語であるため、英語で哲学論文を読める能力が求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業内で電子情報機器は不要。

文化研究特殊講義B

Seminar in Cultural Studies B

Theorizing Folklore

チョウ Y. (ZHAO YUANHAO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV522
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6441
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed to support graduate students in theorizing tradition, everyday life, and lived experiences through the lens of folkloristics. Students will develop a deep understanding of fundamental concepts in folklore studies and acquire essential skills, including selecting research topics, conducting fieldwork, organizing collected data, and applying theoretical frameworks from folklore studies, cultural anthropology, ethnic studies and related fields to successfully complete their research projects.

授業の内容 / Course Contents

Students will engage with classic texts in folklore studies and participate in discussions with the instructor. They will also present their research projects to the class and contribute to discussions on their peers' projects. This collaborative process aims to refine and tailor each student's work through mutual feedback and shared insights.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Defining the Discipline
- 【2】: History of Folklore Study
- 【3】: Text, Texture and Context
- 【4】: Tradition
- 【5】: Genre
- 【6】: Identity
- 【7】: Midterm Presentation
- 【8】: Subalternity and Study Up
- 【9】: The Performance Turn
- 【10】: The Art of Resistance
- 【11】: Group-ness and Community Making
- 【12】: Field Research
- 【13】: Interpretation and Representation
- 【14】: Final Presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定

Teaching methods may be adjusted according to students' progress.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Students are expected to complete any assigned readings and bring discussion questions to class. Extended readings may be suggested to students.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation/discussion:40% Presentation:20% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

Materials will be provided in class.

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

This course is conducted in English. Students are expected to be able to read academic papers and actively participate in discussions.

その他 / Others

Weekly topics may overlap and materials may be adjusted based on students' performance and progress.

文化研究特殊講義C

Seminar in Cultural Studies C

イメージをめぐる理論と思想:美術への多様な視線 Theories and Thoughts on the Image: New Methods of Art History

黒岩 三恵 (KUROIWA MIE)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV523
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6440
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この講義では、各種のイメージ論の講読をもとに、美術作品などイメージの捉え方や考え方について理解を深めることを目標とする。また、履修生が応用的に新たなイメージ論を構築できることをめざす。

Through reading texts on image, image theory, and/or art history, students will not only acquire a new way of thinking about the image/work of art but also be able to construct his/her critical framework on the image/work of art.

授業の内容 / Course Contents

最近の美術史研究のなかから、さまざまな視点やアプローチから女性を取り上げているものを講読したい。履修生の意見も考慮して最終的な講読テキストを決定する予定であるが、以下に講読文献の候補を掲げておく。E.ドガ《14歳の小さな踊り子》をめぐる論考である C. Laurens 著 Little Dancer Aged Fourteen: The True Story Behind Degas' Masterpiece (2018); 芸術家とモデルの関係への再考をうながす F. Borzello 著 The Artists' Model (2010); フェミニズム美術史の論文集 N. Broude & M.D. Garrard eds. Reclaiming Female Agency: Feminist Art History after Postmodernism (2005)。講読を糸口として研究方法、理論への批判的な討論を行い、自らのイメージや美術研究の方法へと応用することが求められる。

In this course, students will read excerpts of C. Laurens, Little Dancer Aged Fourteen: The True Story behind Degas' Masterpiece (2018); F. Borzello, The Artists' Model (2010); and N. Broude & M.D. Garrard eds. Reclaiming Female Agency: Feminist Art History after Postmodernism (2005). Along with in-depth readings of these texts, students will participate in discussions and presentations to hone their critical thinking on the image and construct a new framework to study the image.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

【2】: 講読: C. Laurens 著 Little Dancer Aged Fourteen①・ディスカッション

【3】: 講読: C. Laurens 著 Little Dancer Aged Fourteen②・ディスカッション

【4】: 講読: C. Laurens 著 Little Dancer Aged Fourteen③・ディスカッション

【5】: 討論: 美術史研究、視覚文化研究の動向について

【6】: 講読: F. Borzello 著 The Artist's Model (2010)①・ディスカッション

【7】: 講読: F. Borzello 著 The Artist's Model (2010)②・ディスカッション

【8】: 講読: F. Borzello 著 The Artist's Model (2010)③・ディスカッション

【9】: 討論: Borzello の論法について考える

【10】: 講読: N. Broude & M.D. Garrard eds. Reclaiming Female Agency (2005).①・ディスカッション

【11】: 講読: N. Broude & M.D. Garrard eds. Reclaiming Female Agency (2005).②・ディスカッション

【12】: 講読: N. Broude & M.D. Garrard eds. Reclaiming Female Agency (2005).③・ディスカッション

【13】: 討論: Reclaiming Female Agency に展開されていた諸方法論について考える

【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

講読テキストを予め通読することは前提である。テキスト本文とともに画像についても予習を必ず行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% テキスト講読:30% ディスカッション・討論:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

Laurens, Camille Little Dancer Aged Fourteen: The True Story Behind Degas' Masterpiece. Other Press 2020 9781635420517

Borzello, Frances The Artist's Model Faber & Faber 2010 0571269826

N. Bourde & M.D. Garrar Reclaiming Female Agency: Feminist Art History After Postmodernism University of California Press 2005 0520242521

いずれも入手が困難なため、抜粋部分はコピーを配布予定。

参考文献 / Readings

随時授業時に紹介する。

文化研究特殊講義D

Seminar in Cultural Studies D

歴史的音楽学

星野 宏美 (HOSHINO HIROMI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	VV524
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC6440
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

西洋音楽史研究の基盤である批判的校訂楽譜を読み解き、作曲家作品研究の方法論を理解する。過去の音楽作品がいかに関与し、当時いかに受けとめられたのか、こんにちに至るまでいかに伝承され、いかに変遷してきたのか(変遷しない要素はあるのか)、資料を用いたアプローチを学ぶ。

In this course, students are expected to learn the methods of historical musicology thorough reading the critical editions of musical works. They will study the analysis and interpretation of the original sources and understand the genesis, reception and transmission of musical works.

授業の内容 / Course Contents

ライプツィヒ版メンデルスゾーン作品集(いわゆる新メンデルスゾーン全集)ないしそれに準ずる校訂譜のいずれかを取り上げる。序文と校訂報告の講読と作品分析を交える。原語はドイツ語。

This course aims to help students interpret the preface and the critical commentary on one of the volumes of Leipziger Ausgabe der Werke von Felix Mendelssohn Bartholdy. The original text is in German.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入
- 【2】: 作品総目録
- 【3】: 旧全集、新全集
- 【4】: 校訂版と実用版
- 【5】: 音源探索
- 【6】: 文献探索
- 【7】: 作品成立の背景
- 【8】: 作品の受容
- 【9】: 原典資料の種類と性格
- 【10】: 資料間の異同とその解釈
- 【11】: 作曲・改訂プロセスの解明
- 【12】: 演奏習慣の問題
- 【13】: 楽譜以外の原典資料: 書簡、回想、批評など
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
----	-----------------------	---------------	-----------------------	---------------	-----------------------

個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

講読

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

指導の中で適宜指示する。図書館所蔵の各種作曲家作品全集を活用されたい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と参加:50% 毎週の課題と成果物:50%

テキスト / Textbooks

コピーを配布する。

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

言語教育研究基礎論(後期課程科目)

Introduction to Language Education Research

細田 雅也(HOSODA MASAYA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV151
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	全授業のうち 5 回はオンラインで実施する(第 2, 5, 8, 11, 13 回目の授業)。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。 The following 5 classes will be conducted online: The 2nd, 5th, 8th, 11th, and 13th. Details and changes will be announced in class or posted on Canvas LMS.
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7130
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

1. テキスト理解の理論と実証的証拠を深く理解し、それぞれの理論モデルの特徴を説明できる。
 2. テキスト理解研究で用いられる測定手法の利点や限界点について理解している。
 3. テキスト理解の理論と実証的証拠に基づき効果的な読解指導や学習を深く考察でき、それを発表できる。
1. Students understand theories and empirical findings of text comprehension and explain their pedagogical significance.
 2. Students can devise effective second-language learning and instruction based on theoretical and empirical findings of text comprehension.
 3. Students can discuss and present effective foreign reading instruction based on theoretical and empirical findings of text comprehension.

授業の内容 / Course Contents

本科目では、外国語による文章理解に関する理論と実証的知見を学び、効果的な英文読解指導について考える。具体的には、受講生はテキスト理解や第二言語読解の研究論文を読み込み、その内容を授業でプレゼンテーションする。そして研究の手法、結果、考察、理論的、教育的意義についてディスカッションを行う。これらの活動を通して、外国語における読解を効果的に指導したり、学習したりできる方法について考察する。

In this course, students will learn theories and empirical findings of text comprehension and consider effective reading instruction in a foreign language.

Students will read research papers on text comprehension and second language reading, and make presentation in class. They will then discuss the methods, results, and its theoretical and educational implications.

Through these activities, students will explore methods for effectively instructing and learning reading in a foreign language.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

- 【2】: テキスト理解とは
- 【3】: テキスト理解の理論モデル 1
- 【4】: テキスト理解の理論モデル 2
- 【5】: テキスト理解の理論モデル 3
- 【6】: テキスト理解に伴う認知プロセス 1
- 【7】: テキスト理解に伴う認知プロセス 2
- 【8】: 語彙力と読解力 1
- 【9】: 語彙力と読解力 2
- 【10】: 外国語と母語でのテキスト理解の違い 1
- 【11】: 外国語と母語でのテキスト理解の違い 2
- 【12】: 外国語と母語でのテキスト理解の違い 3
- 【13】: 理論と実証的知見に基づく読解指導のあり方の検討 1 & フィードバック
- 【14】: 理論と実証的知見に基づく読解指導のあり方の検討 2 & フィードバック

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

受講生はプレゼンテーションソフト (PowerPoint, Keynote 等) で作成した担当文献のプレゼンテーションを, PC とスクリーンを使用して行う。発表箇所の文献は電子ファイルで配布するため, 毎回の授業で PC かタブレット端末を使用する。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では 1 単位あたりの学修時間を 45 時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

各自担当する文献をしっかりと読み込み、そのプレゼンテーションを準備を確実に行うことが求められる。

また、毎回の授業の後に授業で扱われた文献を自分で読み直し、自分のことばでまとめ直すことが求められる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション:30% ディスカッション:30% 最終レポート割合::40%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

授業で関連論文、書籍を紹介する。

参考文献 / Readings

授業で関連論文、書籍を紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

英語リーディングや文章理解に興味があること。

20~40 ページの英語の関連文献を数日で読み込み、その内容を理解できること (英検準 1 級程度の英語力が望ましい)。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC を毎回持参すること。

通訳翻訳研究基礎論(後期課程科目)

Introduction to Translation and Interpreting Research
 通訳翻訳研究へのアプローチ
 (Approaches to translation and interpreting research)

武田 珂代子/山田 優(TAKEDA KAYOKO/ YAMADA MASARU)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV152
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7233
使用言語	その他	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

翻訳通訳研究の起源と展開について理解を深めるとともに、翻訳通訳研究におけるさまざまなアプローチや研究方法について十分な知識を得る。特に、履修生の博士論文研究に関連するものに焦点を当てる。

To deepen understanding of the origins and evolution of Translation and Interpreting Studies and to gain full knowledge of different approaches to and methods in translation and interpreting research, with focus on those relevant to students' doctoral research.

授業の内容 / Course Contents

翻訳とは何か、通訳とは何かについての議論から始まり、翻訳通訳研究の起源と展開、鍵となる概念や理論を含む通訳翻訳研究の概要について理解を深める。次に、翻訳通訳研究におけるさまざまなアプローチや研究方法、また、その適用例に焦点を当てる。履修者は研究方法に関するプレゼンテーションを行い、最終レポートを提出する。

Starting with discussion on what translation is and what interpreting is, this course reinforces the students' understanding of the origins and evolution of Translation and Interpreting Studies, and of key concepts and theories used in translation and interpreting research. Then it focuses on applications of different approaches to and methods in translation and interpreting research. Students are required to give a presentation on research methods and submit a final report.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: Key concepts and theories in Translation and Interpreting Studies
- [2]: Product-oriented research
- [3]: Process-oriented research
- [4]: Sociocultural approaches
- [5]: Historical research
- [6]: Research questions and hypotheses
- [7]: New trends in Translation and Interpreting Studies
- [8]: Quantitative and qualitative analysis
- [9]: Data-driven research (1)
- [10]: Data-driven research (2)
- [11]: Fallibility and science
- [12]: Designing a research
- [13]: Student presentations
- [14]: Student presentations

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(ハワホ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Students are expected to complete a reading assignment every week. At the end of the course, students are required to give a presentation on research methods and submit a final report.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Active participation in class:30% In-class presentation:30% 最終レポート割合::40%

A greater expectation of task fulfillment beyond the Master's level across all assigned work is expected.

テキスト / Textbooks

Saldanha, G., & O'Brien, S. Research Methodologies in Translation Studies Routledge 2014 9781909485006

参考文献 / Readings

Williams, J., & Chesterman, A. The Map: A Beginner's Guide to Doing Research in Translation Studies St. Jerome 2002 9781900650540

その他 / Others

TI@Rikkyo <https://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/index.html>

コミュニケーション研究基礎論(後期課程科目)

Introduction to Communication Studies

石黒 武人 (ISHIGURO TAKETO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV153
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7330
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目標は、コミュニケーション研究に関する様々な知見に触れながら、コミュニケーションを研究する上で必要となる基礎的な知識を身につけることを目的とする。さらに、受講生は、自身の研究テーマに関連する概念、理論を授業内容から取り上げ、それらを自身の研究に適切に組み入れて活用し、研究を発展させることができる。

The aim of this course is to acquire the basic knowledge and perspectives required for conducting communication research by reading a wide range of literature in Communication Studies and related fields. In addition, students will be able to identify concepts and theories that they can apply to their own research and incorporate them appropriately into their research for the improvements of their research.

授業の内容 / Course Contents

コミュニケーション学とその他の関連分野におけるコミュニケーション研究を取り上げながら、コミュニケーションを学術的に分析する際に求められる視点、概念ならびに理論・モデルを学んでいく。併せて、コミュニケーション研究の歴史や最近の研究動向についても取り上げる。

By focusing primarily on communication research in the areas of Communication Studies and some related fields, students will learn major perspectives, concepts, and theories/models needed to conduct communication research. We will also learn the historical development of Communication Studies as a field of research and familiarize ourselves with recent trends in the field.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 授業概要、コミュニケーション研究のテーマとアプローチ
- 【2】: コミュニケーション研究の歴史と系譜
- 【3】: コミュニケーション研究とは何か?
- 【4】: 記号としての言語: 意味生成のプロセス
- 【5】: コミュニケーションの非言語的要素
- 【6】: アイデンティティと対人コミュニケーション
- 【7】: 集団・組織とコミュニケーション
- 【8】: コミュニケーション教育 (communication education): コミュニケーション能力を再考する
- 【9】: パワーとコミュニケーション
- 【10】: メディアとコミュニケーション
- 【11】: 異文化コミュニケーション
- 【12】: 日本における異文化コミュニケーション教育の今日的課題
- 【13】: 環境とコミュニケーション
- 【14】: 期末レポート発表会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

大学院科目ということもあり、授業外での受講者の積極的かつ自発的な取り組みが求められます。博士後期課程の院生の皆さんは、授業で扱うさまざまな論文で提示される視点、概念、理論的・方法論的枠組み、調査結果、考察、結論、ならびに限界に触れながら、自身の研究との比較のうえで、自身の研究に取り入れられる内容を探したり、自身の研究を位置付けたりしてください。そのため、課題論文を読んで授業に参加してください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加・貢献度(レポートを除く各種提出物を含む):30% 口頭発表:20% 小レポート:20%
最終レポート割合::30%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

なし。適宜資料を配布もしくは紹介する。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

課題論文の内容を理解するのみならず、その内容について批判的に考察し、自身の意見を述べる能力が求められます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

とくにありません。

異文化コミュニケーション研究基礎論(後期課程科目)

Introduction to Intercultural Communication Research

灘光 洋子(NADAMITSU YOKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV154
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7330
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

異文化コミュニケーションに関わる様々な課題や中心となる概念および理論を理解し、研究テーマの分析・考察に応用することができる。

- (1) To develop deeper understanding of perspectives and theories in the field of Intercultural Communication
- (2) To apply the newly acquired perspectives and theories to research analysis

授業の内容 / Course Contents

異文化コミュニケーション領域の研究における理論入門コース。異文化コミュニケーション領域における概念や理論に関する主要文献を精読し、「彼ら」と「我々」の間に生じる相互作用について考察する。「異文化」を感じるコミュニケーションの場で、何が起きているのか、それがどのように現れているのか、背後にはどのような要素が絡んでいるのかについて考えていきたい。事前に配付資料(テーマに関連した文献)を読んでくること。クラスは、講義、発表、質疑応答を中心に進める。

This is an introductory course to the theories of Intercultural Communication. We will read the key literature and articles associated with central concepts and issues in the field of Intercultural Communication. The main objective is to deepen our understanding of aspects and mechanisms of interactions between and among people from different cultures and explore the realities behind the scene.

授業計画 / Course Schedule

- [1]:オリエンテーション
- [2]:コミュニケーションについて
- [3]:異文化コミュニケーションについて
- [4]:言語メッセージの力(1)
- [5]:言語メッセージの力(2)
- [6]:非言語メッセージの力(1)
- [7]:非言語メッセージの力(2)
- [8]:コミュニケーション、シンボル、解釈について
- [9]:コミュニケーションとアイデンティティ(1)
- [10]:コミュニケーションとアイデンティティ(2)
- [11]:カルチャー・ショックと異文化適応
- [12]:多文化共生と多文化主義
- [13]:日常生活に見られる異文化コミュニケーション
- [14]:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

各回の予習範囲や課題は、授業内で別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表および討議への貢献度:60% 最終レポート割合::40%

後期課程においては、全ての評価方法において高度な達成基準を要求する。

テキスト / Textbooks

毎回、関連文献をCanvas LMSに掲載する。

参考文献 / Readings

Chen, L. Intercultural communication Walter de Gruyter

Griffin. A first look at communication theory Mcgraw Hill

Gudykunst. Theorizing about intercultural communication Sage

池田理知子 『よくわかる異文化コミュニケーション』 ミネルヴァ書房

八島智子・久保田真弓 『異文化コミュニケーション論』 松柏社

その他 / Others

履修者の積極的な討議参加を求める。各自、十分に文献を読み込んでくることを前提に授業を進める。

授業内容のテーマや順番は進捗状況に応じて変更する可能性がある。

グローバル文化研究基礎論(後期課程科目)

Introduction to Global Cultural Studies
Introduction to Film Theories

イ, ヒャンジン(LEE HYANGJIN)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV155
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7430
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

グローバル化に伴う文化や言語の接触、混雑の現象、また異文化表象について、映像研究の立場から論じるために重要な理論の抜粋を読み考察する。各理論の背景などに留意しながら批判的に理論を考察する力をつけ、各自の研究テーマに応用する可能性を検討する。更に、学会発表や論文執筆に結びつけることができる。

In this course, students will read and reflect on excerpts from important theories and will subsequently utilize the viewpoint of film studies to discuss the interactions between cultures and languages, the phenomenon of intermixing, and intercultural expression brought about by globalization. Additionally, the module will help students develop the ability to critically consider film theories while accounting for their backgrounds and other factors, and to investigate the possibilities of applying this skill to individual research themes. Furthermore, the course aims to develop into academic presentations and thesis writing.

授業の内容 / Course Contents

人や資本の境界を越えた移動に伴う文化の変容や文化接触、異文化表象について、オリエンタリズム、ネイション、植民地主義、帝国主義、ジェンダー、エスニシティなどの問題点に着目した映像研究論文を読み、議論を行う。

This course aims to help students to read and discuss academic papers informed by film studies that focus on orientalism, nations, colonialism, imperialism, gender and sexuality, ethnicity, and other issues in the cultural transformation, interaction, and intercultural expression brought about by movements that exceed the limits of human beings and capital.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション: グローバリゼーションと映像文化について
- 【2】: 理論とケーススタディ1: 作家主義とジャンル論
- 【3】: 理論とケーススタディ2: 形式主義、構造主義とポスト構造主義
- 【4】: 理論とケーススタディ3: マルクス主義とリアリズム
- 【5】: 理論とケーススタディ4: ポストモダニズムとサイコアナリシス
- 【6】: 理論とケーススタディ5: フェミニズムと男性らしさ
- 【7】: 理論とケーススタディ6: クィア理論
- 【8】: 映像文化分析の実践1: オリエンタリズム
- 【9】: 映像文化分析の実践2: ネイション
- 【10】: 映像文化分析の実践3: エスニシティ
- 【11】: 映像文化分析の実践4: ジェンダーとセクシュアリティ
- 【12】: 映像文化分析の実践5: 植民地主義・帝国主義
- 【13】: 映像文化分析の実践6: ポストコロニアルとトランスナショナル映画

【14】:まとめ**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポイント等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="radio"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="radio"/>
上記いずれも用いない予定	<input type="radio"/>				

参加者の発表と議論を中心に授業をすすめる。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および議論への積極的な参加:30% 授業内での口頭発表:30% 最終レポート割合::40%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

フィードバックは随時授業内で行う。

テキスト / Textbooks

Ruth Doughty and Christine Etherington-Wright Understanding Film Theory Bloomsbury 2022 9781137587947

D・ボードウェル・K・トンプソン Film Art - Introduction to Movie Art 名古屋大学出版会 2007 9784622086642

参考文献 / Readings

本橋哲也 『カルチュラル・スタディーズへの招待』 大修館書店 2002 9784255556345

ピーター・バーク(河野真太郎訳) 『文化のハイブリディティ』 法政大学出版局 2012 9784588603266

国際協力・人類学基礎論(後期課程科目)

Foundations of International Cooperation and Anthropology

グローバル・ヒストリーという考え方:James C. Scott(著)・佐藤仁(監訳)『ゾミア 脱国家の世界史』を読む

根本 敬(NEMOTO KEI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV156
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7330
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

東南アジアを中心とする山地少数民族の生存戦略を「支配されないための技術」としてとらえ、政治学・歴史学・人類学を包摂する方法論に基づいて独特の議論を展開した James C. Scott の大著『ゾミア』を精読することによって、グローバル・ヒストリーという考え方の理解を深める。それを各人の博士論文作成に有効な形で生かせるよう指導をおこなう。

In order to deepen the way of understanding global history, this class will read in detail James C. Scott's <The Art of Not Being Governed: An Anarchist History of Upland Southeast Asia>, which deals with the historical and cultural features of the people residing in the Highland Southeast Asia, based on the methodology connoting political science, history and anthropology. The class will also encourage the Ph. D. students to apply the essence of the understanding of global history into each of their dissertations.

授業の内容 / Course Contents

学期を通じて James C. Scott の大著『ゾミア:脱国家の世界史』を精読し、相互に議論を深める。同著は東南アジアを中心とする山地少数民族の生存戦略を「支配されないための技術」としてとらえ、政治学・歴史学・人類学を包摂した方法論を用いて个性的に論じたことで知られる名著である。賞賛と同時に批判も少なくない著作ではあるが、この Scott の議論を通じて、グローバル・ヒストリーという考え方の一環を知るための道筋としたい。また、学期中に受講生が取り組んでいる博士論文の紹介の機会ももうける。

In this class, we will read and discuss James C. Scott's famous book <The Art of Not Being Governed: An Anarchist History of Upland Southeast Asia>, which deals with the historical and cultural features of the people residing in the Highland Southeast Asia (so called Zomia). The book which is based on the methodology connoting political science, history and anthropology, has received both praise and criticism up to nowadays, but it is still one of the most important literary works in the studies of global history.

授業計画 / Course Schedule

【1】:(1)オリエンテーション

(2)簡潔な相互自己紹介(特に博士論文で取り組むテーマについて)

(3)Zomia 論とは何か(導入講義1)

【2】:(1)歴史学とは何か(導入講義2)

(2)報告とコメントのやりかた

(3)報告者の分担割り当て

【3】:James. C. Scott (著)・佐藤仁(監訳)『ゾミア:脱国家の世界史』を読む①

【4】:James. C. Scott (著)・佐藤仁(監訳)『ゾミア:脱国家の世界史』を読む②

【5】:James. C. Scott (著)・佐藤仁(監訳)『ゾミア:脱国家の世界史』を読む③

【6】:James. C. Scott (著)・佐藤仁(監訳)『ゾミア:脱国家の世界史』を読む④

- 【7】:James. C. Scott (著)・佐藤仁(監訳)『ゾミア:脱国家の世界史』を読む⑤
 【8】:博士論文で取り組んでいるテーマの詳細な紹介
 【9】:James. C. Scott (著)・佐藤仁(監訳)『ゾミア:脱国家の世界史』を読む⑥
 【10】:James. C. Scott (著)・佐藤仁(監訳)『ゾミア:脱国家の世界史』を読む⑦
 【11】:James. C. Scott (著)・佐藤仁(監訳)『ゾミア:脱国家の世界史』を読む⑧
 【12】:James. C. Scott (著)・佐藤仁(監訳)『ゾミア:脱国家の世界史』を読む⑨
 【13】:James. C. Scott (著)・佐藤仁(監訳)『ゾミア:脱国家の世界史』を読む⑩
 【14】:補論
 書評レポート提出(書き方は事前に説明します)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポ等)の使用	<input type="checkbox"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="checkbox"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="checkbox"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="checkbox"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="checkbox"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="checkbox"/>
上記いずれも用いない予定	<input type="checkbox"/>				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

初回の授業までにテキストを入手しておいてください。

自分の報告準備に力を入れることはもちろんですが、ほかの院生が報告する場合も、事前に該当する章を熟読し、自分の質問とコメントを準備するようにしてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% クラス内での報告:30% 出席状況:30% 最終レポート割合::40%

出席状況にはクラス内での発言(コメント、質問)を含みます。

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

ジェームズ・C・スコット ゾミア 脱国家の世界史 みすず書房 2013 9784622077831

参考文献 / Readings

調査研究方法論A(後期課程科目)

Research Methods A
質的研究法
Qualitative research method

時津 倫子(TOKITSU TOMOKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV157
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7530
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

質的研究の研究計画から論文執筆に至るプロセスに必要な知識と技術を習得すること。APA マニュアルに示された投稿論文の条件に沿った質的研究論文を書けるようになること。

To acquire the knowledge and skills needed during the process of planning and writing an academic report for a qualitative research project. To be able to write qualitative research papers in accordance with the requirements for submissions as outlined in the APA Manual.

授業の内容 / Course Contents

質的研究を適用するにふさわしいリサーチクエスト、研究対象の選定と倫理的問題、質的研究のためのデータの集め方、質的研究の種類、質的データの分析法、質的研究のための論文作法についての講義と演習。

Students will learn about how to conduct qualitative research. This course will consider topics such as types of qualitative research, suitable research questions, data collection and analysis, ethical issues, and report writing for qualitative research.

授業計画 / Course Schedule

[1]: 質的研究とは。質的研究と量的研究の比較。質的研究に合うテーマ、合わないテーマ(講義)

[2]: 質的研究を始める前に考えておくこと。

あなたは質的研究に向いている? 向いていない?

倫理的問題について。あなたの研究は、人を傷つけていませんか?

[3]: 質的研究の始め方

先行研究を読んでまとめてみる。誰を対象に、どんな方法でデータを集めている?

あなたの研究は、誰を対象に、どんな方法でデータを集めますか?

[4]: フィールドに入る前に:コンタクトの取り方・「参加」しながら「研究」すること

あなたのフィールドとあなたの立ち位置

[5]: データの取り方

データとは? データをとる方法(インタビュー、観察、文書資料や動画、自己省察)

[6]: 記録のとり方1

何を記録するのか。フィールドメモ。メモからフィールドノート。

[7]: 記録のとり方2

インタビュー。質問のしかた、聞き方、記録のとり方

[8]: データの整理:分析のための準備

データ分析の進め方。集めて、整理して、バラバラにして、また集める。
データのコーディング。

【9】:データの分析:データを解釈する
記述, 説明, 解釈, 結論

【10】:データの見せ方 並べ方
ナラティブデータの配置
図表の示し方
写真, イラストなどの使い方
プレゼンテーションのためのスライドの作り方

【11】:質的研究論文を書く
誰に向けて書く? 何のために書く? 誰の声を書く?

【12】:質的研究論文の評価基準:APA スタンドででの評価の観点

【13】:社会科学としての質的研究 アートとしての質的研究

【14】:あなたのリサーチクエストとデータ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

予習:授業中に指示された教科書の箇所や、配付された資料を読む。(資料はCanvas からPDF 配布)

復習:授業中に指示された課題を遂行する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 複数回の課題提出:60% 最終レポート割合::40%

全ての課題について、前期課程よりも高度なレベルを要求します。

テキスト / Textbooks

プリント配布

参考文献 / Readings

Yin,R Qualitative research from start to finish Guilford 2016 1462517978

佐藤郁哉 『フィールドワークの技法:問いを育てる仮説をきたえる』 新曜社 2002 4788507889

Corbin, J. Strauss, A./ 操華子・森岡崇訳 『質的研究の基礎:グラウンデッドセオリーの技法と手順(第3版)』 医学書院 2012 4260012010

箕浦康子 『フィールドワークの技法と実際Ⅱ』 ミネルヴァ書房 2009 9784623053551

プラサド/箕浦監訳 『質的研究のための理論入門』 ナカニシヤ出版 2018 9784779512230

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

あなたのリサーチクエストは何ですか? 何を知りたいですか? 誰のことを知りたいですか?それにふさわしい方法は何ですか?

講義を受けながら、課題をこなしながら、上記のような質問についてくりかえし自問自答することになります。考え続けることは苦しいですが、それに耐えられるだけの研究関心を持ち続けていただきたいと思っています。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料配布, 課題提出にはCanvas を利用します。レポートは原則としてPDF ファイルで提出してください。

その他 / Others

研究は知への旅です。苦しいことも楽しいこともたくさんあります。一緒に旅を楽しみましょう。

講義した内容に関わる課題がほぼ毎回あります。

調査研究方法論B(後期課程科目)

Research Methods B
統計学・量的研究

萱 忠義(KAYA TADAYOSHI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV158
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	全授業回のうち7回はオンラインで実施する(2・4・6・8・10・12・14回目の授業)。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内またはCanvas LMS等で周知する。
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7530
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

調査や実験で得られたデータの処理方法や分析方法について学び、統計学的な知識と実践的調査技能を身につける。さらに、自分の研究分野においてデータを収集し、学会発表や博士論文執筆に向けたデータ分析を行う。

To learn how to process and analyze data obtained from surveys and experiments, and acquire statistical knowledge and practical research skills.

To collect data and conduct data analysis for academic conference presentations and doctoral dissertation writing.

授業の内容 / Course Contents

リサーチデザインおよび量的データを扱う上で必要となる基本的な統計知識を学ぶ。また、統計分析結果を解釈し、結論を導く手法を学習する。毎回の授業では、前半を講義形式または発表形式で行い、後半を討論形式で行う。教室内活動や討論では、学生は積極的に自分の意見を述べるのが求められる。なお、授業や文献講読では英語および日本語を使用する。また、統計に関するビデオの閲覧も行う。

Students will learn research design and basic statistical knowledge necessary for quantitative data analyses, so that they can interpret the results of their projects and draw their conclusions. In each class, the first half will be conducted in a lecture or presentation format, and the second half in a discussion format. Students are required to be proactive in order to express their opinions, and the instructor will act as a facilitator for classroom activities and discussions. The lectures will be conducted both in English and in Japanese. Additionally, the course will include viewing videos related to statistics.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス

【2】: 研究デザイン: どう研究計画を立てるのか?

【3】: 妥当性と信頼性: テストはどう作るのか?

【4】: 比率尺度, 間隔尺度, 順序尺度, 名義尺度: テストのデータには何種類あるのか?

【5】: 平均値, 中央値, 最頻値: データはどう解釈するのか?

【6】: 分散, 標準偏差, 標準得点, 偏差値: データはどう解釈するのか?

【7】: t 検定: 2つのグループの差はどう示すのか?

【8】: 有意差と効果量: 検定結果をどう解釈するのか?

- 【9】:分散分析: 多数のグループ間の差はどう示すのか?
 【10】:ノンパラメトリック検定: データ量が少ないときどうするのか?
 【11】:相関分析: データの関係性ってどう示すのか?
 【12】:回帰分析: 欠損データはどう扱うのか?
 【13】:カイ二乗検定: アンケートはどう処理するのか?
 【14】:総括および学習度合いの確認

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(ハワホ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

ガイダンス時に配る詳細シラバスを参照のこと

Refer to the detailed syllabus provided in the guidance session.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:10% デジタルノート提出:20% 授業内小テスト:30% 最終テスト割合::40%
 すべての評価基準において、前期課程の学生より高度な水準を設定する。

A higher standard than that of MA students is set for all evaluation criteria.

テキスト / Textbooks

竹内理・水本篤 『外国語教育研究ハンドブック【増補版】— 研究手法のより良い理解のために』 大修館書店 2023
 9784775402948

参考文献 / Readings

- Paul Richardson・Allen Goodwin・Emma Vine Research Methods and Design in Psychology (Critical Thinking in Psychology Series) Learning Matters 2011 9780857254696
 Mark Saunders Dealing With Statistics: What You Need To Know: What you need to know Open University Press 2007 9780335227242
 三浦省五・前田啓朗・山森光陽・磯田貴道・廣森友人 『英語教師のための教育データ分析入門—授業が変わるテスト・評価・研究』 大修館書店 2004 9784469244939
 浦野研・亘理陽一・田中武夫・藤田卓郎・高木亜希子・酒井英樹 『はじめての英語教育研究 — 押さえておきたいコツとポイント』 研究社 2016 9784327421977
 平井 明代【編著】『教育・心理系研究のためのデータ分析入門 — 理論と実践から学ぶSPSS活用法 (第2版)』 東京図書 2017 9784489022623

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

高等学校の学習する基本的な数学(数学 I、数学 A、数学 B)の知識が必要。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

- ・Windows 10 または Windows 11 の PC であること。
- ・Windows 10 または Windows 11 の基本操作ができること。
- ・個人でマイクロソフトアカウントとパスワードを所有していること(大学のアカウントは使用できません)。
- ・Microsoft 365 版 OneNote が使える環境であること。
- ・OneDrive との連携が可能であること。
- ・Canvas LMS を利用できること。

その他 / Others

この講義は、初回のガイダンスで配布される完全版のシラバスに基づいて行われます(ここに記載されているシラバスは簡略版です)。The course will be conducted based on the full syllabus distributed in the guidance on the first day (The syllabus that you see here is a simplified version).

言語コミュニケーション研究基礎論(後期課程科目)

Introduction to Language and Communication Research

濱田 彰 (HAMADA AKIRA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV159
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7131
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

The purpose of this course is to prepare PhD students to conduct independent research in language and communication studies. Specifically, students will learn to (a) critically evaluate extant literature, (b) formulate research questions, (c) collect data, and (d) publish their findings in the form of academic papers.

授業の内容 / Course Contents

Through lectures and hands-on sessions, students will learn basic knowledge and skills required for conducting PhD research in the field of language and communication studies. Topics covered will include validity and reliability, different kinds of scales (ratio, interval, ordinal, and nominal), descriptive statistics (means, variances, standard deviations, kurtosis, and skewness), normal distribution, deviation values, inferential statistics, effect sizes, and reference management and citations.

授業計画 / Course Schedule

【1】:Introduction

-Coursework assignment

【2】:How to Build a Research Design

-Choosing a topic

【3】:Research Validity and Reliability

-Research design

-Data collection methods

【4】:Descriptive Statistics

【5】:Inferential Statistics

【6】:Reviewing the literature

【7】:Methodological approach

-Types of research design

-Sampling

-Ethics

【8】:The dissertation proposal

-Purpose of the study

-Research questions

【9】:Data collection

-Modes of data collection

【10】:General writing guidelines

-Organization of a dissertation

-General requirements of a dissertation

【11】:Writing the literature review

-The purpose of the literature review

-Organization of the literature review

【12】:Writing the literature review

-Sources to include in the review

-Critical reading and writing

-Referring to the gap in knowledge

【13】:Writing the methodology chapter

-The purpose of the methodology chapter

-Organization of the methodology chapter

【14】:Summary and conclusions

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

各授業回に対応する資料を通読しディスカッションに備えること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション(Presentation):40% ディスカッション(Discussion):20% 最終レポート
割合::40%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

Lindy Woodrow Doing a Master's Dissertation in TESOL and Applied Linguistics Routledge 2019 9781138587298

参考文献 / Readings

その他 / Others

毎週20ページ程度の英語で書かれた専門的な文献を読むことが求められるため、参加者には一定の英語力が必要となる。

Intercultural Communication in Language Teaching (後期課程科目)

Intercultural Communication in Language Teaching

町 沙恵子 (MACHI SAEKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV184
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7131
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

The main aim of this course is to provide students with opportunities to enhance their understanding of how culture and thought patterns influence the performance and behaviors of second language learners, with a specific focus on Japanese learners of English. Various concepts and issues unique to the Japanese language and communication are introduced through empirical studies, and the course facilitates the exchange and proposal of ideas for effectively instructing Japanese learners of English to improve their intercultural competence.

For those who have already completed their master's degree, the course aims to provide opportunities to conduct and present empirical studies, as well as exchange critical opinions with others.

授業の内容 / Course Contents

In this course, various topics related to intercultural communication, such as Japanese politeness, Uchi and Soto, rhetorical structure, and interactional features, are covered. Students are required to read the provided materials and orally summarize them in class, followed by discussions. Additionally, students have opportunities to apply their acquired knowledge to the development and/or revision of English Language Teaching materials. They are also tasked with completing a mini-project based on their observations, experiences, and experiments.

授業計画 / Course Schedule

【1】: Course orientation & Introduction

Why are cultural differences important?

【2】: High-context cultures vs. low-context cultures

【3】: Relationality: Amai, uchi/soto and omote/ura

【4】: The concept of self

【5】: Politeness & wakimae

【6】: Topic prominence & rhetorical structure ki-shoo-ten-ketsu

【7】: Linguistic relativity: How the Japanese language influences the way people perceive reality

【8】: Backchanneling: Aizuchi and cross-cultural interactions

【9】: Discourse analysis of Japanese conversations Part 1 (Introduction)

【10】: Discourse analysis of Japanese conversations Part 2 (Analysis)

【11】: Discourse analysis of Japanese conversations Part 3 (Summary)

【12】: Emotions and multimodality in discourse

【13】: Final mini-project (student presentations)

【14】: Final mini-project (student presentations)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

About 4 hours of preparation and review are required for each class (e.g., reading given materials and preparing for oral reports). Contribution to discussion in class is very much welcomed. Students are also required to be prepared for presentation on final mini-project based on their research at the end of the course.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Oral report of chapter summary:20% Participation: Contribution to discussion in class:50%

Final mini project: Oral presentation:30%

A greater expectation of task fulfillment beyond the Master's level across all assigned work is expected.

テキスト / Textbooks

Senko K. Maynard Japanese Communication: Language and Thought in Context University of Hawai'i Press 1997
9780824818784

参考文献 / Readings

Supplementary readings will be provided in class.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Having a basic knowledge of Japanese is preferable.

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.7.

Seminar in Applied Linguistics A (後期課程科目)

Seminar in Applied Linguistics A

細田 雅也 (HOSODA MASAYA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV185
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	全授業のうち 5 回はオンラインで実施する(第 2, 5, 8, 11, 13 回目の授業)。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。 The following 5 classes will be conducted online: The 2nd, 5th, 8th, 11th, and 13th. Details and changes will be announced in class or posted on Canvas LMS.
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7131
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

1. Students have a good understanding of theories of vocabulary learning and can explain them.
2. Students have a comprehensive understanding of empirical findings in vocabulary learning research.
3. Students can devise and present effective vocabulary learning methods based on the theories and empirical findings of vocabulary learning.

授業の内容 / Course Contents

Students learn theories and empirical findings related to vocabulary learning through presentations and discussions. Specifically, students will make presentations on assigned chapters from "Learning vocabulary in another language (Nation, 2022)". Following these presentations, there will be discussions focusing on the theoretical and pedagogical significance of the presented research.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: Guidance & Assigning presentation chapters and dates
- [2]: Ch. 1 The goals of vocabulary learning
- [3]: Ch. 2 Knowing a word
- [4]: Ch. 3 Teaching vocabulary and the roles of the teacher
- [5]: Ch. 4 Vocabulary and listening and speaking
- [6]: Ch. 5 Vocabulary and reading and writing
- [7]: Ch. 6 Vocabulary learning out of class
- [8]: Ch. 7 Vocabulary in specialised areas
- [9]: Ch. 8 Vocabulary-learning strategies and autonomy
- [10]: Ch. 9 Learning words from context
- [11]: Ch. 10 Word parts

【12】:Ch. 11 Deliberate vocabulary learning from word cards

【13】:Ch. 12 Finding and learning multiword units

【14】:Consolidation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

Students will make presentations of the assigned chapter using presentation software (PowerPoint, Keynote, etc.), with the aid of a PC and screen. Since the chapters for the presentation will be distributed as digital files, students are required to use a laptop computer (or tablet computer) in each class.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

- The presenter is required to thoroughly understand the assigned chapter, create presentation slides, and prepare to present them in English.
- Before the class, students are required to read the chapter that will be covered in the class and prepare for an English discussion.
- After the class, students must review the chapter that was presented and consider its relevance for research and education.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentation:30% Discussion:30% 最終レポート割合::40%

A greater expectation of task fulfillment beyond the Master's level across all assigned work is expected.

テキスト / Textbooks

Digital files will be given.

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.6.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC, Presentation software (PowerPoint, Keynote), Word.

Students must bring their laptop computer to the class.

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.7.

Research Methods(後期課程科目)

Research Methods

エルウッド(ELWOOD JAMES ANDREW)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV186
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面(全回対面)/Face to face (all classes are face-to-face)
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7131
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This course will introduce research methods in second language acquisition (SLA) and applied linguistics for doctoral students. By the end of the course, the following objectives will be met:

- 1.Students will be able to understand and explain the importance of research in both academic and professional areas.
- 2.Students will understand the theoretical underpinnings of quantitative inquiry.
- 3.Students will be able to identify, explain, and evaluate key concepts of quantitative inquiry such as measurement theory, variable types, psychometrics, sampling, and inferential testing.
- 4.Students will be able to achieve (2) and (3) in relation to qualitative inquiry.
- 5.Students will be able to create and defend a mini-research proposal for a research project.
- 6.Students will be versed in ethical research behavior.

授業の内容 / Course Contents

Weekly class contents are outlined in the schedule section below. Students will first learn about the importance and nature of research in SLA and applied linguistics. Our initial focus will be on quantitative approaches, after which we will look at qualitative approaches. Thereafter we will examine the nature of mixed methods research. Throughout the course, students will be required to read and question as they collect research ideas and techniques. This course will culminate with research proposals that students will submit and present in class.

Doctoral students will be required to complete an additional report demonstrating adequate mastery of research methods in a mock study. This will be designed and completed in consultation with the instructor.

授業計画 / Course Schedule

【1】: Overview of second language acquisition research

Course introduction

Assign self-introduction and research reflection

【2】: Systematic literature review methods

Developing research questions

Critical reading and analysis

Assign annotated bibliography

【3】: Variables and measurement

Sampling techniques

Experimental designs

Quasi-experimental designs

Assign journal review

- 【4】**: Survey research
Questionnaire design
Scale development (midpoint, length, revise or use in situ)
Online research methods
- 【5】**: Descriptive statistics
Probability distributions
Presentation of data and results (tables and figures)
- 【6】**: Correlation and regression
ANOVA and MANOVA
Factor analysis
- 【7】**: Qualitative research paradigms
Types of qualitative research
Trustworthiness
- 【8】**: Interview techniques
Focus group facilitation
Narrative analysis
Visual methods
Digital ethnography
- 【9】**: Coding techniques
Thematic analysis
- 【10】**: Mixed methods designs
Analysis techniques
Integration strategies
Quality criteria
- 【11】**: Research proposal workshop
- 【12】**: Research ethics and integrity
- 【13】**: Research proposal consultation
- 【14】**: Research proposal presentations

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to devote a minimum of two hours weekly outside class for preparation.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation:10% Weekly homework:10% Annotated bibliography:10% Mock study report:30% 最終レポート割合::30%最終テスト割合::10%

A greater expectation of task fulfillment beyond the Master's level across all assigned work is expected.

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Readings will be provided in class as necessary

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.7.

言語コミュニケーション研究特殊講義A(後期課程科目)

Seminar in Language Communication Research A

佐藤 邦彦(SATO KUNIHICO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV201
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7140
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

意味論に関する様々な立場を批判的に検討していくための思考力を養い、それを学生自身の言語・意味に関する研究テーマに応用することを目指す。

Cultivate critical thinking skills for considering semantic perspectives from many different standpoints, and aim to apply them to the student's own theme of study on language and meaning.

授業の内容 / Course Contents

意味論の基礎知識を紹介するための講義を交えつつ、設定したテーマに即して資料を読んだり討論を行う中で、意味論の持つ問題点について皆で考えてゆく。なお、言語学プロパーの意味論の具体的テーマとしては、語彙の意味論が中心となる。

While including lectures to introduce basic knowledge of semantics, we will read documents and conduct debates related to the themes treated in the class, to think about problems that exist within semantics. As themes of semantics in linguistics proper, lexical semantics will be treated mainly in this class.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:意味とコミュニケーション
- 【2】:意味と認識の社会的形成
- 【3】:近代言語学以前における意味に関する論考
- 【4】:記号論と意味論
- 【5】:構造主義言語学における語の意味の扱い
- 【6】:語の意味の構造
- 【7】:語と語の意味関係
- 【8】:中間発表または提出物に基づく討論
- 【9】:語彙体系上の語の価値
- 【10】:多義性と基本的意味説
- 【11】:認知言語学の観点から見た多義性
- 【12】:メタファー・メトニミーと転義
- 【13】:認知意味論におけるその他いくつかの重要概念
- 【14】:最終提出物に向けての討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用

校外実習・フィールドワーク

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

準備学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間レポートまたは発表:30% 出席および授業参加度:30%

最終レポート割合:40%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

特に指定せず、その都度プリント資料を配布する。

参考文献 / Readings

必要に応じて授業中に指示する。

言語コミュニケーション研究特殊講義B(後期課程科目)

Seminar in Language Communication Research B

高橋 里美 (TAKAHASHI SATOMI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV202
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7140
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

教室での第二言語語用論的能力の習得に関する研究に焦点を当て、その理論的背景についての理解を深めるとともに、特定の理論的枠組みにおいて適切な実証研究を実践できる能力を身につける。

This course is designed to provide a clear understanding of the issue of instructed second language (L2) pragmatics. Students will gain fundamental and comprehensive knowledge of both related second language acquisition (SLA) theories and empirical research methods that are pertinent to explore instructional effects in L2 pragmatics in the specific theoretical frameworks.

授業の内容 / Course Contents

第二言語習得研究の一分野としての「第二言語語用論」では、教室での指導をとおして第二言語語用論的能力の習得の可能性を探る試みが行われてきた。この講義では、同テーマを扱った研究に焦点を当てるが、複数の理論的枠組みにおいて考察する。対象とする理論的枠組みとは、第二言語習得研究の認知心理学的アプローチの中心的な理論である「気づき仮説」・「技能習得理論」・「用法基盤モデル」である。それぞれの理論的枠組みにおいて実践された実証研究の成果を検証する。

In second language pragmatics, one of the research areas in SLA, an attempt has been made to explore possibilities of learners acquiring their L2 pragmatic competence in classroom settings. In this course, we will focus on teaching pragmatics, but from different theoretical perspectives. The target theories will include Noticing Hypothesis, Skill Acquisition Theory, and Usage-based Model, all of which are the major theories in the cognitive and psychological approaches to SLA. We will examine the findings of empirical studies undertaken within the framework of these theories.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入
- 【2】: 注意と気づき: 理論的背景
- 【3】: 気づき仮説と語用論的能力の習得(1)
- 【4】: 気づき仮説と語用論的能力の習得(2)
- 【5】: 気づき仮説と語用論的能力の習得(3)
- 【6】: 気づき仮説と語用論的能力の習得(4)
- 【7】: 技能習得理論: 理論的背景
- 【8】: 技能習得理論と語用論的能力の習得(1)
- 【9】: 技能習得理論と語用論的能力の習得(2)
- 【10】: 用法基盤モデル: 理論的背景
- 【11】: 用法基盤モデルと語用論的能力の習得(1)
- 【12】: 用法基盤モデルと語用論的能力の習得(2)
- 【13】: 最終レポートについての発表

【14】:総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修については、毎回の授業で指示する。各回の予習・復習にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:30% 課題提出および口頭発表:30% 最終レポート割合::40%

全ての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

プリント配布

参考文献 / Readings

Martínez-Flor, A., Sánchez-Hernández, A., & Barón, J. L2 Pragmatics in Action John Benjamins Publishing Company 2023 9789027213655

Taguchi, N., & Roever, C. Second Language Pragmatics Oxford University Press 2017 9780194200585

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

英語論文の読解が中心となるので、高度な英文読解能力を要する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配付、課題の提出などに「Canvas LMS」を使用する。

言語コミュニケーション研究特殊講義C(後期課程科目)

Seminar in Language Communication Research C

水倉 亮(MIZUKURA RYO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV203
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7141
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This course aims to give students an in-depth understanding of the global spread of English and its influence on Japanese society.

As an outcome of their study in this course, PhD students can

- 1) apply theories to find critical issues around English as a global language in Japan by themselves
- 2) find related secondary sources about the issues and evaluate them critically
- 3) synthesize their findings from secondary sources to find research gaps to generate research questions

授業の内容 / Course Contents

To meet the aim of this course, we will primarily study how English has been diffused globally and how people have learnt and used English in their context so far through the perspective of World Englishes. Furthermore, we will also study theories related to critical applied linguistics in analyzing the relationship between the English language and globalization in a critical and in-depth manner. Finally, we will apply these to understand the impact of internationalization and the spread of English in Japanese society, in particular.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction
- 【2】:What is “Globalization”?
- 【3】:The Global Spread of English: World Englishes, English as an International Language, English as a Lingua Franca
- 【4】:Postcolonialism and English in the World (Including Unequal Englishes)
- 【5】:Nativespeakerism: Who Can Claim Ownership over English?
- 【6】:Native vs Non-native English teachers (Including Learners’ Preferences and Attitudes)
- 【7】:“English-only” Policy and Communicative Approaches in English Language Education in Japanese Schools
- 【8】:JET Program: Benefits and Issues
- 【9】:Desires in English Language Education (including Posthumanism)
- 【10】:Eikaiwa Industry and Cultural Capital
- 【11】:Globalization Policy in Higher Education and English as Medium of Instruction
- 【12】:Globalization Policy and Study Abroad in English-Speaking Countries
- 【13】:Presentation Session about the Final Assignment
- 【14】:Wrap-up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

The students are expected to study for about 2 hours before and after the lesson (in total 4 hours). Concretely, students need to spend time reading materials to prepare and reflect on each lesson.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Final Assignment:35% Presentation:20% Report 1 (Annotated Bibliography):35% Report 2 (Reflection):10%

PhD candidates will be evaluated at a higher standard than MA students.

テキスト / Textbooks

Reading materials for each lesson will be distributed through the LMS system.

参考文献 / Readings

Alastair Pennycook Critical applied linguistics: A critical re-introduction. Routledge 2021 0367547775

Edgar W. Schneider English around the World: An Introduction (Cambridge Introductions to the English Language. 2nd edition. Cambridge University Press 2020 1108425372

Adrian Holliday The Struggle to Teach English as an International Language. Oxford University Press 2013 9780194421843

Stephanie Ann Houghton, Damian J. Rivers Native-speakerism in Japan: Intergroup dynamics in foreign language education. Multilingual Matters 2013 1847698697

Philip Seargeant The idea of English in Japan: Ideology and the evolution of a global language. Multilingual Matters 2009 9781847692016

Alastair Pennycook Posthumanist applied linguistics. Routledge 2017 9781138209244

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

All contents in this course will be entirely conducted in English. Students will expect to have enough Academic English knowledge and skills to understand the lecture, join discussions, make a presentation, and write academic papers. The approximate standard of English language proficiency can be Upper B2 - C1 level in CEFR.

Particularly for writing assignments, students need to know how to use APA 7th to cite and quote other people's ideas and make a bibliography.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC or Tablet

その他 / Others

The lecturer does not have his office on any campuses. If you want to have tutoring to ask questions and talk about research during office hours, you need to send an e-mail to make an appointment. Basically, tutoring will be held through Zoom.

言語コミュニケーション理論(後期課程科目)

Theories of Language Communication

石川 文也 (ISHIKAWA FUMIYA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV204
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7140
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

言語学の基礎的知識を改めて(再)確認し、大学院博士後期課程の授業で扱う内容の理解を深めるための基盤をさらに発展させることを目的とする。

The goal of this seminar is to review once again the fundamental knowledge of linguistics, and to create and reinforce the foundation for furthering understanding of content introduced in doctoral program classes at this university.

授業の内容 / Course Contents

20世紀初頭に萌芽的学問として記号論の枠組みの中に生まれ、それを包括するものとして定義された言語学はその後、どのように発達したのか。言語学の登場は、西洋世界が培ってきた伝統的な人間科学の知の体系にどのような修正を加え、あるいは加えなかったのか。さらには、今日の言語学は、現代の人間科学の知の体系の中にどのように位置づけるのか。このような問題を提起しながら、言語学と密接なかわりを持つ人文社会科学の諸分野との関係を考察し、言語学のエピステモロジーを明らかにしていく。授業では主に学生によるテキストの輪読と報告をおこなう。

How has linguistics evolved from its origination as a budding field of study within the framework of semiotics in the early 20th century into the comprehensive study that defines that framework? How has the advent of linguistics changed (or not changed) the system of knowledge of traditional human science cultivated in the Western world? In addition, how does linguistics currently fit into the system of knowledge of contemporary human science? Students will tackle problems of this nature as they consider the relationships between linguistics and various, closely related fields in the humanities and social sciences to gain a clearer view of the epistemology of linguistics. Classes are structured around students taking turns reading texts and giving reports.

授業計画 / Course Schedule

【1】: イントロダクション

【2】: ことばの科学の見取り図(1)

【3】: ことばの科学の見取り図(2)

【4】: 言語の研究

【5】: 語の構造

【6】: 文の構造

【7】: 語の意味(1)

【8】: 語の意味(2)

【9】: 文の意味

【10】: 言語の種類

【11】: 言語の変化

【12】: 音の構造(1)

【13】: 音の構造(2)

【14】:まとめ**活用される授業方法 / Teaching Methods Used**

板書	○	スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

初回の授業で各回のための準備学習を指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論, 質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%
なお、すべての評価項目において、博士前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

風間喜代三 ほか 『言語学』(第2版) 東京大学出版会 2004 9784130820097

参考文献 / Readings

授業中に配付するプリントあるいはメールの添付ファイルなどによって随時紹介する。

その他 / Others

- * 上記の「授業計画」は、履修者数や指導の進捗状況にあわせて調整する可能性がある。
- * 学生の報告あるいは提出物について、口頭あるいは筆記によってコメントする。
- * やむを得ず休講となった場合、内容を繰り下げて補講日に補講をおこなうか、それに代わる課題を出す。

言語教育研究特殊講義A(後期課程科目)

Seminar in Language Education Research A
第二言語習得研究における再現研究

鈴木 駿吾(SUZUKI SHUNGO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV205
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7140
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業の主な目標は以下の通りです:

1. 第二言語習得研究における再現研究の意義とあり方について理解する
2. 第二言語習得研究における再現研究の研究計画を立てることができる
3. 第二言語習得研究における再現研究を用いた論文について批判的に考察する
4. 先行研究の記述を再現してデータ収集を行い、研究手法の再現性を議論できる

The primary objectives of the course are to:

1. familiarise students with the significance and methodology of replication studies in second language acquisition research;
2. enable students to design replication research in second language acquisition;
3. enable students to critically analyze previous replication studies in second language acquisition research; and
4. enable students to collect data using the materials used in previous studies and discuss the reproducibility of them

授業の内容 / Course Contents

このコースでは、第二言語習得研究における再現研究(Replication study)について、分野における意義や再現研究の実施方法について議論する。また受講者が関心のある領域における既存の再現研究を扱いながら批判的に考察し、自身でも再現研究を用いた研究計画を立案する。そのために、学生は読み物、プレゼンテーション、グループディスカッションに参加することが求められる。

This course addresses the significance and implementation methods of replication studies in second language acquisition research, critically examining existing replication studies in students' areas of interest. Students will also develop their own research plans using replication studies. To this end, students are required to engage with assigned readings, student presentations, and group discussion.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: イントロダクション
- [2]: Ch.1 Introduction: Why Replication Research Matters
- [3]: Ch.2 Finding a Study to Replicate
- [4]: Ch.3 Planing Your Replication Research Project
- [5]: Ch.4 What Kind of Replication Should You Do? (1)
- [6]: Ch.5 What Kind of Replication Should You Do? (2)

- 【7】:Ch.6 Executing and Writing Up Your Replication Study (1)
- 【8】:Ch.7 Executing and Writing Up Your Replication Study (2)
- 【9】:Ch.8 Disseminating Your Research
- 【10】:Reading Week (independent research)
- 【11】:Replication studies selected by students (1)
- 【12】:Replication studies selected by students (2)
- 【13】:Replication studies selected by students (3)
- 【14】:Student research proposal presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

学生は、各週に指定された教科書の章や論文を読む必要がある。詳細は授業内にて提示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 積極的な授業への貢献:15% 学生プレゼンテーション:15% 研究計画に関するプレゼンテーション:35% 研究計画書:35%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

Graeme Porte, Kevin McManus Doing Replication Research in Applied Linguistics Routledge 2019 1138657352

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

授業自体は日本語で実施するが、毎週20ページ程度の英語で書かれた専門的な文献を読むことが求められるため、参加者には一定の英語力が必要となる。

その他 / Others

<https://shungosuzuki.wordpress.com/>

言語教育研究特殊講義B(後期課程科目)

Seminar in Language Education Research B

語学教育のためのスタンダード(Standard for Language Education)

金庭 久美子(KANENIWA KUMIKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV206
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7140
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本科目では、自身の外国語学習を振り返ると共に、言語教育の基盤となる語学教育のためのスタンダードを理解し、語学教育の現場に生かす能力を身につけるとともに、各スタンダードの比較を行い、言語教育への応用を検討することを目標とする。

The purpose of this course is to reflect on one's own foreign language learning, to understand the standards for language education referenced in language education and to acquire the ability to apply them to the field of language education. And a comparison of each standard will be made and its application to language education will be considered.

授業の内容 / Course Contents

語学教育で参照されている語学教育のためのスタンダードのうち、「ACTFL 言語運用能力基準」、「実践日本語教育スタンダード」、「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」、「JF スタンダード」などについて学び、語学教育においてそれらをどのように生かすことができるかディスカッションや教材の検討を行う。また、各スタンダードに沿った教材の開発を行う。

Study about "ACTFL-OPI", "Jissen Japanese Standard", "Common European Framework of Reference for Languages", and "JF Standard for Japanese-Language Education". Discussions and study of teaching materials will be held on how they can be utilized in language education. And develop teaching materials in line with each standard.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: 語学教育のスタンダードとは/ What is the standard for language education?
- [2]: ACTFL-OPI を知ろう/ Get to know ACTFL-OPI!
- [3]: ACTFL-OPI の理論と実践を学ぶ/ Learn the theory and practice of ACTFL-OPI
- [4]: ACTFL-OPI のインタビューを学ぶ/ Learn about ACTFL-OPI interviews
- [5]: 実践日本語教育スタンダード 言語活動・言語素材と話題/ Jissen Japanese Standard: Language activities, language materials and topics
- [6]: 私的領域(場所)の言語活動と難易度/ Language activities and difficulty in the private sphere (location)
- [7]: 大学という場所における言語活動/ Language Activities at the University
- [8]: 中間課題/ Midterm Task
- [9]: CEFR の基本的な考え方/ Basic Concept of CEFR
- [10]: CEFR が生まれた背景・CEFR が目指す言語教育/ Background of the CEFR and the CEFR's Goals for Language Education
- [11]: CEFR が考える言語能力・CEFR から教育実践/ CEFR's concept of linguistic competence and CEFR to educational practice
- [12]: JF スタンダード知識編/ JF Standard Knowledge Section

【13】: JF スタンダード実践編/ JF Standard Practice Section

【14】: 期末課題/ Final Task

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。/ Instructions on learning outside of class time will be given separately as necessary.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表・レポート(Presentation and Report)(中間 30%、期末 30%):60% 平常点(Usual performance score)(授業内に指示した提出物 30%、ディスカッション 10%):40%

2/3 以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。/ No credits can be earned for students who do not attend at least 2/3 of the classes.

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

鎌田修他 『OPI による会話能力の評価』 凡人社 2020 9784893589705

奥村三菜子他 『日本語教師のための CEFR』 くろしお出版 2016 9784874247013

山内博之他 『実践日本語教育スタンダード』 ひつじ書房 2013 9784894764637

参考文献 / Readings

Council of Europe 『外国語教育Ⅱ 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』 朝日出版社 2004 9784255002934

国際交流基金 『JF 日本語教育スタンダード【新版】利用者のためのガイドブック(web 版)』 国際交流基金 2017

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

自身の語学学習の経験や教授経験についてふり返り、発言できるようにしてください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ネット上のツールを利用するため PC を持参してください。

その他 / Others

- ・資料の配布、課題の提出などに「Canvas LMS」を使用する。
- ・毎週の発表者を決め、全員でディスカッションを行いながら、テキストを読み進めていくことを予定している。
- ・中間、期末発表の課題については「Canvas LMS」上で告知する。
- ・中間課題、期末課題の内容をレポートにして提出すること。後日「Canvas LMS」にてフィードバックを行う。

言語教育研究特殊講義C(後期課程科目)

Seminar in Language Education Research C
バイリンガリズムとバイリンガル教育
(Bilingualism and Bilingual Education)

佐々木 美帆(SASAKI MIHO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV207
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7143
使用言語	その他	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業ではバイリンガリズムおよびマルチリンガリズムとその教育について国内外の学術研究をベースに学びます。どのように子どもと大人が二つ以上の言語を習得しバイリンガル・マルチリンガル環境がその言語発達に影響するかについて理解を深めます。理論やデータについて議論・分析を行います。

This course provides students with an opportunity to learn about bilingualism/multilingualism and its education based on academic research in the world. Through readings and discussion, students will develop understanding on how children and adults acquire more than one language and how bilingual and multilingual environments affect their language development. Students discuss the theories and data critically.

授業の内容 / Course Contents

このセミナーではバイリンガルやマルチリンガルといわれる子どもおよび大人がどのような環境で成育しどのように言語を習得・使用しているのかを、言語学、心理学、教育の分野のクラシックおよび最近のバイリンガル研究について英語および日本語で読み、ディスカッションを行います。セミナーで扱う広範囲にわたるバイリンガリズムおよびバイリンガル教育研究をもとに、各自興味のある分野について文献研究のショートプレゼンテーションを行い最終レポートにまとめます。

Students will learn how bilingual/multilingual children and adults grow up and how they acquire and learn their languages by reading the classic and recent bilingual studies in linguistics, psychology and education. The reading materials will be given either in English or Japanese and they will discuss in either language. Based on the readings covering the extensive areas of bilingualism and bilingual education research, students are required to give a presentation on the related area and write a short review paper as a final report.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: Introduction: Who is Bilingual?
- [2]: Bilingualism and Multilingualism
- [3]: The Measurement of Bilingualism
- [4]: Bilingual Language Acquisition: The Early Development of Bilingualism
- [5]: Bilingual Language Acquisition: The Later Development of Bilingualism
- [6]: Reading Development and Writing Systems
- [7]: Bilingualism Research Topics / Essay Writing Skills
- [8]: Bilingual Cognition
- [9]: Bilingual Brain
- [10]: Types of Education for Bilingual Students / Translanguaging
- [11]: Bilingual Literacy

【12】: Bilingual Identity

【13】: Presentations & Discussion

【14】: Bilingualism in Japan

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

毎回の授業で指示する教科書の章や配布資料を読み、積極的な授業準備を期待します。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度および出席(Class Participation):50% プレゼンテーション(Presentation):20%

最終レポート割合::30%

全ての評価方法において前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

Baker, C. & Wright, W.E. Foundations of Bilingual Education and Bilingualism (7th edition) Multilingual Matters 2021 9781788929882

Wright, W.E. & Baker, C. Foundations of Bilingual Education and Bilingualism (8th edition) Multilingual Matters 2025 9781836680536

参考文献 / Readings

中島和子 『完全改訂版バイリンガル教育の方法:12歳までに親と教師ができること』 アルク 2016

フランソワ・グロジャン 『バイリンガルの世界へようこそ:複数の言語を話すということ』 勁草書房 2018

Grosjean, F. The Mysteries of Bilingualism Wiley Blackwell 2022 9781119602378

ビオリカ・マリアン 『言語の力:「思考・価値観・感情」なぜ新しい言語を持つと世界が変わるのか?』 KADOKAWA 2023 9784046063779

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配付、授業中の課題の提出などに「Canvas LMS」を使用するので、授業にPC・タブレットを持参してください。

言語教育理論A(後期課程科目)

Theories of Language Education A
早期英語教育 Early English Education

居村 啓子 (IMURA KEIKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV208
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7140
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

このコースでは、早期英語教育の最新の理論を学び、グローバルな視点からこどもの第二言語習得について考察し、「英語教育は早ければよいのか」という問いについて議論していきます。また理論に基づいた具体的な指導法を学び、第二言語の環境、外国語の環境それぞれのコンテキストに於ける教育の在り方について学びます。さらに子供の第二言語習得に関わる様々な課題や中心となる概念および理論を理解し、研究テーマの分析・考察に応用することを目的とします。

In this course, students will explore the latest theories on early English education and examine children's second language acquisition from a global perspective, engaging in discussions around the question, "Is earlier always better for English education?" Additionally, they will study specific instructional methods based on these theories, aiming to understand effective approaches to education in the contexts of both second language and foreign language environments.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、まず言語政策、年齢的要因、早期英語学習者の動機付けについて学び、早期英語教育の全体像を学びます。次に4技能の指導、文法指導、語彙指導、CLIL等の指導法や、シラバス、教材、アセスメントについてふれ、こどもの第二言語教授法の基本をつかみます。さらに最近の研究や、東アジア地域に於ける早期英語教育について、そして日本に於ける小学校英語教育の在り方について考察します。

Students will first learn about language policy, age-related factors, and the motivation of young English learners to gain a comprehensive understanding of early English education. Next, they will study instructional approaches for the four skills, grammar teaching, vocabulary teaching, and methods such as CLIL, as well as syllabus design, materials, and assessment, to acquire the fundamentals of teaching second languages to children. Furthermore, students will examine recent research, early English education in East Asia, and the role of English education in Japanese elementary schools.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: Language policy and English for young learners in early education
- [2]: The age debate: a critical overview
- [3]: Young learners' motivation for learning English
- [4]: Fostering young learners' listening and speaking skills
- [5]: Teaching reading and writing to young learners
- [6]: Teaching grammar to young learners
- [7]: Vocabulary teaching for young learners
- [8]: CLIL in the primary school context
- [9]: Gaming and young learners
- [10]: Syllabus development in early English language teaching

- 【11】: Materials for early language learning
- 【12】: Assessment of young English language learners
- 【13】: Research issues with young learners
- 【14】: Early English language learning in East Asia

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Students are required to read the assigned section in the textbook, make a session note, and prepare for discussions in class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% セッションノート (Session notes):30% プレゼンテーション(Presentations):30% リアクションペーパー(Reaction paper):20% 最終レポート割合::20%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

Sue Garton and Fiona Copland The Routledge Handbook of Teaching English to Young Learners Routledge 2022
9781032338972

参考文献 / Readings

Annamaria Pinter Teaching Young Language Learners Oxford 2017

David Nunan Teaching English to Young Learners Anaheim University Press 2010

Janice Bland Teaching English to Young Learners: Critical Issues in Language Teaching with 3-12 Year Olds
Bloomsbury 2015

Teaching and Learning Vocabulary(後期課程科目)

Teaching and Learning Vocabulary
 Second language vocabulary acquisition

中田 達也(NAKATA TATSUYA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV254
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7141
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

By the end of this course, students will be able to understand key concepts and theories in second language vocabulary acquisition and apply research findings to their teaching and learning practices. Topics covered will include the goals of vocabulary learning, the concept of "knowing a word," the roles of teachers, vocabulary learning strategies, multiword units, and vocabulary testing.

In addition, students will gain knowledge of research methodologies in second language vocabulary acquisition and learn how to apply these methods to their own research.

授業の内容 / Course Contents

Through reading assignments, lectures, and group discussions, students will acquire basic principles of second language vocabulary acquisition. Students will also be asked to participate in a number of group activities to better understand the concepts and theories covered in class.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction
- 【2】:The goals of vocabulary learning (1)
- 【3】:The goals of vocabulary learning (2)
- 【4】:Knowing a word (1)
- 【5】:Knowing a word (2)
- 【6】:Teaching vocabulary and the roles of the teacher (1)
- 【7】:Teaching vocabulary and the roles of the teacher (2)
- 【8】:Word parts
- 【9】:Deliberate vocabulary learning from word cards
- 【10】:Finding and learning multiword units
- 【11】:Testing vocabulary knowledge and use (1)
- 【12】:Testing vocabulary knowledge and use (2)
- 【13】:Designing the vocabulary component of a language course
- 【14】:Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="checkbox"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="checkbox"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="checkbox"/>
個人発表	<input type="checkbox"/>	グループ発表	<input type="checkbox"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="checkbox"/>

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用	
-------------	--

校外実習・フィールドワーク	
---------------	--

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Assignments:40% Participation:30% 最終レポート割合::30%

Doctoral students will be expected to meet the evaluation criteria at a higher level than MA students.

テキスト / Textbooks

Nation, I. S. P. Learning vocabulary in another language (3rd ed.) Cambridge University Press 2022 1009096176

参考文献 / Readings

中田達也 『英単語学習の科学』 研究社 2019 4327452890

その他 / Others

<https://www.howtoeigo.net/>

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.5.

Seminar in Applied Linguistics B (後期課程科目)

Seminar in Applied Linguistics B

渡辺 英雄 (WATANABE HIDEO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV258
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7141
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

Upon successfully completing this course, students should be able to:

- (1) Understand the fundamental approaches to discourse analysis.
- (2) Demonstrate comprehension of discourse analysis terminology.
- (3) Apply concepts developed in discourse analysis to other areas of study.
- (4) Select appropriate discourse analysis tools for specific analytical purposes.

授業の内容 / Course Contents

This course introduces students to the field of discourse analysis by exploring major areas such as society, pragmatics, genre, critical discourse analysis, and multimodality. It provides students with the perspective to understand both verbal and non-verbal communication.

The course also highlights how discourse analysis can be applied to various fields, including language teaching and media studies.

By the end of the course, students will be able to analyze language and non-verbal features through the lens of discourse analysis. They will also be equipped to select appropriate discourse analysis tools based on the specific purposes of their analyses.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:What is discourse analysis?
- 【2】:Discourse and society
- 【3】:Discourse and pragmatics
- 【4】:Intercultural pragmatics
- 【5】:Discourse and genre
- 【6】:Genre in educational settings
- 【7】:Discourse grammar
- 【8】:Appraisal (evaluative language)
- 【9】:Multimodal discourse analysis
- 【10】:Discourse and digital media
- 【11】:Critical discourse analysis
- 【12】:Doing critical discourse analysis
- 【13】:Student presentation
- 【14】:Student presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Students are required to read the textbook for each lecture.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Report 1:30% Report 2:35% Presentation:35%

A greater expectation of task fulfillment beyond the Master's level across all assigned work is expected.

テキスト / Textbooks

Paltridge, Brian Discourse Analysis: An introduction Bloomsbury 2022 9781350093638

参考文献 / Readings

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.7.

Seminar in Applied Linguistics C (後期課程科目)

Seminar in Applied Linguistics C
Language Teaching in Japan

キアナン, P. (KIERNAN PATRICK J.)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV259
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	Face-to-face
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7141
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

By the end of this course, students will:

1. To have a thorough understanding of the linguistic and cultural differences between Japanese and English that affect the teaching of English to Japanese learners
2. To have a broad knowledge of the principal methods and techniques for teaching speaking and listening and the philosophies behind the approaches that govern them
3. To have a well-rounded awareness of identity issues in the world today
4. To have a broad understanding of the range of issues impacting the teaching of English in Japanese classrooms today.

授業の内容 / Course Contents

This course is primarily aimed at those with potential plans to teach English speaking to Japanese learners but should also be relevant to those concerned with cultural and linguistic differences between Japanese and English, as well as those interested in current approaches to language teaching. The first half of the course focuses on cultural and linguistic differences between Japanese and English with a particular focus on areas of common difficulty. It also explores the reasons behind these difficulties. The second half of the course focuses on practical ways to address these issues through classroom activities designed to motivate, engage, and build listening and speaking skills. Course participants will also have opportunities to share their own areas of interest.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Introduction and overview
- 【2】: Katakana English
- 【3】: Discourse intonation: Teaching pronunciation
- 【4】: Politeness in Japanese and English
- 【5】: “Authenticity” in teaching English in Japan
- 【6】: Vocabulary and spoken language
- 【7】: From native/non-native to trans-speakerism
- 【8】: The JET-Program
- 【9】: Encounters with students
- 【10】: Student presentations
- 【11】: Bilingual identities
- 【12】: Bilingualism in Japan
- 【13】: Historical perspectives on language teaching in Japan
- 【14】: Review and final quiz

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(ハワホ*等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

Reading and written reflections will be assigned as homework and feedback provided on a weekly basis.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Reading (preview for the following class) and reflection (written review of comments on the previous class submitted to Canvas).

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation and classwork:30% Reflection papers:30% Mid-term review/presentations:20%
Final quiz/presentation:20%

テキスト / Textbooks

All materials will be provided in class and posted on Canvas.

参考文献 / Readings

Any additional materials will be linked or posted on Canvas only but introduced orally in class.

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Participants should be confident speakers of English, ideally with experience or interest in language teaching and/or learning. Being able to read academic papers in English would be useful, though the overall content of readings will be introduced orally using PPT during class.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Laptop/tablet and/or paper notebook would be useful (though not required).

その他 / Others

Hopefully you will be able to both learn from this class and share any experiences or ideas that you may have with teaching or learning language or the challenges this can involve.

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.7.

Psychology of the Language Learner (後期課程科目)

Psychology of the Language Learner

マーティン, R (MARTIN, RON R.)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV260
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7141
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

By the end of the course, students will understand and be able to explain the complexities of "who" a language learner is. To do so, students will explore the roles of socializers and the self on competency and value beliefs. Students will understand affect, motivation, and agency and be able to assess teaching practices in relation to each. It is expected that students will also be able to understand the complexities of "who" a teacher is, and thus, students should be able to assess a language learning classroom dynamic from multiple psychological perspectives. Students are also expected to implement a research design in order to collect and analyze data regarding learner identity for presentation or publication.

授業の内容 / Course Contents

The course will cover the development of the self. In order to understand said development, the course will cover the influential roles of culture, socializers, education, and the self on beliefs, affect, motivation, and agency. The course will conclude with practical implications in the classroom.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Psychology in education
- 【2】: Theoretical approaches to understanding educational psychology
- 【3】: Group dynamics
- 【4】: The self: Definition
- 【5】: Beliefs
- 【6】: Competency beliefs & value beliefs
- 【7】: Affect
- 【8】: Motivation: Theory
- 【9】: Motivation: In the classroom
- 【10】: Agency
- 【11】: Willingness to Communicate and teaching practice
- 【12】: Academic Article Review 1
- 【13】: Academic Article Review 2
- 【14】: Project Presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="checkbox"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="checkbox"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="checkbox"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用	
-------------	--

校外実習・フィールドワーク	
---------------	--

The course will be carried out via discussions. Generally speaking, students read an assigned reading, discuss the reading based on discussion questions, and have the topic reinforced via a class-level discussion.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Study required outside of class will be determined in consultation with the instructor throughout the semester.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation:25% Reading outlines and homework:25% Reflection papers:20% Project and report:30%

A greater expectation of task fulfillment beyond the Master's level across all assigned work is expected.

テキスト / Textbooks

None.

参考文献 / Readings

Readings will be provided by the instructor.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful to have a device in class (e.g., a tablet or laptop) to view materials distributed via Canvas.

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.5.

Seminar in Language Curriculum A(後期課程科目)

Seminar in Language Curriculum A
Content and Language Integrated Learning (CLIL)

居村 啓子 (IMURA KEIKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV261
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7141
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

The objective of this course is to deliver an overview of Content and Language Integrated Learning (CLIL) and facilitate students' understanding of CLIL-based approaches and pedagogies. Throughout the course, students will learn the principles and methodology of CLIL from a wide range of readings and extensive discussions. Furthermore, students will be guided that the insights gained in this class can be applied to the analysis and examination of their research themes.

授業の内容 / Course Contents

In this course, I will introduce Content and Language Integrated Learning (CLIL) as an educational approach in which a target language is used for the learning and teaching of both content and language. The course will cover the theoretical frameworks of CLIL and explicate the fundamental differences between the existing educational approaches as well as content-based language teaching and immersion programs. Students will not only learn the academic background of CLIL, but learn how it can be put into practice. They will be asked to conduct micro-teaching based on CLIL methodology.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Introduction: what is CLIL?
- 【2】: A window on CLIL
- 【3】: Curricular variation in CLIL
- 【4】: CLIL as a theoretical concept
- 【5】: The CLIL Tool Kit: Transforming theory into practice
- 【6】: Evaluating and creating materials and tasks for CLIL classrooms
- 【7】: Assessment issues in CLIL
- 【8】: Evaluating the impact of CLIL programmes
- 【9】: Future directions
- 【10】: Micro teaching 1
- 【11】: Micro teaching 2
- 【12】: Micro teaching 3
- 【13】: Micro teaching 4
- 【14】: Wrap-up and feedback

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

This is a presentation and discussion-oriented course. Students will also conduct Micro-teaching in class.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Students will read the assigned reading materials beforehand and prepare for review and discussion sessions in class.

Three reaction papers will be required during the semester.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentations:20% Reaction papers:30% Micro teaching:30% 最終レポート割合::20%

A greater expectation of task fulfillment beyond the Master's level across all assigned work is expected.

テキスト / Textbooks

Do Coyle, Philip Hood, David Marsh Content and Language Integrated Learning Cambridge 2010 9780521130219

Additional materials will be provided as necessary.

参考文献 / Readings

Fred Genesee and Else Hamayan CLIL in Context: Practical Guidance for Educators Cambridge 2016

9781316609453

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.5.

Seminar in Language Curriculum B (後期課程科目)

Seminar in Language Curriculum B

山本 有香 (YAMAMOTO YUKA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV262
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	対面科目
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7141
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This course aims to equip students with the theoretical foundations and practical skills necessary to design, evaluate, and adapt English language curricula for diverse learners in various educational contexts. Students will explore principles of curriculum development, needs analysis, syllabus design, material selection, and assessment to create effective and contextually appropriate lessons.

By the end of the course, you will be able to:

- Understand curriculum foundations
- Conduct needs analysis
- Design effective syllabi
- Select and adapt materials
- Integrate assessment strategies

授業の内容 / Course Contents

In this course, you will gain a basic grounding in the principles and practice of curriculum development and syllabus design in the context of English language teaching.

We will begin by presenting a discussion about language curriculum development. We will then look at the different syllabus models to design a suitable syllabus for your student's needs. You will engage in demo lessons, create a syllabus for your class, and give a presentation about your syllabus at the end of the semester.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: Introduction to the course
- [2]: What is a curriculum?
- [3]: Introducing different types of syllabi (1): Functional syllabus and lesson plan
- [4]: Demo lesson 1
- [5]: Introducing different types of syllabi (2): Skills-based syllabus and lesson plan
- [6]: Demo lesson 2
- [7]: Introducing different types of syllabi (3): Task-based syllabus and lesson plan
- [8]: Demo lesson 3
- [9]: Introducing different types of syllabi (4): CLIL syllabus and lesson plan
- [10]: Demo lesson 4
- [11]: Procedures for syllabus design: Needs analysis; Course goals & objectives
- [12]: Procedures for syllabus design: Assessment
- [13]: Preparation for presentation
- [14]: Individual Presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド*(パワーポイント等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="checkbox"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="checkbox"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用	<input type="checkbox"/>	校外実習・フィールドワーク	<input type="checkbox"/>
上記いずれも用いない予定	<input type="checkbox"/>				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

You are required to submit your assignments on the scheduled dates. If you cannot, you must contact the instructor in advance for other possible arrangements.

Late assignments are to be submitted in digital form as soon as possible. You can bring the assignment in printed form to the following class if submitted electronically.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Demo Lessons and report (X 4):40% Class Participation:20% 最終レポート割合::20%最

終テスト割合::20%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****注意事項**

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.5.

Seminar in Language Curriculum C (後期課程科目)

Seminar in Language Curriculum C

マーティン, R (MARTIN, RON R.)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV263
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7141
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This course 1) offers an introduction to Japanese education system, and 2) helps students understand the features of Japanese learners of English. By the end of the course, students will have basic understanding about the history and current situations of English language education in Japan, and specific features of Japanese learners of English and what it means to study English for the Japanese students. The goal is to consider teaching methods suitable for Japanese English learners and approaches that are more culturally responsive, and to apply them to the analysis and examination of students' own research topics.

授業の内容 / Course Contents

The present course covers basic knowledge about Japanese education system and English language education, focusing specifically on Japanese contexts and learners. Students will examine and deepen their understanding through lectures and discussing issues related to English language education policies and Japanese learners of English. Opportunities to conduct lesson demonstrations will efficiently enhance students' practical and culturally responsive teaching skills.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Introduction
- 【2】: History of English language education in Japan
- 【3】: Course of study & Government policies
- 【4】: English language education in Japanese classrooms (practices): primary and junior high schools
- 【5】: English language education in Japanese classrooms (practices): senior high school and university
- 【6】: Internationalization of higher education (EMI)
- 【7】: Lesson plans, teaching methodologies, and team-teaching in Japanese schools
- 【8】: Lesson demonstration 1
- 【9】: Issues of English language education in Japan 1
- 【10】: Issues of English language education in Japan 2
- 【11】: Teacher education and teacher license,
Team-teaching
- 【12】: CLIL activities and planning CLIL
- 【13】: Lesson demonstration 2
- 【14】: Course review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
----	-----------------------	---------------	-----------------------	---------------	-----------------------

個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

To be announced in class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance, class participation and homework:30% Lesson plans and demonstrations:35%
Reflection papers and a Report:35%

A greater expectation of task fulfillment beyond the Master's level across all assigned work is expected.

テキスト / Textbooks

Necessary materials will be announced in the first class.

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful to have a device in class (e.g., a tablet or laptop) to view materials distributed via Canvas.

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.7.

Bilingualism and Language Contact (後期課程科目)

Bilingualism and Language Contact

水倉 亮(MIZUKURA RYO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV265
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7141
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

Through this course, all students are primarily expected to have a deep understanding of key theories in the area of Bilingualism in Applied Linguistics.

As an outcome of their study in this course, PhD candidates can

- 1) show their great understanding of current issues related to bilingual education
- 2) find related secondary sources by themselves and evaluate them critically
- 3) synthesize their findings from secondary sources to find research gaps to generate research questions

授業の内容 / Course Contents

In this course, students will first learn about essential theories in Bilingualism. Specifically, the course will focus on phenomena that occur both inside and outside the foreign language teaching classroom, including the differences between the processes of native language acquisition and foreign language acquisition, the nature of pedagogical intervention by foreign language teachers in facilitating language learning, and issues of identity for bilingual learners and teachers. Ultimately, students can critically analyze and explain various phenomena related to bilingualism using the theories they have learned.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: Introduction
- [2]: Bilingualism: Key Concepts, Definitions, and Distinctions
- [3]: Language Development of Early Bilinguals
- [4]: Language Development of Late Bilinguals
- [5]: Code-switching vs Translanguaging
- [6]: Translanguaging in Classrooms
- [7]: Sociocultural Theory 1: Inter- and Intra-Mental Process of Bilingual Learners
- [8]: Sociocultural Theory 2: Bilingual Learners in Immersion Program
- [9]: Sociocultural Theory 3: Inter- and Intra-communication of Bilingual Learners
- [10]: Current Issues 1: Bilingual Learners and Their Identity
- [11]: Current Issues 2: Bilingual Learners and Their Emotional Aspects
- [12]: Current Issues 3: Standard Language and Native-Speakerism Ideology
- [13]: Current Issues 4: Non-Native English Teacher's (Bilingual Teacher's) Identity
- [14]: Wrap-up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(ハワホ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

The students are expected to study for about 2 hours before and after the lesson (in total 4 hours). Concretely, students need to spend time reading materials to prepare and reflect on each lesson.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Final Assignment:35% Presentation:20% Report 1 (Annotated Bibliography):35% Report 2 (Reflection):10%

PhD Candidates will be evaluated at a higher standard than MA students.

テキスト / Textbooks

Reading materials for each lesson will be distributed through the LMS system.

参考文献 / Readings

Colin Baker, Wayne E. Wright Foundations of bilingual education and bilingualism 7th edition. Multilingual matters 2021 9781788929882

Merrill Swain, Penny Kinnear, Linda Steinman Sociocultural Theory in Second Language Education: An Introduction through Narratives. Multilingual matters 2015 9781783093168

Suresh Canagarajah Translingual Practice: Global Englishes and Cosmopolitan Relations. Routledge 2012 9780415684002

Li Wei, Ofelia García Translanguaging Language, Bilingualism and Education. Palgrave Pivot 2014 9781137385758

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

All contents in this course will be entirely conducted in English. Students will be expected to have enough Academic English knowledge and skills to understand the lecture, join discussions, make a presentation, and write academic papers.

Particularly for writing assignments, students need to know how to use APA 7th to cite and quote other people's ideas and make a bibliography.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC or Tablet

その他 / Others

The lecturer does not have his office on any campuses. If you want to have tutoring to ask questions and talk about research during office hours, you need to send an e-mail to make an appointment. Basically, tutoring will be held through Zoom.

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.7.

通訳翻訳テクノロジー論(後期課程科目)

Technologies for Translators and Interpreters

Theoretical and Practical Foundation for Advanced Technologies in Translation and Interpretation

山田 優(YAMADA MASARU)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV306
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンライン会議の機能を通してしか得られないサービス(リアルタイム翻訳、文字起こし等)の実践と理論を学ぶために全授業回のうち 2 回はオンラインで実施する(7・8 回目の授業)。なお、オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7243
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

このコースは、プロの翻訳者やプロジェクトマネージャーなどの言語学専門家が使用する技術に関する基本的な知識と実践的な経験を学生に提供することを目的としています。コースで扱う技術には、ニューラル機械翻訳(そのカスタマイズを含む)、ポストエディットおよびリエディットツール、翻訳メモリや用語管理ツールといった従来型の CAT ツール、字幕作成ツールなどが含まれます。また、学生はコーパス分析、テキストマイニング、翻訳プロセス研究のデータ収集手法といった研究目的での技術活用方法も学ぶことが期待されています。

さらに、博士後期課程の学生には、上記の内容に関する詳細な分析を行い、実践的応用における課題や効率性に焦点を当てることが求められます。

This course aims at equipping students with basic knowledge and experiences of technologies utilized by linguists such as professional translators and project managers. The technologies to be covered in the course are Neural Machine Translation, including customization of it, post-editing and pre-editing tourniquets, orthodox CAT tools such as translation memory, terminology management tools, subtitling tools. Through the course, students are also expected to learn how to use technologies for research purposes, techniques such as corpus analysis, text mining, translation process research data collection methods. Additionally, Ph.D. students must conduct a thorough analysis of the aforementioned content, focusing on issues and efficiency as they pertain to practical application.

授業の内容 / Course Contents

このコースは以下の内容で構成されています:

- RNN、Transformer、単語埋め込みなど、生成 AI の基本的な仕組みの理解、
- 翻訳メモリや用語管理ツールを含む CAT ツールの習得(ポストエディットおよびリエディットの効果的な実践を含む)、
- 機械翻訳のカスタマイズに関する知識(ドメイン適応やコーパスデータのクレンジングを含む)、
- プロジェクト管理やローカリゼーションツールに関する知識の習得。

また、テーマにはポストエディット、コントロールドラナゲージ、音声認識、データ分析、プライバシー保護も含まれます。

コースを通じて、学生は関連する記事を読み、議論に参加し、指定された課題を遂行することが求められます。このコースはインタラクティブかつ参加型の形式で進行し、各トピックについて積極的に学ぶことが求められます。また、学んだ内容を授業内で課される翻訳プロジェクトに反映することが期待されています。

さらに、博士後期課程の学生には追加のレポート作成が課されます。この補足レポートでは、より高度な分析と考察が求められ、博士課程レベルに相応しい学術的基準に沿った内容とする必要があります。

The course consists of a) understanding of the basic mechanism of Generative AI such as RNN, Transformer, word embedding, b) mastering CAT tools including translation memory, terminology management tools, including effective practice in post-editing and pre-editing, c) being familiar with customizing machine translation, including domain adaptation and corpus data cleansing, d) being knowledgeable of project management and localization tool. The theme also covers post-editing, controlled language, speech recognition, data analyses, and privacy protection.

Throughout the course, students will be asked to read relevant articles, join a discussion, and complete assignments as specified. This course will be interactive and participative, in which students will be requested to study actively each subject and reflect what they learn onto their translation projects to be assigned in classes.

In addition to the aforementioned requirements, Ph.D. students are mandated to compose an additional report. This supplementary report will demand a deeper level of analysis and reflection, aligning with the advanced academic standards expected at the doctoral level.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Introduction
- 【2】: CAT tools 1
- 【3】: CAT tools 2
- 【4】: Post-editing 1
- 【5】: Post-editing 2
- 【6】: Machine translation 1: History
- 【7】: Machine translation 2: Theory
- 【8】: Machine translation 3: Domain adaptation
- 【9】: Terminology management and Project Management
- 【10】: Data cleansing, data mining, corpus analysis
- 【11】: Data-driven research and translation process research 1
- 【12】: Data-driven research and translation process research 2
- 【13】: Total workbench environment
- 【14】: Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Reading assignments will be given respectively. Students will be asked to join discussions on the assigned articles.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Reflection paper:20% Homework assignments:30% Project-based assignments:50%

The scope and complexity of presentations by Ph.D. students should be approximately double that of master's students, and evaluations will be conducted accordingly.

テキスト / Textbooks

Articles and handouts will be provided in class.

参考文献 / Readings

Minako O'Hagan The Routledge Handbook of Translation and Technology Routledge 2019 9781138232846

坂西優・山田優 『自動翻訳大全』 三オブックス 2020 4866731931

ティエリー・ポイボー, 中澤 敏明 『機械翻訳:歴史・技術・産業』 森北出版 2020 4627851812

その他 / Others

https://researchmap.jp/yamada_trans

会議通訳入門(後期課程科目)

Introduction to Conference Interpreting
 Introductory course of the Conference Interpreting Program

バギューリー(BAGULEY BLAKE MURCIA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV307
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7243
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This is an introductory course of the Conference Interpreting Program.

The objectives of this course are for students to:

- 1) understand the basic concepts and modes of interpreting;
- 2) develop basic skills that support all modes of interpreting, such as active listening and content analysis;
- 3) learn how to perform consecutive interpreting between Japanese and English in both directions on general (non-technical) topics and on more advanced topics/speeches;
- 4) acquire note-taking skills to support consecutive interpreting and develop their own style/system for note-taking; and
- 5) build up vocabulary on a range of topics (including advanced/technical topics).

授業の内容 / Course Contents

The bulk of this course will be hands-on, practical exercises. Students will be asked to actively engage in exercises in each class, beginning with basic skills for interpreting such as active listening, then moving on to consecutive interpreting with and without notes. After each exercise, there will be time taken for constructive feedback and discussion, with everyone participating.

Students will need to prepare for the topics to be covered in each class (by researching and building glossaries), record and reflect on their in-class performance, and also practice individually or in a group outside of class. The speeches/dialogues used will begin at entry level and progress to intermediate level, covering general (non-technical) topics.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Course overview and introduction to modes of interpreting
- 【2】:Introduction to active listening and memory
- 【3】:Active listening and summarising exercises
- 【4】:Interpreting without notes 1 (typical speeches)
- 【5】:Interpreting without notes 2 (general topic)
- 【6】:Interpreting without notes 3 (news, current events)
- 【7】:Mid-term test (interpreting without notes in both directions)
- 【8】:Review of mid-term test
Introduction to note-taking
- 【9】:Interpreting with notes 1 (general/personal topics)
- 【10】:Interpreting with notes 2 (social issues)

- 【11】: Interpreting with notes 3 (numbers)
 【12】: Interpreting with notes 4 (international affairs)
 【13】: Final test (interpreting with notes in both directions)
 【14】: Review of final test
 Wrap-up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポイント)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Students are required to research the topic prior to each class and build up their own bilingual glossaries. Students will need to record their performance in class, then listen back to it afterwards and write a report/reflection. In addition, students will be expected to practice interpreting individually or in a group in their own time.

Topics may change and additional remedial exercises may be recommended depending on students' progress.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Mid-term test:30% In-class performance:20% Report submission and in-class participation:10% 最終テスト割合::40%

Doctoral students will be expected to meet the evaluation criteria at a higher level than MA students.

テキスト / Textbooks

Materials will be provided in class.

参考文献 / Readings

ベルジュロ・鶴田・内藤 『よくわかる逐次通訳』 東京外国語大学出版会 2009 4904575059

Robin Setton, Andrew Dawrant Conference Interpreting: A Complete Course (Benjamins Translation Library) John Benjamins Publishing Company 2016 9789027258618

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Non-native speakers of English are required to have attained at least one of the following test scores: TOEFL iBT 100, IELTS 7.0, TOEIC 880, or Eiken 1.

Non-native speakers of Japanese are required to hold N1.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Students should bring a recording device to class (smartphone or IC recorder).

Canvas LMS will be used to distribute some learning materials before/after class and for students to submit their reports and recordings.

その他 / Others

TI@Rikkyo <http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/>

会議通訳1(後期課程科目)

Conference Interpreting 1

Intermediate course of the Conference Interpreter Training Program

松下 佳世(MATSUSHITA KAYO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV308
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	全授業のうち3回はオンラインで実施する(第11・12・13回)。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内またはCanvas LMS等で周知する。 The following three classes will be conducted online: The 11th, 12th and 13th. Details and changes will be announced in class or posted on Canvas LMS.
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7243
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定	先修科目:会議通訳入門		
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

このコースは会議通訳者養成プログラムの中級科目であり、主要な国際機関が定める通訳者の能力を育成することを目的とする。授業の目的は以下の通り:

- 1)さまざまなトピックについて、ノートテイキングを用いた体系的な逐次通訳スキルを確立すること。
- 2)同時通訳の一般的なスキルと方略を身につけること。
- 3)遠隔通訳の基礎スキルを習得すること。
- 4)特定分野のトピックについて調査する能力を磨くこと。
- 5)通訳者の行動規範や倫理規程についての理解を深めること。

このコースの修了時には、専門的なトピックについて最大3分間までのセグメントを持つ15分以上のスピーチを正確に逐次通訳する能力と一般的なトピックについて最大10分間のスピーチを同時通訳する能力を対面および遠隔の両面で身につけることを目指す。

This is an intermediate course of the Conference Interpreting Program, which is designed to develop interpreter competencies identified by major international institutions. The objectives of the course are for students:

- 1) to solidify skills for consecutive interpreting with systematic note-taking for speeches on various topics
- 2) to become familiar with general principles and strategies for simultaneous interpreting
- 3) to acquire basic skills in remote interpreting
- 4) to hone skills for researching domain-specific topics
- 5) to become familiar with professional conduct and the code of ethics for interpreters.

By the end of the course, students should be able to accurately interpret up to 3 minutes of speech at a time for a total of 15 minutes or more on a technical topic in the consecutive mode and interpret up to 10 minutes of speech on a general topic in the simultaneous mode both in onsite and remote settings.

授業の内容 / Course Contents

このコースでは、通訳者の職業行動と倫理規範、専門的なトピックに関する逐次通訳、および同時通訳の一般的なスキルと方略について学ぶ。

英語と日本語の間の通訳を対象とし、専門的なスピーチに対する体系的なノートテイキングを用いた逐次通訳の演習を行う。また、同時通訳と遠隔通訳についての入門的な演習も実施する。

学生は授業で扱うトピックについて事前に調査を行い、授業内でのパフォーマンスについて適切なメタ言語と理論的な枠組みを用いて振り返り、批判的に分析することが求められる。

Students will be introduced to: professional conduct and the code of ethics for interpreters; preparation for interpreting speeches on domain-specific topics; and general principles and strategies for simultaneous interpreting. Students engage in exercises for consecutive interpreting between English and Japanese with systematic note-taking for technical speeches; and introductory exercises for simultaneous interpreting. Students are expected to research the topics to be covered in class and submit critical reflections on their in-class performance using appropriate metalanguage and theoretical references.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Introduction (professional conduct and code of ethics for interpreters)
- 【2】: Consecutive interpreting (business)
- 【3】: Consecutive interpreting (technology)
- 【4】: Consecutive interpreting (media)
- 【5】: Consecutive interpreting (politics and international affairs)
- 【6】: Mid-term test (consecutive interpreting)
- 【7】: Review of the mid-term test; general principles and strategies for simultaneous interpreting
- 【8】: Simultaneous interpreting (general)
- 【9】: Simultaneous interpreting (general)
- 【10】: Simultaneous interpreting (general)
- 【11】: Introduction to remote interpreting; consecutive interpreting (remote)
- 【12】: Simultaneous interpreting (remote)
- 【13】: Simultaneous interpreting (remote)
- 【14】: Final test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Students are required to read extensively and create bilingual glossaries of current events, research the topic to be covered in the next class, and submit a report on in-class performance after class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Final test:40% Midterm test:30% In-class performance:30%

テキスト / Textbooks

Reading materials will be distributed in class when necessary.

参考文献 / Readings

- Robin Setton & Andrew Daurant Conference Interpreting: A Complete Course John Benjamins 2016 9027258627
- Jones, R. Conference Interpreting Explained St. Jerome 2002 1900650576
- 小松達也『通訳の技術』研究社 2005 4327451916
- 水野的『同時通訳の理論』朝日出版社 2015 425500871
- 松下佳世『通訳になりたい ゼロからめざせる10の道』岩波書店 2016 4005008305

その他 / Others

Prior approval from the Ph.D. supervisor is required.

会議通訳2(後期課程科目)

Conference Interpreting 2

Advanced course of the Conference Interpreting Program

住本 時久(SUMIMOTO TOKIHISA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV309
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	全授業のうち7回はオンラインで実施する(第 2・4・6・8・10・12・14 回)オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。 The following seven classes will be conducted online: The 2nd, 4th, 6th, 8th, 10th, 12th and 14th. Details and any changes will be announced in class or posted on Canvas LMS.
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7243
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定	先修科目:会議通訳入門・会議通訳1(会議通訳1の成績が B 以上であること)		
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

会議通訳者が日常的に扱うトピックについて、英語から日本語へ、または日本語から英語へのプロフェッショナルな逐次通訳や同時通訳ができるようになるための高度な言語的・内容的知識を身につける。

Students will acquire advanced linguistic and subject matter knowledge that will prepare them to provide professional consecutive and simultaneous interpretation from English into Japanese and vice versa in the subject areas regularly handled by conference interpreters.

授業の内容 / Course Contents

各授業では、国際ビジネスに関連するトピックを1つ取り上げる。受講生は1週間を通して、授業中に行う通訳の準備をする。授業の前半では英語から日本語へ、後半では日本語から英語への通訳ができるように準備する。受講生は、自分自身やお互いのパフォーマンスを確認し、フィードバックを受け、次回に向けた改善策を学ぶ機会を持つ。

Each class will focus on one topic related to international business. Students will prepare for the in-class interpreting task throughout the week. When they come to class, they will be ready to interpret the topic from English to Japanese in the first half and from Japanese to English in the second half of the class. Students will have the opportunity to review their own and each other's performance, get feedback, and learn how to improve for next time.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Orientation
- 【2】: Consecutive Interpreting J<>E
- 【3】: Consecutive Interpreting J<>E
- 【4】: Consecutive Interpreting J<>E
- 【5】: Simultaneous Interpreting J<>E

- 【6】: Simultaneous Interpreting J<>E
- 【7】: Midterm Test
- 【8】: Simultaneous Interpreting J<>E
- 【9】: Simultaneous Interpreting J<>E
- 【10】: Simultaneous Interpreting J<>E
- 【11】: Simultaneous Interpreting J<>E
- 【12】: Simultaneous Interpreting J<>E
- 【13】: Simultaneous Interpreting J<>E
- 【14】: Final Test

Details are subject to change depending on class mix and other factors.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

ビデオ教材の活用、通訳機器の利用

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Students will be required to plan for in-class interpreting activities as if they were getting ready to interpret professionally. This means preparing a glossary, reading articles on the topic, practicing interpreting, and evaluating your performance in practice.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Midterm Test:20% In-class Participation:50% Out-of-class Preparation:10% 最終レポート割合::0%最終テスト割合::20%

A greater expectation of task fulfillment beyond the Master's level across all assigned work is expected.

テキスト / Textbooks

ベルジュロ伊藤宏美・鶴田知桂子・内藤稔 『よくわかる逐次通訳』 東京外国語大学出版会 2009 9784904575055

参考文献 / Readings

To be provided

その他 / Others

Prerequisite: Students must have successfully completed Introduction to Conference Interpreting and Conference Interpreting I with Grade B or above.

TI@Rikkyo <http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/>

Students who wish to enroll in this course must obtain permission from their supervisor as well as the course instructor before registering.

The course format may be in-person (7 sessions or more) or online (7 sessions or less), incl. on-demand, as necessary.

The course contents are subject to change depending on learning progress.

翻訳の原理と方法(後期課程科目)

Principles and Methods in Translation

Introductory course of the Professional Translation Program

山田 優(YAMADA MASARU)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV311
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンライン会議の機能を通してしか得られないサービス(リアルタイム翻訳、文字起こし等)の実践と理論を学ぶために全授業回のうち2回はオンラインで実施する(7・8回目の授業)。なお、オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内またはCanvas LMS等で周知する。
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7243
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本コースは、翻訳専門訓練プログラムの導入モジュールです。学生は、多様なテキストタイプの翻訳に取り組む中で、基本的な翻訳能力と技術を養成することが求められます。また、特定の翻訳方法を選択する理由や、異なる文脈において効果的な翻訳戦略について考察します。

さらに、博士課程の学生には、翻訳プロジェクトを管理し、言語専門家を指導するために必要なスキルと能力を習得することが期待されます。

This is the introductory module for the Translation Professional Training Program. Students are expected to develop basic translation competence and techniques while attempting to translate many different text types, and thus considering why they translate in a certain way and what translation strategies are effective in different contexts. In addition, Ph.D. students are expected to acquire the skills and competencies necessary for managing translation projects and leading linguists.

授業の内容 / Course Contents

このコースは、英日翻訳の初心者を対象としています。実践的なセミナーを通じて、学生は英語の原文を丁寧に読み、完全に理解し、適切な日本語表現を慎重に選択することが求められます。基本的な翻訳スキルを習得するとともに、用語管理や背景調査の手法など、より専門的なスキルも学びます。

また、コンピュータ支援翻訳(CAT)ツールの活用、用語集の作成、自己レビューおよび相互レビューもコースに含まれています。

さらに、博士課程の学生には追加のレポート作成が課されます。この補足レポートでは、より高度な分析と考察が求められ、博士課程レベルに相応しい学術的基準に沿った内容とする必要があります。

This course is aimed at novice learners of English to Japanese Translation. Through practical seminars students are expected to read and thoroughly understand the English source texts and carefully select appropriate Japanese expressions. Along with acquiring basic translation skills, they also learn more professional skills such as terminology management and background survey techniques.

The use of computer-assisted-translation (CAT) tools, glossary preparation, self and peer review will also be included in the course.

In addition to the aforementioned requirements, Ph.D. students are mandated to compose an additional report. This supplementary report will demand a deeper level of analysis and reflection, aligning with the advanced academic standards expected at the doctoral level.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction
- 【2】:Translation theory and practice: EMT
- 【3】:CAT tools and translation workbench
- 【4】:Translation practice 1: Selected topics
- 【5】:Translation practice 2: Selected topics
- 【6】:Translation practice 3: Selected topics
- 【7】:Localization 1
- 【8】:Localization 2
- 【9】:Subtitling 1
- 【10】:Subtitling 2
- 【11】:Technical documents 1
- 【12】:Technical documents 2
- 【13】:Review
- 【14】:Final report

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Students are expected to work on assignments every week and submit them before the next class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation:30% Assignemnts:40% Final report:30%

The scope and complexity of presentations and reports by Ph.D. students should be approximately double that of master's students, and evaluations will be conducted accordingly.

テキスト / Textbooks

Handouts will be provided in class.

参考文献 / Readings

光藤 京子, 田辺 希久子 『英日日英 プロが教える基礎からの翻訳スキル』 三修社 2008 9784384055061

その他 / Others

英語の非母語話者は TOEFL iBT 100, TOEIC 880, IELTS 7.0, または英検1級を取得しておくこと。日本語の非母語話者は N1 を取得しておくこと。

初回の授業には必ず出席してください。授業内容は、クラスの構成等により変更する可能性があります。

翻訳演習1(後期課程科目)

Translation Seminar 1

Intermediate course of the Professional Translation Program

香取 芳和(KATORI YOSHIKAZU)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV312
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7243
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定	先修科目:翻訳の原理と方法		
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

プロとして通用するレベルの翻訳スキルの習得を目指す。翻訳はどのくらい原文に近づけるか(翻訳の限界)を理解する。

This course is designed to help you acquire professional-level translation skills. It also aims to bring you to a realization that there are limits to how closely a translated text can be made to resemble the original.

授業の内容 / Course Contents

上記目標を達成するため、

1. 英語文と日本語文で結束性(テキストのまとまり感)の具現方法がどのように違うかを理解する。
2. 等価を実現するためのさまざまな手法を検討する。
3. モノ言語(コト言語)からコト言語(モノ言語)へ変換テクニックを学ぶ。
4. 英語から日本語、日本語から英語に訳された文章と、もともとそれぞれの言語で書かれた文章を分析し、翻訳で補足または省略されやすい情報のタイプを知る。
5. いわゆる「翻訳調」に気づく。
6. 翻訳者にできる介入の限界を考える。
7. 受講生によるプレゼンテーションを課す。

In order to achieve the goals above, the course covers the following contents.

1. Understanding the difference in the way cohesion is achieved between English texts and Japanese texts.
2. Discussing various strategies to achieve equivalence.
3. Learning translation techniques in converting "mono (things)" language into "koto (event)" language, and vice versa.
4. Analysis of Japanese texts translated from English, English texts translated from Japanese and comparable texts originally written in each language, for types of information that tend to be added or omitted through translation.
5. Gaining awareness for what's called "translatese" or "translationese."
6. Realizing limits to what translators can do to produce "natural" texts.
7. Presentations by students.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション

【2】:「翻訳であることがわからない翻訳」はどこまで可能か(1)

【3】:「翻訳であることがわからない翻訳」はどこまで可能か(2)

【4】:翻訳課題1 前半

原文の解説と訳文の講評

【5】:翻訳課題1 後半

原文の解説と訳文の講評

【6】:モノ言語からコト言語への変換

【7】:英語テキストと日本語テキストの結束性の具現方法の違いについての考察(1)

【8】:翻訳課題2 前半

原文の解説と訳文の講評

【9】:翻訳課題2 後半

原文の解説と訳文の講評

【10】:英語テキストと日本語テキストの結束性の具現方法の違いについての考察(2)

【11】:「翻訳癖(翻訳調)」についての解説

プレゼンテーションの準備

【12】:翻訳課題3

【13】:受講生によるプレゼンテーション

【14】:今期の総まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表	<input type="radio"/>	ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験	<input type="radio"/>	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

翻訳演習では、十分な下調べをしてから訳文作成に取り掛かり、文章をよく推敲してから提出すること。訳文講評の回は事前に学生訳を熟読して講評できるよう準備して授業に臨むこと。授業後には、指示する課題をこなすこと。(1回の授業につき、予習・復習に平均で約4時間を要する。)Canvas LMS を使用する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 翻訳課題:45% 翻訳練習問題:15% プレゼンテーション:15% プレゼンテーションのリアクションペーパー:5% 最終レポート割合::20%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

平子義雄『翻訳の原理 異文化をどう訳すか』大修館書店 1999 9784469212358

伊原紀子『翻訳と話法 語りの声を聞く』松籟社 2011 9784879842947

共同通信社『記者ハンドブック第13版 新聞用字用語集』共同通信社 2016 9784764106871

その他 / Others

司会者を決めて訳文講評を行う。

個人またはグループによるプレゼンテーションを予定している。

翻訳演習2(後期課程科目)

Translation Seminar 2
字幕翻訳の理論と実践

大塚 美左恵(OTSUKA MISAE)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV313
授業形態	オンライン(全回オンライン)	授業形態(補足事項)	発話を伴う授業を学内で受講する場合は8201(池袋キャンパス)、N851(新座キャンパス)の利用可
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7243
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定	先修科目:翻訳の原理と方法・翻訳演習1(翻訳演習1の成績がB以上であること)		
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	○
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

字幕翻訳の特性を理解し、適切な字幕を作成できるようになる。

字幕翻訳に関する理論的な知識に基づいて、翻訳プロセスを言語化できるようになる。

理論と実践の両方からアプローチし、字幕翻訳についての広い視野を養う。

字幕翻訳とその研究に対する自らの問題意識を明確にする。

We will develop understanding of the characteristics of subtitle translation and acquire the skills for producing subtitles that correspond to various situations. We will also acquire the theoretical tools to explain the translation process.

Approaching both theoretically and practically, we will develop a broader perspective on subtitle translation. Students are required to deliver one's own views on subtitle translation and its studies.

授業の内容 / Course Contents

字幕翻訳の理論を学び、映像作品の日本語字幕を作成する。

はじめに視聴覚翻訳と字幕翻訳を概観する。続いて、字幕制作の過程と翻訳者に注目し、字幕翻訳の特性について考察する。同時に翻訳課題となる映像作品の素訳に着手し、字幕翻訳のルールと字幕制作ソフトの使い方を学んで、字幕作成を準備する。次に翻訳プロセスや方略について学び、素訳を改変して字幕を作成するとともに、自らの翻訳を理論的に説明する方法を習得する。一方で日英字幕や他ジャンルの映像作品の字幕翻訳にも挑戦しながら、字幕翻訳の評価について考える。翻訳課題の字幕が完成したらプレゼンテーションし、聴者は評価を試みる。

In this class, we will learn about the theories of subtitle translation and create Japanese subtitles for audiovisual programs.

First, we will provide an overview of audiovisual translation and subtitle translation. We will focus on the process of subtitle production and translators and display the characteristics of subtitle translation. Next, we will tackle a translation assignment. We will learn the rules of subtitle translation and how to use subtitling software to prepare for creating subtitles. We will learn about the translation process and strategies and then modify the original translation to create subtitles. At the same time, we will learn how to explain our translation theoretically. We will also try our hand at creating English subtitles and translating audiovisual programs of other genres. Evaluation of subtitle translation will also be discussed. Once the subtitles for the translation assignment are completed, a presentation and peer review will be held.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:はじめに(講読文献と翻訳課題、字幕制作ソフトの説明、資料や素材の配布など)
- 【2】:字幕翻訳の概要と沿革／翻訳課題の素訳(1)
- 【3】:字幕制作の過程と字幕翻訳者／翻訳課題の素訳(2)
- 【4】:字幕翻訳の特性(マルチモード性など)／翻訳課題の素訳(3)
- 【5】:素訳の共有とフィードバック
- 【6】:時間と空間の制約／字幕翻訳のルールと字幕制作ソフトの使い方
- 【7】:字幕翻訳のプロセスと方略／素訳から字幕へ(1)
- 【8】:ユーモアと異文化の翻訳／素訳から字幕へ(2)
- 【9】:日英字幕翻訳
- 【10】:テキストタイプとスコプス／他ジャンルの字幕翻訳
- 【11】:字幕翻訳の評価／素訳から字幕へ(3)
- 【12】:プレゼンテーション(1) 翻訳成果の発表とピアレビュー
- 【13】:プレゼンテーション(2) 翻訳成果の発表とピアレビュー
- 【14】:完成字幕の共有とフィードバック／コース全体の総括
(授業の内容と順番は変更されることがあります)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の予習・復習には2時間程度を要する。さらに翻訳課題とプレゼンテーションの準備、レポートの作成に全体で45時間程度を要することが見込まれる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション:30% 課題:30% 授業への貢献:10% 最終レポート割合::30%

最終レポートの課題は前期課程とは異なる内容を設定する。字幕翻訳とその研究に対する自らの問題意識を明確にした上で論じることが求められる。

テキスト / Textbooks

適宜、プリントを配布します。

参考文献 / Readings

Díaz-Cintas, J. & Remael, A. Subtitling: concepts and practices Routledge 2021 9781138940543

マンディ, J. 『翻訳学入門』 みすず書房 2009 9784622074557

Pérez-González, L. The Routledge handbook of audiovisual translation Routledge 2019 9781138859524

篠原有子 『映画字幕の翻訳学』 晃洋書房 2018 9784771031029

Pérez-González, L. Audiovisual translation: theories, methods and issues Routledge 2014 9780415530255

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Zoom によるオンライン授業です。資料配布や課題提出には CanvasLMS 等を活用します。使用する字幕制作ソフトについては初回の授業で説明します。受講や課題に取り組む際にはパソコンが必要です。

通訳翻訳研究特殊講義(後期課程科目)

Seminar in Translation and Interpreting Studies

翻訳通訳研究の新たな地平/New Trends in Translation and Interpreting Studies

坪井 睦子(TSUBOI MUTSUKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV315
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7243
使用言語	その他	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、学際領域としての翻訳通訳研究の最新動向について考察し、本研究分野の現在の地平を明らかにするとともに、急速にグローバル化し変化する現代社会における今後の課題を探ることを目標とする。さらに、本講義を通して身に付けた知見と新たな視座を研究テーマの分析・考察に応用することを目指す。

This course aims to discuss the latest trends in Translation and Interpreting Studies as an interdisciplinary field, to identify the current horizon of the field, and to explore future challenges in today's rapidly globalizing and changing society. In addition, the course will enable students to apply the acquired knowledge and new perspectives in analyzing and discussing research issues.

授業の内容 / Course Contents

このコースでは、翻訳通訳研究の歴史を概観したうえで、メディア、テクノロジー、教育、紛争・戦争、多文化共生など、さまざまな切り口から翻訳通訳研究の最新動向について考察する。授業活動を通し、翻訳通訳研究の現状に対する理解を深めるとともに、将来の課題について議論し、その知見を受講生自らの研究に反映させることを目指す。クラスの活動では、学生主導による発表と討論が行われる。受講生は指示された文献を熟読して授業にのぞむことが求められる。また、発表担当者は発表の準備を十全に行うとともに、クラスでの討論を活性化させる役割を担う。

尚、スケジュール、および扱うテーマはクラスの状況、要望に応じ変更される場合がある。

Beginning with an overview of the history of Translation and Interpreting Studies (TIS), this course examines recent trends in TIS through various thematic lenses: media, technology, education, conflict and war, and multiculturalism. The course will allow students to develop their understanding of the current state of TIS, discuss its future challenges, and finally apply the knowledge gained to their research. Class activities will include student-led presentations and discussions. Students are expected to read all assigned materials thoroughly before coming to class and to prepare well for presentations so that they can play a role in facilitating class discussion.

*The below schedule and topics are subject to change based on class conditions and requests.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: 初回ガイダンス
- [2]: 翻訳通訳研究の歴史と近年の動向
- [3]: メディアと翻訳通訳(1)
- [4]: メディアと翻訳通訳(2)
- [5]: テクノロジーと翻訳通訳(1)
- [6]: テクノロジーと翻訳通訳(2)
- [7]: 翻訳通訳と教育(1)
- [8]: 翻訳通訳と教育(2)

- 【9】:紛争／戦争と翻訳通訳(1)
 - 【10】:紛争／戦争と翻訳通訳(2)
 - 【11】:多文化共生と翻訳通訳(1)
 - 【12】:多文化共生社と翻訳通訳(2)
 - 【13】:最終プレゼンテーション
 - 【14】:最終プレゼンテーション
- まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

各回の予習・復習の具体的内容については、授業時に指示する。

基本的に、授業前には指定された文献を熟読することと必要に応じて調査を行うこと、授業後は復習を兼ねアクションペーパーを提出することが求められる。発表担当者は発表の準備を十全に行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業活動への積極的参加と貢献:20% リアクションペーパー:20% 発表:20% 最終レポート割合::40%

全ての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

随時、資料を配布、または提示する。

参考文献 / Readings

武田珂代子(編著)『翻訳通訳研究の新地平』晃洋書房 2017 9784771028135

鳥飼玖美子(編著)『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房 2013 9784623067275

New Trends in Translation Studies シリーズ(Peter Lang)、New Perspectives in Translation and Interpreting Studies シリーズ (Routledge) 等、授業時に適宜紹介する。

通訳翻訳専門実習A(後期課程科目)

Advanced Practicum in Translation and Interpreting A
Advanced course of the Professional Interpreting/Translation Program

武田 珂代子/山田 優 (TAKEDA KAYOKO/ YAMADA MASARU)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV316
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンライン会議の機能を通してしか得られないサービス(リアルタイム翻訳、文字起こし等)の実践と理論を学ぶために全授業回のうち2回はオンラインで実施する(7・8回目の授業)。なお、オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内またはCanvas LMS等で周知する。
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7243
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定	先修科目:会議通訳入門・会議通訳1・会議通訳2または翻訳の原理と方法・翻訳演習1・翻訳演習2(会議通訳2・翻訳演習2については、通訳翻訳専門実習Aと同学期の履修を可とする。)		
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This course represents an advanced component of the Interpreting/Translation Professional Training Program, integrating key concepts from Interpreting/Translation Studies Theories. It is designed to enhance students' translation skills and methodologies as they work on various types of texts and settings. This process will encourage students to critically analyze their translation choices and the effectiveness of different strategies in diverse contexts. Students will become familiar with practical work, understand professional ethics, and acquire an awareness of being a professional interpreter/translator. They will also reflect the understanding gained through practice in their research. The ultimate aim of the course is to thoroughly prepare students for real-world interpreting and translation practice. In addition, Ph.D. students are expected to acquire the skills and competencies necessary for managing translation projects and leading linguists.

授業の内容 / Course Contents

Students will gain insight into the objectives of the practical training, acquiring both the skills and the professional mindset necessary for their development. They will also learn about the service learning project "RiCoLaS" at Rikkyo University, along with various internships and other practical training opportunities. With this knowledge, students will engage in discussions to set their own training goals.

Throughout the practical training period, students are required to document their (1) objectives, (2) tasks undertaken to achieve these goals, and (3) the actual outcomes of their training. In the concluding session, each student will present an oral summary of their entire training experience and submit a comprehensive report detailing their training experience. In addition to the aforementioned requirements, Ph.D. students are mandated to compose an additional report. This supplementary report will demand a deeper level of analysis and reflection, aligning with the advanced academic standards expected at the doctoral level.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction
- 【2】:Interpreting/Translation theory and practice revisited
- 【3】:Practicum 1
- 【4】:Practicum 1 cont'
- 【5】:Practicum 1 cont'
- 【6】:Practicum 1 cont'
- 【7】:Mid-Term Review
- 【8】:Project 2
- 【9】:Project 2 cont'
- 【10】:Project 2 cont'
- 【11】:Project 2 cont'
- 【12】:Project 2 cont'
- 【13】:Review
- 【14】:Final report and presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Students are expected to work on assignments every week and submit them before the next class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation:30% Assignemnts:40% Final report:30%

The scope and complexity of presentations and reports by Ph.D. students should be approximately double that of master's students, and evaluations will be conducted accordingly.

テキスト / Textbooks

Handouts will be provided in class.

参考文献 / Readings

光藤 京子, 田辺 希久子 『英日日英 プロが教える基礎からの翻訳スキル』 三修社 2008 9784384055061

その他 / Others

履修条件

「会議通訳 2」または「翻訳演習 2」を履修中または修得済みであること

通訳翻訳専門実習B(後期課程科目)

Advanced Practicum in Translation and Interpreting B
 Advanced course of the Professional Interpreting/Translation Program

松下 佳世/山田 優(MATSUSHITA KAYO/ YAMADA MASARU)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV317
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	To study both the practice and theory of services that can only be provided through the use of online meeting platforms (e.g., remote interpreting, real-time translation, and transcription), four of the class sessions (sessions 5, 6, 8 and 9) will be conducted online. If there are any changes to the online sessions, students will be notified during class or via Canvas LMS or other means of communication.
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7243
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定	先修科目:会議通訳入門・会議通訳・会議通訳2または翻訳の原理と方法・翻訳演習1・翻訳演習2		
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This course represents an advanced component of the Translation Professional Training Program and the Conference Interpreter Training Program, integrating key concepts and theories from Translation and Interpreting Studies (TIS). It is designed to enhance students' translation and interpreting skills and methodologies as they work on various assignments. This process will encourage students to critically analyze their decision-making and the effectiveness of different strategies in diverse contexts. Students will become familiar with practical work, understand professional ethics, and acquire an awareness of being a professional translator and/or interpreter. They will also reflect the understanding gained through practice in their research. The ultimate aim of the course is to thoroughly prepare students for real-world translation and interpreting practice. In addition, Ph.D. students are expected to acquire the skills and competencies necessary for managing translation projects and leading linguists.

授業の内容 / Course Contents

Students will gain insight into the objectives of practical training, acquiring both the skills and the professional mindset necessary for their development. They will also learn about the service learning project "RiCoLaS," along with various internships and other practical training opportunities. With this knowledge, students will engage in discussions to set their own training goals.

Throughout the practical training period, students are required to document their (1) objectives, (2) tasks undertaken to achieve these goals, and (3) the actual outcomes of their training. In the concluding session, each student will

present an oral summary of their entire training experience and submit a comprehensive report detailing their achievements. In addition to the aforementioned requirements, Ph.D. students are mandated to compose an additional report. This supplementary report will demand a deeper level of analysis and reflection, aligning with the advanced academic standards expected at the doctoral level.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:Introduction
- 【2】:TIS theories and practice revisited
- 【3】:Practicum 1
- 【4】:Practicum 1 cont'
- 【5】:Practicum 1 cont'
- 【6】:Practicum 1 cont'
- 【7】:Mid-Term Review
- 【8】:Project 2
- 【9】:Project 2 cont'
- 【10】:Project 2 cont'
- 【11】:Project 2 cont'
- 【12】:Project 2 cont'
- 【13】:Review
- 【14】:Final report and presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Students are expected to work on assignments every week and submit them before the next class.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation:30% Assignments:40% Final report:30%

テキスト / Textbooks

Handouts will be provided in class.

参考文献 / Readings

光藤 京子, 田辺 希久子 『英日日英 プロが教える基礎からの翻訳スキル』 三修社 2008 9784384055061

通訳翻訳ジャーナル編集部 『通訳の仕事 始め方・続け方』 イカロス出版 2021 9784802210782

その他 / Others

Prerequisites

Completion of "Conference Interpreting 2" or "Translation Practice 2."

Prior consultation with the Ph.D. supervisor is required.

異文化コミュニケーション理論(後期課程科目)

Intercultural Communication Theory
 異文化コミュニケーション研究への質的アプローチ

灘光 洋子(NADAMITSU YOKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV404
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7340
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

質的アプローチによる異文化コミュニケーション研究の理論的枠組みを体系的に理解することで、研究テーマに取り組むにあたり、分析や考察において自分の視座・立ち位置により自覚的になる。

- (1) To develop better understanding of qualitative research conventions in the field of Intercultural Communication through learning about different schools of thought
- (2) To become more reflexive about our own views and positionalities when doing research

授業の内容 / Course Contents

コミュニケーション研究に深く関連する理論の系譜をたどることで、概念や理論的枠組み、視点の関連性に目を向けると同時に、それらに則った様々な実践を概観する。具体的には、様々な知の潮流(解釈的系譜,批判的系譜など)についての論考を読み、討議することで理解を深めたい。

Through a detailed overview of the major post-positivist traditions, we will deepen our understanding of qualitative orientations found in Intercultural Communication research and become familiar with working in them. Our reading will cover the interpretive, structuralist, critical, and "post" traditions.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション:ポスト実証主義の系譜と研究スタイル
- 【2】:批判理論と研究例の紹介
- 【3】:シンボリック相互作用論
- 【4】:シンボリック相互作用論の研究例/関連文献
- 【5】:ドラマツルギーとドラマティズム
- 【6】:ドラマツルギーとドラマティズムの研究例/関連文献
- 【7】:エスノメソドロジー
- 【8】:エスノメソドロジーの研究例/関連文献
- 【9】:エスノグラフィー
- 【10】:エスノグラフィーの研究例/関連文献
- 【11】:記号論と構造主義
- 【12】:記号論と構造主義の研究例/関連文献
- 【13】:ポスト構造主義 あるいは フェミニズム
- 【14】:ポスト構造主義 あるいは フェミニズムの研究例/関連文献

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

各回の予習範囲や課題は、授業内で別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表および討議への貢献度:60% 最終レポート割合::40%

後期課程においては、全ての評価方法において高度な達成基準を要求する。

テキスト / Textbooks

Prasad, P. 著(箕浦康子 監訳)『質的研究のための理論入門:ポスト実証主義の諸系譜』ナカニシヤ出版 2018 9784779512230

原則、教科書にある章の中で、履修者の関心のある章を優先的に選び考察を深めることとする。(上記シラバスに示した章は例であり、これらに限定されない。)また、関連する論考・研究論文(英語論文を含む)については適宜指示する。

参考文献 / Readings

Prasad, P. Crafting qualitative research: beyond positivist traditions Routledge 2018 24408877

指導の中で適宜指示する。

その他 / Others

「異文化コミュニケーション研究基礎論」を既に履修していることが望ましい。

履修者の積極的な討議参加を求める。各自、十分に文献を読み込んでくることを前提に授業を進める。

授業内容のテーマや順番は進捗状況に応じて変更する可能性がある。

コミュニケーション研究特殊講義A(後期課程科目)

Seminar in Communication Studies A

組織コミュニケーション / ディスコース研究の視点から

石黒 武人 (ISHIGURO TAKETO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV405
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7340
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目標は、受講生が組織における異文化コミュニケーション(ディスコース)について多面的に分析・考察し、理解を深めることである。受講生は、組織で生起する異文化コミュニケーションを分析するための概念を学び、それらの概念を適切に用い、具体的コミュニケーション場面を分析、考察できるようになることを目指す。博士後期課程の履修生は、自身の研究に関わるデータを分析するなどして、学会での研究発表等に結びつけ、データ分析を前期課程の履修生より高度な水準で実践できることを目指す。

This course is designed for graduate students to understand ways in which they can analyze and critically examine intercultural discourses in organizations from multiple perspectives. Students will be able to learn how to use analytic concepts to look into concrete intercultural discourses in organizations. Students enrolled in the doctoral program will analyze data related to their own research, and aim to demonstrate their abilities to analyze data at a more advanced level than students enrolled in the masters' program, leading to research presentations at academic conferences and so on.

授業の内容 / Course Contents

本授業は、グローバル化を背景とし多様な文化が交錯する組織のコミュニケーションについて分析・考察するため、関連する諸研究を扱う。具体的には、組織ディスコース研究で扱われる諸知見(組織研究、コミュニケーション研究、記号論、談話分析、レトリック研究、語用論、ジェンダー研究、物語論等の概念)を学び、それらの知見を用いて組織コミュニケーション(ディスコース)を分析、考察する。本講義で扱う組織は企業が中心となるが、学校、病院、介護施設、非営利団体、自治会などの様々な組織もその範疇に入り、そうした組織で生起する異文化コミュニケーションの分析も射程とする。

This course introduces to graduate students a wide range of related research projects on organizational communication (discourse) in which multiple cultures interact with one another due to globalization. The students will learn how to analyze and consider organizational communication (discourse) in light of organizational discourse research that is based on a variety of fields such as organizational studies, communication studies, semiotics, discourse analysis, rhetorical analysis, pragmatics, gender studies, and narrative studies. This course mainly deals with business organizations, but it also includes other organizations such as schools, hospitals, nursing homes, non-profit organizations, and residents' organizations.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】:オリエンテーション:本講義の哲学的前提と焦点(組織ディスコース研究)
- 【2】:組織と語り:ディスコースとは何か
- 【3】:組織ディスコースの基本的考え方
- 【4】:組織ディスコース研究の源流
- 【5】:組織ディスコースの研究手法

- 【6】: ナラティブとストーリーテリング: 組織の語りと対話 ☆リサーチノート1の提出日
- 【7】: 組織レトリック
- 【8】: 批判的ディスコース研究
- 【9】: ポスト構造主義アプローチ(1): フーコー派
- 【10】: ポスト構造主義アプローチ(2): ラクラウ派とラカン派 ☆リサーチノート2の提出日
- 【11】: 組織のアイデンティティ(教科書第10章)
- 【12】: 組織とジェンダー(教科書第11章)
- 【13】: 組織とパワー(教科書第12章) 事例研究発表(1)
- 【14】: 事例研究発表(2)と総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワーポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
個人発表	<input type="radio"/>	グループ発表		ディスカッション・ディベート	<input type="radio"/>
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

授業前は、該当する教科書の章とあらかじめ配布される論文等の資料を読んでおくこと。教科書は各章を担当する受講生がそのポイントをまとめて発表する形式をとるため、発表者は、パワーポイントもしくはワードの発表レジュメを作成する。授業後は、組織コミュニケーションの理解を助けるキーワード、分析概念、理論を復習し、それらが当てはまる実際の事例を自分なりに探し、リサーチ・ノートにまとめておくこと。リサーチノートの提出は、☆のマークがついた回にそれ以前の授業で学んだ内容(キーワードなど)を使って事例を分析したものをA4一枚程度で提出する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表(事例分析):30% リサーチノート:30% 最終レポート割合::40%

リサーチノートは1回の提出が15ポイントで、2回の提出で30ポイント、つまり、成績の30%となる。なお、すべての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

清宮徹 『組織のディスコースとコミュニケーション』 同文館出版 2019 9784495390242

教科書の購入は任意:パワーポイントで要点を示すが、購読を推奨します。

参考文献 / Readings

グラント, D.・ハーディー, C.・オズウィック, C.・パットナム, L.(編) 『組織ディスコース研究』 同文館出版 2012 9784495381011

Putnam, L., & Mumby, D. (Eds.) The SAGE handbook of organizational communication: Advances in theory, research, and methods (3rd. ed.) SAGE 2014 9781412987721

Jablin, F., & Putnam, L. (Eds.) The new handbook of organizational communication SAGE 2001 9781412915252

Aritz, J., & Walker, R. (Eds.) Discourse perspectives on organizational communication Fairleigh Dickinson University Press 2012 9781611474374

Adler, N. International dimensions of organizational behavior (4th ed.) South-Western 2002 9780324057865

石黒武人 『多文化組織の日本人リーダー像: ライフストーリー・インタビューからのアプローチ』 春風社 2012 9784861103223

プラサド, P. 『質的研究のための理論入門: ポスト実証主義の諸系譜』 ナカニシヤ出版 2018 9784779512230

その他授業にて関連文献を適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

さまざまな領域で行われている組織ディスコースのアプローチを扱うため、新しい知見にオープンな姿勢が求められます。また、自身の個人研究と関連づけて、授業で扱う内容を理解し、個人の研究を発展させることが期待されています。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

とくにありません。

コミュニケーション研究特殊講義B(後期課程科目)

Seminar in Communication Studies B

師岡 淳也 (MOROOKA JUNYA)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV406
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7340
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本科目は、主に米国のコミュニケーション学におけるコミュニケーション教育に関する文献を読みながら、コミュニケーション教育の歴史や主な研究領域を学ぶとともに、コミュニケーション教育を巡る諸課題について理解を深めることを目的とする。博士後期課程の履修生は、コミュニケーション教育をテーマに独自のデータ収集と分析を行い、それを学会発表や(博士)論文執筆に結びつけることを目指す。

This course aims to deepen students' knowledge and understanding of the history of and major research areas in communication education scholarship by reading relevant literature in Communication Studies in the United States. It also aims to familiarize students with major issues surrounding communication education.

授業の内容 / Course Contents

まず、(主に)米国におけるコミュニケーション教育の歴史を概観した後、コミュニケーション教育の研究を、1) Communication Education、2) Instructional Communication、3) Critical Communication Pedagogy に大別し、各領域の特徴や主な研究テーマ/アプローチについて学んでいく。学期の終盤では、日本のコミュニケーション教育についても話し合う。

We will first take a brief look at the history of communication education primarily in the United States. Then, we will divide scholarship in communication education into three areas: 1) Communication Education, 2) Instructional Communication, and 3) Critical Communication Pedagogy and learn the characteristics of and major themes/approaches in each area. Towards the end of the semester, we will also discuss communication education in Japan.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入
- 【2】: コミュニケーション教育の歴史(その1)
- 【3】: コミュニケーション教育の歴史(その2)
- 【4】: Communication Education の文献講読(その1)
- 【5】: Communication Education の文献講読(その2)
- 【6】: Communication Education の文献講読(その3)
- 【7】: Instructional Communication の文献講読(その1)
- 【8】: Instructional Communication の文献講読(その2)
- 【9】: Instructional Communication の文献講読(その3)
- 【10】: Critical Communication Pedagogy の文献講読(その1)
- 【11】: Critical Communication Pedagogy の文献講読(その2)
- 【12】: Critical Communication Pedagogy の文献講読(その3)
- 【13】: 日本におけるコミュニケーション教育

【14】: 期末レポート発表会、授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

毎回課題文献を丁寧に読み込み、自分なりの考えや疑問点をもった上で、授業に臨むことが求められる。特殊研究「講義」という科目名ではあるが、大学院科目ということもあり、対話/ディスカッション形式で授業を進めていく。そのため、各履修者の積極的な参加が期待される。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加・貢献度:50% 中間レポート:20% 期末レポート:30%

すべての評価課題において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

特定のテキストは使用しない。各回のテーマに合わせて、教員が文献を用意する。

参考文献 / Readings

Hannawa, A. F. & Spitzberg, B. H. (Eds.) Communication Competence De Gruyter Mouton 2015

Houser, M. L. & Hosek, A. Handbook of Intercultural Communication: Rhetorical and Relational Perspectives (2nd ed.) Routledge 2018

Fassett, D. L. & Warren, J. T. Critical Communication Pedagogy SAGE 2006

Atay, A. & Ashlock, M. Z. The Discourse of Disability in Communication Education: Narrative-Based Research for Social Change Peter Lang 2016

コミュニケーション教育関連ジャーナル

Communication Education (National Communication Association)

Communication Teacher (National Communication Association)

Journal of Communication Pedagogy (Central States Communication Association)

Basic Communication Course Annual (the University of Dayton Department of Communication)

コミュニケーション研究特殊講義C(後期課程科目)

Seminar in Communication Studies C

社会的行為としての記憶と異文化コミュニケーション

河合 優子(KAWAI YUKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV407
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7340
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

異文化コミュニケーション研究と記憶研究の関連性を理解し、社会的行為としての記憶と文化、メディア、ナラティブ、歴史、ナショナリズム、人種主義との関係性について考察し、各自の博士論文テーマに結びつけていく。

Students will (1) understand the connection between intercultural communication studies and memory studies, (2) examine memory as a social practice and its relationships with culture, media, narrative, history, nationalism, and racism, and (3) relate these issues to their dissertation topic.

授業の内容 / Course Contents

社会的行為としての記憶は文化、歴史、メディア、ナラティブ、アイデンティティなど関わっており、異文化コミュニケーションと非常に関連性の高い概念である。この授業ではまず異文化コミュニケーション研究と記憶研究の関連性を考えた後、社会的行為としての記憶が多様な学術分野でどのように概念化されてきたのかについて概観する。そして、文化、メディア、ナラティブ、歴史、ナショナリズム、人種主義などがどのように社会的行為としての記憶と関係しているのかについて考察していく。

Memory as a social practice, intertwined with culture, history, media, narrative, and identity, is a concept very relevant to intercultural communication. This course will first examine the connection between intercultural communication studies and memory studies. After overviewing how memory has been conceptualized as a social practice in various academic fields, we will explore its relationship with culture, media, narrative, history, nationalism, and racism.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: 導入
- [2]: 異文化コミュニケーションと社会的行為としての記憶
- [3]: 集合的記憶
- [4]: 多様な学術分野における記憶
- [5]: 文化と記憶
- [6]: メディアと記憶
- [7]: ナラティブと記憶
- [8]: 歴史修正(否定)主義とは(1)
- [9]: 歴史修正(否定)主義とは(2)
- [10]: 歴史修正(否定)主義とは(3)
- [11]: 人種主義、ナショナリズム、記憶—日本の歴史修正(否定)主義
- [12]: ナショナリズム、アイデンティティ、記憶
- [13]: 戦争と記憶
- [14]: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

必ず課題文献を読んだ上で授業に参加すること。毎週、課題文献についての小レポートの提出がある。週4時間程度の授業外学習が必要。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加貢献度:20% 課題文献発表:20% 小レポート:20% 最終レポート割合::40%
毎週、課題文献についての小レポートを提出する

テキスト / Textbooks

エアル、アストリッド『集合的記憶と想起文化』水声社 2022 4801006620
武井彩佳『歴史修正主義』中公新書 2021 4121026640
教科書以外に、英語および日本語論文を使用する

参考文献 / Readings

授業内で紹介する。

その他 / Others

毎週の小レポートにはフィードバックを行う

コミュニケーション理論(後期課程科目)

Communication Theory

小山 亘(KOYAMA WATARU)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV408
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7340
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、言語研究と文化人類学の中間に位置し、人間の文化・社会やその環境という広範な問題に言語とコミュニケーションの視点から接近する分野である言語人類学について、その全体像を深く学ぶことを通して、コミュニケーション理論について十全たる理解に達することを目的とする。

The purpose of this course is to master the general framework of linguistic anthropology, a discipline located between language studies and cultural anthropology that approaches the broad question of socioculture and its environment from the perspective of language and communication, and to further strengthen the students' understandings of the theoretical aspects of communication through the comprehension of the linguistic-anthropological view of language and communication.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、まず、人類学全体の中で言語人類学が占める位置を確認したうえで、過去 200 年間の言語研究と人間学の歴史を俯瞰し、言語人類学とその隣接分野(言語学、言語教育、認知科学、語用論、会話分析、談話分析、社会学、文化人類学、カルチュラル・スタディーズなど)との関係の全体像を把握する。つぎに、20 世紀言語人類学の変遷を概観したのち、ヤコブソン、ハイムズ、ガンパーズ、そしてシルヴァスティンへと続く現代言語人類学のコミュニケーション・モデルの概要を説明する。こうして現代言語人類学の基本的な位置づけ、歴史、理論的基礎を学んだうえで、つぎに具体的な事例へと移り、アメリカ中流社会の成員たちのインタラクションに見られる、文化的知識とコミュニケーションの相互作用、社会文化的アイデンティティの構築を扱ったシルヴァスティン論文(「知とコミュニケーション」)、および、日本のマス・メディアを通じたインタラクションに見られる、地理的アイデンティティ、ジェンダー、(近現代・伝統)文化表象を扱った小山論文を精読し、現代言語人類学の記号論的「言説分析」の理論と手法を深く学ぶ。

In this course, we begin with observing the status of linguistic anthropology in relation to anthropology as a whole as well as the neighboring disciplines such as linguistics, linguistic pedagogy, cognitive science, pragmatics, and so on. Then, we move to the history of linguistic anthropology in the 20th and 21st centuries, explicating, in detail, the linguistic-anthropological theories of communication advanced by Jakobson, Hymes, Gumperz, and Silverstein. Afterwards, we proceed to have detailed discussion on two linguistic-anthropological case studies, one dealing with face-to-face interactions among young members of the American middle class, involving the construction of sociocultural identities and the interactions between cultural knowledge and communication, and the other dealing with communicative practices mediated by print mass media in modern Japan, involving geographical identity, gender, and cultural representations.

授業計画 / Course Schedule

- [1]: 言語と文化: 言語人類学とは何か
- [2]: 人類学の構成と言語人類学の布置(一)
- [3]: 人類学の構成と言語人類学の布置(二)

- 【4】: 言語人類学と隣接分野(一): ドイツ・ロマン派以降の言語研究の系譜
 【5】: 言語人類学と隣接分野(二): カント以降の人間学の系譜
 【6】: 20世紀言語人類学の変遷: ボアスからシルヴァスティンまで
 【7】: 20世紀文化人類学の変遷: 解釈、構造、象徴、儀礼、日常行為
 【8】: 言語人類学のコミュニケーション・モデル(一): ヤコブソンの記号論(六機能モデル、詩的機能とテキスト生成、スピーチ・イベントと転換子)
 【9】: 言語人類学のコミュニケーション・モデル(二): ハイムズのコミュニケーションの民族誌(スピーチ・イベント、SPEAKINGモデル、コミュニケーションの適切さと効果)
 【10】: 言語人類学のコミュニケーション・モデル(三): ガンパーズの談話分析(状況的・隠喩的コード・スイッチング、コンテキスト化の合図)
 【11】: 言語人類学のコミュニケーション・モデル(四): シルヴァスティン(現代の社会文化記号論)
 【12】: 事例研究(一): アメリカ中流社会の成員たちのインタラクションに見られる、知とコミュニケーションの相互作用、および社会文化的アイデンティティの構築
 【13】: 現代言語人類学の記号論的「言説分析」: 理論的枠組み
 【14】: 事例研究(二): 日本のマス・メディアを通じたインタラクションに見られる、地理的アイデンティティ、ジェンダー、(近現代・伝統)文化表象

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は、授業時に行う。各回の予習・復習(事前に教材を精読すること・課題を行うこと)にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加:10% 発表など:50% 最終レポート割合::40%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

小山亘『コミュニケーション論のまなざし』三元社 2012 9784883033133

Canvas LMSなどでレジュメを配布し、それに沿って授業は進行する。

参考文献 / Readings

小山亘『近代言語イデオロギー論』三元社 2011 9784883032808

小山亘『記号の思想』三元社 2009 9784883032464

小山亘『記号の系譜』三元社 2008 9784883032198

小山亘『翻訳とはなにか』三元社 2022 9784883035533

コミュニケーション研究特殊講義D(後期課程科目)

Seminar in Communication Studies D

小山 亘(KOYAMA WATARU)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV409
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7340
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、コミュニケーション研究の中心の一角を占める談話分析、特に言語人類学・記号論系の談話分析について、事例研究に基づいて十全たる理解に達することを目的とする。

The purpose of this course is to master one of the central areas of communication studies, namely, discourse analysis, as theorized and practiced in linguistic anthropology and sociocultural semiotics. The course focuses on several case studies of discourse analysis, so as to explore theoretical foundations and empirical details of the method.

授業の内容 / Course Contents

授業では主に以下のテーマを扱う:

(1) コミュニケーションの二次元: 言及指示機能と社会指標(相互行為)機能、(2) 呼称、人名、親族関係、(3) 方言と標準語、都市化、近代化、(4) 社会階層と言語、(5) コミュニケーション過程: コンテキスト化とテキスト生成、(6) 前提的指標と創指的指標、(7) 対照ペアと詩的機能、(8) コミュニケーション出来事とマクロ/メゾ/ミクロ・コンテキスト、(9) 近代人文主義・人文学のコスモロジー、(10) ローマン主義と方言学、オリエンタリズム、(11) 近代国民国家と言語、(12) 言語変化と文化変容、(13) 地名: 場所と言語、(14) 相互行為に現れる文化的概念と文化的価値づけ、(15) 社会集団/組織への帰属とレジスター、(16) 相互行為の儀礼と詩的機能、(17) 知識の構造とコミュニケーション行為、および社会文化的アイデンティティの相関、(18) 地理とアイデンティティ: アメリカ中西部と東海岸、(19) アコモデーション行為とオリゴの転移、(20) コミュニケーション行為と学習、など。

This course mainly deals with the following themes: (1) two dimensions of communication: referential and social-indexical (interactional) functions, (2) terms of address, proper names, kin terms, (3) dialectal and standard varieties, urbanization, modernization, (4) social stratification and language, (5) communicative process: contextualization and textualization, (6) presupposing vs. entailing indexicality, (7) contrastive pairs and poetic function, (8) communicative event and micro-to-macro-levels of context, (9) cosmology of modern humanism and human sciences, (10) Romanticism, dialectology, and Orientalism, (11) modern nation-state and language, (12) language change and cultural transformation, (13) toponym: place and language, (14) cultural concepts and valuation as manifested in sociocultural interaction, (15) social membership and register, (16) interaction ritual and poetic function, (17) correlations among the structure of knowledge, communicative act, and sociocultural identity, (18) geography and identity: the Midwest and the East Coast in the US, (19) accommodation and the deictic center, (20) communicative act and learning, and so on.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 近代文学(日本語)の談話分析: 近代日本・備後の言語接触と文化変容についての社会言語学的考察(1)
- 【2】: 近代文学(日本語)の談話分析: 近代日本・備後の言語接触と文化変容についての社会言語学的考察(2)
- 【3】: 近代文学(日本語)の談話分析: 近代日本・備後の言語接触と文化変容についての社会言語学的考察(3)
- 【4】: 雑誌記事(日本語)の談話分析: 近現代日本・京都の言語変化と文化イデオロギーについての社会言語学的考察(1)

- 【5】: 雑誌記事(日本語)の談話分析: 近現代日本・京都の言語変化と文化イデオロギーについての社会言語学的考察 (2)
- 【6】: 雑誌記事(日本語)の談話分析: 近現代日本・京都の言語変化と文化イデオロギーについての社会言語学的考察 (3)
- 【7】: 雑誌記事(日本語)の談話分析: 近現代日本・京都の言語変化と文化イデオロギーについての社会言語学的考察 (4)
- 【8】: アメリカ・シカゴ大学大学院生の日常会話(英語)の談話分析 I: 男性/男性、中西部/東部、社会福祉研究科/ロー・スクール、ロヨラ大学/ジョージタウン大学、などといった対照ペアが喚起される相互行為におけるアイデンティティと権力関係の指標についての社会言語学的考察 (1)
- 【9】: アメリカ・シカゴ大学大学院生の日常会話(英語)の談話分析 I: (2)
- 【10】: アメリカ・シカゴ大学大学院生の日常会話(英語)の談話分析 I: (3)
- 【11】: アメリカ・シカゴ大学大学院生の日常会話(英語)の談話分析 II: 女性/男性、中西部(および東部)/東部、社会福祉研究科/ロー・スクール、ヴァルパライソ大学(およびコーネル大学)/ジョージタウン大学、などといった対照ペアが喚起される相互行為におけるアイデンティティと権力関係の指標についての社会言語学的考察 (1)
- 【12】: アメリカ・シカゴ大学大学院生の日常会話(英語)の談話分析 II: (2)
- 【13】: アメリカ・シカゴ大学大学院生の日常会話(英語)の談話分析 II: (3)
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学修に関する指示は、授業時に行う。各回の予習・復習(事前に教材を精読すること・課題を行うこと)にはそれぞれ2時間程度を要する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表など:50% 授業参加度:10% 最終レポート割合::40%

後期課程においては、全ての評価方法において高度な達成基準を要求する。

テキスト / Textbooks

Canvas LMSなどでレジュメを配布し、それに沿って授業は進行する。

参考文献 / Readings

小山亘『コミュニケーション論のまなざし』三元社 2012 9784883033133

小山亘『近代言語イデオロギー論』三元社 2011 9784883032808

小山亘『記号の思想』三元社 2009 9784883032464

小山亘『記号の系譜』三元社 2008 9784883032198

小山亘『翻訳とはなにか』三元社 2022 9784883035533

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

すでに言語学、談話分析、記号論、言語人類学などの基本を習得していることが望ましい。

人類学特論(後期課程科目)

Topics in Anthropology
人間にとって経済とはなにか？

吉村 竜(YOSHIMURA RYU)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV502
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7440
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、(1)経済人類学の基本的概念を理解し、(2)私たちを取りまく経済的現象を分析する力を身につけることを目標とします。

経済人類学の視点から各自の研究テーマに引き付けて捉えることのできる、応用力を身につけることを目標とします。

The objectives of this course are: 1) to acquire basic knowledge of the main concepts of economic anthropology, and 2) to develop skills in examining the economic phenomena that surround us.

授業の内容 / Course Contents

文化人類学の下位分野である経済人類学は、経済システムの驚くべき多様性を、世界中の事例の分析を通して示してきました。この授業では、文献講読を通して、贈与や再分配など多元的な経済のあり方への理解を深め、あらゆる財やサービスが市場で売買される経済を相対化する視点を身につけていきます。

Economic anthropology, a sub-discipline of cultural anthropology, has shown the astonishing diversity of economic systems through the analysis of case studies from around the world. The purpose of this course is to help students understand various economic systems through reading literature, and to acquire a perspective that relativizes the market economy.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 経済とはなにか？
- 【3】: 贈与と社会①: 『贈与論』(前半)
- 【4】: 贈与と社会②: 『贈与論』(後半)
- 【5】: 貨幣を考える: 『カネと人生』
- 【6】: 「生」を「産」む(映像視聴を予定)
- 【7】: 生業: 『農民』
- 【8】: 暮らしと経済①: 『モーラル・エコノミー』(前半)
- 【9】: 暮らしと経済②: 『モーラル・エコノミー』(前半)
- 【10】: 商品: 『甘さと権力』(①)
- 【11】: 消費: 『甘さと権力』(②)
- 【12】: 権力: 『甘さと権力』(③)
- 【13】: 負債: 『負債と信用の人類学』
- 【14】: 労働: 『ブルシット・ジョブの謎』

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

授業では、毎回課題文献について議論を行うため、時間外学修として課題文献を読み進めておいてください(課題文献は授業第1回目にお知らせします)。また、毎回課題文献についての「課題レポート」の発表と議論を行うため、時間外学修としてレポート作成に取り組んでください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題レポート:40% 口頭発表:40% ディスカッションへの参加度:20%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

マルセル・モース 『贈与論』 筑摩書房 2024

シドニー・ミンツ 『甘さと権力』 筑摩書房 2021

酒井隆史 『ブルシット・ジョブの謎』 講談社 2021

参考文献 / Readings

クリス・ハン、キース・ハート 『経済人類学』 水声社 2017

カール・ポランニー 『経済の文明史』 筑摩書房 2003

エリック・ウルフ 『農民』 鹿島研究所出版会 1972

ジェームズ・スコット 『モーラル・エコノミー』 勁草書房 1999

佐久間寛(編著) 『負債と信用の人類学』 以文社 2023

デヴィッド・グレーバー 『ブルシット・ジョブ』 岩波書店 2020

小馬徹 『カネと人生』 雄山閣 2002

人類学特殊講義A(後期課程科目)

Seminar in Anthropology A

ティム・インゴルドの『世代とは何か』を読む

奥野 克巳 (OKUNO KATSUMI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV504
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7440
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

私たちは、世代を、現在を掌握し、前任者にとって代わり、それに前後して、後進者にとって代わられるひとつの層として扱っています。現役世代は生きていく中で次第に表舞台に上がって活躍し、その後、後継者たちに道を譲る中で衰えていくというこの考えは、インゴルドによれば、啓蒙思想の中で培われた進歩史観に基づいているのです。そうした世代の捉え方こそが、私たちの目の前にある社会・環境危機をめぐる議論を進める上での大きな前提となってきたのです。しかし、その考え方を今後も用いるのであれば、私たちが直面している危機には処することはできないだろうというのが、インゴルドの見立てです。この授業では、人類学者インゴルドの世代論を取り上げて輪読し、人類学的思考を学びます。

*前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

We treat generations as a single layer that takes hold of the present, replaces its predecessors, and is in turn replaced by the younger generation. This idea that the working generation gradually comes to the fore as it lives its life, and then declines as it gives way to its successors, is based on the idea of progress in history that was cultivated in the Age of Enlightenment, according to Tim Ingold. This way of thinking about generations has become a major premise for the discussion of the social and environmental crises that we are facing. However, Ingold believes that if we continue to use this way of thinking, we will not be able to deal with the crises we are facing. In this class, we will read and discuss the anthropologist Ingold's theory of generations, and learn anthropological thought.

授業の内容 / Course Contents

ティム・インゴルド著『世代とは何か』(亜紀書房、2024年)を受講生で輪読する。

In this class, students will read the Japanese translation of Tim Ingold's The Rise and Fall of Generation Now.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: 第1章 世代と生の再生
- 【3】: 第2章 人の生涯をモデル化する
- 【4】: 第3章 道を覚えていること
- 【5】: 第4章 不確実性と可能性(1)
- 【6】: 第4章 不確実性と可能性(2)
- 【7】: 第5章 喪失と絶滅
- 【8】: 第6章 人類を再中心化する(1)
- 【9】: 第6章 人類を再中心化する(2)
- 【10】: 第7章 教育のやり方(1)
- 【11】: 第7章 教育のやり方(2)
- 【12】: 第8章 科学技術の後に(1)

【13】:第8章 科学技術の後に(2)

【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

毎回の授業に備えて予習をすること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 参加態度:60% 最終レポート割合::40%

全ての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

ティム・インゴルド 『世代とは何か』 亜紀書房 2024 9784750518589

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特になし。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

なし。

グローバル文化研究特論A(後期課程科目)

Topics in Global Cultural Studies A

浜崎 桂子 (HAMAZAKI KEIKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV506
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7440
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

グローバル化に伴う文化や言語の接触、混淆状況から生み出される、文学作品、映画作品などの文化表象を、世界史との関連において、文化研究の立場から理論的に論じ、考察するとともに、自身の研究テーマの考察・分析との関連で応用することができるようになる。

The globalized world evidences many cultural products such as literature or film made through inter-cultural contact or cultural hybridity. This course aims to help students analyze these cultural products theoretically from the cultural studies perspective, and to investigate the possibilities of applying this skill to individual research themes.

授業の内容 / Course Contents

人や資本の境界を越えた移動に伴う文化の変容や文化接触から生じる文化表象、たとえば異文化、他者表象について、オリエンタリズム、エスニシティ、ジェンダー、セクシュアリティなどの理論を踏まえて、解釈し、議論を行う。

Based on theories such as orientalism, ethnicity, gender, and sexuality, this course will interpret and discuss the transformation of culture, which is influenced by the transfer of people and capital across borders. It will also contemplate cultural representation generated by cultural contact, such as the representation of the “Other.”

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション1: グローバリゼーションとその理論について
- 【2】: イントロダクション2: 「文化表象」と世界史の関連について
- 【3】: 作品1: 言語接触から生まれる文学作品
- 【4】: 作品1: 言語接触から生まれる文学作品
- 【5】: 作品1: 言語接触から生まれる文学作品
- 【6】: 作品2: 映像作品におけるマイノリティ表象
- 【7】: 作品2: 映像作品におけるマイノリティ表象
- 【8】: 作品2: 映像作品におけるマイノリティ表象
- 【9】: 中間まとめ
- 【10】: 作品3: 文学作品におけるマイノリティ表象
- 【11】: 作品3: 文学作品におけるマイノリティ表象
- 【12】: 作品3: 文学作品におけるマイノリティ表象
- 【13】: 文化分析の実践と理論
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
----	--	---------------	--	---------------	---

個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業の予習および発表準備(約2時間)、授業後の発展的学習(約1時間)、課題、レポートのための調査など(合計15時間程度)を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 議論への積極的な参加:30% 授業内での口頭発表:30% 最終レポート割合::40%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

初回授業で配付。

参考文献 / Readings

E.W.サイード 『文化と帝国主義1』 みすず書房 1998 4622031973

E.W.サイード 『文化と帝国主義2』 みすず書房 2001 462203204

中井亜佐子 『他者の自伝—ポストコロニアル文学を読む』 研究社 2007 9784327481513

岡真理 『彼女の「正しい」名前とは何か』 青土社 2000 4791758412

浜崎桂子 『ドイツの「移民文学」』 彩流社 2017 9784779123139

上記文献には目を通しておくこと。その他文献は授業内でテーマごとに指示。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

文献を批判的に読み、討論する力。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業資料配布、課題提出には、Canvas LMS を使用する。

人類学特殊講義B(後期課程科目)

Seminar in Anthropology B

はじめての人類学

奥野 克巳 (OKUNO KATSUMI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV507
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7440
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、『はじめての人類学』をテキストとして、20 世紀初頭に確立された人類学の百年を、マリノフスキ、レヴィ=ストロース、ボアズ、インゴルドという 4 人の人類学者の足跡を追います。この授業では、「人間の生」を探究する人類学の全貌が浮かび上がるでしょう。

*前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

Using 'First Steps in Anthropology' as a text, this class will follow in the tracks of four anthropologists - Malinowski, Levi-Strauss, Boas and Ingold - through a hundred years of anthropology as it was established at the beginning of the 20th century. The course will give a full view of anthropology's exploration of 'human life'.

授業の内容 / Course Contents

『はじめての人類学』の各章を読み、人類学に関する理解を深めていきます。

Reading chapters from 'First Steps in Anthropology' will deepen our understanding of anthropology.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: はじめに 人類学とは何か、1 章 近代人類学が誕生するまで
- 【3】: 2 章 マリノフスキ(1)
- 【4】: 2 章 マリノフスキ(2)
- 【5】: 3 章 レヴィ=ストロース(1)
- 【6】: 3 章 レヴィ=ストロース(2)
- 【7】: 3 章 レヴィ=ストロース(3)
- 【8】: 4 章 ボアズ(1)
- 【9】: 4 章 ボアズ(2)
- 【10】: 5 章 インゴルド(1)
- 【11】: 5 章 インゴルド(2)
- 【12】: 5 章 インゴルド(3)
- 【13】: 終章
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

学内の教室外施設の利用

校外実習・フィールドワーク

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

予習して、授業に臨むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加態度:60% 最終レポート割合::40%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

奥野克巳『はじめての人類学』講談社 2023 9784065328576

参考文献 / Readings

グローバル文化研究特論B(後期課程科目)

Topics in Global Cultural Studies B

トランスナショナル日本・韓国映画/Transnational Japanese and Korean Films

イ, ヒャンジン(LEE HYANGJIN)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV508
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7443
使用言語	その他	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、日本と韓国映画の地域性およびトランスナショナルリティに関する議論を中心に、帝国主義、ポストコロニアリズム、エスニシティ、ナショナリズム、ジェンダー、セクシュアリティといったキーワードを通じて、映画が持つ芸術的アイデンティティと社会的重要性、そして地域的境界を越えた交流や文化的連帯を理解することを目指す。

The class focuses on the discussion of the regionality and transnationality of Japanese and Korean cinema, exploring key concepts such as imperialism, postcolonialism, ethnicity, nationalism, gender, and sexuality. The aim is to understand the artistic identity and social significance of cinema, as well as the exchange and cultural solidarity that transcend regional boundaries.

授業の内容 / Course Contents

本セミナーでは、映画の美学、構造、オーサシップ、ジャンル、ノンフィクション映画、批評に関連する理論的および分析的アプローチを活用し、グローバルな観客を対象にした越境的な制作環境で制作された代表的な日本映画および韓国映画を議論する。

The seminar utilizes theoretical and analytical approaches to film aesthetics, structure, authorship, genres, non-fiction cinema, and criticism, in order to discuss key Japanese and Korean films produced within a transnational production context for a global audience.

授業計画 / Course Schedule

【1】: ガイダンス&イントロダクション(シラバスの紹介及び説明)

【2】: 論文構想発表(学生発表)

【3】: 帝国日本が創造した植民地表象、朝鮮映画

映画美学—フォーマリズムとリアリズム

【4】: 北朝鮮・韓国映画における中国と日本、帝国主義の記憶

映画美学—フォーマリズムとリアリズム

【5】: 日本映画のなかの在日コリアン・在日映画

映画の構造—物語と語り口

【6】: 現代韓国映画と日本

映画の作家性—作家としての映画監督

【7】: 現代日本映画と韓国

映画の作家性—作家としての映画監督

【8】: 日韓映画交流とシネフィル文化

映画ジャンル

【9】:グローバル日本と韓国映画

映画の受容と批評

【10】:在日映画・女性映画

ノンフィクション映画

【11】:学生発表及びまとめ I

【12】:学生発表及びまとめ II

【13】:学生発表及びまとめ III

【14】:学生発表及びまとめ IV

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

講義、発表、討論

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

受講の際は積極的に討論に参加することが求められます。加えて、授業で提示される映画と参考文献には必ず目を通してください。

Students are required to attend all classes and drive class discussions with their peers. Students must actively participate in class activities that include the submission of notes on the assigned reading materials and films.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業態度:30% 発表:30% 最終レポート割合::40%最終テスト割合::0%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

イ・ヒャンジン 『コリアン・シネマ——北朝鮮・韓国・トランスナショナル』 みすず書房 2022 4622086646

ウォーレン バックランド 『フィルムスタディーズ入門: 映画を学ぶ楽しみ』 晃洋書房 2007 4771018588

参考文献 / Readings

梁 仁實 『朝鮮映画の時代』 法政大学出版局 2022 9784588603662

マイケル・ライアン, メリッサ・レノス 『Film Analysis 映画分析入門』 フィルムアート社 2014 4845914395

文化研究特論(後期課程科目)

Topics in Cultural Studies

浜崎 桂子(HAMAZAKI KEIKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV509
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7440
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

グローバル化に伴う文化や言語の接触、混雑の現象、また異文化表象について、文化研究の立場から論じるために重要な理論の抜粋を読み考察する。各理論の背景などに留意しながら批判的に理論を考察する力をつけ、研究テーマの考察・分析をさらに深めるために応用することができるようになる。

In this course, students will read and reflect on excerpts from important theories and will subsequently utilize the viewpoint of cultural studies to discuss the interactions between cultures and languages, the phenomenon of intermixing, and intercultural expression brought about by globalization. Additionally, the module will help students develop the ability to critically consider various theories while accounting for their backgrounds and other factors, and to investigate the possibilities of applying this skill to individual research themes.

授業の内容 / Course Contents

人や資本の境界を越えた移動に伴う文化の変容や文化接触、異文化表象について、オリエンタリズム、ネイション、植民地主義、帝国主義、ジェンダー、エスニシティなどの問題点に着目した論文を読み、議論を行う。

This course aims to help students to read and discuss academic papers that focus on orientalism, nations, colonialism, imperialism, gender, ethnicity, and other issues in the cultural transformation, interaction, and intercultural expression brought about by movements that exceed the limits of human beings and capital.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション1: グローバリゼーションについて
- 【2】: イントロダクション2: 「文化」概念について
- 【3】: オリエンタリズム1
- 【4】: オリエンタリズム2
- 【5】: ネイション
- 【6】: 植民地主義・帝国主義
- 【7】: 議論、問題点の整理 1
- 【8】: 議論、問題点の整理 2
- 【9】: マイノリティー
- 【10】: ジェンダーおよびエスニシティ
- 【11】: 異文化表象
- 【12】: 文化分析の実践と理論について 1
- 【13】: 文化分析の実践と理論について 2
- 【14】: まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業の予習および発表準備(約2時間)、授業後の発展的学習(約1時間)、課題、レポートのための調査など(合計15時間程度)を行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および議論への積極的な参加:30% 授業内での口頭発表:30% 最終レポート割合::40%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

初回授業で配付。

参考文献 / Readings

本橋哲也 『カルチュラル・スタディーズへの招待』 大修館書店 2002 9784469212809

ピーター・バーク(河野真太郎訳) 『文化のハイブリディティ』 法政大学出版局 2012 9784588603266

吉見俊哉 『アフター・カルチュラル・スタディーズ』 青土社 2019 9784791771844

上記文献には目を通しておくこと。その他文献は授業内でテーマごとに指示。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

分析対象の文学や映画、および関連する文献について批判的に考察する力。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業資料配布、課題提出には、Canvas LMS を使用する。

国際協力特殊講義A(後期課程科目)

Seminar in International Cooperation A

戦争と平和

カプリオ, M. (CAPRIO MARK E.)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV510
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7440
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

戦争とは何か、そしてそれが社会において果たす役割を理解する。

紛争を平和的に解決する方法を探る。

国家間の戦争を終結させる手段を模索する。

学生の研究(博士レベル)と戦争に関するテーマを結びつける。

To understand what war is and its purpose in society. To search for ways to bring a conflict situation to a peaceful settlement.

To seek a means to end war between nations.

To match student's research (doctoral level) with war topics.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、戦争と平和に関する多角的な視点を学ぶ。戦争の原因や経済的影響、プロパガンダの役割、さらには戦争体験の記憶や反戦文化について議論する。朝鮮戦争や日本の「平和憲法」、現代の国際情勢も考察し、戦争防止の可能性を探る。講義を中心に進めるが、学生の意見交換を重視し、主体的な学びを促す。

This course explores various perspectives on war and peace. Topics include the causes of war, economic impacts, the role of propaganda, war memories, and anti-war culture. We will analyze cases such as the Korean War, Japan's "Peace Constitution," and contemporary global conflicts to examine the possibilities of preventing war. While lectures form the core of the course, student discussions will be encouraged to foster active learning.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 講義の紹介
- 【2】: 戦争論と平和論
- 【3】: 正しい戦争論
- 【4】: 戦争の記憶・記念
- 【5】: 戦争と経済
- 【6】: 核兵器と戦争抑止
- 【7】: 戦争とプロパガンダ
- 【8】: 戦争体験
- 【9】: 反戦争と平和主義の化
- 【10】: 朝鮮戦争 I (起源)
- 【11】: ケース・スタディ: 朝鮮戦争 II (日本の関係)
- 【12】: 戦争の防止: 北朝鮮問題
- 【13】: 日本の「平和憲法」

【14】: 第二の冷戦？

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポイント等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

毎週論文を授業の前に読むこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 戦争博物館の訪問・レポート:24% 映画・小説のレポート:25% 博士論文のテーマと戦争の関係(レポート):15% 最終レポート割合::36%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

国際協力特殊講義B(後期課程科目)

Seminar in International Cooperation B

堀場 明子(HORIBA AKIKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV511
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7440
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	-(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

- ・開発・平和構築の歴史的背景を理解し、先行研究を批判的に考察できる。
- ・開発・平和の概念を批判的に検討し、現地の人々のニーズや視点を尊重した開発の在り方について議論できる。
- ・研究のデータ収集を実施し、学会発表や論文執筆のためのデータ分析を行う。
- ・Understand the historical background of development and peacebuilding and critically examine previous research.
- ・Critically examine the concepts of development and peace, and discuss approaches to development that respect the needs and perspectives of local people.
- ・Conduct research data collection and perform data analysis for academic presentations and paper writing.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、開発・平和構築の諸問題を論じているテキストを講読し、開発・平和構築研究の意義と課題を検討する。また、紛争の構造的な要因を多角的に分析する視点を養い、さらに心理的な部分にも考えを巡らせ、幅広い視野で開発・平和構築について議論したい。

In this course, we will read texts discussing various issues of development and peacebuilding, and examine the significance and challenges of development and peacebuilding studies. Additionally, we aim to cultivate a multifaceted perspective for analyzing the structural factors of conflicts, while also considering psychological aspects. Through this approach, we seek to engage in discussions on development and peacebuilding with a broad and comprehensive outlook.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: イントロダクション
- 【2】: テキスト(1) 講読
- 【3】: テキスト(1) 講読
- 【4】: テキスト(1) 講読
- 【5】: テキスト(1) 講読
- 【6】: テキスト(1) 講読
- 【7】: レポート課題内容の講評(1)
- 【8】: テキスト(2) 講読
- 【9】: テキスト(2) 講読
- 【10】: テキスト(2) 講読
- 【11】: テキスト(2) 講読
- 【12】: テキスト(2) 講読
- 【13】: テキスト(2) 講読
- 【14】: レポート課題内容の講評(2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワーポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション:30% 中間レポート:30% 最終レポート割合::40%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

メアリー・B・アンダーソン 『諸刃の援助—紛争地での援助の二面性』 明石書店 2006 4750323055

参考文献 / Readings

ヴァミク・ヴォルカン 『誇りと憎悪—民族紛争の心理学』 共同通信社 1999 4764104296

文化研究特殊講義A(後期課程科目)

Seminar in Cultural Studies A

Monism, dualism and the problems of personal identity

山口 まり子(YAMAGUCHI MARIKO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV521
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7440
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

哲学における一元論と二元論がいかなる立場であるかを学び、我々が世界や自分自身というものを捉える際、一元論的な立場、二元論的な立場は、それぞれどのようなことを意味するか、また、人格の同一性における一元論的な議論は妥当か、などの問題を考察する。

後期課程の学生には、この授業で議論する内容が学位論文とどのように関連するかについて、更なる考察が求められる。

Students will learn and discuss what philosophical monism and dualism mean and what they imply for our understanding of the world and ourselves, and consider the plausibility of some monist approaches to personal identity.

PhD candidates need to discuss further the issues in relation with their thesis.

授業の内容 / Course Contents

このクラスでは、まず一元論・二元論それぞれの立場を取る哲学者のテキストを読みながら、一元論・二元論がそれぞれどのようなものか、どのようなことを含意するかを議論・考察する。

一元論・二元論の立場が如何なるものであるかを捉えた後、一元論的な立場(特に唯物論的な立場)から「人格の同一性」の問題を論じるテキストを読み、その妥当性について議論・考察する。

In this class, after reading articles by monist and dualist thinkers and discussing what monism and dualism mean and imply respectively, we will read some works on the monist approach to personal identity and discuss and consider its plausibility.

授業計画 / Course Schedule

【1】: イントロダクション(一元論・二元論・人格の同一性に関する議論について)

【2】: 一元論について(1)

【3】: 一元論について(2)

【4】: 一元論について(3)

【5】: 一元論について(4)

【6】: 二元論について(1)

【7】: 二元論について(2)

【8】: 二元論について(3)

【9】: 二元論について(4)

【10】: 人格の同一性に関する議論(1)

【11】: 人格の同一性に関する議論(2)

【12】: 人格の同一性に関する議論(3)

【13】: 人格の同一性に関する議論(4)

【14】: 人格の同一性に関する議論(5)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド(パワーポ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

場合に応じてスライドを用いる可能性もある。

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

授業で指示する。

論理学を学んだことがない場合、例えば野矢茂樹著(2006)『新装 論理トレーニング』(産業図書)や同著者(2020)『まったくゼロからの論理学』(岩波書店)などを用いた独習を勧める(質問も歓迎する)。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:60% 最終レポート割合::40%

全ての評価方法において 前期課程 より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

使用するテキスト(英語)は授業で配布する。

参考文献 / Readings

参考文献は授業で紹介する。

また、上記「授業時間外の学習」欄参照のこと。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

議論における論理性を重視する。また、授業内で扱う文献はすべて英語であるため、英語で哲学論文を読める能力が求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業内で電子情報機器は不要。

文化研究特殊講義B(後期課程科目)

Seminar in Cultural Studies B
Theorizing Folklore

チョウ Y. (ZHAO YUANHAO)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV522
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7441
使用言語	英語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

This course supports doctoral students in critically exploring theories of tradition, everyday life, and lived experiences through the lens of folkloristics. Emphasizing interdisciplinarity and creative inquiry, it equips students with the skills to design original research projects, conduct in-depth fieldwork, analyze complex ethnographic data, and apply theoretical frameworks from folklore studies, cultural anthropology, ethnic studies, and related fields. Students will be expected to produce research that actively engages with contemporary scholarly debates.

授業の内容 / Course Contents

Students will engage with foundational and contemporary texts in folklore studies to critically assess their theoretical and methodological contributions. They will actively participate in seminar discussions, present their research projects, and provide substantive feedback on their peers' work. Additionally, students are encouraged to develop research proposals and submit them to national and international conferences.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: Defining the Discipline
- 【2】: History of Folklore Study
- 【3】: Text, Texture and Context
- 【4】: Tradition
- 【5】: Genre
- 【6】: Identity
- 【7】: Midterm Presentation
- 【8】: Subalternity and Study Up
- 【9】: The Performance Turn
- 【10】: The Art of Resistance
- 【11】: Group-ness and Community Making
- 【12】: Field Research
- 【13】: Interpretation and Representation
- 【14】: Final Presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
----	-----------------------	---------------	-----------------------	---------------	-----------------------

個人発表	○
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	○
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	○
校外実習・フィールドワーク	

Teaching methods may be adjusted according to students' progress.

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

At Rikkyo University, students are required to spend 45 hours of study (including class time) per credit. Please prepare for classes and review the materials accordingly.

Students are expected to complete any assigned readings before class, and bring discussion questions to class.

Extended Readings will be provided to students.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation/discussion:40% Presentation:20% 最終レポート割合::40%

A greater expectation of task fulfillment beyond the Master's level across all assigned work is expected.

テキスト / Textbooks

Will be provided in class.

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

This course is conducted in English. Students are expected to be able to read academic papers and actively participate in discussions.

その他 / Others

Weekly topics and materials may be adjusted based on students' performance and progress.

文化研究特殊講義C(後期課程科目)

Seminar in Cultural Studies C

イメージをめぐる理論と思想:美術への多様な視線 Theories and Thoughts on the Image: New Methods of Art History

黒岩 三恵(KUROIWA MIE)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV523
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7440
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

この講義では、各種のイメージ論の講読をもとに、美術作品などイメージの捉え方や考え方について理解を深めることを目標とする。また、履修生が応用的に新たなイメージ論を構築し、批判的に自らの研究に適応できることを目指す。Through reading texts on image, image theory, and/or art history, students will not only acquire a new way of thinking about the image/work of art but also be able to construct his/her critical framework for the image/work of art. Students should also be able to apply those new methods to his/her/their research.

授業の内容 / Course Contents

最近の美術史研究のなかから、さまざまな視点やアプローチから女性を取り上げているものを講読したい。履修生の意見も考慮して最終的な講読テキストを決定する予定であるが、以下に講読文献の候補を掲げておく。E.ドガ《14歳の小さな踊り子》をめぐる論考である C. Laurens 著 Little Dancer Aged Fourteen: The True Story Behind Degas' Masterpiece (2018); 芸術家とモデルの関係への再考をうながす F. Borzello 著 The Artists' Model (2010); フェミニズム美術史の論文集 N. Broude & M.D. Garrard eds. Reclaiming Female Agency: Feminist Art History after Postmodernism (2005)。講読を糸口として研究方法、理論への批判的な討論を行い、自らのイメージや美術研究の方法へと応用すること、特に研究対象の多視点に立脚する有機的なアプローチの構造を把握し、さらに発展させる方法を提起できることが求められる。

In this course, students will read excerpts of C. Laurens, Little Dancer Aged Fourteen: The True Story behind Degas' Masterpiece (2018); F. Borzello, The Artists' Model (2010); and N. Broude & M.D. Garrard eds. Reclaiming Female Agency: Feminist Art History after Postmodernism (2005). Along with in-depth readings of these texts, students will participate in discussions and presentations to hone their critical thinking on the image and construct a new framework to study the image.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: ガイダンス
- 【2】: 講読: C. Laurens 著 Little Dancer Aged Fourteen①・ディスカッション
- 【3】: 講読: C. Laurens 著 Little Dancer Aged Fourteen②・ディスカッション
- 【4】: 講読: C. Laurens 著 Little Dancer Aged Fourteen③・ディスカッション
- 【5】: 討論: Laurence 論文に見られる方法と対象について
- 【6】: 講読: F. Borzello 著 The Artist's Model (2010)①・ディスカッション
- 【7】: 講読: F. Borzello 著 The Artist's Model (2010)②・ディスカッション
- 【8】: F. Borzello 著 The Artist's Model (2010)③・ディスカッション
- 【9】: 討論: Borzello の論法、特にモデルをめぐる問題提起についての批判
- 【10】: 講読: N. Broude & M.D. Garrard eds. Reclaiming Female Agency (2005).①・ディスカッション
- 【11】: 講読: N. Broude & M.D. Garrard eds. Reclaiming Female Agency (2005).②・ディスカッション

【12】:講読:N. Broude & M.D. Garrard eds. Reclaiming Female Agency (2005).③・ディスカッション

【13】:討論:Reclaiming Female Agency に展開されていた諸方法論について考える

【14】:総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	スライド*(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

講読テキストを予め通読することは前提である。テキスト本文とともに画像についても予習を必ず行うこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% テキスト講読:30% ディスカッション・討論:30% 最終レポート割合::40%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

Laurens, Camille Little Dancer Aged Fourteen: The True Story Behind Degas' Masterpiece. Other Press 2020 9781635420517

Borzello, Frances The Artist's Model Faber & Faber 2010 0571269826

N. Bourde & M.D. Garrar Reclaiming Female Agency: Feminist Art History After Postmodernism University of California Press 2005 0520242521

いずれも入手が困難なため、抜粋部分はコピーを配布予定。

参考文献 / Readings

随時授業時に紹介する。

文化研究特殊講義D(後期課程科目)

Seminar in Cultural Studies D

歴史的音楽学

星野 宏美 (HOSHINO HIROMI)

科目設置学部	異文化コミュニケーション研究科		
開講年度	2025	科目コード等	WV524
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	ICC7440
使用言語	日本語	授業形式	講義
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位 制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

西洋音楽史研究の基盤である批判的校訂楽譜を読み解き、作曲家作品研究の方法論を理解する。過去の音楽作品がいかに関成し、当時いかに受けとめられたのか、こんにちに至るまでいかに伝承され、いかに変遷してきたのか(変遷しない要素はあるのか)、資料を用いたアプローチを学び、各自の研究テーマの分析・考察に応用する。

In this course, students are expected to learn the methods of historical musicology thorough reading the critical editions of musical works. They will study the interpretation and analysis of the original sources and the genesis, reception and transmission of musical works. The course will be applied to the discussion of their own research topics.

授業の内容 / Course Contents

ライプツィヒ版メンデルスゾーン作品集(いわゆる新メンデルスゾーン全集)ないしそれに準ずる校訂譜のいずれかを取り上げる。序文と校訂報告の講読と作品分析を交える。原語はドイツ語。

This course aims to help students interpret the preface and the critical commentary on one of the volumes of Leipziger Ausgabe der Werke von Felix Mendelssohn Bartholdy. The original text is in German.

授業計画 / Course Schedule

- 【1】: 導入
- 【2】: 作品総目録
- 【3】: 旧全集、新全集
- 【4】: 校訂版と実用版
- 【5】: 音源探索
- 【6】: 文献探索
- 【7】: 作品成立の背景
- 【8】: 作品の受容
- 【9】: 原典資料の種類と性格
- 【10】: 資料間の異同とその解釈
- 【11】: 作曲・改訂プロセスの解明
- 【12】: 演奏習慣の問題
- 【13】: 楽譜以外の原典資料: 書簡、回想、批評など
- 【14】: 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	<input type="radio"/>	スライド(パワポ等)の使用	<input type="radio"/>	左記以外の視聴覚教材の使用	<input type="radio"/>
----	-----------------------	---------------	-----------------------	---------------	-----------------------

個人発表	
実技・実習・実験	
上記いずれも用いない予定	

グループ発表	
学内の教室外施設の利用	

ディスカッション・ディベート	
校外実習・フィールドワーク	

講読

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています(授業時間を含む)。この点をふまえた上で、履修者は事前学修・事後学修を行ってください。

指導の中で適宜指示する。図書館所蔵の各種作曲家作品全集を活用されたい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と参加:50% 毎週の課題と成果物:50%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

コピーを配布する。

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。